公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第580集

前橋城跡

前橋地方合同庁舎（仮称）整備に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2014.2

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋城跡

前橋地方合同庁舎（仮称）整備に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一四・二

国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

前 橋 城 跡

前橋地方合同庁舎（仮称）整備に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

２０１４.２

国　土　交　通　省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋城跡周辺　南→　写真奥は赤城山

３・６号溝（十人小路）　東→

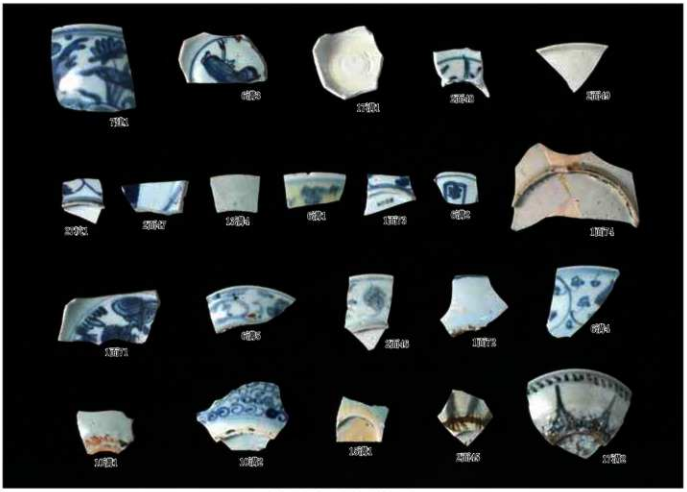
2集中17
2集中20
2集中19
2集中15
2集中16
2集中18
2集中14

信楽系壺

鍋島焼（1 面 No. 1）

17 世紀頃の陶磁器（瀬戸・美濃系、肥前系）

肥前系色絵、関西系色絵

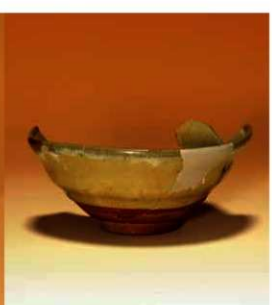


貿易陶磁器（明末～清初頃）

古瀬戸～大窯期陶器

貿易陶磁器（清朝期）

石製硯



萩焼（3溝 No.58）

前橋藩窯製品・窯道具

瓶平焼

序

群馬県庁は、再築された前橋城の本丸にあり、それ以前の近世前橋城三の曲輪に位置しております。利根川を背にした平城は、徳川家康により「関東の華」と称えられたことでも知られております。

前橋城跡は、群馬県庁の東側に近接する近世前橋城外曲輪の一部にあり、平成24年度に前橋地方合同庁舎(仮称)整備に伴い発掘調査が実施されました。調査では、前橋城にありました車橋門から三の門へと続く「十人小路」が確認され、城内の屋敷跡も検出されております。また出土した遺物は数多く、特に陶磁器は中世末から近世初頭頃を中心に、瀬戸・美濃系陶器や貿易陶磁器、肥前系陶磁器などがあり、群馬県内でも有数の質と量だと思われます。前橋城が破城され、陣屋支配であった18世紀後半から19世紀頃までの陶磁器も出土し、その中には鍋島焼や貿易陶磁器、珉平焼、前橋藩窯製品や窯道具なども見られました。前橋城内の生活様相を伝え、前橋の歴史の一端を示すこれらの発掘成果は、重要な資料になるものと考えております。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省関東地方整備局、群馬県教育委員会、および前橋市教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

また本書が前橋城、ひいては群馬県の近世史を解明する上で末永く活用されることを願い序といたします。

平成26年２月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　　上原訓幸

例　言

1　本書は、前橋地方合同庁舎(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施された「前橋城跡」の発掘調査報告書である。遺構は、建物跡が15軒、柵２ヵ所、道状遺構を含む溝23条、井戸11基、土坑48基、ピット22基、集石９ヵ所、列石１ヵ所、池１ヵ所、遺物集中５ヵ所、瓦だまり２ヵ所である。

2　遺跡の呼称及び所在地

前橋城跡(まえばししょうあと)は近世前橋城外曲輪の一部に位置し、群馬県前橋市大手町二丁目地内に所在する。

地番は、群馬県前橋市大手町二丁目３である。

3　調査面積　2,245㎡

4　事業主体　国土交通省関東地方整備局

5　調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

6　発掘調査及び整理作業の期間

（1）発掘調査期間

履行期間　平成24年11月１日～平成25年３月29日　　発掘期間　平成24年12月１日～平成25年３月29日

（2）発掘調査担当

上席専門員　女屋和志雄　　主任調査研究員　都木直人

（3）整理作業期間

履行期間　平成25年６月１日～平成26年２月28日　　整理期間　平成25年６月１日～平成25年12月31日

（4）整理担当　　主任調査研究員　黒澤照弘

7　報告書作成関係者

編　　集　主任調査研究員　黒澤照弘

執　　筆　資料統括　岩崎泰一(遺物観察表：石製品)　上席専門員　大西雅広(遺物観察表：陶磁器)

補佐(総括)　関　邦一・主任調査研究員　黒澤照弘(遺物観察表：漆器、木製品、骨角器、金属製品、銭貨)

主任調査研究員　黒澤照弘(前記以外)

石材同定　飯島静男(群馬県地質研究会会員)

樹種同定　補佐(総括)　関　邦一

遺構写真撮影　　発掘調査担当者

遺物写真撮影　　資料統括　岩崎泰一　　補佐(総括)　佐藤元彦　　補佐(総括)　関　邦一　　上席専門員　大西雅広

保存処理　補佐(総括)　関　邦一

8　発掘調査及び整理事業での委託

遺構測量・空中写真撮影　　技研コンサル株式会社

肥前系陶磁器　　大橋康二(佐賀県立九州陶磁文化館)

炭化種実同定　　株式会社パレオ・ラボ(同定結果については第４章に掲載した)

骨類鑑定　　宮崎重雄(鑑定結果については第４章に掲載した)

文字判読　　阿久津聡、関口荘右、樫沢恭子、秋山正典(群馬県立文書館)

遺物出土状況記録業務(洗浄)　　株式会社シン技術コンサル

9　出土遺物・図面・写真等の資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

10　本遺跡の発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の諸機関・諸氏にご教示・ご指導をいただいた。記して感謝申し上げる次第である。(敬称略)

国土交通省関東地方整備局　総務省　群馬県教育委員会　前橋市教育委員会　藤澤良祐(愛知学院大学)

中野晴久(とこなめ陶の森資料館)　前原　豊・福田貫之(前橋市教育委員会)　小林朋恵

凡　例

1　本書で使用する測量図の座標は、全て世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第Ⅸ系)を用いている。挿図中に使用した方位は、座標北を表している。

2　調査範囲全域には５ｍ×５ｍのグリッド網を設定し、各グリッドの呼称は南東隅の交点をあてている。

3　遺構図の縮尺は、集石・列石1/50、井戸・土坑・ピット・池・瓦だまり・遺物集中1/60、建物跡・柵1/80、溝1/100を基本としている。それ以外の縮尺を用いる場合は、各図下部にスケールを示している。

4　色調については、農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』1997年度版を用いた。

5　遺物図の縮尺は、陶磁器1/3、硯1/3、砥石1/3、板碑1/4、石臼・茶臼・五輪塔・石鉢1/6、金属製品1/3、銭貨2/3、漆椀1/3、下駄1/4を基本としている。異なる縮尺の場合は各図下部にスケールを示すか、1/3以外は各遺物実測図に縮尺を記している。また、一部の拓本等については、実測図と異なる縮尺を用いている。異なる縮尺を用いた拓本については縮尺を記している。

6　漆製品については、黒漆、透き漆、赤色漆におよそ大別し報告している。詳細は観察表に記載している。また、実測図に表現した漆の範囲は、想定される範囲である。

7　遺物写真の縮尺は、おおむね遺物実測図と同縮尺としている。

8　遺構一覧表の記載方法は下記の通りである。

（１）建物の柱間は、最大値と最小値を記している。

（２）遺構の長軸方位、走行は、長軸方向と座標北との傾きを計測した。北を基準とし、東西90°以内の範囲で東に傾いた場合はＮ－○°－Ｅのように記している。

（３）完掘できなかった遺構の計測値には()を付けている。

9　遺物観察表の記載方法は下記の通りである。

（１）遺物観察表は「陶磁器」、「漆器・木製品・骨角器」、「金属製品」、「銭貨」、「石製品」に分け記載している。

（２）計測値の単位は、銭貨等をmmとし、これ以外をcmとしている。

（３）欠損した遺物の計測値には()を付けている。

（４）銭貨、石製品等の重量は全て残存値であり、単位はｇである。

（５）銭貨は、縦の直径、横の直径、厚さ、重さを計測している。銭貨の厚さは、文字部分で計測した最大値と最小値を記している。

（６）金属製品のうち銅製品は、合金による金属製品を含んでいる。

（７）石鉢の形態はＡ～Ｅまでに大別している。詳細は以下の通りである。

Ａタイプ：体部が直立気味に立ち上がるもの。体部中央に最大径。

Ｂタイプ：体部が大きく外反するもの。口唇部に最大径。

Ｃタイプ：外面は略方形、内面にすり鉢状に抉り込んだもの。

Ｄタイプ：外面は略方形に整形、内面を略方形に抉り込んだもの。

Ｅタイプ：転石を用い、内面をすり鉢状に抉り込んだもの。

10　前橋城跡確認面１面及び２面出土の陶磁器、前橋藩窯製品・窯道具、瓦平焼、幕末から明治頃の弾丸については、遺構出土遺物及び口絵等で掲載をし観察表を記載しているが、残るものは後日報告する。

目　次

カラー口絵
序
例言
凡例
目次
挿図・写真・表目次

第１章　調査の方法と経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の方法と経過 …… 2
　　1　調査の方法 …… 2
　　2　調査の経過 …… 2
　第３節　整理作業の概要 …… 3
第２章　遺跡の位置と環境 …… 4
　第１節　地理的環境 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4
　第３節　基本土層 …… 8
第３章　遺構と遺物 …… 10
　第１節　遺構 …… 10
　　1　建物　2　柵　3　溝、道状遺構　4　井戸　5　土坑
　　6　ピット　7　集石、列石　8　池　9　遺物集中　10　瓦だまり
　第２節　遺物 …… 30
　　1　陶磁器　2　石製品　3　漆器、木製品　4　金属製品、銭貨
第４章　自然科学分析 …… 205
　　1　前橋城跡10号溝から出土した炭化種実および炭化種実塊
　　2　前橋城跡出土鳥・獣骨について
第５章　総括 …… 211
　第１節　遺構 …… 211
　　1　前橋城跡の中世遺構　2　前橋城「十人小路」の変遷
　第２節　遺物 …… 218
　　1　近世後半頃の出土陶磁器　2　信楽壺　3　前橋藩窯　4　墨書、刻書
遺物観察表 …… 221
抄録
写真図版

挿図目次

第１図　位置図(国土地理院20万分の１地勢図「宇都宮」
　　(平成18年４月)・「長野」(平成10年２月)使用)・・・・・・・・・ 1
第２図　前橋城跡調査区位置図(前橋市役所発行、
　　2,500分の１前橋市現形図を使用)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第３図　グリッド設定図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第４図　前橋城跡周辺の地理的環境図(「群馬県史」
　　通史編１原始古代１「付図２群馬県内
　　主要地域の地形分類図」より作成)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第５図　遺跡の位置と周辺の遺跡(国土地理院
　　2,500分の１地形図「前橋」(平成５年10月１日)使用)・・・・・ 6
第６図　前橋城跡土層堆積状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第７図　前橋城郷園園(山崎一1978「群馬県
　　古墳墓址の研究」上巻より、一部修正)・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第８図　前橋城跡　確認面１面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
第９図　前橋城跡　確認面２面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
第10図　前橋城跡　確認面１面上全体図、１・２号建物・・・・・・・・ 54
第11図　３号建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
第12図　４号建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
第13図　５・６号建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
第14図　６号建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
第15図　７号建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第16図　８号建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第17図　９・10号建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第18図　11・12号建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第19図　13・14号建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
第20図　15号建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
第21図　１・２号棚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第22図　溝、道状遺構全体図(２・３・６・10・13・15・17・18号溝)・・・・ 66
第23図　２・３・６号溝①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
第24図　２・３・６号溝②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第25図　10・13号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
第26図　10・15号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
第27図　調査区東壁断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第28図　３・６号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
第29図　６・10号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
第30図　13・15号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
第31図　１・４・５号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第32図　７号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
第33図　８・19・23号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
第34図　16～18・24・26号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
第35図　11・12・21・22・24・25・26号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
第36図　２～７号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第37図　８～12号井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
第38図　１～11号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
第39図　12～22号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
第40図　23～27号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
第41図　28～38号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
第42図　39～48号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
第43図　１～22号ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
第44図　１～９号集石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
第45図　１号列石、１号池・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
第46図　１～５号遺物集中・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
第47図　１・２号瓦だまり、前橋城跡トレンチ位置図・・・・・・・・・・ 91
第48図　３号建物１～５、４号建物１～３、５号建物１、
　　６号建物１～３、７号建物１・２出土遺物・・・・・・・・・・・・・・ 92
第49図　９号建物１～３、12号建物１、14号建物１、15号建物１、
　　１号棚１、１号溝１、２号溝１・２出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 93
第50図　２号溝出土遺物３～10・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
第51図　２号溝11～15、３号溝１～４出土遺物・・・・・・・・・・・・・・ 95
第52図　３号溝出土遺物５～14・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
第53図　３号溝出土遺物15～22・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
第54図　３号溝出土遺物23～32・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
第55図　３号溝出土遺物33～42・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99
第56図　３号溝出土遺物43～52・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
第57図　３号溝出土遺物53～62・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101
第58図　３号溝出土遺物63～70・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
第59図　３号溝出土遺物71～75・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 103
第60図　３号溝出土遺物76～80・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
第61図　３号溝出土遺物81～88・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
第62図　３号溝出土遺物89～100・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
第63図　３号溝出土遺物101～109・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第64図　３号溝出土遺物110～120・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
第65図　３号溝出土遺物121～131・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第66図　３号溝出土遺物132～140・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
第67図　５号溝１・２、６号溝１～10出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 111
第68図　６号溝出土遺物11～20・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112
第69図　６号溝出土遺物21～30・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
第70図　６号溝出土遺物31～40・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
第71図　６号溝出土遺物41～49・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115
第72図　６号溝出土遺物50～56・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116
第73図　６号溝出土遺物57～62・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
第74図　６号溝出土遺物63～70・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
第75図　６号溝出土遺物71～75・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
第76図　６号溝出土遺物76～87・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
第77図　６号溝出土遺物88～95・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
第78図　６号溝出土遺物96～100・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
第79図　６号溝出土遺物101～105・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
第80図　６号溝出土遺物106～116・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
第81図　７号溝出土遺物１～12・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
第82図　７号溝出土遺物13～22・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
第83図　７号溝出土遺物23～32・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
第84図　７号溝出土遺物33～42・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
第85図　７号溝出土遺物43～52・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
第86図　７号溝出土遺物53～62・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
第87図　７号溝出土遺物63～69・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
第88図　７号溝出土遺物70～76・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
第89図　７号溝出土遺物77～84・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 133
第90図　７号溝出土遺物85～93・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 134
第91図　７号溝出土遺物94～105・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135
第92図　７号溝出土遺物106～116・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
第93図　７号溝出土遺物117～121・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137
第94図　７号溝出土遺物122～129・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
第95図　７号溝130～134、10号溝１・２出土遺物・・・・・・・・・・・ 139
第96図　10号溝出土遺物３～12・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140
第97図　10号溝出土遺物13～21・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
第98図　10号溝出土遺物22～26・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
第99図　11号溝１～３、13号溝１～８出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 143
第100図　13号溝出土遺物９～18・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144
第101図　13号溝出土遺物19～29・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
第102図　13号溝出土遺物30～38・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
第103図　13号溝出土遺物39～48・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 147
第104図　13号溝出土遺物49～56・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 148
第105図　13号溝出土遺物57～64・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149
第106図　13号溝出土遺物65～73・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
第107図　13号溝出土遺物74～83・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 151
第108図　13号溝出土遺物84～96・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 152
第109図　13号溝出土遺物97～104・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 153
第110図　13号溝出土遺物105～108・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 154
第111図　13号溝出土遺物109～118・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 155
第112図　13号溝出土遺物119～125・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 156
第113図　13号溝出土遺物126～129・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
第114図　13号溝出土遺物130～132・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 158
第115図　15号溝出土遺物１～10・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159
第116図　17号溝出土遺物１～13・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 160
第117図　17号溝出土遺物14～18・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 161
第118図　17号溝19・20、18号溝１・２、19号溝１～５出土遺物・・・・・ 162

第119図　21号溝１,22号溝１・２,25号溝１～３、
２号井戸１・２出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・163
第120図　２号井戸３・４、３号井戸１～４、
４号井戸１～８出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
第121図　４号井戸９～12、５号井戸１～５出土遺物・・・・・・・・・・165
第122図　５号井戸出土遺物６～８ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・166
第123図　６号井戸１、２、７号井戸１～３、
９号井戸１～３出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・167
第124図　10号井戸１、11号井戸１～３、６号土坑１・２、
７号土坑１・２、９号土坑１、10号土坑１出土遺物 ・・・・168
第125図　12号土坑１・２、15号土坑１、17号土坑１～３、
20号土坑１～４出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・169
第126図　20号土坑出土遺物５～14 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・170
第127図　20号土坑15～18、22号土坑１～６出土遺物 ・・・・・・・・・171
第128図　23号土坑１・２、27号土坑１～４、28号土坑１、
29号土坑１、30号土坑１～３出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・172
第129図　31号土坑出土遺物１～８ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・173
第130図　32号土坑出土遺物１～10 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174
第131図　32号土坑出土遺物11～17 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・175
第132図　34号土坑１～５、36号土坑１・２出土遺物 ・・・・・・・・・・176
第133図　39号土坑１・２、40号土坑１・２、45号土坑１、
46号土坑１～４出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・177
第134図　１号ピット１・13号ピット１・20号ピット１、
３号集石１～３、４号集石１・２、５号集石１、
６号集石１・２出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・178
第135図　７号集石１～４、８号集石１・２出土遺物 ・・・・・・・・・・179
第136図　１号池１～７、１号遺物集中１・２出土遺物・・・・・・・・・180
第137図　２号遺物集中出土遺物１～６・・・・・・・・・・・・・・・・・181
第138図　２号遺物集中出土遺物７～16・・・・・・・・・・・・・・・・・182
第139図　２号遺物集中出土遺物17～20・・・・・・・・・・・・・・・・・183
第140図　２号遺物集中出土遺物21～26・・・・・・・・・・・・・・・・・184
第141図　２号遺物集中出土遺物27～30・・・・・・・・・・・・・・・・・185
第142図　２号遺物集中出31～33、３号遺物集中１～５出土遺物 ・・・・186
第143図　３号遺物集中出土遺物６～16・・・・・・・・・・・・・・・・・187
第144図　３号遺物集中出17～19、４号遺物集中１～４出土遺物 ・・・・188
第145図　４号遺物集中５～10、５号遺物集中１出土遺物・・・・・・・189
第146図　１号瓦だまり１・２、２号瓦だまり１・２、
８号トレンチ１・２、９号トレンチ１・２、
16号トレンチ１・２出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・190
第147図　16号トレンチ３、１面確認面１～７出土遺物・・・・・・・・・191
第148図　１面確認面出土遺物８～12・・・・・・・・・・・・・・・・・・192
第149図　１面確認面出土遺物13～22 ・・・・・・・・・・・・・・・・・193
第150図　１面確認面出土遺物23～39 ・・・・・・・・・・・・・・・・・194
第151図　１面確認面出土遺物40～50 ・・・・・・・・・・・・・・・・・195
第152図　１面確認面出土遺物51～55 ・・・・・・・・・・・・・・・・・196
第153図　１面確認面出土遺物56・57 ・・・・・・・・・・・・・・・・・197
第154図　１面確認面出土遺物58～62 ・・・・・・・・・・・・・・・・・198
第155図　１面確認面63・64、２面確認面１～４出土遺物 ・・・・・・・199
第156図　２面確認面出土遺物５～22・・・・・・・・・・・・・・・・・・200
第157図　２面確認面出土遺物23～30 ・・・・・・・・・・・・・・・・・201
第158図　２面確認面出土遺物31～35 ・・・・・・・・・・・・・・・・・202
第159図　２面確認面出土遺物36～38 ・・・・・・・・・・・・・・・・・203
第160図　遺構外１～３、表採１～６出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・204
第161図　前橋城跡　中世遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・212
第162図　近世前橋城縄張図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・214
第163図　近世前橋城跡と３・６号溝、10・13・18号溝・・・・・・・・・215
第164図　近世前橋城跡と10・13・18号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・216

写真目次

PL.１　１　前橋城跡周辺　南→　左手には群馬会館が見える
２　前橋城跡　南→　写真奥は前橋地方検察庁
PL.２　１　前橋城跡　確認面１面　上が北
２　前橋城跡　確認面２面　上が北
PL.３　１　前橋城跡２面東側　建物跡出土状況　上が北
PL.４　１　１・２号建物　上が北
２　１・２号建物　西→
３　前橋城跡２面西側　建物跡出土状況　左手が北
４　13・14号建物　北→
５　10号建物　東→
PL.５　１　３～５・９号建物、１号棚　左手が北
２　３号建物　南→
３　４号建物　北→
４　３号建物P17　遺物出土状況　東→
５　３号建物P16　北→
PL.６　１　４号建物P23　東→
２　４号建物P14　北→
３　３・８号建物、11・12・16・22・24～26号溝、
27号土坑　上が北
４　８号建物　西→
５　８号建物P４　西→
PL.７　１　６・７・11・12・15号建物　左手が北
２　６・７号建物　北→
３　11・12号建物　西→
４　15号建物　東→
PL.８　１　２号溝　東→　写真奥は群馬会館、群馬県庁
２　２号溝　西→
３　２号溝セクション　東→
４　十人小路南側セクション　東→
５　十人小路北側セクション　東→
PL.９　１　３・６号溝(十人小路)　東→
２　３・６号溝(十人小路)　東→　写真奥は群馬会館
３　３・６号溝(十人小路)　東→　写真奥は群馬県庁
４　３号溝(十人小路北側の側溝)　東→
PL.10　１　６号溝(十人小路南側の側溝)　東→　写真奥は群馬県庁
２　６号溝　西→
３　６号溝石組み　西→　南側(写真右手)と比べ、北側の石
組みは丁寧に積まれている
PL.11　１　６号溝石組み　東→
２　６号溝北側の石組み　南→　西側より①
３　６号溝北側の石組み　南→　西側より②
４　６号溝北側の石組み　南→　西側より③
５　６号溝北側の石組み　南→　西側より④
６　６号溝北側の石組み　南→　西側より⑤
７　６号溝北側の石組み　南→　西側より⑥
PL.12　１　６号溝南側の石組み　北→　西側より①
２　６号溝南側の石組み　北→　西側より②
３　６号溝南側の石組み　北→　西側より③
４　６号溝南側の石組み　北→　西側より④
５　６号溝南側の石組み　北→　西側より⑤
６　６号溝南側の石組み　北→　西側より⑥
７　６号溝南側の石組み　北→　西側より⑦
８　６号溝南側の石組み　北→　西側より⑧
PL.13　１　６号溝底部　西→
２　６号溝底部　上が南　土坑状の掘り込み
３　６号溝底部　上が南
４　６号溝　北→　溝内、石の集石状況
５　６号溝東部分　東→
６　６号溝東部分　南側の石組み　北→
７　６号溝東部分　南側の石組み　北→

PL.14　1　3・6号溝、10・13・15・17・18号溝　西→
2　6・13・17・18号溝　西→　写真奥は前橋城車橋門跡
3　10号溝セクション　西→
4　13号溝セクション　東→
5　13号溝石組み　北西→
PL.15　1　1号溝　北→
2　4号溝　南→
3　5号溝　南→
4　15号溝　東→
5　15号溝石組み　南西→
PL.16　1　19号溝　南→
2　21号溝　南→
3　22号溝　東→
4　23号溝　南東→
5　2号井戸　東→
6　3号井戸　北→
7　4号井戸　東→
8　5号井戸　南→
PL.17　1　6号井戸　北→
2　7号井戸　南→
3　8号井戸　北→
4　9号井戸　東→
5　10号井戸　北→
6　11号井戸　西→
7　12号井戸　南→
8　1号土坑　南→
PL.18　1　5号土坑　東→
2　6号土坑　東→
3　7号土坑　西→
4　8号土坑　西→
5　9号土坑　南→
6　10号土坑　東→
7　12号土坑　北→
8　13号土坑　北→
PL.19　1　14号土坑　東→
2　15号土坑　西→
3　16号土坑　東→
4　17号土坑　東→
5　18号土坑　南→
6　19号土坑　南→
7　20号土坑　南→
8　22号土坑　東→
PL.20　1　24号土坑　東→
2　26号土坑　北→
3　28号土坑　北→
4　29号土坑　東→
5　30号土坑　北西→
6　31号土坑　東→
7　32号土坑 遺物出土状況　北→
8　32号土坑　西→
PL.21　1　33号土坑　北→
2　34号土坑　西→
3　35号土坑　東→
4　36号土坑　西→
5　37号土坑　北→
6　38号土坑　東→
7　39号土坑 遺物出土状況　東→
8　40号土坑　北→
PL.22　1　41号土坑　南→
2　42号土坑　東→
3　43号土坑　北→
4　45号土坑　南→
5　46号土坑　東→
6　47号土坑　西→
7　1号集石　北→
8　2号集石　北→
PL.23　1　3号集石　北→
2　4号集石　北→
3　5号集石　北→
4　6号集石　北→
5　7号集石　北→
6　8号集石　北→
7　1号列石　北→
PL.24　1　1号池　西→　左手は6号溝
2　1号池　北→
3　1号遺物集中　北→
4　3号遺物集中　北→
5　5号遺物集中　西→
6　1号瓦だまり　西→
7　2号瓦だまり　東→
8　1号瓦だまり　近接
PL.25　1　2号遺物集中　近代陶磁器
2　近代在地系土器

表 目 次

表1　周辺遺跡一覧表 …… 6・7
表2　前橋城跡　建物一覧表 …… 32
表3　前橋城跡　建物・柵 ピット一覧表 …… 32～34
表4　前橋城跡　溝一覧表 …… 34・35
表5　前橋城跡　井戸一覧表 …… 35
表6　前橋城跡　土坑一覧表 …… 35・36
表7　前橋城跡　ピット一覧表 …… 36
表8　前橋城跡　集石、列石一覧表 …… 37
表9　前橋城跡　遺物集中一覧表 …… 37
表10　前橋城跡　肥前系陶磁器一覧表 …… 38～41
表11　前橋城跡　瀬戸・美濃系陶磁器一覧表 …… 42～44
表12　前橋城跡　関西系陶磁器一覧表 …… 44
表13　前橋城跡　貿易陶磁器一覧表 …… 45
表14　前橋城跡3号溝　肥前系陶磁器一覧表 …… 46
表15　前橋城跡3号溝　瀬戸・美濃系陶磁器一覧表 …… 47
表16　前橋城跡3号溝　関西系陶磁器一覧表 …… 47
表17　前橋城跡6号溝　肥前系陶磁器一覧表 …… 48
表18　前橋城跡6号溝　瀬戸・美濃系陶磁器一覧表 …… 48・49
表19　前橋城跡6号溝　関西系陶磁器一覧表 …… 49
表20　前橋城跡6号溝　貿易陶磁器一覧表 …… 49
表21　前橋城跡10号溝　肥前系陶磁器一覧表 …… 50
表22　前橋城跡10号溝　瀬戸・美濃系陶磁器一覧表 …… 50
表23　前橋城跡10号溝　貿易陶磁器一覧表 …… 50
表24　前橋城跡13号溝　肥前系陶磁器一覧表 …… 50
表25　前橋城跡13号溝　瀬戸・美濃系陶磁器一覧表 …… 50・51
表26　前橋城跡13号溝　関西系陶磁器一覧表 …… 51
表27　前橋城跡13号溝　貿易陶磁器一覧表 …… 51
表28　前橋城跡18号溝　貿易陶磁器一覧表 …… 51
表29　ガン属左尺骨計測値 …… 209
表30　左下顎馬歯(確認面2面)計測値 …… 209
表31　前橋城(厩橋城)　城主・城代の変遷 …… 211

第１章　調査の方法と経過

第１節　調査に至る経緯

前橋城跡は前橋市大手町二丁目、旧前橋市中央公民館地内にあり、近世前橋城の外曲輪、再築前橋城の三の丸南側に位置する。厩橋城とも呼ばれる中世前橋城(築城時期～ 1590年頃)、近世前橋城(1590年頃～ 1767年)、廃城期・陣屋支配(1767年～ 1867年)、再築前橋城(1867年～)より現在に至るまで、城内として、また商用地、住宅地として長く繰り返し利用された地域である。そのため攪乱は広範囲であり、遺構重複も数多く確認された。

これまでの前橋城に関わる発掘調査は、第５図の通り行われた。群馬県庁舎建設に伴う発掘調査では、近世前橋城三の曲輪付近を広範囲に調査し、近世前橋城から再築前橋城までの多くの遺構や遺物が出土、中世前橋城の一端についても確認されている。その詳細については、既に刊行された各調査報告書の通りである。

今回の発掘調査は、前橋地方合同庁舎(仮称)整備に伴い実施された。国土交通省関東地方整備局より平成21年11月17日付けで、平成21年度前橋地方合同庁舎新営事業が通知され、事業地には周知の埋蔵文化財包蔵地である前橋城が存在することから、試掘、確認調査が実施されることとなった。平成21年12月14日・16日に群馬県教育委員会文化財保護課が試掘、確認調査を実施し遺構を確認、また平成23年度には、本事業地内で前橋市教育委員会による発掘調査が行われ、平安時代から近世までの遺構、遺物が確認された。これらのことから、群馬県教育委員会文化財保護課は本格的な発掘調査等が必要と判断した。

第１図　位置図(国土地理院20万分の１地勢図「宇都宮」(平成18年４月)・「長野」(平成10年２月)使用)

平成24年10月４日、国土交通省関東地方整備局より、群馬県教育委員会文化財保護課に工事計画、設計図等が提示され、同年10月16日に、国土交通省関東地方整備局より必要書類が提出された。これを受け、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が実施されることとなった。

第２節　調査の方法と経過

１　調査の方法

前橋城跡の調査対象面積は2,245㎡である。発掘調査は、平成24年12月１日より平成25年３月29日まで実施された。

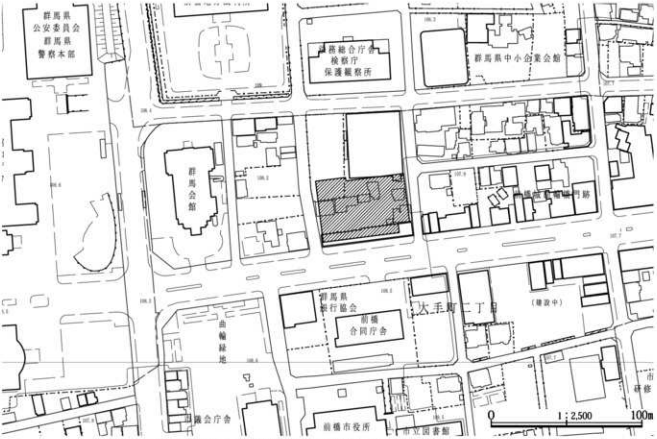
調査に用いたグリッドは世界測地系(日本測地系2000平面直角座標Ⅸ系)を用い、５ｍ×５ｍを基本としている。Ｘ＝43600、Ｙ＝－69000を基準とし、南北方向を算用数字、東西方向をアルファベットＡ～Ｔとして調査対象の範囲を網羅した。南東隅を基点としており、詳細については第３図の通りである。

表土除去は基本的にバックホーを用いて行った。表土除去後はジョレンや移植ゴテを用い遺構確認を実施し、確認された遺構について調査を行った。調査面は、主に再築前橋城時代、松平氏から酒井氏城主の時代、平安時代から古墳時代を想定して実施した。確認面１面にあたる再築前橋城時代、確認面２面にあたる松平氏から酒井氏城主の時代を調査し、平安時代から古墳時代を想定していた３面については一部でのトレンチ調査を実施し、遺構が確認できなかったことから調査を終了した。また、残土置き場の不足から面ごとに完掘することはできず、２面とも東西で時期をずらし調査を行った。

遺構の測量は測量会社に委託した。作図はデータをデジタル化し、整理事業の便を図った。写真撮影はデジタルカメラを主とし、全体撮影及び重要な遺構については６×７版モノクロネガフィルムを使用した。

２　調査の経過

前橋城跡の調査は、平成24年12月１日より開始された。確認面１面の調査は、平成24年12月６日～12日、翌年



第２図　前橋城跡調査区位置図(前橋市役所発行、2,500分の１前橋市現形図を使用)

１月７日～ 11日の二度に分けて表土掘削を実施した。

掘削面については群馬県教育委員会による試掘結果を参考にしたが、調査区内は地点により土層も異なり、攪乱も広範囲に及んでいた。調査時には、長く繰り返し利用されたことや地点による土地利用の違いなどがその原因と考えられた。

第６図、調査区南西の土層堆積状況の通り、調査区では整地層が確認された。しかし、調査区全域で同様の整地層はなく、また指標となるテフラも良好に確認できなかったため、整地層の年代を判断するまでに時間を要した。結果として各整地層の時代を比定するまでには至らず、想定した確認面の通り調査を実施することは難しい状況であった。平成25年1月29日に１面として空中写真撮影を実施したが、この確認面を再築前橋城に特定することは難しく、一部には明治時代やそれ以降の遺構が混在し分別できなかったと考えている。

確認面２面は１面の下、約30 ～ 40㎝で検出した。２面まではバックホーを用い、調査区南西隅から掘削を開始した。シルト層を掘り下げると礫が多く出土したため、同一の面として下げきることはできなかった。この様な状況は調査区中央まで続き、７号溝となる付近では一面石だらけとなった。これらを１～９号集石として調査を実施した。

２面では、近世前橋城の車橋門から三の門へと続く、「十人小路」両側溝と思われる３・６号溝を検出した。また、調査区南東隅を中心に重複する建物跡や柵の調査を実施した。７号溝を掘り下げると、10・13・18号溝等が検出され調査を実施した。最後に、平安時代から古墳時代の遺構を確認するためトレンチ調査を行った。

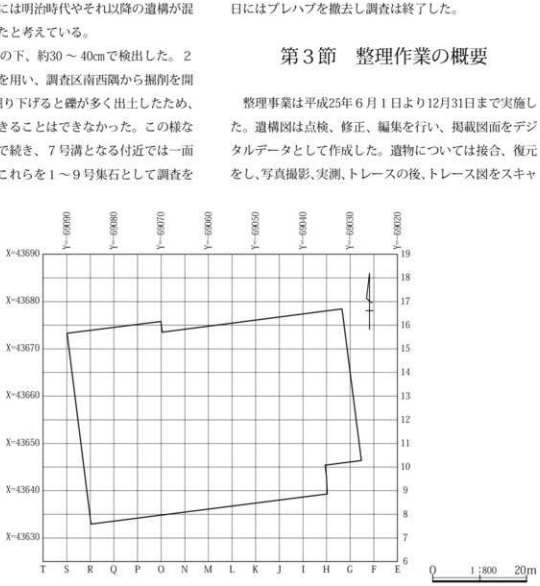
確認面２面でも、平成25年２月26日と同年３月15日に空中写真撮影を行った。３月15日は２面最終面として実施している。

調査区の残土については、調査工程の円滑化及び経費節減のために場外へ搬出し、調査区を埋め戻さずに引き渡しとなった。

平成25年３月21日には遺物を搬出、同年３月27日・28日にはプレハブを撤去し調査は終了した。

第３節　整理作業の概要

整理事業は平成25年６月１日より12月31日まで実施した。遺構図は点検、修正、編集を行い、掲載図面をデジタルデータとして作成した。遺物については接合、復元をし、写真撮影、実測、トレースの後、トレース図をスキャ



第３図　グリッド設定図

ニングしてデジタルデータとした。同時に遺物観察を行い、遺物観察表を作成した。掲載写真は遺構、遺物ともにデジタル写真より編集を行った。以上の作業と並行して本文執筆、土層注記や各種一覧表などを作成し、それらをレイアウトしてデジタル編集を行い報告書原稿を作成した。

出土遺物のうち、遺物収納箱27箱分については未洗浄であった。そのため、株式会社シン技術コンサルに遺物出土状況記録業務(洗浄)を委託し、平成25年６月７日より28日まで実施した。

前橋城跡からは鍋島焼などの優品を含む数多くの陶磁器が出土したため、元九州陶磁文化館館長の大橋康二氏に肥前系陶磁器を中心とした指導、助言を得た。平成25年９月11日・12日に実施された成果は、本文及び観察表の通りである。

また、出土した遺物には墨書や刻書が確認できたことから、群馬県立文書館の阿久津聡氏、関口荘右氏、樫沢恭子氏、秋山正典氏に文字の判読及び指導、助言を得た。平成25年10月23日に実施された成果は、同様に本文及び観察表の通りである。

出土した獣骨については宮崎重雄氏に、また10号溝より出土した炭化種実については株式会社パレオ・ラボに同定等を委託した。これらの成果は第４章に掲載している。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

前橋城跡は、群馬県庁の東側150mほどに近接する旧前橋市中央公民館地内に位置する。遺跡は利根川左岸、前橋台地上に立地しており、標高は107mである。

利根川は三国山脈に源を発し、赤城山と榛名山の間を抜けて南流し平野部に至る河川である。現在の利根川は前橋市街地の西側を流れるが、中世までの旧流路は現在の広瀬川付近にあり、広瀬川低地帯を流れていたといわれている。

本遺跡は、利根川の旧流路と現在の流路との間に位置する。遺跡の立地する前橋台地は、利根川が赤城山と榛名山の山麓の間から、関東平野に流れ出した所に広がる緩傾斜の台地である。現在の利根川は、この前橋台地のほぼ中央を南流している。前橋台地の基盤層は利根川によって運ばれた前橋砂礫層であり、その上層には浅間山の山体崩壊を起源とする前橋泥流堆積物や前橋泥炭層が堆積している。さらに上位には、榛名山起源の総社砂層が堆積しているが、本遺跡が立地する台地も、これらの堆積層で覆われた一連の台地である。

調査区付近の現在の地表面は、榛名山に向かって緩やかに傾斜している。しかし、調査区は市街地化されおよそ平坦な状況であった。

第２節　歴史的環境

群馬県庁は近世前橋城の三の曲輪にあり、再築前橋城の本丸に位置する。報告する前橋城跡は群馬県庁の東側に近接しており、調査区の東側には車橋門の石垣が残る。また、遺跡より検出された遺構、遺物も中世末から近世までが大半を占めていることから、本節では前橋城を中心に歴史的環境を述べる。ここで述べる遺跡名及び第５図に示した遺跡の範囲は、Web上で公開されている群馬県教育委員会文化財保護課による遺跡分布図(マッピングぐんま「遺跡・文化財」http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma/top/select.asp?dtp=86&pl=3、2013年10月現在)に依拠している。

本遺跡周辺には厚く前橋泥流堆積物が堆積していたため、遺跡周辺において旧石器の調査事例はない。縄文時代については、元総社蒼海遺跡群(22)、産業道路東遺跡(38)などで縄文前期から後期の住居跡等が調査されている。前橋城関連の発掘調査では、前橋城遺跡(１Ｃ)４次調査において、幅４mほどの自然流路埋没土中より加曽利Ｅ３式土器と石器が出土している。また遺跡の位置する前橋台地では、総社砂層の上面から縄文前期から後期頃の土器の出土例が増加している。縄文草創期の隆線文系土器や撚糸文土器の出土も確認され、前橋城遺跡２次調査においては井草式土器が出土し報告されている。

古墳時代以降の遺跡は多く、集落跡や水田などの生産跡が検出されている。前橋城関連の発掘調査でも、前橋城遺跡７次調査を中心に埴輪が出土し、また前橋城北曲輪遺跡（１ｈ）では５世紀末から６世紀前半と推定される円墳が検出されている。

本遺跡の西側には、上野国府跡（８）や上野国分寺・国分尼寺跡などがある。同地は古代上野国の中心地であり、遺跡も数多く、前橋城関連の発掘調査でも古代の遺構や遺物が出土し報告されている。前橋城遺跡では９世紀を中心に住居が15軒、掘立柱建物２棟、井戸８基等が検出されている。調査報告書では、城郭の堀などで壊されなければ、さらに広域に集落が広がっていた可能性もあったと指摘されている。前橋城遺跡１次・３～５次では、南北方向に走行する古代の溝２条が検出された。溝は道と判断され、国府の東側に置かれた東山道の駅「群馬駅家」との関係が指摘されている。

天仁元(1108)年の浅間山噴火では、上野国の広範囲に多量の降灰があり、生産域を中心に甚大な被害を受けた。その後、上野国においては荘園化が進み、武士が台頭してきたとされる。

15世紀中頃になると、各地で内乱が頻発する。享徳三(1455)年より勃発した享徳の乱は、幕府方、山内・扇谷

OP	大胡火砕流堆積面	FH	扇状地	MDA	行幸田岩屑なだれ堆積面
FTc	扇状地	CB	河成段丘(旧中州)	JDA	陳場岩屑なだれ堆積面
VP	谷底平野および後背湿地	BM	河成段丘(後背湿地)	IM	井野川泥流堆積面
BP	前橋・伊勢崎台地の後背湿地	YC	広瀬川低地帯の旧中州		流れ山
LP	前橋・伊勢崎台地の微高地	YB	広瀬川低地帯の後背湿地		現利根川

第４図　前橋城跡周辺の地理的環境図（『群馬県史』通史編１原始古代１「付図２群馬県内主要地域の地形分類図」より作成）

第５図　遺跡の位置と周辺の遺跡（国土地理院2,500分の１地形図「前橋」（平成９年10月１日）使用）

表１　周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代 縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	概要	文献
									前橋城跡（本書）	**a　本書所収遺跡**
1	前橋城					○	○	○	平安以前：住居、ピット　近世：建物、土坑、ピット、井戸、溝、堀、道路、瓦だまり	b　市教委「前橋城（三の丸門東地点）」2011
		○				○	○	○	近世：堀、溝、土坑、井戸	c　群埋文「前橋城Ⅰ・Ⅱ」1997・1999
								○	近世：谷筋流路、穴、溝、井戸、埋桶、建物、ピット列、ピット	d　前橋地方・家庭裁判所遺跡調査会「前橋城三ノ丸遺跡」1996
							○	○	古代：溝　中世：井戸、水口　近世：建物、溝、井戸、土坑、ピット、堅穴、石列	e　群埋文「前橋城三の丸遺跡」2007
								○	近世：城郭	f　市教委「前橋城平成門凡馬出遺構」調査」2008
								○	近世：城郭	g　市教委「文化財調査報告書」25集1996
				○			○	○	古墳、掘立柱建物、ピット、土坑、井戸、溝、池	h　群埋文「前橋城北曲輪遺跡」2002
								○	城郭　堀跡2条	i　調査団「前橋城」2004
					○	○		○	奈良・平安：住居、土坑、井戸、ピット　近世・近世以降：堀、土坑、建物、ピット、礎石、溝、井戸	j　調査団「前橋城（南曲輪地点）」2009
								○	近世・近世以降：堀　時期不明：堀、溝、土坑	k　市教委「前橋城（南曲輪地点No.2）」2010
2	総橋下之城遺跡						○		都城	前橋市「前橋市史」第一巻1971、県教委「群馬県の中世城館跡」1989
3	石倉城遺跡			○	○	○	○	○	古墳：集落、住居、土坑　奈良・平安：集落、住居、土坑　中世：城郭、溝、土坑	県教委「石倉城遺跡」2004、前橋市「前橋市史」第一巻1971、県教委「群馬県の中世城館跡」1989
4	大友城					○			都城	前橋市「前橋市史」第一巻1971、県教委「群馬県の中世城館跡」1989
5	村山城						○	○	都城	
6	善海城						○	○	城郭	
7	萩の城						○	○	都城	市
8	上野国府跡				○				官衙	市教委「上野国府跡発掘調査概報」1967他
9	山王廃寺遺跡				○	○			社寺	市教委「山王廃寺」2010他
10	寺田遺跡			○	○	○			墓、その他	調査団「寺田遺跡」1986
11	柳町東遺跡					○			集落	市教委「新町東遺跡」1987
12	元総社甲神遺跡			○		○			集落	市教委「元総社甲神遺跡Ⅰ」1983
13	大友屋敷遺跡				○	○			溝、地下土坑	市教委「文化財調査報告書」18集1988
14	大友屋敷遺跡				○	○			集落	市
15	穂積遺跡				○	○			墓、その他	調査団「穂積遺跡」1986
16	屋敷Ⅱ遺跡			○	○	○			集落	調査団「屋敷Ⅱ遺跡」1996
17	元総社寺田遺跡			○	○	○	○	○	古墳：溝、水口、水路　奈良・平安：溝　中近世：井戸、土坑、溝、ピット	群埋文「元総社寺田遺跡」1993・1994・1996
18	関泉横道跡				○				集落	市教委「文化財調査報告書」13集1983
19	道場遺跡	○		○	○	○	○	○	縄文、古墳、奈良、平安、中世：住居、建物、ピット、地下式坑、土坑、水溜墓(蔵骨器)、火葬跡、溝、貨幣埋納跡、井戸、池、水口	市教委「大渡道場遺跡」2011
20	関泉横南遺跡			○					古墳：住居	山武考古学研究所「関泉横南遺跡」1986
21	関泉横北遺跡					○			平安：住居	市
22	元総社善海遺跡群				○	○	○	○	古墳、奈良、平安、中世：集落・官衙・城郭・その他	調査団「市教委「元総社善海遺跡群」(1)～(36) 2005・06～11
23	関泉明神北遺跡	○		○		○	○	○	古墳：浅間C軽石下点跡、下下水口　平安：住居　中世：溝、井戸、土坑	調査団「総社関泉明神北遺跡」2000他

No.	遺跡名	時代							概要	文献
		縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世		
24	鎌倉郭門No.32遺跡						○	○	散布地・城郭	群埋文「鳥羽遺跡」1/3区(1986)他
25	屋敷遺跡			○		○			古墳：住居　平安：住居、堀、井戸	市教委「屋敷遺跡」1987
26	草作遺跡			○		○	○	○	古墳：住居　平安：住居　中世：井戸	調査団「草作遺跡」1985
27	染谷川遺跡			○		○			集落	※
28	巻町遺跡			○		○			古墳～平安：住居、土坑、集落、その他	調査団「巻町遺跡」1990
29	元総社蒼台遺跡			○		○	○		古墳：集落・その他	※
30	天神遺跡				○	○			奈良・平安：住居、井戸、ピット　近世・近世以降：堀、土坑、建物、ピット、礫石、溝、井戸	調査団「天神遺跡」1987
31	長尾氏遺跡						○		墓、その他	※
32	大友遺跡			○					集落	※
33	大渡道場遺跡	○		○	○	○	○		縄文、古墳、奈良、平安、中世：住居、墓穴、建物、ピット、地下式坑、土坑、火葬跡、火葬跡、溝、貯蔵施設、井戸、畠、水田	市教委「大渡道場遺跡」2011
34	稲荷山遺跡			○					古墳	市教委「文化財調査報告書」19集1989
35	総社稲荷塚大道西遺跡						○		集落	2002「元総社西海道遺跡群　総社中稲荷塚大道西遺跡・総社関東明神北B遺跡・総社中稲荷塚大道西B遺跡」調査団他
36	稲荷塚大道北遺跡				○	○			集落	※
37	稲荷塚北遺跡				○	○			住居	前橋市「前橋市史」第一巻1971
38	産業道路東遺跡	○							集落	前橋市「前橋市史」第一巻1971
39	昌泉寺前遺跡	○			○	○			集落	市教委「文化財調査報告書」3集1990
40	鳳No.25遺跡	○							散布地	群埋文「上野国分寺・国分尼寺」1997他
41	奈良平安No.34遺跡				○	○			散布地、集落、その他	群馬町教委「西国分1遺跡」1988他
42	鎌倉郭門No.16遺跡						○	○	散布地	※
43	上品うら遺跡			○	○	○	○		散布地、集落、その他	※
44	元総社稲荷遺跡	○		○	○	○	○		縄文：土坑　古墳：溝　奈良・平安：住居　中世：土坑	1985「元総社稲荷遺跡」群馬県市町村会館遺跡調査会
45	古市堀添遺跡			○		○			その他（水田）	※
46	前町市之坪No.2遺跡					○			その他	※
47	清土寺の寄居遺跡						○		その他	前橋市「前橋市史」第一巻1971、県教委「群馬県の中世城郭跡」1989
48	王山館塚（其一）			○					古墳	※
49	王山館塚（其二）			○					古墳	※
50	小屋町天山遺跡								城郭、その他	※
51	王山古墳			○					古墳	松島榮治・中村喜久・石島和夫「群馬県前橋市王山古墳の調査」日本考古学協会「日本考古学協会第57回総会研究発表要旨」1991他
52	前橋市９号墳			○					古墳	※
53	龍海院裏古墳			○					古墳	前橋市「前橋市史」第一巻1971
54	龍海院西竹林北側墓地							○	墓、その他	市教委「文化財調査報告書」25集1996
55	敷塚報恩寺南側墓地								墓、その他	市教委「文化財調査報告書」13集1983
56	北原分中塚					○			集落	市教委「文化財調査報告書」21集1991
57	元総社小学校校庭遺跡				○	○			集落、窯跡	前橋市「前橋市史」第一巻1971
58	引切塚			○					集落、古墳	※
59	堀越遺跡					○			集落	調査団「群馬県前橋市堀越遺跡発掘調査報告書」1988
60	赤山遺跡			○					集落、その他	山武考古学研究所「赤山遺跡」1985

県教委：群馬県教育委員会　　市教委：前橋市教育委員会　　調査団：前橋市埋蔵文化財発掘調査団　　群埋文：群馬県埋蔵文化財調査事業団

※：マッピングぐんま　遺跡・文化財(2013年10月のデータを使用)

上杉氏、鎌倉公方(古河公方)方が関東地方の広範囲で争う内乱となった。これまでとは異なる大規模な戦乱に備えるように、各地で中世城郭が築かれ、あるいは整備されたようだ。前橋城もその一つと思われる。

中世前橋城は、厩橋城とも呼ばれていた。この城郭は厩橋長野氏により15世紀末頃に築かれたともいわれているが、築城者や築城時期については明らかでない。中世前橋城に関わる記述としては「石川忠総留書」にわずかに残る程度で、どの様な城郭であったのかも判然としない。前橋城遺跡等の発掘調査では、中世に比定できる遺構や遺物が出土している。前橋城遺跡１・３・４・６次調査では、中世前橋城の遺構と思われる堀が検出され、中世の溝５条、井戸17基等が確認されている。しかし、城郭の中心がどこにあり、調査された堀が中世前橋城のどこに位置するのかは明らかでない。また、中世前橋城の中心は群馬県庁より西側、利根川寄りにあったとも推測されている。

その後、中世前橋城は越後の長尾景虎(上杉謙信)、甲斐の武田信玄、相模の北条氏による三つ巴の争いに翻弄されることとなる。景虎は関東進出のため度々越山したのだが、その足掛りとなった城が中世前橋城であった。この頃の前橋城には、景虎の家臣である北条高広が据えられていた。

天正十八(1590)年、徳川家康が江戸城に入封すると、関東各地には家康の重臣達が配された。四天王の一人、井伊直政は箕輪城へ、同じく榊原康政は館林城へ、そして前橋城には平岩親吉が封じられた。慶長六(1601)年になると、平岩親吉に代わり譜代の筆頭であった酒井重忠が入封された。酒井氏は九代、150年もの長きにわたり前橋藩主を勤めることとなり、前橋城を近世城郭に相応しいものへと拡張、整備したといわれている。平岩親吉については、前橋城改修に関わる絵図や文献等がわずかなことから普請の実態は明らかでなく、そのため酒井氏時代より本格的な城下、城内の拡張、整備が行われたといわれている。

近世前橋城は三層の天守閣を持つ囲郭式の平城で、利

根川を背にした城構えである。利根川は前橋城の守りの要でもあったのだが、この川が城の一部を壊しはじめることとなる。幕府の許可を得て川の流れを変えようともしたが効果はなく、川欠けは本丸にまで及んだことから、三の曲輪に御殿を築くことになった。

寛延二(1749)年、酒井氏は播磨国姫路へと転封し、代わって姫路の松平朝矩が前橋藩主として入封されることとなる。しかし、その後も利根川による城の崩落は収まらず、明和四(1767)年には川越に移城を余儀なくされた。前橋城は取り壊され、前橋は、川越藩の分領として陣屋支配となった。

前橋城遺跡２次調査では、廃城期・陣屋支配頃の水田跡が、城の堀中から検出されている。水田は、堀に流入した天明泥流堆積物の上に造られ、前橋城再築直前に埋められたと報告されている。

天保年間(1830 ～ 1844)、町奉行の安井与左衛門のもと利根川の流路変更が行われ、城が崩落する危険は軽減された。また城主不在による町の衰退もあり、領民は藩主の帰城を懇願していた。文政二(1862)年、藩主松平直克は幕府へ前橋城再築内願書を提出し、翌年受理された。慶応三(1867)年には前橋城は再築され、直克は帰城することとなる。

城郭の再築には莫大な資金が必要であったが、生糸貿易により急速に財を蓄えていた商人を中心に、多大な再築資金の献金があった。再築された前橋城は渦郭式で、土塁の要所には砲台が設置されるなど近代的な城郭であった。

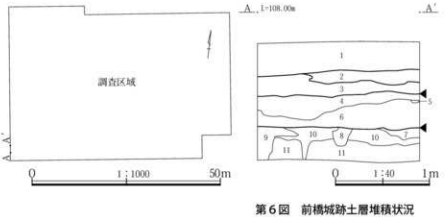
しかし、翌年には明治維新を迎え、再築前橋城が長く城郭として機能することはなかった。後に県庁として本丸御殿が利用されるものの、城は取り壊されることとなった。

引用・参考文献
群馬県史編さん委員会　1990『群馬県史 通史編１原始古代１
群馬県史編さん委員会　1989『群馬県史 通史編３中世
群馬県史編さん委員会　1990『群馬県史 通史編４近世１
前橋市史編さん委員会　1971『前橋市史 第一巻
前橋市史編さん委員会　1973『前橋市史 第二巻
山崎一　1978『群馬県古墳墓址の研究上巻
山崎一　1979『群馬県古墳墓址の研究 補遺篇下巻
群馬県教育委員会　1997『前橋城遺跡Ⅰ』
群馬県教育委員会　1999『前橋城遺跡Ⅱ』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002『前橋城北曲輪遺跡』

第３節　基本土層

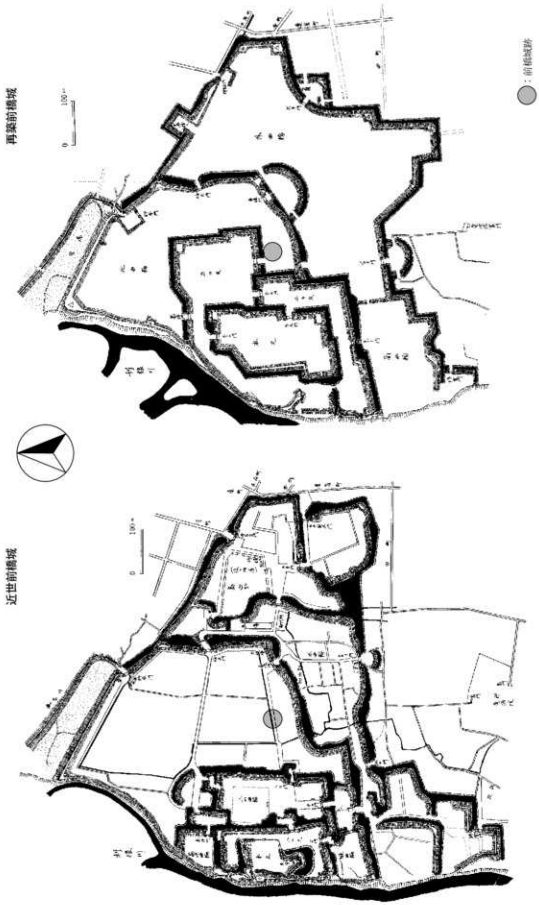
本遺跡では、基本土層となる標準土層を把握することはできなかった。土層堆積状況は第６図の通りだが、調査区西側であっても北と南で土層堆積状況に違いがみられた。前橋城の城内とし、また市街地として長く繰り返し利用された地域であるため、安定した土壌堆積がなく、攪乱も広範囲に及んでいたことがその要因だと考えている。

第６図は、調査区南西側の土層堆積状況である。整地層が確認されたが、調査区一帯で同様の整地層を確認することはできなかった。また、指標となるテフラも良好には残されてはいなかった。各整地層の時代について明確に比定することはできなかったが、およそ３層下が確認面１面に、６層下が確認面２面に相当する。



1　整地層　砕石、石炭ガラと暗褐色土の互層。
2　整地層　石炭ガラ、灰、レンガほか互層。
3　整地層　暗褐色土、シルト、炭、レンガの互層。
4　整地層　緑灰色土、シルト、礫が斑紋状に混入。
5　黄色細砂(5YR7/6)
6　整地層　暗褐色土、シルト が斑紋状に混入。
7　８層と９層の混土　にぶい黄褐色土　As-YPほか混入。
8　褐灰色シルト(10YR5/1)　細粒。鉄分混入。
9　褐灰～黒褐色土(10YR4/1 ～ 3/2)　粘性に富む。
10　As-C混入黒褐色土
11　黒褐色土(10YR2/2)

第６図　前橋城跡土層堆積状況



第７図　前橋城縄張図(山崎一1978『群馬県古城址の研究』上巻より、一部修正)

第３章　遺構と遺物

前橋城跡は近世前橋城の城内にあり、近世前橋城の外曲輪、再築前橋城の三の丸南側に位置する。遺跡は車橋門の西側、本丸へと続く城内でも重要な道、「十人小路」付近にある。調査面は、主に再築前橋城時代、松平氏から酒井氏城主の時代、平安時代から古墳時代を想定し、確認面１面にあたる再築前橋城時代、確認面２面にあたる松平氏から酒井氏城主時代を調査し、平安時代から古墳時代の確認調査をして終了した。

各面の出土遺物を概観すると、ともに中世から近代に比定できる遺物が混在している。遺構の年代も同様と思われるが、これを明確に区分して報告することは困難であった。ここでは調査時の成果を優先し、およそ各確認面ごとに全体図を作成し報告する。各遺構の詳細については遺構ごとに述べる。

遺構名称は調査時の呼称を優先したが、建物と土坑については遺構番号のふり直しを行っている。詳細は表２～９の各遺構一覧表を参照していただきたい。また、トレンチ位置図のトレンチ番号は７から付しているが、１～６号は試掘時のトレンチ番号である。

１面あるいは１面上には、近代以降と判断した石組み等が確認されている。これらについては全体図での報告のみとしたい。

第１節　遺構

１　建物

前橋城跡からは、確認面２面南東側で数多くの建物が検出されている。調査区は近世前橋城絵図で外曲輪の「侍屋敷」にあり、報告する建物の多くも城内の建物と思われる。検出された建物は重複も顕著で、また本遺跡からは中世末から近世頃を中心に陶磁器も数多く出土しており、調査区域が長く居住域として使用されていたことが推測される。

報告する建物は15棟を数える。建物の認定については、調査時の所見を参考に行っている。各建物の柱穴規模については、表３にまとめている。また、全体図にある円形のトーン部分は、調査時に柱穴の可能性が考えられた位置である。参考にしていただきたい。

３号建物と４号建物は、一部の柱穴を共有していた可能性もあり一連の建物とも考えられる。隣接する部分で全ての柱穴が共有されていないため、ここでは別の建物として報告している。

後述するが、３・６号溝は、前橋城内の道「十人小路」の側溝と考えられる。また、およそ同規模の並行する10・13・18号溝等は、３・６号溝と近接しており、同時期に併存していたとは考えにくい。10・13・18号溝等は近世前橋城絵図にも描かれず、出土遺物から考えても十人小路より古い溝、または道の側溝ではないかと考えている。報告する建物の年代を比定することは、出土遺物も少なく難しいのだが、これらの溝との重複関係から推測したものもある。詳細は各建物ごとに述べる。

１号建物（第10図　表２　PL.４）

位置　O・P－10・11

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　柱穴は明らかでない。規模は長軸5.42m、短軸3.94m。建物の一部を検出したのみで、詳細は不明。

柱穴　なし。

方位　不明。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、重複関係から近世以降と判断した。

２号建物（第10図　表２　PL.４）

位置　P・Q－10

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　柱穴は明らかでない。規模は、検出された範囲で長軸2.73m、短軸2.64m。建物の一部を検出したのみで、詳細は不明。

柱穴　なし。

方位　不明。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、重複関係から近世以降と判断した。

３号建物(第11・48図　表２・３　PL.３・５・６)

位置　Ｉ～Ｋ－10～12

重複　47号土坑より古く、13・16・18号溝より新しい。８・９号建物、１・２号柵、12号井戸、27号土坑との重複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。建物は複雑な形状をしている。これは隣接し、一部の柱穴を共有するように構成される４号建物と、一連の建物である可能性が考えられるためだが、その詳細については明らかでない。規模は長軸11.65m、短軸7.60m。一部を除く柱間は、1.84～1.99mほどと規格性がある。

柱穴　３号建物を構成する柱穴は21基。柱穴間の距離は、1.74～2.04mほどである。礎石のある柱穴も多く、調査時の資料で14基を数える。

方位　Ｎ－５～７°－Ｗ

遺物　Ｐ３から登窯第１小期の折線鉄絵皿(No.５)、Ｐ12から大窯４段階後半のすり鉢(No.４)、Ｐ10・17から16世紀中葉から後葉と思われる在地系土器の皿(カワラケ)が出土。

時期　中世末から近世前半。出土遺物や重複関係から当該期に比定した。

４号建物(第12・48図　表２・３　PL.３・５・６)

位置　Ｊ～Ｌ－９～11

重複　６号井戸、48号土坑より古く、13号溝より新しい。５号建物、１号柵との重複関係を明らかにすることはできなかった。

形状・規模　確認面は２面。総柱の建物。調査区外に続いており、また前述の理由からも詳細は明らかでない。規模は、検出された範囲で長軸7.81m、短軸7.56～7.62m。平面形状は長方形と思われる。一部を除く柱間は1.84～1.94mほどと規格性が高い。

柱穴　４号建物を構成する柱穴は26基。柱穴間の距離は、0.74～1.97mほどである。礎石のある柱穴も多く、調査時の資料で17基を数える。

方位　Ｎ－8.5°－Ｗ

遺物　Ｐ19から16世紀末から17世紀初頭の景徳鎮染付皿(No.１)、Ｐ12から17世紀の肥前陶器皿、Ｐ14から登窯期のすり鉢、石製品、Ｐ４から中世以降と思われる在地系土器の皿が出土した。Ｐ５からは近現代と思われる陶磁器片が出土したが、混入によるものか。

時期　中世末から近世前半。出土遺物や重複関係から当該期に比定した。

５号建物(第13・48図　表２・３　PL.３・５)

位置　Ｊ・Ｋ－９・10

重複　６号井戸より古い。４号建物との重複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。調査区外に続いており、詳細は不明。規模は、検出された範囲で長軸3.67m、短軸5.62～5.72m。一部を除く柱間は1.85～1.96mほどと規格性が高い。

柱穴　５号建物を構成する柱穴は10基。柱穴間の距離は、1.35～2.28mほどである。礎石のある柱穴も多く、調査時の資料で６基を数える。

方位　Ｎ－11～12°－Ｗ

遺物　Ｐ10から12～13世紀前葉の渥美甕(No.１)が出土。また、近世と思われる在地系土器も出土した。

時期　中世末から近世。出土遺物から時期を判断することは難しい。重複関係等から当該期に比定した。

６号建物(第13・14・48図　表２・３　PL.３・７)

位置　Ｈ・Ｉ－９～11

重複　13号溝、３・７号井戸より新しい。７号建物との重複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。平面形状は長方形と思われるが、調査区外へ続く可能性も考えられる。規模は長軸8.69～9.19m、短軸7.18～7.28m。規格性の高い建物と思われるが、柱間は東側で1.3m、西側で2.17mほどと異なる。庇などの施設とも考えられる。

柱穴　６号建物を構成する柱穴は23基、あるいは25基。柱穴間の距離は、1.12～2.24mほどである。礎石のある柱穴は、調査時の資料で10基を数える。

方位　Ｎ－９～10°－Ｗ

遺物　Ｐ10から在地系土器の皿と思われる口縁部片(No.１)、Ｐ11から1590～1610年代の鉄絵皿、Ｐ４から

中世の内耳鍋が出土。またＰ14からは渡来銭、砥石等も出土した。

時期　中世末から近世前半。出土遺物や重複関係から当該期に比定した。

７号建物(第15・48図　表２・３　PL.３・７)

位置　Ｈ・Ｉ－９～11

重複　13号溝、３・７号井戸より新しい。６号建物との重複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。平面形状は長方形と思われるが、調査区外へ続く可能性も考えられる。規模は長軸7.71～9.81m、短軸5.50～5.68m。規格性のある建物とも思われるが、一部を除く柱間は1.75～2.24mほどである。

柱穴　７号建物を構成する柱穴は19基。柱穴間の距離は、1.34～2.36mほどである。礎石のある柱穴は、調査時の資料で２基を数える。

方位　Ｎ－８～9.5°－Ｗ

遺物　Ｐ20から16世紀末から17世紀前葉の景徳鎮染付碗(No.１)、Ｐ18から16世紀後葉から17世紀初頭の内耳鍋(No.２)が出土。他にも、明末頃と思われる白磁皿底部片も出土した。

時期　中世末から近世前半。出土遺物や重複関係から当該期に比定した。

８号建物(第16図　表２・３　PL.３・６)

位置　Ｊ～Ｌ－11・12

重複　８・10号溝より新しい。３号建物、１・２号柵、23号土坑との重複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。平面形状は長方形と思われるが明らかでない。規模は長軸9.44m、短軸3.78～3.87m。規格性のある建物と思われるが、長軸方向が異なることなどから、並列する柵あるいは異なる柵の可能性もある。

柱穴　８号建物を構成する柱穴は10基。柱穴間の距離は、1.81～1.91mほどである。礎石のある柱穴は、調査時の資料で２基を数える。

方位　Ｎ－81.5～86°－Ｅ

遺物　なし。

時期　中世末から近世。出土遺物がなく時期を特定することは難しいが、重複関係等から判断した。

９号建物(第17・49図　表２・３　PL.３・５)

位置　Ｊ～Ｌ－10・11

重複　13号溝より新しい。３号建物、１号柵との重複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。規模は長軸6.44m、短軸2.28m。確認された柱穴は６基であるが、柱間も異なるため、建物ではない可能性も考えられる。

柱穴　９号建物を構成する柱穴は６基。柱穴間の距離は、2.08～2.36mほどである。

方位　Ｎ－84.5～87°－Ｅ

遺物　Ｐ４から大窯３段階の丸皿(No.１)、Ｐ１から近現代の焙烙(No.２)、Ｐ３から石製品(No.３)が出土した。

時期　中世末から近世。出土遺物から時期を判断することは難しい。重複関係等から当該期に比定した。

10号建物(第17図　表２・３　PL.４)

位置　Ｏ－12

重複　10号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。規模は長軸4.21m、短軸1.45m。南北方向の柱穴はやや揃わず、並列する柵あるいは異なる柵の可能性もある。

柱穴　10号建物を構成する柱穴は９基。柱穴間の距離は、0.91～1.43mほどである。

方位　Ｎ－82.5～85°－Ｅ

遺物　なし。

時期　中世末から近世。出土遺物がなく時期を特定することは難しいが、重複関係等から判断した。

11号建物　(第18図　表２・３　PL.３・７)

位置　Ｆ・Ｇ－10

重複　４号井戸より古い。12号建物との重複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。建物は調査区外に続くと思われる。規模は、検出された範囲で長軸2.28m、短軸4.13m。検出された範囲がわずかで、長軸方位が異なる可能性もある。

柱穴　11号建物を構成する柱穴は５基。柱穴間の距離は、2.0～2.13mほどである。

方位　N－3°－W
遺物　Ｐ５から、近世と思われる在地系土器の小型皿が出土。
時期　中世末から近世。出土遺物のみで時期を判断することは難しい。重複関係等から当該期に比定した。

12号建物(第18・49図　表２・３　PL.３・７)
位置　G－10
重複　４号井戸より古い。11号建物との重複関係は明らかでない。
形状・規模　確認面は２面。建物は調査区外に続くと思われる。規模は、検出された範囲で長軸2.05m、短軸3.59m。検出された範囲はわずかで、長軸方位が異なる可能性もある。
柱穴　12号建物を構成する柱穴は４基。柱穴間の距離は、1.8～2.05mほどである。礎石のある柱穴は、調査時の資料で１基を数える。
方位　N－11°－W
遺物　Ｐ３から16世紀の景徳鎮白磁皿(No.１)、Ｐ１から中世以降と思われる在地系土器の皿が出土。
時期　中世末から近世。出土遺物のみで時期を判断することは難しい。重複関係等から当該期に比定した。

13号建物(第19図　表２・３　PL.４)
位置　P・Q－８～10
重複　14号建物より古く、８号井戸より新しい。
形状・規模　確認面は２面。平面形状は長方形か。建物が調査区外に続くと思われるため明らかでない。規模は、検出できた範囲で長軸6.21m、短軸3.12～3.19m。
柱穴　13号建物を構成する柱穴は９基。柱穴間の距離は、1.44～2.52mほどである。礎石のある柱穴は、調査時の資料で３基を数える。
方位　N－6.5～8°－W
遺物　なし。
時期　中世末から近世。出土遺物がなく時期を特定することは難しいが、重複関係等から判断した。

14号建物(第19・49図　表２・３　PL.４)
位置　P・Q－８・９
重複　13号建物、８号井戸より新しい。
形状・規模　確認面は２面。建物は調査区外に続くと思われる。規模は、検出できた範囲で長軸4.06m、短軸4.40～4.52m。一部を除く柱間は2.03～2.18mほどと規格性が高い。
柱穴　14号建物を構成する柱穴は７基。柱穴間の距離は、1.87～2.56mほどである。礎石のある柱穴は、調査時の資料で２基ほどと思われる。
方位　N－5.5～8°－W
遺物　Ｐ５から中世の内耳鍋と思われる小片、Ｐ７から登窯期のすり鉢と近世在地系土器の皿が出土。
時期　中世末から近世。出土遺物のみで時期を判断することは難しい。重複関係等から当該期に比定した。

15号建物(第20・49図　表２・３　PL.３・７)
位置　G・H－13
重複　17号溝より新しい。
形状・規模　確認面は２面。建物北側は、攪乱により壊されていると思われる。規模は、検出できた範囲で長軸7.31m、短軸1.95m。検出された範囲は限られており、長軸方位が異なる可能性もある。一部を除く柱間は1.81～1.84mほどと規格性が高い。L字状に屈曲する18号溝の内側に位置する。
柱穴　15号建物を構成する柱穴は７基。柱穴間の距離は、1.81～1.95mほどである。礎石のある柱穴は、調査時の資料で５基ほどと思われる。
方位　N－83.5°－E
遺物　Ｐ２から、近世と思われる在地系土器の皿(No.１)が出土。
時期　中世末から近世。出土遺物のみで時期を判断することは難しい。重複関係等から当該期に比定した。

２　柵

柵は２ヵ所で確認された。南北及び東西方向の柵である。これらの柵の中には、建物の一部が含まれている可能性もある。詳細については以下に述べる。

１号柵(第21・49図　表３　PL.３・５)
位置　K－９～12
重複　13号溝より新しい。３～５・８・９号建物との重

複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。規模は13.29m。およそ南北方向に直線状にあり、調査区外に続く可能性もある。

柱穴　１号柵を構成する柱穴は８基。柱穴間の距離は、1.75～2.0mほどである。

方位　N－7°－W

遺物　Ｐ３で金属製の皿(No.１)が出土。

時期　中世末から近世。出土遺物のみで時期を判断することは難しい。重複関係等から当該期に比定した。

２号柵(第21図　表３　PL.３)

位置　J～L－12

重複　23・27号土坑より新しいか。３・８号建物との重複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。規模は全体で長軸10.88m、短軸0.98m。異なる二列の柵とも考えられる。北側の柵の長軸は北側6.02m、南側の柵の長軸は9.6m。

柱穴　２号柵を構成する柱穴は９基。柱穴間の距離は、1.82～1.94mほどで規格性がある。Ｐ８とＰ９との柱穴間距離は2.83mであるが、重複により欠損した柱穴があった可能性も考えられる。

方位　N－83°－E

遺物　なし。

時期　中世末から近世。出土遺物がなく時期を特定することは難しいが、重複関係、確認面等から判断した。

３　溝、道状遺構

報告する溝は23条を数える。そのうち東西方向へ直線的に走行する溝は、道の側溝とも考えられる。特に３・６号溝は、出土状況や近世前橋城絵図などから、城内でも重要であった道、車橋門より三の門へと続く「十人小路」の可能性が高い。

３・６号溝の両側面には石組みがある。また北側にある３号溝では南側の石組みが、南側にある６号溝では北側の石組みが、三段ほどに組まれ、一部を打ち欠き面を整えるなどの丁寧な所作がなされている。一方反対側の石組みでは、比較するとやや粗雑に積まれている印象を持つ。これは、前橋城本丸へと続く十人小路の見映えを重視した結果ではないかと考えている。

また10・13・18号溝は、３・６号溝とおよそ並行する溝である。３・６号溝と隣接して検出されたことや出土遺物、重複関係等から、中世末から近世初頭頃には埋没した溝と考えている。また、３・６号溝と同様に並走することから、十人小路以前に比定できる道状遺構の側溝となる可能性も考えている。

ここでは溝を遺構番号順に報告する。しかし、遺構図掲載及び遺構写真掲載については、道状遺構の可能性が考えられる３・６号溝及び10・13・18号溝等は合わせて報告している。そのため一部順不同の箇所もあるのだがご了承いただきたい。また、溝の石組み部分については縮尺を変えて報告している。石組みの立面図については、調査時の資料がないため写真記録にて報告する。

報告する溝の開削時期については、一部を除き明らかでない。また溝の中には、中世から近代に至る遺物が出土しており、遺物の年代のみで時期を比定することは難しい。しかし出土状況を詳細にみると、例えば13号溝では、溝東側と西側とで出土陶磁器の年代が異なることが確認された。遺構重複の激しい西側からは近世以降の陶磁器が多く、遺構重複が建物ほどで少ない東側では陶磁器出土量が少なく、また中世陶磁器が大半を占めていた。これは、重複する遺構の遺物が混入した結果ではないか考えている。しかし、これを遺構ごとに明確に区分し報告することは困難であり、ここでは調査時の成果を優先し報告している。

また、重複関係や近世前橋城絵図に描かれていないなどの理由からも溝の時期を判断している。詳細については各溝ごとに述べる。

１号溝(第31・49図　表４　PL.15)

位置　O－８～10、P－10～13

重複　１号建物、13号溝、７号集石より新しい。

形状・規模　確認面は１面。検出長は、北から3.50m、2.63m、3.64m、3.96m。攪乱を含めると23.8mを検出した。幅は0.19～0.46m、深さは0.07～0.22m。およそ直線状に、南北方向に走行する。溝南側では木枠が遺存していた。

方位　N－9°－W

遺物　砥石(No.１)が出土。

時期　近世以降。遺物からの年代は明らかでない。確認

面や重複関係などから判断した。

２号溝(第22～24・49～51図　表４　PL.８)

位置　P～R－13・14

重複　十人小路より新しい。

形状・規模　確認面は１面。検出長は12.64m。幅は4.04～4.80m。深さは0.35～0.53m。３・６号溝の中央に位置し、およそ東西方向に走行する。

溝は『前橋城(三の丸門東地点)』で報告された「W－６」に相当する。

方位　N－89°－W

遺物　17世紀から近現代頃までの遺物が混在して出土している。

時期　調査時には、十人小路以降の道と考えられた。近代以降、埋没したものと思われる。

３号溝(第22～24・28・51～66図　表４　PL.９・14)

位置　O～R－15

形状・規模　確認面は２面。検出長は12.6m。石組み外側での幅は1.32～1.55m、内側での幅は0.46～0.83m、底部の幅は0.22～0.74m。深さは0.24～0.43m。およそ東西方向に直線的に走行する、両側面に石組みのある溝。石組みの裏込めについては、調査時の資料もなく明らかでない。

近世前橋城絵図及び出土遺物等から、前橋城内の車橋門より三の門へと続く道、「十人小路」北側の側溝と思われる。石組みは、南側と北側の側面で積み方に違いがあり、南側は丁寧であり、北側はやや粗雑に積まれている。詳述すると、南側では底面より少し上の辺りから、大型の石組みが二段ほど遺存。面を整えるため打ち欠かれた箇所も確認できた。北側は人頭大ほどの不揃いの石で組まれ、段は揃えるものの南側と比較すると乱れている。また底部には、浅い掘り込みの溝もみられた。溝南側の石組みが丁寧に積まれているのは、前橋城本丸へと続く、城内でも重要であった十人小路の見映えを重視した結果ではないかと考えている。

西側から６ｍほどの地点で、北側に接続する溝が確認されている。調査区は、城内の侍屋敷に位置することから、屋敷境の溝とも考えられる。

溝は、『前橋城(三の丸門東地点)』で報告された「W－10」に相当する。

方位　N－84°－E

遺物　17世紀から19世紀頃までの陶磁器が数多く出土。石製品、金属製品等も出土した。

時期　中世末から近世後半頃。３号溝と思われる十人小路北側の側溝は、廃城期の絵図にも描かれている。このことから、調査区が城内となる頃から前橋城が再築される頃までの溝と思われる。

４号溝(第31図　表４　PL.15)

位置　K・L－９、L－10

重複　４号建物より新しい。

形状・規模　確認面は１面。検出長は6.87m。幅は0.24～0.38m、深さは0.04～0.08m。およそ南北方向に走行する。底部は南側に傾斜。

方位　N－８°－W

遺物　小泉押印のある在地系土器の鍋が出土した。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

５号溝(第31・67図　表４　PL.15)

位置　K－９～12

重複　４・５・８・９号建物、13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面。検出長は14.82m。幅は0.20～0.43m、深さは0.05～0.11m。およそ南北方向に走行する。桶を据えた、北から36・39・40号土坑が10mほどの等間隔であり、これをつなぐ溝と思われる。上水あるいは下水施設か。底部は南側に傾斜。

方位　N－12°－W

遺物　大窯期のすり鉢(No.１)が出土。

時期　近世以降。出土遺物のみで時期を判断することは難しい。重複関係等から当該期に比定した。

６号溝(第22～24・28・29・67～80図　表４　PL.９～14)

位置　G・H－14、N～R－13

重複　１号池より古い。

形状・規模　確認面は２面。検出長は西側で18.56m、東側で7.36m。攪乱を含むと58.4mを検出した。幅は0.72～2.05m。石組み内側の幅は0.55～0.97m、底部の幅は0.38～0.42m。深さは0.94～1.37m。およそ東西方

向に走行する。両側面に石組みのある溝。石組みの裏込めについては、調査時の資料もなく明らかでない。１号池北東と７号溝との交点付近には、人頭大の石が多量に集積していた。調査時の所見から、通路の基礎が養生を目的にしたものと思われる。

近世前橋城絵図及び出土遺物等から、前橋城内の車橋門より三の門へと続く道、「十人小路」南側の側溝と思われる。石組みは、南側と北側の側面で積み方に違いが確認でき、北側は丁寧であり、南側はやや粗雑に積まれている。詳述すると、北側では底面より少し上の辺りから平坦な面を造り、およそ三段ほどに大型の石を組む。面を整えるため打ち欠かれた箇所もみられた。南側は北側より小型の石を溝の中段ほどから組む。面を整えるため打ち欠かれた箇所もあるが、組み始める位置やその段数は場所により異なる。溝北側の石組みが丁寧に積まれているのは、城内でも重要であった十人小路の、見映えを重視した結果ではないかと考えている。

溝西側の底部には、土坑状の落ち込みや障子堀のような掘り残しも確認できた。これが、作業時の痕跡なのかは明らかでない。

方位　Ｎ－84°－Ｅ

遺物　17世紀から19世紀までの遺物が数多く出土した。龍泉窯系青磁盤や景徳鎮染付碗や皿、渡来銭等も出土している。

時期　中世末から近世後半頃。６号溝と思われる十人小路南側の側溝は、廃城期の絵図にも描かれている。このことから、調査区が城内となる頃から前橋城が再築される頃までの溝と思われる。

７号溝（第32・81～95図　表４）

位置　Ｎ－９～13、Ｏ－11～13

重複　１号集石より古く、13号溝、20号土坑より新しい。６号溝より新しいか。

形状・規模　確認面は１面下。検出長は22.8m。幅は0.17～1.15m。深さは0.08～0.4m。６号溝から、およそ南北方向に走行する。

溝の両側に並べた石の一部が遺存する。屋敷境の溝とも考えられる。

方位　Ｎ－12°－Ｗ

遺物　調査区は近世前橋城の城内に位置し、７号溝は屋敷境の溝とも思われる。そのためか出土遺物も多く、近世陶磁器が数多く出土した。硯も出土している。

時期　近世。出土遺物及び７号溝が屋敷境の溝とも思われることなどから当該期に比定した。

８号溝（第33図　表４　PL.３）

位置　Ｌ－11・12、Ｍ－12

重複　８号建物、23号土坑、４号遺物集中より古い。10・13号溝より新しいと思われるが詳細は不明。

形状・規模　確認面は２面。検出長は6.88m。幅は0.50～0.8m。深さは0.31～0.47m。およそ南北方向に走行する。覆土中に焼土、炭が多量に混入。

Ｌ字状に屈曲する19号溝と一連の溝と思われ、方形に区画するような溝になると思われる。

２号遺物集中の下層で検出されたことから、溝の遺物は２号遺物集中に混在している可能性がある。

方位　Ｎ－17°－Ｗ

遺物　２号遺物集中の遺物と混在か。８号溝の出土遺物はない。

時期　中近世。中世末から近世前半頃か。後述する２号遺物集中の出土遺物で、17世紀前後の遺物が８号溝に帰属できる可能性がある。このことから、当該期の可能性を指摘しておきたい。

９号溝

欠番。23号土坑となる。

10号溝（第22・25・26・29・95～98図　表４　PL.14）

位置　Ｋ～Ｑ－12

重複　８号建物、19号溝、４号遺物集中より古い。

形状・規模　確認面は２面。検出長は29.56m。幅は1.10～1.66m。深さは0.53～0.83m。およそ東西方向に走行する。

３・６号溝と隣接し、およそ同様の方向に並行して走行する。一部に石が並ぶも、３・６号溝のような石組みはない。13・18号溝は並行するようにあり、合わせて道状遺構になる可能性もある。出土遺物や重複関係から、十人小路以前の道ではないかと考えている。

覆土はおよそ３層に分かれ、底部より１層をはさみ、焼土や炭を含む黒褐色の炭化物層がある。炭化物層は覆

土の大半を占め、中からは多量の炭化種実も出土した。炭化種実については第４章に詳述する。

方位　N－85°－E

遺物　15世紀から近世までの陶磁器が出土。近世遺物は重複などによる混入か。渡来銭も出土。

時期　中世末から近世初頭に埋没した溝。出土遺物に中世陶磁器が多く、また重複関係や13号溝とともに道となる可能性などから判断した。溝の開削時期は明らかでない。

11号溝（第35・99図　表４　PL.６）

位置　K・L－13

重複　22号溝との重複関係は不明。一連の溝とも考えられる。

形状・規模　確認面は２面。検出長は2.2m。深さは0.32m。およそ南東から北西方向に走行する。

方位　N－35°－W

遺物　中世から近現代までの陶磁器が出土。

時期　近世。出土遺物の年代幅が広く、遺物のみで時期を判断することは難しい。確認面や重複関係等から当該期に比定した。

12号溝（第35図　表４　PL.６）

位置　J－13

重複　18号溝より新しいか。22号溝との重複関係不明。一連の溝とも考えられる。

形状・規模　確認面は２面。検出長は2.58m。幅は0.38～0.55m。深さは0.14～0.23m。規模は、11号溝と近似している。石組みのある溝。

方位　N－42°－E

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面や重複関係等から近世以降と判断した。

13号溝（第22・25・30・99～114図　表４　PL.14）

位置　F～H－11、I～P－10・11、Q－10

重複　１～４・６・７・９号建物、１号柵、19・23号溝、12・14～16・20～22・31・33号土坑、３～５・７・８号集石、２・３号遺物集中より古い。

形状・規模　確認面は２面。検出長は57.9m。幅は1.55～3.24m。0.45～0.78m。およそ東西方向に走行する。溝西側の一部に石組みが遺存し、石を外した痕跡もあるが、素掘りの溝と考えている。覆土からは多くの石が出土した。

３・６号溝と隣接し、わずかに走行方位が異なるもののおよそ同様に走行する近似した規模の溝である。３・６号溝のような石組みはない。10・18号溝は並行するようにあり、道状遺構になる可能性が考えられる。出土遺物や重複関係から、十人小路以前の道ではないかとも考えている。

方位　N－86°－E

遺物　出土陶磁器の年代幅は広く、13世紀から近現代まで確認できた。13号溝では溝東側と西側とで出土陶磁器の年代が異なり、遺構重複の激しい西側からは18世紀以降の陶磁器が多く、遺構重複が建物ほどで少ない東側では遺物出土量も少なく中世陶磁器が大半を占めていた。これは、同時期の遺構が13号溝と重複したことで、遺物が混入したのだと考えている。

そのため、溝西側より出土した下駄や櫛、釘、砥石等も18世紀以降のものが多いと思われる。また13号溝東側では、16世紀頃の陶磁器が多く確認できた。渡来銭や茶臼も溝東側から出土している。

時期　中世末から近世初頭頃に埋没した溝。出土遺物に中世陶磁器が多く、また重複関係や10号溝とともに道となる可能性などから判断した。

14号溝

欠番。13号溝西側となる。

15号溝（第22・26・30・115図　表４　PL.14・15）

位置　N～Q－12、N・O－13

重複　１号池より古い。

形状・規模　確認面は２面。検出長は、西側1.21m、東側7.50m。攪乱を含むと14.3m。幅は1.36～1.66m。深さは0.52～0.82m。溝北側では石組みが確認できた。

15号溝は10号溝に並行するように、およそ東西方向に走行する。15号溝も道の側溝の一部とも思われるが、重複関係が少なく、また出土遺物の年代幅も広いため詳細は明らかでない。ここでは道の側溝である可能性を指摘するまでとしたい。15号溝の東側延長線上に17号溝があ

るが、その関係は明らかでない。

方位　Ｎ－85°－Ｅ

遺物　16世紀から18世紀の陶磁器、硯が出土。

時期　中近世。17号溝とともに中世の溝とも思われるが、詳細は不明。

16号溝（第34図　表４　PL.６）

位置　Ｊ－12

重複　18号溝より古い。27号土坑より新しいか。

形状・規模　確認面は２面。検出長は2.44m。幅は0.72m。深さは0.08m。およそ南北方向に走行する。

方位　Ｎ－17°－Ｗ

遺物　なし。

時期　中近世。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面や重複関係等から中近世と判断した。

17号溝（第22・34・116～118図　表４　PL.３・14）

位置　Ｇ～Ｋ－12・13

重複　15号建物、24・26号溝より古く、18号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。検出長は24.4m。幅は0.64～1.78m。深さは0.25～0.6m。およそ東西方向に走行する。17号溝の西側延長線上に15号溝があるが、その関係は明らかでない。

方位　Ｎ－88°－Ｅ

遺物　15世紀末から17世紀初頭頃の陶磁器、砥石、板碑、茶臼等が出土。

時期　中世末から近世初頭頃に埋没した溝。調査所見及び出土遺物から、18号溝との時期差は少なくおよそ同時期に埋没した溝と思われる。

18号溝（第22・34・118図　表４　PL.３・14）

位置　Ｆ－12、Ｇ－12・13、Ｈ～Ｊ－12

重複　３号建物、17号溝より古く、27号土坑、16号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。検出長は21.34m。幅は0.56～1.68m。深さは0.17～0.52m。

東西から南北方向へＬ字状に屈曲。10・13号溝とともに道となる可能性が考えられる。また、15号建物は18号溝の内側に位置し、軸方向も同様であることから、18号溝に囲まれた建物とも考えられる。

方位　東西Ｎ－82°－Ｅ、南北Ｎ－３°－Ｗ

遺物　16世紀後葉から17世紀初頭の在地系土器が出土。14世紀後葉から15世紀前葉の龍泉窯青磁小皿と17世紀と思われる景徳鎮染付碗(No.１)の小片も出土した。

時期　中世末から近世初頭頃に埋没した溝。調査所見及び出土遺物等から当該期に比定した。溝の開削時期は明らかでない。

19号溝（第33・118図　表４　PL.３・16）

位置　Ｌ－10、Ｍ－10・11、Ｎ－11・12

重複　10・13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。検出長は北側5.5m、南側7.88m。攪乱を含むと17.58m。幅は0.46～0.66m。深さは0.32～0.47m。

およそ東西から南北方向にＬ字状に屈曲。８号溝と一連の溝で、方形に区画するような溝になると思われる。

方位　東西Ｎ－76°－Ｅ、南北Ｎ－13°－Ｗ

遺物　大窯３段階の丸皿(No.１)、大窯４段階後半の志野向付(No.２)、近世の在地系土器の皿(No.４)等が出土。

時期　中近世。13号溝よりも新しいことから、中世末から近世前半頃の可能性が高いか。一連の溝と思われる８号溝が当該期の可能性があり、19号溝も中世末から近世前半頃と考えられる。

20号溝

欠番。13号溝の東側となる。

21号溝（第35・119図　表４　PL.３・16）

位置　Ｉ－11・12

重複　18号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。検出長は6.15m。幅は0.54～0.74m。深さは0.1～0.2m。およそ南北方向に走行する。

方位　Ｎ－３°－Ｗ

遺物　中近世の在地系土器の皿、15・16世紀の常滑甕(No.１)が出土した。

時期　近世。出土遺物から時期を判断することは難しい。確認面や重複関係等から当該期に比定した。

22号溝(第35・119図　表４　PL.３・16)

位置　Ｉ～Ｋ－13

重複　11・12号溝との重複関係不明。一連の溝とも思われる。

形状・規模　確認面は２面。検出長は11.94m。深さは0.16～0.33m。石組みを伴うが、詳細は不明。

方位　不明。

遺物　砥石(No.１)、石鉢(No.２)等が出土。

時期　近世。出土遺物から時期を判断することは難しい。確認面や重複関係等から当該期に比定した。

23号溝(第33図　表４　PL.16)

位置　Ｍ・Ｎ－11

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。検出長は8.09m。幅は0.37～0.57m。深さは0.14～0.62m。東西から南北方向へＬ字状に屈曲する。

方位　東西Ｎ－84°－Ｅ、南北Ｎ－32°－Ｗ

遺物　なし。

時期　中近世。13号溝よりも新しいことや19号溝に近似していることなどから、中世末から近世前半頃の可能性が高いか。

24号溝(第34・35図　表４　PL.３・６)

位置　Ｊ－13

重複　17号溝より古い。

形状・規模　確認面は２面。検出長は1.64m。幅は0.77m。深さは0.47m。およそ南北方向に走行する。

方位　Ｎ－７°－Ｅ

遺物　なし。

時期　中世か。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面や重複関係等から中世の可能性が高いと判断した。

25号溝(第35・119図　表４　PL.３・６)

位置　Ｊ－12・13、Ｋ－12

重複　27号土坑より新しい。

形状・規模　確認面は２面。検出長は3.75m。深さは0.11m。およそ東西方向に走行する。

方位　不明。

遺物　15・16世紀の常滑甕(No.２)、中世の内耳鍋(No.１)と思われる口縁部片が出土。

時期　中世か。27号土坑より新しいが、出土遺物から中世の可能性が高いと判断した。

26号溝(第34・35図　表４　PL.３・６)

位置　Ｊ－13

重複　17号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。検出長は2.68m。幅は0.58m。深さは0.2m。南北方向に走行する。

方位　Ｎ－０°

遺物　なし。

時期　中世か。遺物もなく時期を特定することは難しいが、17号溝より古いことから中世の可能性が高いと判断した。

４　井戸

報告する井戸は11基を数える。そのうち10号井戸は石組み、２号井戸は上面を石で縁取り、桶を据えたような桶組みと思われる。残る井戸は素掘り。また、２～４・６・８・10・12号井戸については完掘することができなかった。

１号井戸

欠番。32号土坑となる。

２号井戸(第36・119・120図　表５　PL.16)

位置　Ｉ－10

重複　６・７号建物より新しい。

形状・規模　確認面は１面。上面を石で縁取り、桶を据えた桶組みと思われる。平面形状は円形、断面形状は円筒状と思われる。規模は長軸1.6m、短軸1.55m。深さは検出できた範囲で0.81m。完掘することはできなかった。拳大の円礫による人為埋没。

遺物　近世と思われる在地系土器や桟瓦が出土。

時期　近世。桟瓦が出土しており、近世後半以降の可能性が高いと思われる。

３号井戸(第36・120図　表５　PL.16)

位置　Ｈ－10

重複　７号建物より古い。

形状・規模　確認面は１面。平面形状は円形、断面形状は上半がすり鉢状、下半が円筒状か。素掘りの井戸で、規模は長軸1.62m、短軸1.37m。深さは検出できた範囲で1.33m。完掘することはできなかった。

遺物　16世紀中葉から後葉の在地系土器の皿３点が出土。砥石も出土した。

時期　中世。17世紀と思われる在地系土器の皿(No.３)も１点出土したが、重複関係などから中世の可能性が高いと判断した。

４号井戸(第36・120・121図　表５　PL.16)

位置　Ｆ・Ｇ－10

重複　11・12号建物より新しい。

形状・規模　確認面は１面。平面形状は円形、断面形状は円筒状と思われる。素掘りの井戸で、規模は長軸1.86m、短軸1.73m。深さは検出できた範囲で1.15m。完掘することはできなかった。

遺物　大窯４段階前半のすり鉢(No.１)や、中世在地系土器のすり鉢(No.２)が出土しているが、多くは18世紀以降の陶磁器が占める。前橋藩窯の匣鉢や棚板と思われる窯道具、藩窯製品も出土している。

時期　近世。出土遺物から、19世紀中葉頃までには埋没していたと思われる。

５号井戸(第36・121・122図　表５　PL.16)

位置　Ｍ－10

形状・規模　確認面は２面。平面形状は円形、断面形状は円筒状。素掘りの井戸で、規模は長軸0.99m、短軸0.95m、深さ2.04m。礫を使い人為的に埋没。

遺物　大窯１段階の端反皿(No.１)、縁釉はさみ皿(No.２)が完形で出土。石臼、石鉢等も多く出土している。

時期　中世。出土遺物の年代から、大窯１段階(15世紀末から16世紀初頭)頃と思われる。

６号井戸(第36・123図　表５　PL.17)

位置　Ｋ－９

形状・規模　確認面は２面。調査区外に続く。平面形状は円形か、断面形状も円筒状と思われる。素掘りの井戸で、規模は長軸1.91m。検出できた範囲で短軸は0.88m、深さは1.07m。完掘することはできなかった。

遺物　出土遺物はわずかだが、瓶平焼の小判型龍文皿(No.２)など、19世紀以降の遺物が出土。

時期　近世。出土遺物はわずかだが、その年代から19世紀後半頃には埋没していたと思われる。

７号井戸(第36・123図　表５　PL.17)

位置　Ｈ・Ｉ－10

重複　６・７号建物より古い。

形状・規模　確認面は２面。平面形状は円形、断面形状は上半がすり鉢状、下半が円筒状。素掘りの井戸で、規模は長軸2.52m、短軸2.32m、深さ2.56m。

遺物　中世以降の在地系土器の皿(No.１)や中世内耳鍋(No.２)、五輪塔(No.３)が出土。

時期　中世。出土遺物はわずかだが、重複関係等から当該期に比定した。

８号井戸(第37図　表５　PL.17)

位置　Ｐ－８

重複　13・14号建物より古い。

形状・規模　確認面は２面。調査区外に続く。平面形状は円形か、断面形状は上半がすり鉢状、下半が円筒状と思われる。素掘りの井戸で、規模は長軸1.29m。検出できた範囲で短軸は0.83m、深さ1.13m。完掘することはできなかった。

遺物　なし。

時期　中世か。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面や重複関係等から中世の可能性が高いと判断した。

９号井戸(第37・123図　表５　PL.17)

位置　Ｉ・Ｊ－10

形状・規模　確認面は２面。平面形状は円形、断面形状は上半がすり鉢状、下半が円筒状。素掘りの井戸で、規模は長軸1.84m、短軸1.67m、深さ2.57m。

遺物　16世紀の在地系土器の皿(No.１)、五輪塔(No.３)が出土。

時期　中世か。出土遺物はわずかだが、16世紀に比定された在地系土器の皿が出土しており、中世の可能性が高いと思われる。

10号井戸(第37・124図　表５　PL.17)

位置　Ｌ－10

形状・規模　確認面は２面。石組みの井戸。平面形状は円形、断面形状は円筒状と思われる。規模は長軸0.82m、短軸は0.73m、検出できた範囲で深さは0.93m。完掘することはできなかった。

遺物　中世在地系土器のすり鉢(No.１)、中近世の内耳鍋か焙烙が出土。

時期　近世。出土遺物から、近世の可能性が高いと判断した。

11号井戸(第37・124図　表５　PL.17)

位置　Ｎ－10

形状・規模　確認面は２面。平面形状は円形、断面形状は円筒状。素掘りの井戸で、規模は長軸1.23m、短軸1.22m、深さ1.91m。

遺物　中世と近世と思われる在地系土器の皿が出土。

時期　近世。出土遺物等から当該期に比定した。

12号井戸(第37図　表５　PL.17)

位置　Ｊ－11

形状・規模　確認面は２面。平面形状は不整円形、断面形状は円筒状と思われる。規模は長軸1.31m、短軸は1.27m、検出できた範囲で深さは1.26m。完掘することはできなかった。

遺物　なし。

時期　中近世。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面等から中近世と判断した。

５　土坑

報告する土坑は48基を数える。このうち29～48号土坑は、桶を据えた土坑である。これらは、同様の目的のために桶を据えたのではないかと考えている。

その目的については明らかでないが、桶を据えた36・39・40号土坑は10mほどの等間隔に位置し、５号溝はこれらをつなぐようにある。調査時には、骨類も確認できなかったことから、上水あるいは下水施設と考えられた。他の土坑も同様の目的の遺構ではないかと考えている。

１号土坑(第38図　表６　PL.17)

位置　Ｎ－９

形状・規模　確認面は１面。平面形状は円形、断面形状は逆台形状。規模は長軸0.67m、短軸0.63m。深さは0.22m。

遺物　益子・笠間のおろし皿、近世から近代の瓦が出土した。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

２号土坑(第38図　表６)

位置　Ｎ－９

形状・規模　確認面は１面。平面形状は円形、断面形状は皿状。規模は長軸0.83m、短軸0.78m。深さは0.06m。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面等から近世以降と判断した。

３号土坑(第38図　表６)

位置　Ｑ－８

形状・規模　確認面は１面。平面形状は不整円形、断面形状は逆台形状。規模は長軸0.86m、短軸0.79m。深さは0.26m。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面等から近世以降と判断した。

４号土坑(第38図　表６)

位置　Ｑ－８

形状・規模　確認面は１面。平面形状は不整円形、断面形状は皿状。規模は長軸1.48m、短軸1.27m。深さは0.21m。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面等から近世以降と判断した。

５号土坑(第38図　表６　PL.18)

位置　Ｏ－９

形状・規模　確認面は１面。平面形状は円形、断面形状

は皿状。規模は長軸1.41m、短軸1.3m。深さは0.09m。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面等から近世以降と判断した。

６号土坑(第38・124図　表６　PL.18)

位置　Ｎ－11・12、Ｏ－11・12

重複　７号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面。平面形状は楕円形、断面形状は階段状。規模は長軸1.02m、短軸0.74m。深さは0.51m、柱穴状の部分では0.66m。

遺物　登窯第８小期のせんじ碗(No.１)、江戸時代後期から近代と思われる在地系土器の炉形土器(No.２)が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

７号土坑(第38・124図　表６　PL.18)

位置　Ｍ－11・12、Ｎ－11・12

重複　19号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面。木枠を伴う土坑。平面形状は方形、断面形状は箱状。規模は、検出できた範囲で長軸2.81m、短軸1.64m。深さは0.67m。長軸方位はＮ－80°－Ｅ。

調査時には地下式の室とも考えられた。木枠は北側と東側が残り、内側は木杭で止められていた。

遺物　18世紀から19世紀までの肥前陶磁器が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から判断した。

８号土坑(第38図　表６　PL.18)

位置　Ｋ－９

形状・規模　確認面は１面。平面形状は方形、断面形状は皿状。規模は長軸0.58m、短軸0.49m。深さは0.14m。長軸方位はＮ－12°－Ｗ。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面等から近世以降と判断した。

９号土坑(第38・124図　表６　PL.18)

位置　Ｈ－９

重複　７号建物より新しい。

形状・規模　確認面は１面。平面形状は不整円形、断面形状は階段状。規模は長軸1.13m、短軸0.99m。深さは0.27m。中央にピットがあり、この深さは0.46m。

遺物　19世紀前葉頃の広東碗蓋(No.１)が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

10号土坑(第38・124図　表６　PL.18)

位置　Ｈ－11

形状・規模　確認面は１面。平面形状は不定形、断面形状は皿状。規模は長軸1.51m、短軸1.23m。深さは0.21m。土坑を縁取るように、人頭大の円礫が置かれている。裏込めはない。調査時には、木枠などを固定するための用途があったと考えられた。

遺物　近世の徳利、在地系土器の皿等が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

11号土坑(第38図　表６)

位置　Ｌ－11

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は不整円形、断面形状はすり鉢状。規模は長軸1.7m、短軸1.68m。深さは0.66m。13号溝の一部を土坑として報告する。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面や重複関係等から近世以降と判断した。

12号土坑(第39・125図　表６　PL.18)

位置　Ｌ－10・11

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は長方形、断面形状は逆台形状。規模は長軸1.7m、短軸0.68m。深さは0.28m。長軸方位はＮ－5.5°－Ｗ。

土坑を縁取るようにおよそ人頭大の石が積まれ、隙間を埋めるように拳大の石がはめられていた。

遺物　16・17世紀の在地系土器のすり鉢(No.１)、19世紀中葉から近代の土瓶蓋(No.２)が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定

した。

13号土坑(第39図　表６　PL.18)

位置　Q－11

形状・規模　確認面は２面。平面形状は円形、断面形状は皿状。規模は長軸0.93m、短軸0.8m。深さは0.1m。

遺物　なし。

時期　近世以降。

14号土坑(第39図　表６　PL.19)

位置　P－10

重複　13号溝より新しい。１・２号建物との重複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。桶を据えた土坑とも思われる。平面形状は円形、断面形状は箱状。規模は長軸0.51m、短軸0.49m。深さは0.27m。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、重複関係等から近世以降と判断した。

15号土坑(第39・125図　表６　PL.19)

位置　P－10

重複　13号溝より新しい。１号建物との重複関係は明らかでない。

形状・規模　確認面は２面。平面形状は円形、断面形状は皿状。規模は長軸1.46m、短軸1.39m。深さは0.15m。

遺物　1780 ～ 1810年代の肥前筒形碗(No.１)が出土。

時期　近世以降。出土遺物、重複関係等から当該期に比定した。

16号土坑(第39図　表６　PL.19)

位置　O－11

形状・規模　確認面は２面。平面形状は不整円形、断面形状はすり鉢状。規模は長軸0.87m、短軸0.65m。深さは0.55m。

遺物　なし。

時期　近世以降。

17号土坑(第39・125図　表６　PL.19)

位置　O－11

形状・規模　確認面は２面。平面形状は方形、断面形状は箱状。規模は長軸0.75m、短軸0.67m。深さは0.13m。

遺物　近世の陶磁器が出土。

時期　近世。近代以降の出土遺物が確認できないため、当該期に比定した。

18号土坑(第39図　表６　PL.19)

位置　O－11

形状・規模　確認面は２面。平面形状は方形、断面形状は皿状。規模は長軸0.88m、短軸0.85m。深さは0.05m。

遺物　なし。

時期　近世以降。

19号土坑(第39図　表６　PL.19)

位置　O－11

形状・規模　確認面は２面。平面形状は不整長方形、断面形状は箱状。規模は長軸0.88m、短軸0.53m。深さは0.25m。

遺物　なし。

時期　近世以降。

20号土坑(第39・125 ～ 127図　表６　PL.19)

位置　N・O－10

重複　７号溝より古く、13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。平面形状は不整長方形、断面形状は逆台形状。規模は長軸4.18m、短軸1.26m。深さは0.86m。長軸方位はN－85°－E。

底面で重複する東西方向の溝を検出。調査時には、13号溝と同時期かわずかに土坑が新しいと考えられていたが、詳細は明らかでない。50㎝～人頭大までの石が多量に投棄され埋没。

遺物　中世から近代までの陶磁器が多く出土。主には近世、18世紀頃が多くを占める。

時期　近世。近代の陶磁器はわずかであり、出土遺物から当該期に比定した。

21号土坑(第39図　表６)

位置　M－10

重複　19号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。平面形状は長方形、断面形

状は箱状。規模は長軸0.85m、短軸0.45m。深さは0.23m。長軸方位はＮ－81°－Ｅ。

遺物　なし。

時期　近世以降。

22号土坑(第39・127図　表６　PL.19)

位置　Ｌ－10・11

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。平面形状は長方形、断面形状は皿状。規模は長軸2.28m、短軸1.2m。深さは0.19m。長軸方位はＮ－18°－Ｗ。

遺物　主に16世紀後葉から17世紀前半頃の陶磁器が出土。また２号遺物集中出土遺物の中に、22号土坑の遺物も混在している可能性がある。

時期　中世末から近世初頭。２号遺物集中の17世紀前後の遺物が22号土坑に帰属できる可能性があり、これらのことから当該期に比定した。

23号土坑(第40・128図　表６)

位置　Ｌ－11・12

重複　８号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。平面形状は不整長方形、断面形状は逆台形状。規模は長軸3.73m、短軸1.68m。深さは1.53m。長軸方位はＮ－75°－Ｅ。

遺物　近現代の陶磁器が散見できる。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から近世以降と判断した。

24号土坑(第40図　表６　PL.20)

位置　Ｍ－９

形状・規模　確認面は２面。平面形状は楕円形、断面形状は逆台形状。規模は長軸1.55m、短軸1.15m。深さは0.29m。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、重複関係等から近世以降と判断した。

25号土坑(第40図　表６)

位置　Ｍ－９

形状・規模　確認面は２面。平面形状は円形、断面形状は皿状。規模は長軸1.33m、短軸1.2m。深さは0.07m。

遺物　なし。

時期　近世以降。

26号土坑(第40図　表６　PL.20)

位置　Ｍ－９、Ｎ－８・９

形状・規模　確認面は２面。平面形状、断面形状は不明。規模は、検出できた範囲で長軸0.8m、短軸0.36m。深さは0.35m。

遺物　なし。

時期　近世以降。

27号土坑(第40・128図　表６)

位置　Ｊ・Ｋ－12

重複　16～18・25号溝より古いと思われる。

形状・規模　確認面は２面。平面形状は方形と思われる。断面形状は箱状。規模は長軸3.9m、深さは0.47m。短軸は検出できた範囲で3.58m。

遺物　16世紀第４四半期から17世紀初頭の染付皿、砥石等が出土。

時期　中世。近現代の陶磁器も出土したが混入と思われ、重複関係等から当該期に比定した。

28号土坑(第41・128図　表６　PL.20)

位置　Ｏ－９・10

形状・規模　確認面は１面。木枠を伴う土坑。平面形状は不定形、断面形状は不明。規模は長軸1.17m、短軸0.72m。深さは0.21m。

遺物　18世紀後葉から19世紀の灯火皿(No.１)が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

29号土坑(第41・128図　表６　PL.20)

位置　Ｑ－11

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は円形、断面形状は箱状。規模は検出できた範囲で長軸0.47m、短軸0.46m、深さは0.13m。調査時には、上水あるいは下水溝に設置された桝とも考えられた。

遺物　前橋藩窯の窯道具、近代の型紙摺り皿(No.１)が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

30号土坑(第41・128図　表６　PL.20)

位置　Q－10・11

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は円形、断面形状は箱状。規模は検出できた範囲で長軸0.5m、短軸0.46m。深さは0.35m。

遺物　1780年代から19世紀前葉の広東碗(No.１)、19世紀初頭から中葉の染付蓋(No.２)が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

31号土坑(第41・129図　表６　PL.20)

位置　Q－10

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は円形、断面形状は箱状。規模は検出できた範囲で長軸0.48m、短軸0.45m。深さは0.46m。

遺物　18世紀から近代までの陶磁器等が多く出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

32号土坑(第41・130・131図　表６　PL.20)

位置　Q－９

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は円形、断面形状は箱状。規模は長軸0.84m、短軸0.74m。深さは0.47m。

遺物　主に18世紀後葉から19世紀中葉頃の陶磁器が出土。

時期　近世後半。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

33号土坑(第41図　表６　PL.21)

位置　O－10

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は不整円形、断面形状は不明。規模は長軸0.94m、短軸0.88m。深さは検出された範囲で0.1m。

遺物　なし。

時期　近世以降。確認面、重複関係等から当該期に比定した。

34号土坑(第41・132図　表６　PL.21)

位置　N－９

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は円形、断面形状は階段状。規模は長軸0.91m、短軸0.87m、深さは0.25m。

遺物　18世紀から近代までの陶磁器が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

35号土坑(第41図　表６　PL.21)

位置　K－13

重複　22号溝、９号集石より新しい。

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は円形か。断面形状は不明。規模は、検出された範囲で長軸0.37m、短軸0.14m、深さは不明。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面、重複関係等から近世以降と判断した。

36号土坑(第41・132図　表６　PL.21)

位置　K－13

重複　22号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は円形か。断面形状は箱状。規模は、検出された範囲で長軸0.77m、短軸0.58m。深さは0.55m。

遺物　18世紀後葉以降の陶磁器が散見できる。

時期　近世以降。確認面、重複関係等から当該期に比定した。

37号土坑(第41図　表６　PL.21)

位置　K－13

重複　22号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。桶を据えた土坑。平面形状は円形か。断面形状は不明。規模は長軸0.41m。短軸は、検出された範囲で0.29m。深さは不明。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難し

いが、重複関係等から近世以降と判断した。

38号土坑(第41図　表６　PL.21)

位置　Ｋ－13

重複　17・22号溝より新しい。

形状・規模　確認面は２面。桶を据えた土坑。平面形状は円形か。断面形状は不明。規模は長軸0.41m、短軸0.4m。深さは不明。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、重複関係等から近世以降と判断した。

39号土坑(第42・133図　表６　PL.21)

位置　Ｋ－11

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は楕円形、断面形状は箱状。規模は、検出できた範囲で長軸0.76m、短軸0.65m。深さは0.39m。

遺物　18世紀前葉の小杯(No.１)、桟瓦等が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

40号土坑(第42・133図　表６　PL.21)

位置　Ｊ・Ｋ－９

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は円形、断面形状は箱状。規模は、検出できた範囲で長軸0.51m、短軸0.48m、深さは0.2m。

遺物　近現代の陶磁器が散見できる。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

41号土坑(第42図　表６　PL.22)

位置　Ｉ－13

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は円形か、断面形状は箱状か。規模は、検出できた範囲で長軸0.47m、短軸0.22m、深さは0.2m。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面等から近世以降と判断した。

42号土坑(第42図　表６　PL.22)

位置　Ｈ－13

重複　17号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は不整円形。断面形状は不明。規模は長軸0.58m、短軸0.53m。深さは、検出できた範囲で0.09m。

遺物　近代の染付碗が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

43号土坑(第42図　表６　PL.22)

位置　Ｇ－10・11

形状・規模　確認面は１面。桶を据えた土坑。平面形状は不整円形。断面形状は不明。規模は長軸0.59m、短軸0.52m。深さは、検出できた範囲で0.08m。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面等から近世以降と判断した。

44号土坑(第42図　表６)

位置　Ｑ－11・12

形状・規模　確認面は２面。桶を据えた土坑。平面形状は円形。断面形状は箱状。規模は、検出できた範囲で長軸0.48m、短軸0.45m。深さは0.23m。

遺物　なし。

時期　近世以降。

45号土坑(第42・133図　表６　PL.22)

位置　Ｐ－11

形状・規模　確認面は２面。桶を据えた土坑。平面形状は円形か、断面形状は不明。規模は、検出できた範囲で長軸0.33m、短軸0.38m。深さは0.46m。

遺物　大窯２・３段階の丸皿(No.１)、寛永通寶が出土。

時期　近世以降。出土遺物等から当該期に比定した。

46号土坑(第42・133図　表６　PL.22)

位置　Ｎ－12

形状・規模　確認面は２面。桶を据えた土坑。平面形状は円形、断面形状は箱状。規模は、検出できた範囲で長軸0.79m、短軸0.78m。深さは0.24m。

遺物　19世紀初頭から中葉の青磁染付小碗(No.１)や再

築前橋城に使用されたと思われる三葉葵の瓦頭(№.３)等が出土。

時期　近世以降。出土遺物等から当該期に比定した。

47号土坑(第42図　表６　PL.22)

位置　Ｊ－12

形状・規模　確認面は２面。桶を掘えた土坑。平面形状は円形。断面形状は不明。規模は、検出できた範囲で長軸0.46m、短軸0.36m、深さは0.07m。

遺物　なし。

時期　近世以降。

48号土坑(第42図　表６)

位置　Ｊ－10

重複　４号建物より新しい。

形状・規模　確認面は２面。桶を掘えた土坑。平面形状は円形。断面形状は不明。規模は、検出できた範囲で長軸0.53m、短軸0.49m。深さは不明。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、重複関係等から近世以降と判断した。

６　ピット(第43・134図　表７)

前橋城跡からは、調査区２面南東側を中心に数多くのピットが検出された。５・10・15・19号ピットでは、ピット内に礎石も確認している。調査区２面南東側からは建物が集中して検出されており、報告するピットも建物あるいは柵の一部になることも考えられる。

報告する１～22号ピットについては、第43図及び表７に計測値などの詳細を掲載した。参照していただきたい。

また、全体図などにある円形のトーンは、遺構確認段階で柱穴の可能性が考えられる位置である。併せて参考にしていただきたい。

７　集石、列石

報告する集石は８ヵ所、列石は１ヵ所を数える。１号列石は西側の面が整えられており、溝か石垣の一部とも考えられる。

１号集石(第44図　表８　PL.22)

位置　Ｎ－11

重複　７号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は不定形。規模は長軸1.17m、短軸1.0m。人頭大の石をおよそ円形に並べる。

遺物　桟瓦と思われる瓦が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

２号集石(第44図　表８　PL.22)

位置　Ｏ－11

重複　17号土坑より新しい。

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は不整円形。規模は長軸0.99m、短軸0.76m。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面、重複関係等から近世以降と判断した。

３号集石(第44・134図　表８　PL.23)

位置　Ｏ－10・11

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は不整円形。規模は長軸1.2m、短軸0.81m。

遺物　近世の陶器、在地系土器、焼塩壺等が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

４号集石(第44・134図　表８　PL.23)

位置　Ｏ－10・11

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は不整円形。規模は長軸0.89m、短軸0.57m。

遺物　近世の広東碗蓋(№.１)、在地系土器の皿(№.２)が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

５号集石(第44・134図　表８　PL.23)

位置　Ｏ－10

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は不整円形。規模は長軸1.32m、短軸1.07m。

遺物　砥石(No.１)が出土。

時期　近世以降。確認面等から当該期に比定した。

６号集石(第44・134図　表８　PL.23)

位置　Ｐ－９

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は不定形。規模は長軸1.12m、短軸0.73m。

遺物　18世紀前葉の染付皿(No.２)、焼塩壺(No.１)、近現代の焙烙等が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

７号集石(第44・135図　表８　PL.23)

位置　Ｏ・Ｐ－10

重複　１号溝より古く、13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は不整円形。規模は長軸1.79m、短軸1.36m。

遺物　18世紀の色絵碗(No.１)、18世紀後半の堺・明石すり鉢、在地系土器の火鉢(No.２)等が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

８号集石(第44・135図　表８　PL.23)

位置　Ｏ－10

重複　33号土坑より古く、13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は不整円形。規模は長軸1.6m、短軸1.32m。

遺物　登窯第６小期のすり鉢(No.１)、石臼(No.２)等が出土した。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

９号集石(第44図　表８)

位置　Ｊ－13、Ｋ－12・13

重複　22号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面下。平面形状は不定形。規模は長軸5.5m、短軸2.37m。

遺物　なし。

時期　近世以降。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面、重複関係等から近世以降と判断した。

１号列石(第45図　表８　PL.23)

位置　Ｌ－９、Ｍ－９・10

形状・規模　確認面は２面。平面形状は直線状。規模は検出長は6.17m、幅は0.88m。長軸方位はＮ－10°－Ｗ。

調査時の呼称を優先し列石としたが、西側の面は意識的に整えられており、本来は溝の石組みか石垣の一部ではないかと考えている。

遺物　なし。

時期　中近世。遺物もなく時期を特定することは難しいが、確認面等から中近世と判断した。

８　池

１号池(第45・136図　PL.24)

位置　Ｑ・Ｒ－12・13

重複　15号溝、６号溝より新しいか。

形状・規模　石組みを伴う規模の大きな土坑状であることから、池と判断した。遺構は調査区外に続くため、形状は明らかでない。また、底部まで調査が至らなかったため、深さも確認できる範囲である。規模は、検出できた範囲で長軸5.34m、短軸4.37m、深さ0.4m。

遺物　近世後半頃の陶磁器が出土。

時期　近世以降。出土遺物、重複関係等から当該期に比定した。

９　遺物集中

報告する遺物集中は８ヵ所を数える。多くは近世以降と思われるが、２号遺物集中については重複する遺構の遺物が混在している可能性が高い。詳細については各遺物集中ごとに述べる。

１号遺物集中(第46・136図　表９　PL.24)

位置　Ｒ－11

形状・規模　確認面は１面。平面形状は不定形。断面形状は皿状か。規模は長軸0.83m、短軸0.47m。

遺物　近代以降の遺物が出土。

時期　近代以降。出土遺物、確認面等で当該期に比定した。

２号遺物集中(第46・137～142図　表９)

位置　K・L－10・11

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面。平面形状は不整円形。断面形状は不明。規模は長軸3.92m、短軸2.97m。

調査時には、２号遺物集中は下層で検出された溝等が廃棄された後に、くぼみを利用して投棄されたと考えられた。この溝が、８号溝ではないかとも思われるが、調査時の資料がなく明らかでない。下層の遺物は、大半が溝(22号土坑も含むか)から出土した。

遺物　２号遺物集中の出土遺物は、近世初頭頃と近代以降に大別できる。これは、重複する８号溝、22号土坑等の遺物を２号遺物集中として取り上げた結果だと考えている。そのため、２号遺物集中の時期は近世以降と思われるが、８号溝、22号土坑は中世末から近世前半頃の可能性が高い。ここでは調査時の資料がなく、各遺構に遺物を帰属させることが難しいため２号遺物集中として報告する。

17世紀前後の遺物には、信楽と思われる壺や四耳壺がある。また、中国製の可能性が指摘される硯も出土した。残存率も高く特異な出土状況といえるが、調査時の資料がなく詳細については明らかでない。

時期　２号遺物集中の時期は近世以降。19世紀以降か。重複する８号溝などが中世末から近世前半頃。17世紀前後か。

３号遺物集中(第46・142～144図　表９　PL.24)

位置　F・G－11

重複　13号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面。平面形状は楕円形か。断面形状は不明。規模は、検出できた範囲で長軸4.32m、短軸1.23m。

遺物　19世紀頃の陶磁器が大半を占める。前橋藩窯の窯道具及び製品が多く出土している。

時期　近世以降。19世紀以降か。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

４号遺物集中(第46・144・145図　表９)

位置　K・L－12・13、M－12

重複　８・10号溝より新しい。

形状・規模　確認面は１面。平面形状は楕円形。断面形状は不明。規模は長軸8.24m、短軸1.56m。

遺物　多くは19世紀以降、近現代の陶磁器が出土。

時期　近世以降。19世紀以降か。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

５号遺物集中(第46・145図　表９　PL.24)

位置　R－11

形状・規模　確認面は２面。平面形状は不定形。断面形状は不明。規模は長軸0.8m、短軸0.57m。

調査時には２～８号集石との関連も指摘され、集石と同様に投棄されたものと考えられた。

遺物　近世の在地系土器の鍋(No.１)が出土。

時期　近世以降。出土遺物、確認面等から判断した。

10　瓦だまり

１号瓦だまり(第47・146　PL.24)

位置　N・O－11

形状・規模　確認面は１面。瓦が集中して出土。出土した範囲は長軸1.37m、短軸0.98m。

遺物　三葉葵の瓦頭(No.１)、桟瓦等が出土。

時期　近代以降。再築前橋城の瓦があり、近代以降と判断した。

２号瓦だまり(第47・146　PL.24)

位置　P－10・11

形状・規模　確認面は１面。浅い土坑状を呈する。瓦を中心に遺物が集中して出土。出土した範囲は長軸1.14m、短軸1.04m。

遺物　登窯第１小期の鉄絵皿(No.２)、近現代の平碗(No.１)、桟瓦が出土。

時期　近代以降。出土遺物、確認面等から当該期に比定した。

第２節　遺物

前橋城跡からは、中世末から近世初頭を中心に数多くの遺物が出土している。特に陶磁器の出土量は多く、その中には優品も含まれている。中世末から近世初頭頃は、中世前橋城(厩橋城)から近世前橋城へと拡張、整備された時期と重なる。歴代城主による近世前橋城への拡張、整備は大規模なものと思われ、その歴史が出土遺物にも色濃く残されたのだと考えている。

本遺跡からは、陶磁器以外にも石製品や金属製品、漆器や木製品等も出土しているが、これらの多くも同時期の遺物と思われる。その詳細は観察表等に記載した通りだが、茶臼や硯、刀等の出土遺物は、城内の生活の一端を知る手掛かりになるものと考えている。

前橋城は、利根川による川欠けにより崩落が収まらず、明和四(1767)年には川越への移城を余儀なくされた。城は取り壊され、慶応三(1867)年まで川越藩の分領として陣屋支配となる。本遺跡は近世前橋城外曲輪に位置しており、陣屋支配の間の出土陶磁器は少ないと考えていたのだが、実際には18世紀後半以降の出土量は多く、貿易陶磁器や鍋島焼等、県内では優品として扱われていたと思われる陶磁器までもが確認できた。詳細は第５章に譲るが、生糸商人達が活躍する前橋の歴史を反映しているものと推測している。

本遺跡出土陶磁器については、元九州陶磁文化館館長の大橋康二氏、愛知学院大学教授の藤澤良祐氏、とこなめ陶の森資料館の中野晴久氏に同定をしていただいた。その成果は、表10 ～ 13及び観察表の通りである。また表10は肥前系陶磁器を、表11は志戸呂を含む瀬戸・美濃系陶磁器を、表12は関西系陶磁器を、表13は貿易陶磁器を一覧表にしたものである。これらの一覧表は、諸事情により掲載できない確認面１・２面出土の陶磁器も含まれている。またこれらの表は、中世及び近世初頭頃の陶磁器について小破片も含めた数量で作成している。そのため、本来の出土量以上に同時期の陶磁器が多くなる傾向があることを付け加えておく。

前橋藩窯製品や窯道具、瓦平焼を含む近代陶磁器については、遺構出土遺物として、また口絵等でその一部を掲載している。本書での報告は一部のみとなるが、残る陶磁器は確認面１・２面の陶磁器と合わせ後日補いたい。

１　陶磁器

前橋城跡から出土した陶磁器の質と量は、県内の他の遺跡と比較しても特筆すべきものであろう。調査区は近世前橋城外曲輪に位置し、また群馬県庁の東側に近接している。多くの人々が住み行き交う居住域であったことが、陶磁器の出土状況にも反映したものと考えている。特に16世紀末から17世紀前半頃までの出土量は多く、近世城郭へと拡張、整備された前橋城に相応しい出土状況といえる。

出土した貿易陶磁器は、14世紀から15世紀頃の龍泉窯系青磁より確認できたが、その数は少ない。出土量が増加するのは16世紀からで、特に16世紀後葉から17世紀前葉にかけては景徳鎮や漳州窯などの染付、白磁の碗や皿類が出土している。志戸呂を含む瀬戸・美濃系陶磁器は、417点と数多い。およそ網羅的に確認した結果だが、悉皆調査ではないためこれ以上の陶磁器が出土したものと思われる。古瀬戸では古瀬戸後Ⅳ期が６点と少なく、大窯期になると67点と増加する傾向で、特に大窯４段階は28点あり、そのうち18点は大窯４段階後半のものであった。登窯期では登窯第１～３小期が数多く確認でき、同時期に出土した器種では天目碗が多く27点を数え、そのうち大窯期の天目碗が５点、白天目が５点確認された。志野製品も多く、丸皿や碗、向付などがみられた。肥前系陶磁器は516点確認できた。1590 ～ 1610年代の絵唐津大皿、鉄絵皿等から、二彩手大皿や三島手大皿、呉器手碗や京焼風碗、京焼風中皿など、16世紀末から17世紀の優品を含む陶器が多く出土している。また染付や白磁、色絵製品の中にも優品がみられた。

渥美や常滑の甕、壺等も出土しているが、特筆すべきは信楽あるいは信楽と思われる壺類であろう。腰白茶壺片をはじめ、信楽と思われる壺類が残存率も高く出土している。管見の範囲ではあるが、県内において信楽あるいは信楽と思われる壺類の出土例はない。17世紀前後のものが多く、まとまって出土したと思われるが、調査時の資料もなく詳細については明らかでない。

前橋城跡では、18世紀後半以降の陶磁器も数多く出土している。明和四(1767)年から慶応三(1867)年の間、前

橋は陣屋支配となっていた。そのため、この期間の遺物量は減少することが想定されたのだが、実際には数多くの陶磁器が出土している。その中には後期鍋島の芙蓉文染付皿（１面No.１）、大河内山鍋島のヒビ焼青磁と思われる碗、萩焼と思われる碗（３溝No.58）、貿易陶磁器や瓰平焼等など、出土例もわずかな陶磁器も確認された。貿易陶磁器には、朱肉入れに使用されたと思われる染付合子（１面No.82）、人形か水滴と思われる染付（１面No.83）等もある。また瓰平焼は、県内の他の遺跡と比較しても出土量、器種ともに多い。これら18世紀後半以降の出土状況は、調査区が前橋城内であったことだけでは説明し難い。前橋の歴史を反映した結果ではないかと推測している。

前橋城内では、高浜焼と呼ばれる前橋藩窯製品が焼成されていた。これまでの前橋城に関連した発掘調査でも、前橋藩窯製品や窯道具等の出土例は散見できるが、本遺跡の出土量は多い。前橋藩窯製品と思われる染付端反碗や小丸碗、土瓶等が確認され、窯道具と思われる棚板や匣鉢等も出土している。その理由については明らかでないが、前橋藩窯の実態を知るための貴重な資料になるものと考えている。

２　石製品

出土した石製品は、石臼や茶臼、五輪塔や板碑等、中近世に比定できるものが多い。打製石斧や多孔石、石皿なども確認できたがわずかであり、多くは陶磁器と同様の年代、中世末から近世所産と考えている。その内訳は、石臼57点、茶臼14点、石鉢18点、砥石84点、硯34点、板碑21点、五輪塔17点等であるが、石臼が多い印象を持つ。また、５号井戸からは多量の石臼が出土しており、井戸を埋める際に投棄された可能性がある。また茶臼の中には、石鉢のように転用されたものもみられた。

砥石や硯も数多く出土したが、この中には特筆すべきものもある。飯島静男氏より、中国製の可能性が指摘された砥石１点（６溝No.115）、硯３点（６溝No.116、２集中No.32・33）が含まれていたのだ。硯の石材はともに淡緑色凝灰岩で、大型のものも含めほぼ完形で出土した。廃棄されたものとは考えにくく、また同地域からは残存率の高い信楽あるいはその可能性が指摘された壺も出土している。調査時の資料がなく詳細は明らかでないが、特異な出土状況といえよう。

五輪塔17点の内訳は、地輪８点、水輪３点、火輪２点、空風輪４点である。一部には墨書もあり種子などが書かれていたと思われるが、石材が粗粒輝石安山岩等のため墨書の残りが悪く判読は困難であった。同様の五輪塔は群馬県庁建設に伴う発掘調査でも出土しており『前橋城遺跡Ⅱ』の中で報告されている。

３　漆器、木製品

下駄や漆椀、糸車や提灯と思われる木製品等が出土している。遺存状況が良好なものは少なく、また出土量も少ない。出土遺物の年代は明らかでないが、陶磁器の出土状況や漆器、木製品の遺存状況から考えると近世を含むそれ以降のものが大半を占めていると思われる。

出土した漆器、木製品の中に、重箱の蓋の一部と思われる木製品（１面No.６）がある。赤色漆で仕上げられ、文様を描き、黒漆で「松井実記」と書かれていた。詳細については明らかでない。

４　金属製品、銭貨

煙管や釘等の金属製品が多く出土した。また火箸も６点確認でき、城内の様相を知る手掛かりになるものと考えている。出土した煙管の一部には装飾を施したものもあるが、総じて遺存状況は良好でなかった。

特筆すべき金属製品に鏡（１面No.21）がある。巴文の鏡で背面に布の一部が付着していた。中世所産ではないかと考えている。また刀（１面No.23）も出土した。錆により詳細は明らかでないが、鎬がなく古い刀である可能性が考えられる。

銭貨では寛永通寶や渡来銭が確認できた。渡来銭は中世と思われる10号溝や13号溝等から出土していた。

またプリチェット・ミニエー弾も出土したが、幕末から明治頃の弾丸の実測図等については後日補いたい。

表２　前橋城跡　建物一覧表

No.	確認面	グリッド	時期	長軸方位	規模(m) 長軸	規模(m) 短軸	柱	柱間	重複関係 古い遺構	重複関係 新しい遺構	備考
1	２面	O･P-10･11	近世以降	－	5.42	3.94	－	－	13溝		15号土坑との重複関係不明
2	２面	P･Q-10	近世以降	－	(2.73)	(2.64)	－	－	13溝		14・15号土坑との重複関係不明
3	２面	I-K-10-12	中世末～近世前	N-5～7°-W	11.65	7.60	21	1.74～2.04	13・16・18溝	47坑	８・９号建物、１・２号棚、12号井戸、27号土坑との重複関係不明。４号と一連の建物か。旧６号掘立
4	２面	J-L-9-11	中世末～近世前	N-8.5°-W	(7.81)	7.56～7.62	26	0.74～1.97	13溝	６井、48坑	５号建物、１号棚との重複関係不明。３号と一連の建物か。旧３号掘立
5	２面	J･K-9･10	中世末～近世	N-11-12°-W	(3.67)	5.62～5.72	10	1.35～2.28		６井	４号建物との重複関係不明。旧10号掘立
6	２面	H･I-9-11	中世末～近世前	N-9-10°-W	8.69～9.19	7.18～7.28	23(25)	1.12～2.24	13溝、３・７井	２井	７号建物との重複関係不明。旧７号掘立
7	２面	H･I-9-11	中世末～近世前	N-8-9.5°-W	7.71～9.81	5.50～5.68	19	1.34～2.36	13溝、３・７井	２井	６号建物との重複関係不明。旧１号掘立
8	２面	J-L-11･12	中世末～近世	N-81.5-86°-E	9.44	3.78～3.87	10	1.81～1.91	８・10溝		３号建物、１・２号棚、23号土坑との重複関係不明。旧５号掘立
9	２面	J-L-10･11	中世末～近世	N-84.5-87°-E	(6.44)	(2.28)	6	2.08～2.36	13溝		３号建物、１号棚との重複関係不明。旧８号掘立
10	２面	O-12	中世末～近世	N-82.5-85°-E	(4.21)	(1.45)	9	0.91～1.43	10溝		旧９号掘立
11	２面	F･G-10	中世末～近世	N-3°-W	(2.28)	(4.13)	5	2.00～2.13		４井	12号建物との重複関係不明。旧12号掘立
12	２面	G-10	中世末～近世	N-11°-W	(2.05)	(3.59)	4	1.80～2.05		４井	11号建物との重複関係不明。旧11号掘立
13	２面	P･Q-8-10	中世末～近世	N-6.5-8°-W	(6.21)	3.12～3.19	9	1.44～2.52	８井	14建	旧４号掘立
14	２面	P･Q-8･9	中世末～近世	N-5.5-8°-W	(4.06)	4.40～4.52	7	1.87～2.56	13建、８井		旧２号掘立
15	２面	G･H-13	中世末～近世	N-83.5°-E	7.31	(1.95)	7	1.81～1.95	17溝		旧13号掘立

表３　前橋城跡　建物・棚　ピット一覧表

３号建物

No.	規模(m) 長軸	規模(m) 短軸	規模(m) 深さ	旧遺構番号
P１	0.42	0.41	0.27	６掘立Ｐ１
P２	0.54	0.52	0.23	６掘立Ｐ２
P３	0.47	0.43	0.26	６掘立Ｐ３
P４	0.48	0.43	0.19	６掘立Ｐ４
P５	0.46	0.41	0.18	６掘立Ｐ５
P６	0.50	0.44	0.34	６掘立Ｐ６
P７	0.49	0.42	0.26	６掘立Ｐ７
P８	0.45	0.40	0.26	６掘立Ｐ８
P９	0.41	0.38	0.24	６掘立Ｐ９
P10	0.55	0.50	0.38	６掘立Ｐ10
P11	0.58	0.52	0.36	６掘立Ｐ17
P12	0.60	0.54	0.25	６掘立Ｐ14
P13	0.60	0.51	0.31	６掘立Ｐ15
P14	0.46	0.44	0.33	６掘立Ｐ16
P15	0.45	0.38	0.22	６掘立Ｐ19
P16	0.50	0.47	0.12	６掘立Ｐ18
P17	0.47	0.40	0.25	６掘立Ｐ11
P18	0.37	0.36	0.28	６掘立Ｐ12
P19	0.40	0.37	0.31	６掘立Ｐ20
P20	0.45	0.41	0.46	６掘立Ｐ21
P21	0.51	0.46	0.37	６掘立Ｐ13

４号建物

No.	規模(m) 長軸	規模(m) 短軸	規模(m) 深さ	旧遺構番号
P１	0.43	0.39	0.28	３掘立Ｐ11
P２	0.53	0.48	0.15	３掘立Ｐ１
P３	0.56	0.53	0.26	３掘立Ｐ２
P４	0.59	0.56	0.26	３掘立Ｐ３
P５	0.62	0.58	0.18	３掘立Ｐ４
P６	0.48	0.45	0.21	32ピット
P７	0.47	0.46	0.23	34ピット
P８	0.46	0.44	0.33	６掘立Ｐ16
P９	0.60	0.51	0.31	６掘立Ｐ15
P10	0.60	0.54	0.25	６掘立Ｐ14
P11	0.44	0.43	0.40	７ピット
P12	0.58	0.55	0.34	３掘立Ｐ15
P13	0.70	0.58	0.23	３掘立Ｐ16
P14	0.60	0.53	0.29	３掘立Ｐ17
P15	0.40	0.39	0.20	３掘立Ｐ９
P16	0.51	0.48	0.29	３掘立Ｐ12
P17	0.54	0.47	0.17	３掘立Ｐ13
P18	0.56	0.52	0.42	３掘立Ｐ８
P19	0.49	0.48	0.10	３掘立Ｐ７
P20	0.59	0.57	0.38	３掘立Ｐ６
P21	0.44	0.43	0.59	３掘立Ｐ５
P22	0.64	0.56	0.21	３掘立Ｐ18
P23	0.55	0.46	0.15	３掘立Ｐ14
P24	0.69	(0.31)	0.58	35ピット
P25	0.49	0.41	0.27	３掘立Ｐ10
P26	0.63	0.54	0.19	３掘立Ｐ19

5号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.56	0.51	0.38	10掘立P 1
P 2	0.57	0.50	0.16	10掘立P 2
P 3	0.56	0.54	0.20	10掘立P 3
P 4	0.56	0.47	0.23	10掘立P 4
P 5	0.57	0.51	0.19	10掘立P 5
P 6	0.45	0.43	0.50	10掘立P 6
P 7	0.75	0.69	0.14	10掘立P 7
P 8	0.61	0.54	0.18	10掘立P 8
P 9	0.55	0.45	0.16	10掘立P 9
P10	0.54	0.50	0.23	10掘立P10

6号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.51	0.49	0.54	7掘立P 1
P 2	0.42	0.35	0.11	7掘立P 2
P 3	0.50	0.48	0.43	7掘立P 3
P 4	0.63	0.56	0.57	7掘立P 4
P 5	0.60	0.50	0.19	7掘立P 5
P 6	0.64	0.54	0.34	7掘立P 6
P 7	0.53	0.48	0.41	7掘立P 7
P 8	0.50	0.53	0.19	7掘立P 8
P 9	0.24	0.24	0.13	7掘立P 9
P10	0.61	0.51	0.17	7掘立P10
P11	0.55	0.51	0.29	7掘立P11
P12	0.33	(0.12)	(0.35)	7掘立P14
P13	0.48	0.46	0.23	7掘立P12
P14	0.60	0.59	0.14	7掘立P13
P15	0.54	0.49	0.24	7掘立P15
P16	0.43	0.40	0.55	7掘立P16
P17	0.58	0.53	0.18	7掘立P17
P18	0.47	0.40	0.37	7掘立P18
P19	0.44	0.39	0.23	7掘立P25
P20	0.59	0.53	0.49	7掘立P19
P21	0.54	0.48	0.30	7掘立P20
P22	0.42	0.43	0.36	7掘立P21
P23	0.53	0.53	0.46	7掘立P22
P24	0.38	0.38	0.23	7掘立P23
P25	0.48	0.38	0.21	7掘立P24

7号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.64	0.49	0.42	1掘立P 1
P 2	0.73	0.62	0.50	1掘立P 2
P 3	0.75	0.47	0.38	1掘立P 3
P 4	0.58	0.53	0.46	1掘立P 4
P 5	0.45	0.44	0.37	1掘立P 5
P 6	0.57	0.51	0.45	1掘立P 6
P 7	0.51	0.49	0.33	1掘立P 7
P 8	0.52	0.50	0.40	1掘立P 8
P 9	0.60	0.48	0.68	1掘立P 9
P10	0.53	0.52	0.40	1掘立P10
P11	0.47	0.41	0.39	1掘立P11
P12	0.60	0.49	0.26	1掘立P12
P13	0.49	0.41	0.34	1掘立P13
P14	0.34	0.26	0.43	1掘立P14
P15	0.52	0.49	0.33	1掘立P15
P16	0.49	0.46	0.35	1掘立P16
P17	0.45	0.42	0.21	1掘立P17
P18	0.49	0.48	0.39	1掘立P18
P19	0.46	0.42	0.34	1掘立P19

8号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.57	0.50	0.12	5掘立P 1
P 2	0.63	0.56	0.19	5掘立P 2
P 3	0.58	0.50	0.37	5掘立P 3
P 4	0.54	0.48	0.22	5掘立P 4
P 5	0.65	0.63	0.36	5掘立P 5
P 6	0.54	0.50	0.44	5掘立P 6
P 7	0.59	0.55	0.26	5掘立P 7
P 8	0.54	0.53	0.37	5掘立P 8
P 9	0.63	0.58	0.16	5掘立P 9
P10	0.36	0.31	0.42	5掘立P10

9号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.65	0.56	0.40	8掘立P 2
P 2	0.53	0.43	0.24	8掘立P 3
P 3	0.59	0.47	0.64	8掘立P 4
P 4	0.64	0.54	0.51	8掘立P 1
P 5	0.54	0.50	0.32	8掘立P 5
P 6	0.72	0.50	0.37	8掘立P 6

10号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.35	0.32	0.42	
P 2	0.37	0.32	0.34	
P 3	0.25	0.23	0.33	
P 4	0.29	0.21	0.36	
P 5	0.35	0.23	0.31	
P 6	0.39	0.36	0.28	
P 7	0.33	0.25	0.18	
P 8	0.32	0.30	0.39	
P 9	0.29	0.22	0.30	

11号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.75	0.49	0.27	12掘立P 1
P 2	0.42	0.35	0.42	12掘立P 2
P 3	0.40	0.36	0.26	12掘立P 3
P 4	0.37	0.36	0.37	12掘立P 4
P 5	0.49	0.46	0.48	12掘立P 5

12号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.70	0.53	0.21	11掘立P 1
P 2	0.55	0.54	0.20	11掘立P 2
P 3	0.64	0.43	0.29	11掘立P 3
P 4	0.40	0.38	0.22	11掘立P 4

13号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	(0.47)	0.50	0.25	4掘立P 1
P 2	0.38	0.37	0.22	4掘立P 2
P 3	0.42	0.39	0.23	4掘立P 3
P 4	0.58	0.49	0.45	4掘立P 4
P 5	0.59	0.56	0.31	4掘立P 5
P 6	0.32	0.29	0.20	4掘立P 6
P 7	0.44	(0.29)	0.13	4掘立P 7
P 8	0.67	(0.36)	0.26	4掘立P 8
P 9	(0.29)	0.42	0.37	4掘立P 9

14号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	(0.32)	0.32	0.43	２掘立Ｐ１
P 2	0.81	0.65	0.28	２掘立Ｐ２
P 3	0.53	0.50	0.23	２掘立Ｐ３
P 4	0.72	0.64	0.17	２掘立Ｐ４
P 5	0.81	0.68	0.24	２掘立Ｐ５
P 6	(0.79)	0.65	0.26	２掘立Ｐ６
P 7	(0.41)	0.46	0.35	２掘立Ｐ７

15号建物

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.54	0.54	0.14	13掘立Ｐ１
P 2	0.53	0.48	0.24	13掘立Ｐ２
P 3	0.60	0.51	0.44	13掘立Ｐ３
P 4	0.46	0.38	0.33	13掘立Ｐ４
P 5	0.63	0.55	0.38	13掘立Ｐ５
P 6	0.64	0.52	0.46	13掘立Ｐ６
P 7	0.52	0.47	0.10	13掘立Ｐ７

1号柵

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.32	0.30	0.14	
P 2	0.42	0.36	0.21	
P 3	0.35	0.34	0.19	
P 4	0.44	0.34	0.30	
P 5	0.42	0.40	0.32	
P 6	0.33	0.32	0.10	
P 7	0.30	0.26	0.13	
P 8	0.33	0.28	0.08	

2号柵

No.	規模(m)			旧遺構番号
	長軸	短軸	深さ	
P 1	0.55	0.47	0.50	
P 2	0.50	0.44	0.15	28ピット
P 3	0.53	0.42	0.30	29ピット
P 4	0.43	0.40	0.35	30ピット
P 5	0.56	0.53	0.36	23ピット
P 6	0.57	0.50	0.48	24ピット
P 7	0.50	0.45	0.24	25ピット
P 8	0.61	0.43	0.34	26ピット
P 9	0.67	0.56	0.28	27ピット

表４　前橋城跡　溝一覧表

No.	確認面	グリッド	時期	断面形状	規模(m)			走行方位	重複関係		備考
					検出長	幅	深さ		古い遺構	新しい遺構	
1	1面	O-8-10、P-10-13	近世以降	皿状	北から3.50、2.63、3.64、3.96	0.19～0.46	0.07～0.22	南北 N-9°-W	1建、13溝、7集石		
2	1面	P-R-13・14	近代以降	皿状	12.64	4.04～4.80	0.35～0.53	東西 N-89°-W			市教育報告「W-6」
3	1面	O-R-15	中世末～近世後	－	12.60	－	0.24～0.43	東西 N-84°-E			市教委報告「W-10」、前橋城「十人小路」北側の石組溝と思われる
4	1面	K・L-9、L-10	近世以降	皿状	6.87	0.24～0.38	0.04～0.08	南北 N-8°-W	4建		
5	1面	K-9-12	近世以降	皿状	14.82	0.20～0.43	0.05～0.11	南北 N-12°-W	4・5・8・9建、13溝		柵を伴う、北から36・39・40号土坑をつなぐ溝か
6	2面	G・H-14、X-R-13	中世末～近世後	逆台形状	西側18.56 東側7.36	0.72～2.05	0.94～1.37	東西 N-84°-E		1池	前橋城「十人小路」南側の石組溝と思われる
7	1面下	W-9-13、O-11-13	近世	逆台形状	22.80	0.17～1.15	0.08～0.40	南北 N-12°-W	13溝、20坑	1集石	
8	2面	L-11・12、M-12	中世末～近世前か	逆台形状	6.88	0.50～0.80	0.31～0.47	南北 N-17°-W	10・13溝か	8建、23坑、4集中	19号溝と一連の溝か
9											**欠番。23号土坑となる**
10	2面	K-Q-12	中世～近世初	すり鉢状	29.56	1.10～1.66	0.53～0.83	東西 N-85°-E		8建、19溝、4集中	13・18号溝と共に道となるか。覆土中に多量の炭化種実
11	2面	K・L-13	近世	逆台形状	2.20	－	0.32	南北 N-35°-W			22号溝との重複関係不明。一連の溝か
12	2面	J-13	近世以降	逆台形状	2.58	0.38～0.55	0.14～0.23	南北 N-42°-E	18溝か		22号溝との重複関係不明。一連の溝か
13	2面	F-H-11、I-P-10・11、Q-10	中世～近世初	すり鉢状	57.90	1.55～3.24	0.45～0.78	東西 N-86°-E		1-4・6・7・9建、1柵、19・23溝、12・14-16・20-22・31・33坑、3-5・7・8集石、2・3集中	10・18号溝と共に道となるか
14											**欠番。13号溝となる。13号溝の西側**
15	2面	N-Q-12、N-O-13	中近世	すり鉢状	西側1.21 東側7.50	1.36～1.66	0.52～0.82	東西 N-85°-E		1池	10号溝と並行
16	2面	J-12	中近世	すり鉢状	2.44	0.72	0.08	南北 N-17°-W	27坑か	18溝	
17	2面	G-K-12・13	中世～近世初	すり鉢状	24.40	0.64～1.78	0.25～0.60	東西 N-88°-E	18溝	15建、24・26溝	

No.	確認面	グリッド	時期	断面形状	規模(m)			走行方位	重複関係		備考
					検出長	幅	深さ		古い遺構	新しい遺構	
18	2面	F-12、G-12・13、H-J-12、	中世～近世初	すり鉢状	21.34	0.56～1.68	0.17～0.52	東西N-82°-E 南北N-3°-W	27坑、16溝	3建、17溝	L字状に屈曲。10・13号溝と共に道となるか
19	2面	L-10、M-10・11、N-11・12	中近世	すり鉢状	北側5.50 南側7.88	0.46～0.66	0.32～0.47	東西N-76°-E 南北N-13°-W	10・13溝		L字状に屈曲。8号溝と一連の溝か
20											**欠番。13号溝となる。13号溝の東側**
21	2面	I-11・12	近世	皿状	6.15	0.54～0.74	0.10～0.20	南北 N-3°-W	18溝		
22	2面	I-K-13	近世	不明	11.94	—	0.16～0.33	東西			11・12号溝との重複関係不明。一連の溝か
23	2面	M・N-11	中近世	逆台形状	8.09	0.37～0.57	0.14～0.62	東西N-84°-E 南北N-32°-W	13溝		L字状に屈曲
24	2面	J-13	中世か	逆台形状	1.64	0.77	0.47	南北 N-7°-E		17溝	
25	2面	J-12・13、K-12	中世か	不明	3.75	—	0.11	東西	27坑		
26	2面	J-13	中世か	皿状	2.68	0.58	0.20	南北 N-0°	17溝		

※市教委報告：前橋市教育委員会2011『前橋城(三の丸門東地点)』

表5　前橋城跡　井戸一覧表

No.	確認面	グリッド	時期	平面形状	断面形状	規模(m)			重複関係		備考
						長軸	短軸	深さ	古い遺構	新しい遺構	
1											**欠番。32号土坑となる**
2	1面	I-10	近世	円形	円筒状か	1.60	1.55	(0.81)	6・7建		上面を石で縁取り、桶を据える。未完掘
3	1面	H-10	中世	円形	上半すり鉢状、下半円筒状か	1.62	1.37	(1.33)		7建	未完掘
4	1面	F・G-10	近世	円形	円筒状か	1.86	1.73	(1.15)	11・12建		未完掘
5	2面	M-10	中世	円形	円筒状	0.99	0.95	2.04			
6	2面	K-9	近世	円形か	円筒状か	1.91	(0.88)	(1.07)	4・5建		未完掘
7	2面	H・I-10	中世	円形	上半すり鉢状、下半円筒状	2.52	2.32	2.56		6・7建	
8	2面	P-8	中世か	円形か	上半すり鉢状、下半円筒状か	1.29	(0.83)	(1.13)		13・14建	未完掘
9	2面	I・J-10	中世か	円形	上半すり鉢状、下半円筒状	1.84	1.67	2.57			
10	2面	L-10	近世	円形	円筒状か	0.82	0.73	(0.93)			石組。未完掘
11	2面	N-10	近世	円形	円筒状	1.23	1.22	1.91			
12	2面	J-11	中近世	不整円形	円筒状か	1.31	1.27	(1.26)			未完掘

表6　前橋城跡　土坑一覧表

No.	確認面	グリッド	時期	平面形状	断面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係		備考
						長軸	短軸	深さ		古い遺構	新しい遺構	
1	1面	N-9	近世以降	円形	逆台形状	0.67	0.63	0.22	－			
2	1面	N-9	近世以降	円形	皿状	0.83	0.78	0.06	－			
3	1面	Q-8	近世以降	不整円形	逆台形状	0.86	0.79	0.26	－			
4	1面	Q-8	近世以降	不整円形	皿状	1.48	1.27	0.21	－			
5	1面	O-9	近世以降	円形	皿状	1.41	1.30	0.09	－			旧7号土坑
6	1面	N-11・12、O-11・12	近世以降	楕円形	階段状	1.02	0.74	0.51(0.66)	－	7溝		旧8号土坑
7	1面	M-11・12、N-11・12	近世以降	方形	箱状	(2.81)	(1.64)	0.67	N-80°-E	19溝		本枠を伴う。旧12号土坑
8	1面	K-9	近世以降	方形	皿状	0.58	0.49	0.14	N-12°-W			旧22号土坑
9	1面	H-9	近世以降	不整円形	階段状	1.13	0.99	0.27(0.46)	－	7建		中央にピット。旧16号土坑
10	1面	H-11	近世以降	不定形	皿状	1.51	1.23	0.21	－			石で縁取る。旧17号土坑
11	1面下	L-11	近世以降	不整円形	すり鉢状	1.70	1.68	0.66	－	13溝		13号溝の一部を土坑とする
12	1面下	L-10・11	近世以降	長方形	逆台形状	1.70	0.68	0.28	N-5.5°-W	13溝		旧30号土坑
13	2面	Q-11	近世以降	円形	皿状	0.93	0.80	0.10	－			旧27号土坑
14	2面	P-10	近世以降	円形	箱状	0.51	0.49	0.27	－	13溝		桶を伴うか。1・2号建物との重複関係不明。旧28号土坑
15	2面	P-10	近世以降	円形	皿状	1.46	1.39	0.15	－	13溝		1号建物との重複関係不明。旧32号土坑
16	2面	O-11	近世以降	不整円形	すり鉢状	0.87	0.65	0.55	－	13溝		旧39号土坑
17	2面	O-11	近世	方形	箱状	0.75	0.67	0.13	－			旧40号土坑

No.	確認面	グリッド	時期	平面形状	断面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係		備考
						長軸	短軸	深さ		古い遺構	新しい遺構	
18	2 面	O-11	近世以降	方形	皿状	0.88	0.85	0.05	－			旧42号上坑
19	2 面	O-11	近世以降	不整長方形	箱状	0.88	0.53	0.25	－			旧41号上坑
20	2 面	N•O-10	近世	不整長方形	逆台形状	4.18	1.26	0.86	N-85°-E	13溝	７溝	旧38号上坑
21	2 面	M-10	近世以降	長方形	箱状	0.85	0.45	0.23	N-81°-E	19溝		旧44号上坑
22	2 面	L-10•11	中世末～近世初	長方形	皿状	2.28	1.20	0.19	N-18°-W	13溝		旧43号上坑
23	2 面	L-11•12	近世以降	不整長方形	逆台形状	3.73	1.68	1.53	N-75°-E	８溝		旧９号溝
24	2 面	M-9	近世以降	楕円形	逆台形状	1.55	1.15	0.29	－			旧31号上坑
25	2 面	M-9	近世以降	円形	皿状	1.33	1.20	0.07	－			旧29号上坑
26	2 面	M-9, N-8•9	近世以降	不明	不明	(0.80)	(0.36)	0.35	－			旧37号上坑
27	2 面	J•K-12	中世	方形か	箱状	3.90	(3.58)	0.47	－		16～18•25溝か	旧２号池
28	1 面	O-9•10	近世以降	不定形	不明	1.17	0.72	0.21	－			木枠を伴う。旧６号上坑
29	1 面	Q-11	近世以降	円形	箱状	(0.47)	(0.46)	(0.13)	－			桶を伴う。旧10号上坑
30	1 面	Q-10•11	近世以降	円形	箱状	(0.50)	(0.46)	0.35	－			桶を伴う。旧23号上坑
31	1 面	Q-10	近世以降	円形	箱状	(0.48)	(0.45)	0.46	－	13溝		桶を伴う。旧９号上坑
32	1 面	Q-9	近世後半	円形	箱状	0.84	0.74	0.47	－			桶を伴う。旧１号井戸
33	1 面	O-10	近世以降	不整円形	不明	0.94	0.88	(0.10)	－	13溝		桶を伴う。旧11号上坑
34	1 面	N-9	近世以降	円形	階段状	0.91	0.87	0.25	－			桶を伴う。旧５号上坑
35	1 面	K-13	近世以降	円形か	不明	(0.37)	(0.14)	－	－	22溝、９集石		桶を伴う。旧19号上坑
36	1 面	K-13	近世以降	円形か	箱状	(0.77)	(0.58)	0.55	－	22溝		桶を伴う。旧20号上坑
37	2 面	K-13	近世以降	円形か	不明	0.41	(0.29)	－	－	22溝		桶を伴う。旧34号上坑
38	2 面	K-13	近世以降	円形か	不明	0.41	0.40	－	－	17•22溝		桶を伴う。旧33号上坑
39	1 面	K-11	近世以降	楕円形	箱状	(0.76)	(0.65)	0.39	－			桶を伴う。旧13号上坑
40	1 面	J•K-9	近世以降	円形	箱状	(0.51)	(0.48)	(0.20)	－			桶を伴う。旧21号上坑
41	1 面	I-13	近世以降	円形か	箱状か	(0.47)	(0.22)	(0.20)	－			桶を伴う。旧18号上坑
42	1 面	H-13	近世以降	不整円形	不明	0.58	0.53	(0.09)	－	17溝		桶を伴う。旧15号上坑
43	1 面	G-10•11	近世以降	不整円形	不明	0.59	0.52	(0.08)	－			桶を伴う。旧14号上坑
44	2 面	Q-11•12	近世以降	円形	箱状	(0.48)	(0.45)	0.23	－			桶を伴う。旧24号上坑
45	2 面	P-11	近世以降	円形か	不明	(0.33)	(0.38)	0.46	－			桶を伴う。旧25号上坑
46	2 面	N-12	近世以降	円形	箱状	(0.79)	(0.78)	0.24	－			桶を伴う。旧26号上坑
47	2 面	J-12	近世以降	円形	不明	(0.46)	(0.36)	(0.07)	－	３建		桶を伴う。旧35号上坑
48	2 面	J-10	近世以降	円形	不明	(0.53)	(48.5)	－	－	４建		桶を伴う。旧36号上坑

表７　前橋城跡　ピット一覧表

No.	確認面	グリッド	時期	平面形状	断面形状	規模(m)			重複関係		備考
						長軸	短軸	深さ	古い遺構	新しい遺構	
1	2 面	L-11	中近世	楕円形	円筒状	0.68	0.59	0.90			旧31号ピット
2	2 面	J-11	中近世	不整円形	階段状	0.71	0.67	0.38			旧33号ピット
3	2 面	J-11	中近世	円形	円筒状	0.47	0.42	0.31			旧10号ピット
4	2 面	I-11•12	中近世	円形	円筒状	0.44	0.40	0.34			旧13号ピット
5	2 面	I-11	中近世	円形	円筒状	0.51	0.48	0.39			旧12号ピット
6	2 面	I-11	中近世	円形	逆台形状	0.51	0.48	0.34			旧11号ピット
7	2 面	H-12	中近世	円形	円筒状	0.32	0.27	0.40	18溝		
8	2 面	G-12	中近世	円形	円筒状	0.39	0.37	0.49	18溝		旧22号ピット
9	2 面	G-12	中近世	楕円形	すり鉢状	0.41	0.32	0.44			旧21号ピット
10	2 面	H-11	中近世	不整円形	円筒状	0.64	0.39	0.27			旧14号ピット
11	2 面	H-11	中近世	不整円形	円筒状	0.50	0.42	0.24			旧15号ピット
12	2 面	G•H-11	中近世	円形	階段状	0.42	0.41	0.60			旧17号ピット
13	2 面	K•L-9	中近世	円形	円筒状	0.54	0.48	0.32			旧５号ピット
14	2 面	J-10	中近世	円形	すり鉢状	0.33	0.33	0.33	13溝		
15	2 面	J-10	中近世	円形	円筒状	0.46	0.43	0.19			旧６号ピット
16	2 面	J-10	中近世	円形	円筒状	0.45	0.38	0.29			旧８号ピット
17	2 面	J-10	中近世	円形	円筒状	0.44	0.37	0.35			旧９号ピット
18	2 面	H-10	中近世	不整円形	円筒状か	0.64	0.49	0.34	６・７建		旧16号ピット
19	2 面	H-10•11	中近世	楕円形	円筒状か	0.69	0.55	0.31	７建		旧18号ピット
20	2 面	G・H-10	中近世	円形	円筒状	0.49	0.47	0.49			旧４号ピット
21	2 面	G-10	中近世	不整円形	円筒状	0.38	0.30	0.56	11建		旧20号ピット
22	2 面	G-10	中近世	不整円形	円筒状	0.40	0.35	0.50	11建		旧19号ピット

表8　前橋城跡　集石、列石一覧表

集石

No.	確認面	グリッド	時期	平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係		備考
					長軸	短軸	深さ		古い遺構	新しい遺構	
1	1面下	N-11	近世以降	不定形	1.17	1.00	—	—	7溝		
2	1面下	O-11	近世以降	不整円形	0.99	0.76	—	—	17坑		
3	1面下	O-10・11	近世以降	不整円形	1.20	0.81	—	—	13溝		
4	1面下	O-10・11	近世以降	不整円形	0.89	0.57	—	—	13溝		
5	1面下	O-10	近世以降	不整円形	1.32	1.07	—	—	13溝		
6	1面下	P-9	近世以降	不定形	1.12	0.73	—	—			
7	1面下	O・P-10	近世以降	不整円形	1.79	1.36	—	—	13溝	1溝	
8	1面下	O-10	近世以降	不整円形	1.60	1.32	—	—	13溝	33坑	
9	1面下	J-13、K-12・13	近世以降	不定形	5.50	2.37	—	—	22溝		

列石

No.	確認面	グリッド	時期	平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係		備考
					長軸	短軸	深さ		古い遺構	新しい遺構	
1	2面	L-9、M-9・10	中近世	直線状	6.17	0.88	—	N-10°-W			

表9　前橋城跡　遺物集中一覧表

No.	確認面	グリッド	時期	平面形状	断面形状	規模(m)			重複関係		備考
						長軸	短軸	深さ	古い遺構	新しい遺構	
1	1面	R-11	近代以降	不定形	皿状か	0.83	0.47	—			
2	1面	K・L-10・11	近世以降	不整円形	—	3.92	2.97	—	13溝		重複する8号溝・22号土坑等の遺物を含む。2号遺物集中の時期は近世以降
3	1面	F・G-11	近世以降	楕円形か	—	(4.32)	(1.23)	—	13溝		
4	1面	K・L-12・13、M-12	近世以降	楕円形	—	8.24	1.56	—	8・10溝		
5	2面	R-11	近世以降	不定形	—	0.80	0.57	—			

表10　前橋城跡　肥前系陶磁器一覧表

種別・器種	年代	16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
絵唐津大皿	1590 ～ 1630年代			1											1
絵唐津皿	1590 ～ 1630年代			1											1
鉄絵大皿	1590 ～ 1630年代			1											1
大皿	1590 ～ 1630年代			1											1
鉄絵皿	1590 ～ 1630年代			2											2
絵唐津小皿	1590 ～ 1630年代			4											4
伊万里手碗	17ｃ第2 ～第3					1									1
伊万里手碗	17ｃ中～末						2								2
伊万里手碗	17ｃ後						4								4
伊万里手碗	17ｃ後～ 18ｃ前						1								1
伊万里手碗	17ｃ末～ 18ｃ前						3								3
伊万里手碗	18ｃ前							1							1
京焼風碗	1660 ～ 90年代						4								4
京焼風碗	1670 ～ 90年代						2								2
刷毛目碗	17ｃ後						1								1
刷毛目碗	18ｃ前							5							5
刷毛目碗	18ｃ前～中								1						1
刷毛目大皿	17ｃ後						3								3
刷毛目大皿	17ｃ後～ 18ｃ前						1								1
刷毛目大皿	17ｃ末～ 18ｃ中							1							1
刷毛目大皿	不明													1	1
刷毛目中皿	18ｃ第2 ～後								1						1
刷毛目皿	18ｃ								2						2
刷毛目皿か鉢	17ｃ後						1								1
刷毛目皿か鉢	不明													1	1
刷毛目器物	18ｃ								1						1
二彩手大皿	17ｃ中～末					1									1
二彩手大皿	17ｃ後						3								3
二彩手大皿	17ｃ後～ 18ｃ初						3								3
三島手大皿	18ｃ前～中							1							1
三島手大皿	17ｃ後						10								10
三島手大皿	17ｃ後～ 18ｃ初						3								3
三島手大皿	17ｃ第4						1								1
三島手大皿	17ｃ末～ 18ｃ前							2							2
瑞龍皿	17ｃ中～末					3									3
瑞龍皿	17ｃ後～ 18ｃ初						1								1
瑞龍皿	17ｃ後						1								1
京焼風中皿	1660 ～ 90年代						1								1
京焼風小皿	1670 ～ 90年代						1								1
京焼風皿	17ｃ末						1								1
京焼風皿	18ｃ前							9							9
青緑釉皿	17ｃ末～ 18ｃ前							3							3
大皿	17ｃ後						1								1
大皿	17ｃ後～ 18ｃ前							1							1
皿	17ｃ					1									1
皿か鉢	17ｃ中～末					1									1
大皿か鉢	18ｃ前～中							1							1
刷毛目鉢	17ｃ後						2								2
二彩手鉢	17ｃ第2 ～第3					1									1
二彩手鉢	17ｃ後						1								1
鉄釉卵分碗	1640年代				1										1
色絵碗	1660 ～ 90年代						1								1
色絵碗	17ｃ後						3								3
色絵碗	17ｃ後～ 18ｃ初						1								1
色絵碗	1690 ～ 1730年代							1							1
色絵碗	18ｃ前～中							1							1
色絵碗	18ｃ								1						1
色絵碗	18ｃ後									1					1
染付碗	1640 ～ 50年代				1										1
染付碗	1650 ～ 60年代				1										1
染付碗	1660 ～ 80年代					1									1
染付碗	1670 ～ 90年代					1									1
染付碗	17ｃ末～ 18ｃ前						2								2
染付碗	1690 ～ 18ｃ前						1								1
染付碗	1690 ～ 1730年代						1								1
染付碗	18ｃ前						11								11
染付碗	18ｃ前～中						7								7
染付碗	18ｃ							2							2
染付碗	18ｃ第2 ～第3							4							4
染付碗	18ｃ中～末								3						3
染付碗	18ｃ後									21					21
染付碗	1770 ～ 1830年代									1					1
染付碗	1780 ～ 1830年代									6					6
染付碗	19ｃ前										1				1
染付碗	19ｃ前～中											1			1
染付碗	1820 ～ 60年代												2		2
染付小丸碗	1780 ～ 1830年代										7				7
小丸碗	1780 ～ 1830年代										3				3
青磁碗	1630 ～ 40年代					1									1

種別・器種	年代	16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
青磁碗	1630 ～ 50年代					1									1
青磁碗	17ｃ中～末						1								1
青磁碗	17ｃ後～18ｃ								1						1
青磁碗	18ｃ第4～1810年代									1					1
青磁碗	19ｃ											1			1
青磁染付碗	18ｃ後									3					3
白磁碗	17ｃ後～18ｃ前							1							1
白磁か色絵碗	17ｃ後						1								1
色絵筒形碗	18ｃ後									1					1
染付筒形碗	18ｃ後									2					2
染付筒形碗	1770 ～ 90年代									3					3
染付筒形碗	18ｃ第4									1					1
染付筒形碗	1780 ～ 1810年代										3				3
染付筒形碗	1780 ～ 19ｃ前										1				1
筒形碗	1780 ～ 1810年代										2				2
青磁染付筒形碗	18ｃ後									2					2
染付端反碗	19ｃ前										1				1
染付端反碗	1820 ～ 60年代											8			8
染付江東碗	1780 ～ 1810年代										1				1
染付江東碗	1780 ～ 19ｃ前										3				3
染付江東碗	19ｃ前										5				5
陶胎染付碗	17ｃ後～18ｃ初						1								1
陶胎染付碗	17ｃ末～18ｃ前					1									1
陶胎染付碗	18ｃ前							15							15
陶胎碗	18ｃ前							1							1
色絵器物	18ｃ前							1							1
染付器物	17ｃ末～18ｃ初						1								1
染付器物	18ｃ後									2					2
染付器物	18ｃ後～19ｃ初									2					2
染付器物	18ｃ第4 ～ 19ｃ初									1					1
染付器物	18ｃ末～ 19ｃ前									1					1
染付器物	1820 ～60年代											1			1
小型器物	18ｃ前							1							1
ｃ器物	18ｃ後～19ｃ初									1					1
染付器物の器	18ｃ末～ 19ｃ前										1				1
器物の器	18ｃ第2 ～第3								1						1
染付器	18ｃ前～中							1							1
染付器	18ｃ								1						1
染付器	18ｃ後～ 19ｃ初									1					1
染付器	18ｃ第4 ～ 19ｃ第1									1					1
染付器	19ｃ初～中										1				1
染付器	19ｃ前～中										1				1
碗器	1820 ～ 60年代											1			1
器	18ｃ中～末								1						1
染付小碗	18ｃ前							3							3
染付小碗	18ｃ第2 ～第3								1						1
染付小碗	18ｃ後									2					2
染付小碗	1770 ～ 1810年代									7					7
染付小碗	1780 ～ 1810年代									1					1
染付小碗	18ｃ末～ 19ｃ中										1				1
染付小碗	19ｃ初～中										2				2
染付小碗	1820 ～ 60年代											1			1
染付小碗	19ｃ後												1		1
小碗	18ｃ前							1							1
小碗	18ｃ前～中								1						1
小碗	1820 ～ 60年代											2			2
青磁小碗	18ｃ後									2					2
青磁染付小碗	19ｃ初～中										2				2
染付か白磁小碗	18ｃ								1						1
白磁小碗	1650 ～ 70年代					1									1
猪口碗か	18ｃ末～ 19ｃ前									1					1
染付小杯	17ｃ後～ 18ｃ								1						1
染付小杯	18ｃ前							1							1
染付小杯	18ｃ								3						3
染付小杯	18ｃ中～末									1					1
染付小杯	18ｃ後									5					5
染付小杯	18ｃ後～ 19ｃ初										1				1
染付小杯	江戸後期											2			2
染付小杯	19ｃ初～中											1			1
染付か白磁小杯	18ｃ前							1							1
染付か白磁小杯	18ｃ								2						2
染付か白磁小杯	18ｃ後									1					1
白磁小杯	18ｃ後～ 19ｃ前									1					1
色絵小杯	19ｃ											1			1
小杯	18ｃ後									1					1
染付猪口	18ｃ第2 ～第3								2						2
染付猪口	18ｃ後									3					3
染付猪口	18ｃ第4 ～ 19ｃ前										1				1
染付猪口	1820 ～ 60年代											1			1
青磁染付猪口	18ｃ後									1					1

種別・器種	年代	16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
鍋口	1820 ～ 60年代											1			1
染付鉢口辺小碗	18 c 第2 ～第3								1						1
染付丸皿	1820 ～ 60年代											1			1
青磁丸皿	1620 ～ 40年代					1									1
染付深皿	1660 ～ 80年代						1								1
芙蓉手染付皿	1660 ～ 70年代						1								1
染付皿	1660 ～ 90年代						2								2
染付皿	17 c 後～ 18 c 初						1								1
染付皿	17 c 後～ 18 c 前						1								1
染付皿	1670 ～ 90年代						1								1
染付皿	1670 ～ 1700年代						1								1
染付皿	1670 ～ 1710年代						1								1
染付皿	1670 ～ 18 c 初						1								1
染付皿	18 c 前							3							3
染付皿	18 c 前～中							6							6
染付皿	18 c								2						2
染付皿	18 c 中～末								2						2
染付皿	18 c 中～後								1						1
染付皿	18 c 後									9					9
染付皿	18 c 後～ 19 c 初									1					1
染付皿	18 c 第4 ～ 19 c 第1									1					1
染付皿	18 c 末～ 19 c 前									1					1
染付皿	江戸後期										1				1
染付皿	19 c 前										1				1
染付皿	19 c 初～中											2			2
染付皿	1820 ～ 60年代											3			3
染付長方形皿	江戸後期											1			1
青磁皿	1630 ～ 40年代					4									4
青磁皿	17 c 中～後						2								2
青磁皿	17 c 中～末						2								2
青磁皿	17 c 後						1								1
青磁皿	18 c 後									1					1
青磁染付皿	1660 ～ 90年代						1								1
白磁皿	17 c 末～ 18 c 前							2							2
青磁陽刻皿	18 c 末～ 19 c 中										2				2
染付小色絵皿	18 c 末～ 19 c 前										1				1
色絵皿	18 c 末～ 19 c 前										1				1
色絵皿	明治・大正												1		1
陶胎染付皿	17 c 後～ 18 c 初						2								2
陶胎染付皿	18 c 前							1							1
染付小皿	1660 ～ 80年代						1								1
染付小皿	17 c 後						2								2
染付小皿	18 c 前							2							2
染付小皿	18 c								2						2
染付小皿	18 c 後～ 19 c 初									1					1
染付小皿	18 c 末～ 19 c 前									1					1
青磁染付小皿	18 c 後									2					2
色絵鉢	18 c								2						2
染付鉢	1660 ～ 90年代						1								1
染付鉢	18 c 第2 ～第3								1						1
染付鉢	18 c 中～末									1					1
染付鉢	19 c 初～中											1			1
染付鉢	1820 ～ 60年代											1			1
染付鉢	1840 ～ 60年代												1		1
青磁鉢	18 c 第4 ～ 19 c 前										1				1
青磁鉢	不明													1	1
青磁染付鉢	18 c 後									1					1
青磁染付鉢	19 c 前										1				1
陶胎染付鉢	17 c 後～ 18 c 初						1								1
染付器付鉢	18 c 前							1							1
染付器付鉢	18 c 中～末								1						1
染付器付鉢	18 c 後									2					2
器付鉢	18 c 第2 ～第3								1						1
染付器付小鉢	18 c 前							1							1
器付小鉢	18 c 中～末								1						1
染付小鉢	19 c 初～中											1			1
染付小鉢	1820 ～ 60年代											1			1
染付段重	18 c 後									2					2
染付段重	18 c 末～ 19 c 前									1					1
染付段重	19 c 初～中											2			2
染付段重か合子	19 c 初～中											1			1
白磁紅皿	18 c								3						3
白磁紅皿	18 c 後									1					1
白磁紅皿	18 c 後～ 19 c 前									1					1
白磁紅皿	19 c											1			1
紅皿	18 c								2						2
染付うがい碗	18 c 後									1					1
染付かて碗うがい碗	18 c 後									1					1
染付小香炉	18 c 後～ 19 c 初									1					1

種別・器種	年代	16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
青磁香炉	17ｃ第4～18ｃ第1						1								1
青磁香炉	17ｃ末～18ｃ前						6								6
青磁小香炉	17ｃ後～18ｃ初						1								1
青磁小香炉	19ｃ											1			1
青磁香炉か火入	17ｃ後～18ｃ初						1								1
青磁香炉か火入	17ｃ第4～18ｃ第1						2								2
染付火入	18ｃ後									1					1
染付火入	18ｃ第4～19ｃ前									1					1
青磁火入	18ｃ								1						1
青磁灰落	18ｃ								2						2
染付仏飯器	17ｃ後～18ｃ初						1								1
染付仏飯器	18ｃ								2						2
染付仏飯器	18ｃ後									2					2
染付仏飯器	18ｃ第4～19ｃ初									2					2
染付瓶	1630～50年代					1									1
染付瓶	18ｃ後									4					4
染付瓶	18ｃ第4～19ｃ初									1					1
染付瓶	18ｃ末～19ｃ中										1				1
染付瓶	19ｃ初～中											1			1
青磁瓶	17ｃ後～18ｃ初						1								1
青磁瓶	18ｃ前							1							1
青磁瓶	18ｃ前～中							1							1
青磁瓶	18ｃ								2						2
青磁か青磁瓶	17ｃ後～18ｃ							1							1
色絵小瓶	17ｃ後～18ｃ前						1								1
色絵小瓶	江戸後期										1				1
染付小瓶	18ｃ第4～19ｃ前									2					2
染付小瓶	18ｃ第4～19ｃ中										1				1
染付小瓶	18ｃ末～19ｃ前										2				2
染付小瓶	18ｃ末～19ｃ中										2				2
小瓶	江戸後期										1				1
瑠璃釉小瓶	江戸後期										1				1
白磁壺器	17ｃ後～18ｃ前						1								1
白磁壺器	18ｃ後～19ｃ中										1				1
色絵油壺	17ｃ後						1								1
染付油壺	17ｃ末～18ｃ中							1							1
油壺	18ｃ後～19ｃ前									1					1
染付合子器	江戸後期										1				1
白磁埋壺か神台	1600～18ｃ前							1							1
染付水滴	18ｃ中～末								1						1
水滴	18ｃ前							1							1
色絵隅形人形	17ｃ後						1								1
色絵水滴か人形	18ｃ								1						1
人形か水滴	18ｃ								1						1
染付筆架	18ｃ								1						1
染付ミニチュア	18ｃ後									1					1
白磁ミニチュア	17ｃ末～18ｃ								1						1
白磁ミニチュア	17ｃ末～18ｃ前							1							1
不詳	18ｃ～19ｃ中									1					1
不詳	不明													1	1

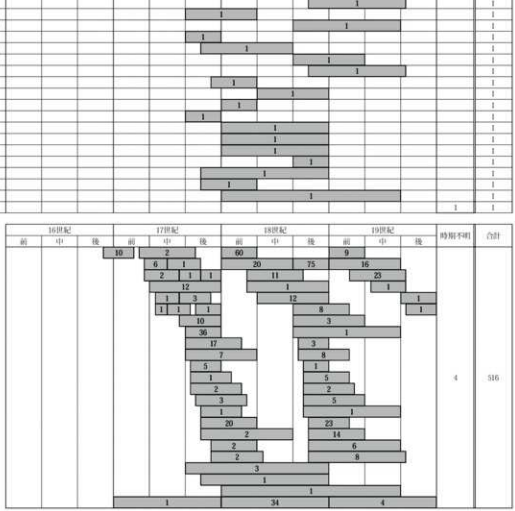


表11　前橋城跡　瀬戸・美濃系陶磁器一覧表

※(志)は志戸呂の数量

	古瀬戸後期					古瀬戸	大窯1		大窯2		大窯3		大窯4		大窯	連房式登窯											登窯	時期	計
	Ⅰ	Ⅱ	新	Ⅳ古	Ⅳ新	計	前	後	前	後	前	後	前	後	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計	不明	
天目碗					2	2	1				2		3		10	2	3	3		1							10		22
											1		1			1													
										2																			
御目付大皿				1		1																							1
神饌形香炉				1		1																							1
腰折皿				1		1																							1
縁釉はさみ皿							1								1														1
端反皿							3								3									1			1		4
端反皿か丸皿									2						2														2
丸皿											1		2		13														13
											1																		
											7																		
												2																	
稜皿									1						1														1
志野丸碗																	1										1		1
志野碗													1		1		2										3		4
																	1												
志野丸皿													1		1	1	1	1									4		5
																	1												
志野皿													5		5														5
志野向付													3		3														3
志野													1		1														1
大皿													2 (志2)		2 (志2)								1			1	2		4 (志2)
すり鉢									6						18	1				1	1	2	1	1	1	1	34 (志1)		52 (志1)
									2				1	5							18								
										1						2	1				1			1					
											1	2				2 (志1)										1			
水滴									1						1													1	2
白天目碗																	1	2									5		5
																	2												
丸碗									1				1 (志1)		2 (志1)		1				4			1			18		20 (志1)
																	1	3			2			2		1			
																		2								1			
筒形碗													1 (志1)		1 (志1)														1 (志1)
掛分碗																	1										1		1
尾呂碗																				2							2		2
腰錆碗																						1		2		1	4		4
せんじ碗																						17	1				18		18
沈碗碗																							1				4		4
																							3						
柳碗																							1	3			5		5
																								1					
端反碗																								5	8	6	20		20
端反碗蓋																									1		1		1
梅花文碗																										4	4		4
上絵碗																							1				1		1
染付碗																									1		2		2
																										1			
碗																							1				1		1
小碗																	1						1	1		1	8		8
																							3						
																									1				
瀬戸大皿																	1										1		1
折縁鉄絵皿																	1	1									2	1	3
鉄絵皿																	1	1		1			1				5		5
																	1												
菊皿																		1		1							3		3
																			1										
反皿																		1									1		1
朽絵皿																				2	1						5		5
																					1								
																						1							
梅文皿																					1		4				7		7
																							2						
折縁梅花皿																						3					3		3

	古瀬戸後期					古瀬戸	大窯1		大窯2		大窯3		大窯4		大窯	連房式登窯											登窯	時期	計
	Ⅰ	Ⅱ	古	Ⅳ古	Ⅳ新	計	前	後	前	後	前	後	前	後	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計	不明	
輪花皿																								1			1		1
寿文皿																										4	4		4
型打皿																										2	2		2
朋毛目皿																										3	3		3
染付皿																									2		3		3
																									1				
中皿																							1				1		1
皿																										2	3		3
																					1								
織部腰類																1											1		1
腰類				1		1										1		1					1				4		5
																								1					
徳利								1							1						1						8		9
																							1						
																							1	3					
																							1			1			
																								1					
小林、林																		1								1	2		2
片口鉢																					1		1			1	8		8
																						2		2		1			
擂鉢																							1			1	5		5
																								1		2			
黄瀬戸鉢																						3					3		3
菓子鉢																							1				1		1
八角鉢																										1	1		1
植木鉢																											2 (丟1)		2 (丟1)
																1 (丟1)													
鉢																					1					1	2	1	3
																										1			
平胴甕																								2			3		3
																								1					
小甕																									1		1		1
水甕																							1				2		2
																								1					
甕																									1		1		1
有耳壺																							1			2	7		7
																								2					
																								1					
																1													
レンゲ																										1	1		1
鍋																									7		7		7
土瓶																							1				1		1
筒形香炉																					1	1	1	4			6		6
香炉																1											2		2
																						1							
灯火皿																							1	7		1	16	2 (丟2)	18 (丟2)
																							7	1					
灯火受皿																							2	1			13	4 (丟4)	17 (丟4)
																							3	4					
																									1				
行灯皿																										1	1		1
朋毛目火入																										1	1		1
上絵火入																							1				1		1
火入																				2							2		2
ひょうそく																							2				3		3
																								1					
銅鍋																							3			1	5		5
																							1						
仏鉢具																							1				4		4
																								1					
																								2					
掛け花生け																											1		1
																1													
花瓶																			1			1		1			3		3
瓶掛																								1			1		1
瓶類														1	1														1
水指																2								1			3		3
餐水入																				1							4		4
																				2									
																				1									

	古瀬戸後期					古瀬戸	大窯1		大窯2		大窯3		大窯4		大窯	連房式登窯											登窯	時期	計
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ古	Ⅳ新	計	前	後	前	後	前	後	前	後	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計	不明	
蓋受																									1		1		1
蓋																					4		1		2		10		10
																								1					
																								1		1			
不明																1											3 (赤2)	2 (赤1)	5 (赤3)
																					2 (赤2)								

	古瀬戸後期					古瀬戸	大窯1		大窯2		大窯3		大窯4		大窯	連房式登窯											登窯	時期	合計
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ古	Ⅳ新	計	前	後	前	後	前	後	前	後	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計	不明	
					3		3		1		1	5	1	18		12	9	5	5	3	2	15	36	21	15	36			
					3	6			2				9 (赤4)			11 (赤1)		8		13				10					
										4					67 (赤4)			3			12		45		23		333 (赤4)	11 (赤7)	417 (赤15)
										1							3							13					
											9											1			4				
										11											26 (赤3)								

※縞部分再興織部向付及 登窯1から

表12　前橋城跡　関西系陶磁器一覧表

種別・器種	年代	17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後		
瀬戸黒壺	17・18 c				1							1
瀬戸黒壺	17 c 後～ 18 c					1						1
壺	17 c		3									3
壺	17・18 c				1							1
壺	18 c					1						1
壺	江戸時代					1						1
壺	不明										1	1
有耳壺	江戸時代										1	1
欧質陶軸陶器壺	18 c					1						1
色絵碗	18 c					17						17
色絵碗	18・19 c						1					1
鉄絵碗	江戸後期					11						11
鉄絵碗	江戸後期							1				1
欧質陶軸陶器碗	江戸後期							1				1
欧質陶軸陶器不明	18・19 c						1					1
瓶・徳利碗	18 c					1						1
乾山風碗	18 c					1						1
小杉碗	18 c 中					1						1
小杉碗	18 c 後						1					1
小杉碗	18 c 後～ 19 c 中										3	3
小杉碗	不明					2						2
梅文碗	19 c								1			1
刷毛目碗	18 c 後～ 19 c								1			1
染付碗	1820 ～ 60年代								1			1
染付碗	19 c								1			1
染付小碗	1820 ～ 60年代								1			1
小碗	19 c								1			1
碗	18 c					7						7
碗	18 c 中～ 19 c 前						1					1
碗	19 c 前							2				2
碗	18・19 c						1					1
碗か向付	18 c					1						1
色絵小碗	18 c					1						1
色絵小杯	18 c 末～ 19 c 中							1				1
色絵杯	19 c 中								1			1
小杯	19 c								1			1
欧質陶軸陶器皿	17 c 後～ 18 c				1							1
欧質陶軸陶器皿	18・19 c						1					1
色絵皿	18 c					1						1
色絵小皿	18 c					1						1
すり鉢	18・19 c						1					1
小鉢	18 c					2						2
大丸小鉢	18 c ～ 19 c						1					1
袋物か蓋物	18・19 c						1					1
蓋物	18 c 後～ 19 c								1			1
灯火皿	18 c 後～ 19 c								1			1
合子蓋	18 c 後～ 19 c 中							1				1
蓋	18・19 c						1					1
蓋	19 c								1			1
花生け	17 c 後～ 18 c				1							1
青磁色絵瓶	19 c								1			1
青磁色絵壺	19 c								1			1
人形か水滴	18 c					1						1
色絵色の水入	18 c					1						1
色絵水指	18 c					1						1
土瓶	18 c 後～ 19 c								1			1
土瓶(ミニチュア)	19 c 初～中								2			2
											合計	97

表13　前橋城跡　貿易陶磁器一覧表

種別・器種	年代	14世紀			15世紀			16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	
青磁盤	14ｃ～15ｃ前		1																	1
青磁盤	14ｃ後～15ｃ前			1																1
青磁碗	14ｃ末～15ｃ中				1															1
青磁小皿か	14ｃ後～15ｃ前			1																1
白磁小皿	15ｃ～16ｃ						1													1
染付碗	16ｃ後									1										1
染付碗	16ｃ末～17ｃ前										2									2
染付碗	16ｃ末～17ｃ初										1									1
染付碗か	17ｃか											1								1
碗か皿	17ｃ頃											1								1
白磁小杯	16ｃ後									1										1
染付皿	16ｃ前～中							2												2
染付皿	16ｃ								2											2
染付皿	16ｃ後									1										1
染付皿	16ｃ後～17ｃ初									1										1
染付皿	16ｃ第4～17ｃ初									1										1
染付皿	16ｃ末～17ｃ初									3										3
染付皿	16ｃ末～17ｃ前									1										1
染付皿	17ｃ前										2									2
白磁皿	16ｃ							6												6
白磁皿	明末										1									1
染付小皿	16ｃ第4～17ｃ前									1										1
染付小皿	16ｃ							2												2
染付小皿	16ｃ後									2										2
染付小皿	16ｃ末～17ｃ前									1										1
染付鉢	16ｃ末～17ｃ初									1										1
壺	17ｃ前後											1								1
染付碗	明末～清																	1		1
染付小碗	18ｃ後～19ｃ前																1			1
染付小碗	19ｃ																	2		2
染付器物脚	18ｃ末～19ｃ																	1		1
染付合子	18ｃ末～19ｃ																	1		1
染付入形か水滴	18ｃ後～19ｃ前																1			1
																			合計	47

表14　前橋城跡３号溝　肥前系陶磁器一覧表

種別・器種	年代	16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
只器手碗	17ｃ中～末					1									1
刷毛目碗	18ｃ前～中								1						1
刷毛目大皿	17ｃ後～18ｃ前						1								1
三島手大皿	17ｃ後						4								4
三島手大皿	17ｃ後～18ｃ初						1								1
三島手大皿	17ｃ末～18ｃ前						1								1
大皿か鉢	18ｃ前～中								1						1
大皿	17ｃ後～18ｃ前						1								1
色絵碗	1690 ～ 1730年代							1							1
染付碗	1690 ～ 18ｃ前							1							1
染付碗	18ｃ前							1							1
染付碗	18ｃ前～中								1						1
染付碗	18ｃ第2～第3								1						1
染付碗	18ｃ中～末									1					1
染付碗	18ｃ後									6					6
染付碗	1770 ～ 1830年代									1					1
染付碗	1780 ～ 1840年代									5					5
染付小丸碗	1780 ～ 1830年代									4					4
青磁碗	18ｃ第4～1830年代									1					1
青磁染付碗	18ｃ後									2					2
染付筒形碗	18ｃ後									2					2
染付筒形碗	1780 ～ 1840年代									2					2
筒形碗	1780 ～ 1830年代									1					1
染付端反碗	1820 ～ 60年代											1			1
染付広東碗	1780 ～ 19ｃ前									2					2
陶胎染付碗	17ｃ末～18ｃ前						1								1
陶胎染付碗	18ｃ前						3								3
染付器物	17ｃ末～18ｃ初						1								1
染付器物	18ｃ後～19ｃ初									1					1
染付器物	18ｃ第4～19ｃ初									1					1
染付器物	18ｃ末～19ｃ前									1					1
染付器物の器	18ｃ末～19ｃ前									1					1
染付器	18ｃ								1						1
染付小碗	18ｃ第2～第3								1						1
染付小碗	1770 ～ 1830年代									7					7
瑠璃釉小碗	18ｃ末～19ｃ前									1					1
染付小杯	18ｃ								2						2
染付小杯	18ｃ後									1					1
染付小杯	19ｃ初～中											1			1
白磁か染付小杯	18ｃ後									1					1
染付猪口	18ｃ後									2					2
染付猪口か小碗	18ｃ第2～第3								1						1
染付皿	1670 ～ 1730年代						1								1
染付皿	18ｃ前～中								1						1
染付皿	18ｃ								1						1
染付皿	18ｃ中～後									1					1
染付皿	18ｃ後									5					5
染付皿	18ｃ後～19ｃ初									1					1
青磁皿	18ｃ後									1					1
染付小皿	18ｃ前							1							1
青磁染付小皿	18ｃ後									1					1
青磁染付鉢	18ｃ後									1					1
染付器付小鉢	18ｃ前							1							1
白磁瓶皿	18ｃ								1						1
青磁香炉	17ｃ末～18ｃ前						4								4
染付小香炉	18ｃ後～19ｃ初									1					1
染付火入	18ｃ第4～19ｃ前									1					1
青磁灰落	18ｃ								1						1
染付仏飯器	18ｃ								1						1
染付仏飯器	18ｃ第4～19ｃ初									2					2
染付瓶	1630 ～ 50年代					1									1
染付瓶	18ｃ後									1					1
染付瓶	18ｃ第4～19ｃ初									1					1
染付小瓶	18ｃ第4～19ｃ前									1					1
染付小瓶	18ｃ第4～19ｃ中									1					1
染付小瓶	18ｃ末～19ｃ前									1					1
染付小瓶	18ｃ末～19ｃ中									2					2
青磁瓶	18ｃ前							1							1
青磁瓶	18ｃ								1						1
白磁壺か杯台	1690 ～ 18ｃ前							1							1
染付水滴	18ｃ中～末								1						1
不明	不明													1	1
														合計	110

表15　前橋城跡３号溝　瀬戸・美濃系陶磁器一覧表

※(志)は志戸呂の数量

	古瀬戸後期					古瀬戸	大窯1		大窯2		大窯3		大窯4		大窯	連房式登窯											登窯	時期不明	計
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ古	Ⅳ新	計	前	後	前	後	前	後	前	後	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
すり鉢										1					1						2			1			3		4
丸碗																		1						1			3		3
端反碗																								1			3		3
輪碗																								1			1		1
小碗																								1			3		3
朋輪皿																					1			2			1		1
端反皿																								1			1		1
中皿																								1			1		1
盤類																	1										1		1
片口鉢																						1					1		1
菓子鉢																								1			1		1
植木鉢																	1（志1）										1（志1）		1（志1）
水瓶																								1			1		1
鍋																										3	3		3
筒形香炉																					1			1			2		2
灯火皿																							1	4			5		5
灯火受皿																										2	2		2
ひょうそく																								1			1		1
鉢類																										1	1		1
仏具類																								1			1		1
花瓶																								1			1		1
蓋																					1						1	1	2
不明																												1（志1）	1（志1）
合計										1					1		1	1		2		1	3	3	1		38（志1）	2（志1）	41（志2）
																				1	1		5						
																							11	4					
																								1					
																	3（志1）												

表16　前橋城跡３号溝　関西系陶磁器一覧表

種別・器種	年代	16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
壺	江戸時代						2								2
有耳壺	不明													1	1
色絵碗	18ｃ								3						3
鉄絵碗	江戸後期										1				1
軟質施釉陶器碗	江戸後期										1				1
軟質施釉陶器不明	18・19ｃ										1				1
小杉碗	18ｃ中				1										1
小杉碗	18ｃ後					1									1
小杉碗	18ｃ後～19ｃ中						2								2
小杉碗	18ｃ不明													2	2
碗	19ｃ前										1				1
色絵小杯	18ｃ末～19ｃ中										1				1
器物	18ｃ後～19ｃ										1				1
合子蓋	18ｃ後～19ｃ中										1				1
土瓶（ミニチュア）	19ｃ初～中										2				2
不明	不明													1	1
														合計	21

表17　前橋城跡６号溝　肥前系陶磁器一覧表

種別・器種	年代	16世紀 前	16世紀 中	16世紀 後	17世紀 前	17世紀 中	17世紀 後	18世紀 前	18世紀 中	18世紀 後	19世紀 前	19世紀 中	19世紀 後	時期不明	合計
鉄絵皿	1590～1630年代			1											1
色絵碗	17ｃ後						2								2
白磁か色絵碗	17ｃ後						1								1
染付小碗	18ｃ前							2							2
染付小碗	18ｃ末～19ｃ中										1				1
染付小碗	18ｃ後									2					2
染付碗	18ｃ前							1							1
染付碗	18ｃ前～中								3						3
染付碗	18ｃ後									3					3
色絵鉢	18ｃ								1						1
染付皿	17ｃ後～18ｃ初						1								1
大皿	17ｃ後						1								1
仏器手碗	17ｃ後						1								1
京焼風碗	1660～90年代						1								1
京焼風碗	1620～90年代						2								2
刷毛目大皿	17ｃ後						2								2
刷毛目中皿	18ｃ第2～後								1						1
三島手大皿	17ｃ後～18ｃ初						2								2
鉄釉皿	17ｃ中～末					3									3
鉄釉皿	17ｃ後～18ｃ初						1								1
刷毛目鉢	17ｃ後						1								1
二彩手鉢	17ｃ後						1								1
青磁碗	17ｃ中～末					1									1
白磁碗	17ｃ後～18ｃ前						1								1
染付広東碗	19ｃ前										1				1
陽刻染付碗	18ｃ前							3							3
染付小杯	18ｃ後～19ｃ初									1					1
青磁大皿	1630～60年代				1										1
染付皿	17ｃ後～18ｃ前						1								1
白磁紅皿	18ｃ								1						1
染付器付鉢	18ｃ前							1							1
染付器付鉢	18ｃ後									1					1
染付段重	18ｃ後									1					1
青磁香炉	17ｃ末～18ｃ前						1								1
青磁香炉か火入	17ｃ第4～18ｃ第1						2								2
白磁帝器	17ｃ後～18ｃ前						1								1
水滴	18ｃ前						1								1
														合計	52

表18　前橋城跡６号溝　瀬戸・美濃系陶磁器一覧表

※(志)は志戸呂の数量

	古瀬戸後期 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ古	Ⅳ新	古瀬戸計	大窯1 前	大窯1 後	大窯2 前	大窯2 後	大窯3 前	大窯3 後	大窯4 前	大窯4 後	大窯計	連房式登窯 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	登窯計	時期不明	計
天目碗														1	1		2		1								3		4
志野丸碗																	1										1		1
志野向付													1		1														1
大皿																							1				1		1
すり鉢																	1				1						3		3
丸碗																	1				2						4		4
																			1										
腰錆碗																						1					1		1
せんじ碗																							4				4		4
沈線碗																							1				1		1
端反碗																										1	1		1
鉄絵皿																							1				1		1
菊皿																	1										1		1
掛絵皿																				1							1		1
梅文皿																							3				3		3
独楽																								1			1		1
黄瀬戸鉢																						1					1		1
鍋																										1	1		1

	古瀬戸後期					古瀬戸計	大窯1		大窯2		大窯3		大窯4		大窯計	連房式登窯											登窯計	時期不明	計
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ古	Ⅳ新		前	後	前	後	前	後	前	後		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
筒形香炉																								1			1		1
灯火皿																												1（法1）	1（法1）
灯火受皿																								1	1		2	1（法1）	3（法1）
花瓶																			1								1		1
水指																1											1		1
火入																				1							1		1
蓋																							1				1		1
合計													1			1	3		2	1		2	7	1	2				
													1		2	2	1			4				5		1	35	2（法2）	39（法2）
																1								1					
																1													

表19　前橋城跡６号溝　関西系陶磁器一覧表

種別・器種	年代	16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
壺	17・18ｃ						1								1
軟質施釉陶器壺	18ｃ								1						1
色絵碗	18ｃ								3						3
鉄絵碗	18ｃ								3						3
銅・呉須絵碗	18ｃ								1						1
乾山銅絵碗	18ｃ								1						1
色絵小碗	18ｃ								1						1
軟質施釉陶器皿	17ｃ後～18ｃ							1							1
花生け	17ｃ後～18ｃ							1							1
人形か水滴	18ｃ								1						1
														合計	14

表20　前橋城跡６号溝　貿易陶磁器一覧表

種別・器種	年代	14世紀			15世紀			16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
青磁盤	14ｃ～15ｃ前		1																		1
染付碗	16ｃ後								1												1
染付皿	16ｃ後頃								1												1
染付皿	16ｃ末～17ｃ初									1											1
染付小皿	16ｃ							1													1
																				合計	5

表21　前橋城跡10号溝　肥前系陶磁器一覧表

種別・器種	年代	16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
陶胎染付碗	18ｃ前							1							1
柳毛目碗	18ｃ前							1							1
蓋物の蓋	18ｃ第2～第3								1						1
														合計	3

表22　前橋城跡10号溝　瀬戸・美濃系陶磁器一覧表

※(志)は志戸呂の数量

	古瀬戸後期					古瀬戸計	大窯1		大窯2		大窯3		大窯4		大窯計	連房式登窯											登窯計	時期不明	計
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ古	Ⅳ新		前	後	前	後	前	後	前	後		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
志野丸皿																1											1		1
すり鉢																1											1		1
白天目碗																	1										1		1
小碗																							1				1		1
灯火受皿																							2				2		2
合計																2	1						3				6		6

表23　前橋城跡10号溝　貿易陶磁器一覧表

種別・器種	年代	14世紀			15世紀			16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
染付皿	16ｃ前～中								1												1
染付皿	16ｃ								1												1
																				合計	2

表24　前橋城跡13号溝　肥前系陶磁器一覧表

種別・器種	年代	16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
絵唐津大皿	1590 ～ 1630年代				1										1
二彩手大皿	17ｃ後						2								2
京焼風中皿	1670 ～ 90年代						1								1
三島手皿	17ｃ後						1								1
鉄釉皿	17ｃ後						1								1
京器手碗	18ｃ前							1							1
染付碗	1670 ～ 90年代						1								1
染付皿	18ｃ前～中								1						1
染付碗	18ｃ後										1				1
染付筒形碗	1780 ～ 1830年代											1			1
青磁染付筒形碗	18ｃ後										1				1
染付端反碗	19ｃ前											1			1
染付小碗	1780 ～ 1830年代											1			1
白磁か染付小碗	18ｃ								1						1
青磁小碗	18ｃ後										1				1
染付器物	18ｃ後										1				1
青磁皿	1630 ～ 40年代					1									1
陶胎染付皿	18ｃ前							1							1
染付皿	18ｃ第4 ～ 19ｃ第1											1			1
染付小皿	18ｃ								1						1
染付段重	18ｃ後										1				1
染付うがい碗	18ｃ後										1				1
白磁瓶類	18ｃ								1						1
白磁か青磁壺	17ｃ後 ～ 18ｃ							1							1
染付壺	18ｃ										2				2
染付小壺	18ｃ第4 ～ 19ｃ前											1			1
不詳	18ｃ ～ 19ｃ中										1				1
														合計	29

表25　前橋城跡13号溝　瀬戸・美濃系陶磁器一覧表

※(志)は志戸呂の数量

	古瀬戸後期					古瀬戸計	大窯1		大窯2		大窯3		大窯4		大窯計	連房式登窯											登窯計	時期不明	計
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ古	Ⅳ新		前	後	前	後	前	後	前	後		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
天目碗					1	1	1				2				3					1							1		5
御目付大皿				1		1																							1
陣屋形香炉				1		1																							1
丸皿											2	1			3														3

	古瀬戸後期					古瀬戸計	大窯1		大窯2		大窯3		大窯4		大窯計	連房式登窯											登窯計	時期不明	計
	I	II	III	IVa古	IVb新		前	後	前	後	前	後	前	後		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
大皿														1（去1）	1（去1）														1（去1）
すり鉢										1					2														2
丸碗														1							1				1		2		2
掛分碗																1											1		1
せんじ碗																							1				1		1
端反碗																									3		3		3
梅花文碗																										4	4		4
碗																												1	1
摺縁皿																					1	1					2		2
梅文皿																					1						1		1
練鉢																								1			1		1
瀬戸鉢																												1	1
鉢																					1						1		1
平櫛櫛																								1			1		1
筒形香炉																								1			1		1
灯火皿																									1		2		2
灯火受皿																								1			4	1（去1）	5（去1）
瓶類																								3			1		1
水指																1											1		1
合計				2	1	3	1			4			2（去1）	1	9（去1）	1	1			1	1	1	1	3	4	4	27	3（去1）	42（去2）
										1										1				3		1			
																								1					

表26　前橋城跡13号溝　関西系陶磁器一覧表

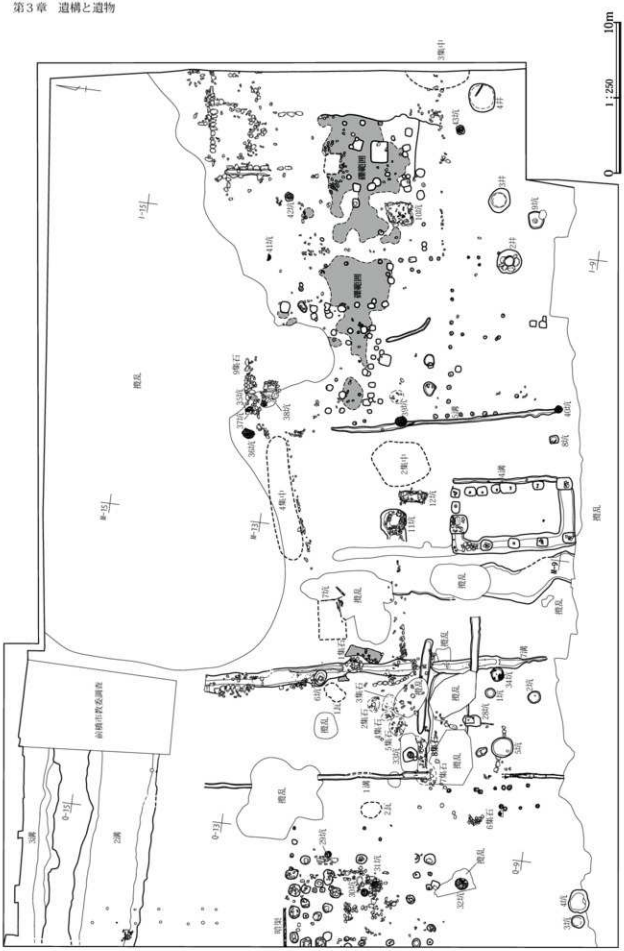
種別・器種	年代	16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
瀬戸系白磁	17・18c					1									1
鉄絵碗	18c								2						2
碗か向付	18c								1						1
小杉碗	不明													1	1
碗	18c中～19c前									1					1
色絵皿	18c								1					1	1
														合計	7

表27　前橋城跡13号溝　貿易陶磁器一覧表

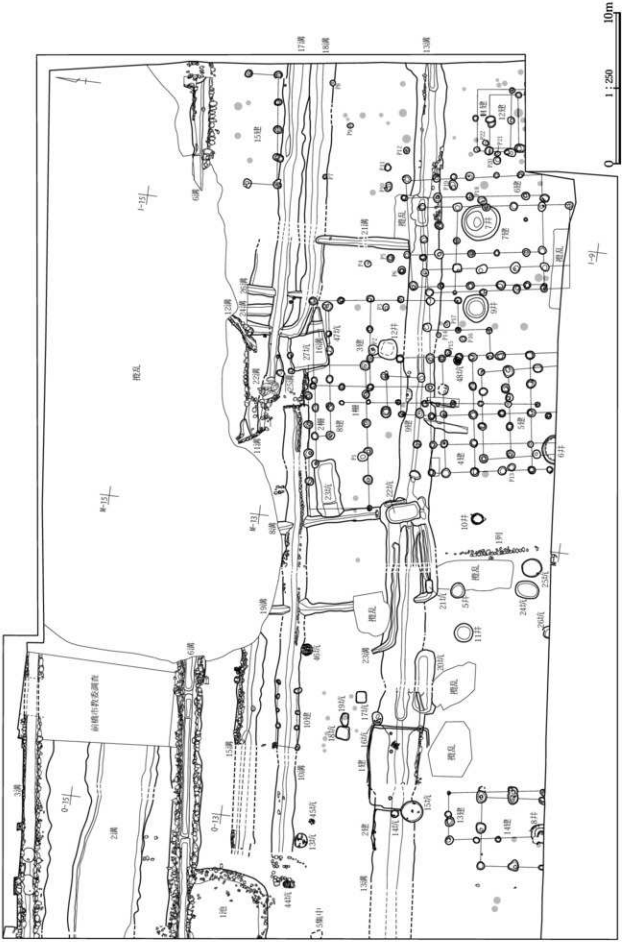
種別・器種	年代	14世紀			15世紀			16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
青磁盤	14c後～15c前				1																1
青磁碗	14c末～15c中					1															1
染付皿	16c末～17c初									1											1
染付小皿	16c末～17c前									1											1
染付鉢	16c末～17c初									1											1
																				合計	5

表28　前橋城跡18号溝　貿易陶磁器一覧表

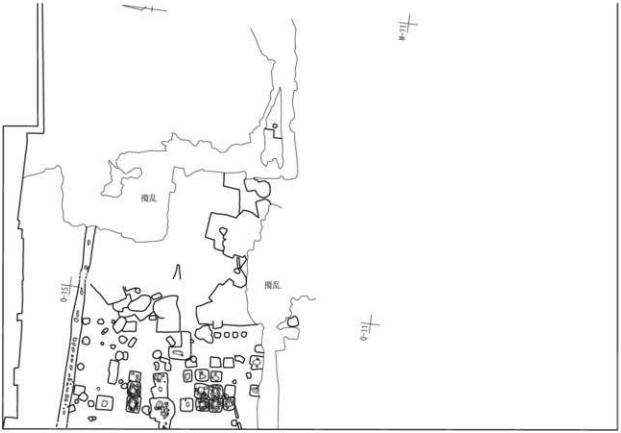
種別・器種	年代	14世紀			15世紀			16世紀			17世紀			18世紀			19世紀			時期不明	合計
		前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後	前	中	後		
青磁小皿	14c後～15c前			1																	1
染付碗	17c										1										1
																				合計	2



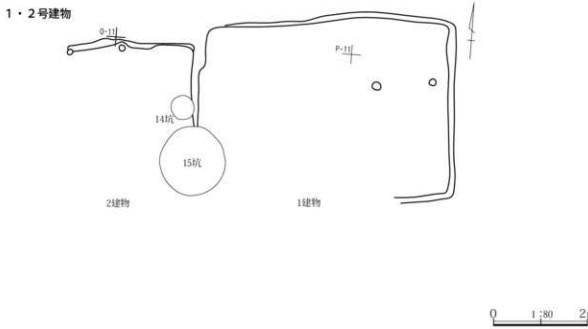
第８図　前橋城跡 確認面１面全体図



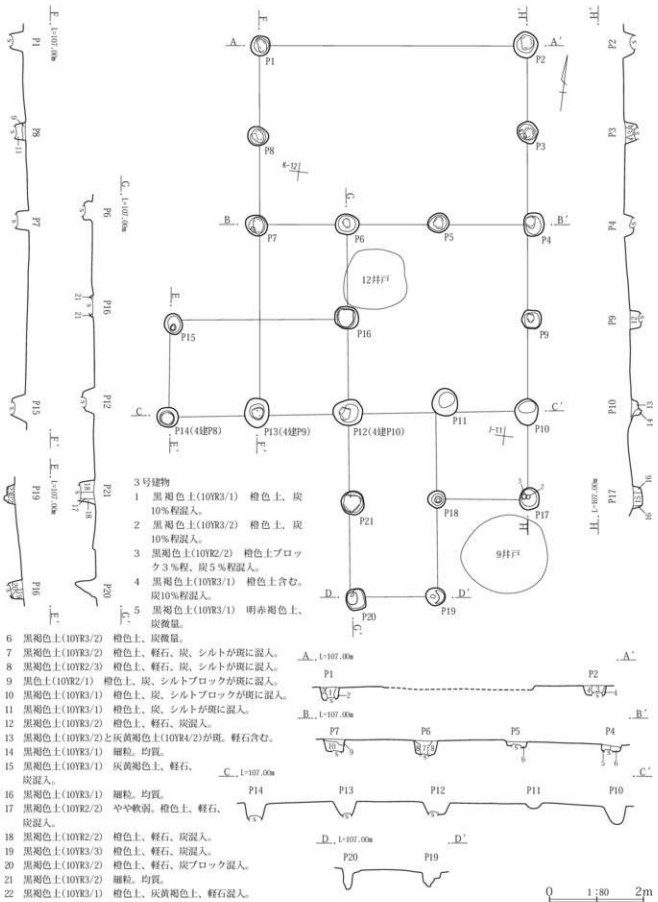
第９図　前橋城跡 確認面２面全体図



前機城跡　確認面１面上全体図



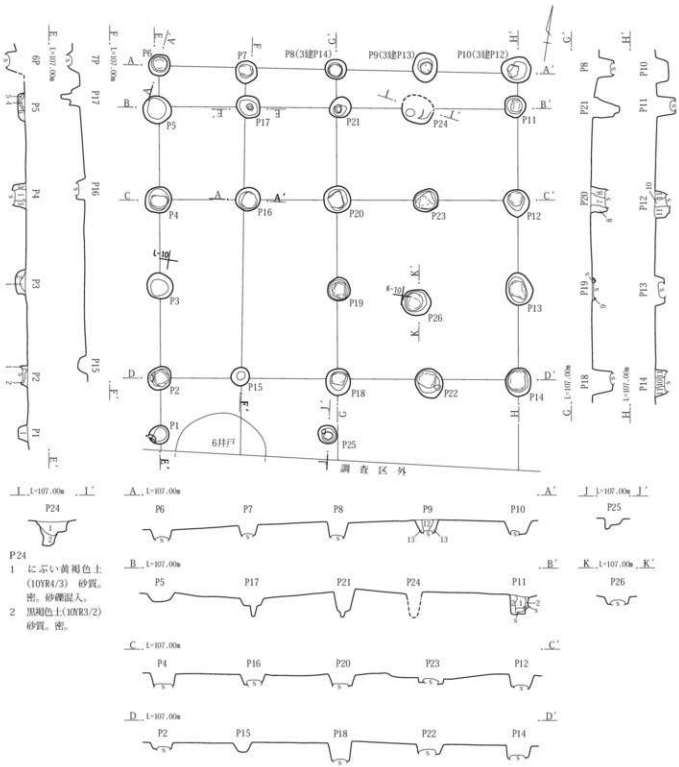
第10図　前機城跡　確認面１面上全体図、１・２号建物



3号建物

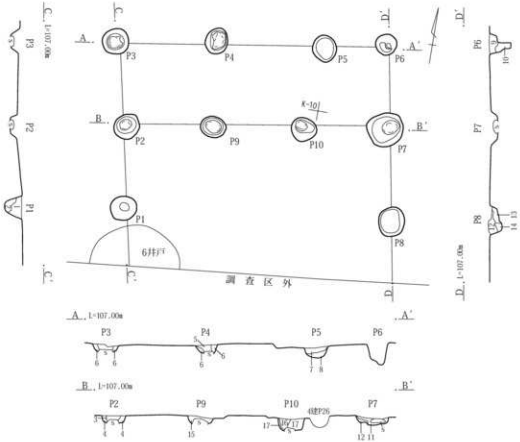
1　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土、炭10%程混入。
2　黒褐色土(10YR3/2)　橙色土、炭10%程混入。
3　黒褐色土(10YR2/2)　橙色土ブロック3%程、炭5%程混入。
4　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土含む。炭10%程混入。
5　黒褐色土(10YR3/1)　明赤褐色土、炭微量。
6　黒褐色土(10YR3/2)　橙色土、炭微量。
7　黒褐色土(10YR3/2)　橙色土、軽石、炭、シルトが斑に混入。
8　黒褐色土(10YR2/3)　橙色土、軽石、炭、シルトが斑に混入。
9　黒色土(10YR2/1)　橙色土、炭、シルトブロックが斑に混入。
10　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土、炭、シルトブロックが斑に混入。
11　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土、炭、シルトが斑に混入。
12　黒褐色土(10YR3/2)　橙色土、軽石、炭混入。
13　黒褐色土(10YR3/2)と灰黄褐色土(10YR4/2)が斑。軽石含む。
14　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。均質。
15　黒褐色土(10YR3/1)　灰黄褐色土、軽石、炭混入。
16　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。均質。
17　黒褐色土(10YR2/2)　やや軟弱。橙色土、軽石、炭混入。
18　黒褐色土(10YR2/2)　橙色土、軽石、炭混入。
19　黒褐色土(10YR3/3)　橙色土、軽石、炭混入。
20　黒褐色土(10YR3/2)　橙色土、軽石、炭ブロック混入。
21　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。均質。
22　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土、灰黄褐色土、軽石混入。
23　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　橙色土が斑に混入。

第11図　3号建物


P8(3建P14)
P9(3建P13)
P10(3建P12)
6井戸
調 査 区 外
P24
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。密。砂礫混入。
2　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。
4号建物
1　黒褐色土(10YR2/2)　細粒。明赤褐色土10%程混入。
2　黒褐色土(10YR2/2)　明赤褐色土15%程混入。
3　黒褐色土(10YR3/1)　明赤褐色土10%程混入。
4　黒褐色土(10YR3/1)
5　黄褐色土(10YR5/2)　粘質土。灰含む。
6　黒褐色土(10YR2/2)　粘質土。
7　黒褐色土(10YR3/1)　粘質土。橙色土10%程混入。
8　黒褐色土(10YR3/2)　粘質土。橙色土30%程混入。
9　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。橙色土10%程混入。
10　黒褐色土(10YR3/3)　橙色土10%程混入。炭微量。
11　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土10%程混入。炭ブロック含む。
12　黒褐色土(10YR3/1)　やや軟質。橙色土、軽石、炭混入。
13　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。均質。橙色土、軽石、炭混入。
0　1:80　2m

第12図　４号建物

5号建物



5号建物

1　黒褐色土(10YR2/2)　密。橙色土、軽石、炭混入。
2　黒色土(10YR2/1)　細粒。均質。密。軽石含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄橙色土、軽石、炭混入。
4　黒褐色土(10YR3/3)　黄橙色土、軽石、炭混入。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄橙色土、橙色土、軽石、炭が斑に混入。
6　黒褐色土(10YR2/2)　軽石、炭混入。
7　黒褐色土(10YR3/2)　橙色土、軽石、炭混入。
8　黒褐色土(10YR3/2)と橙色土(5YR6/8)が斑に混入。細粒。均質。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　橙色土、軽石が混入。
10　黒褐色土(10YR3/3)　やや軟弱。橙色土混入。
11　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土、軽石、炭混入。
12　黒褐色土(10YR3/3)　橙色土、軽石、炭、混入。
13　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。均質。橙色土混入。
14　黒褐色土(10YR2/2)　細粒。均質。橙色土混入。
15　橙色土(5YR6/8)　炭ブロック含む。
16　黒褐色土(10YR3/1)　明黄褐色土、炭混入。
17　黒褐色土(10YR3/3)　明黄褐色土、炭混入。

6号建物

6号建物Ｐ３
1　黒色土(10YR2/1)　橙色土、炭10%程混入。
2　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色土10%程混入。

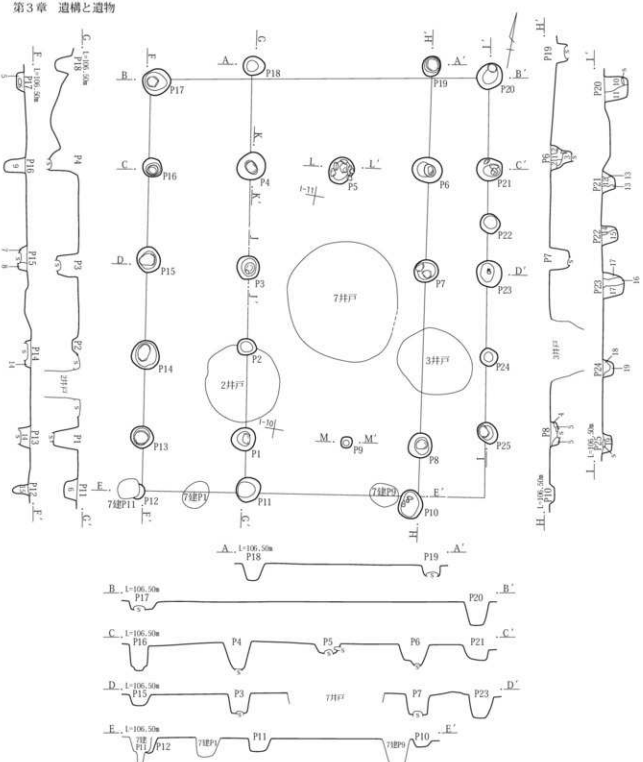
6号建物Ｐ４
1　黒色土(10YR2/1)　橙色土(5YR6/8)、炭10%程混入。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土が斑に混入。

6号建物Ｐ５
1　褐灰色土(10YR4/1)　にぶい黄橙色土と橙色土が斑に混入。

6号建物Ｐ９
1　黒褐色土(10YR2/2)　やや軟弱。黄橙色土混入。

0　1:80　2m

第13図　5・6号建物

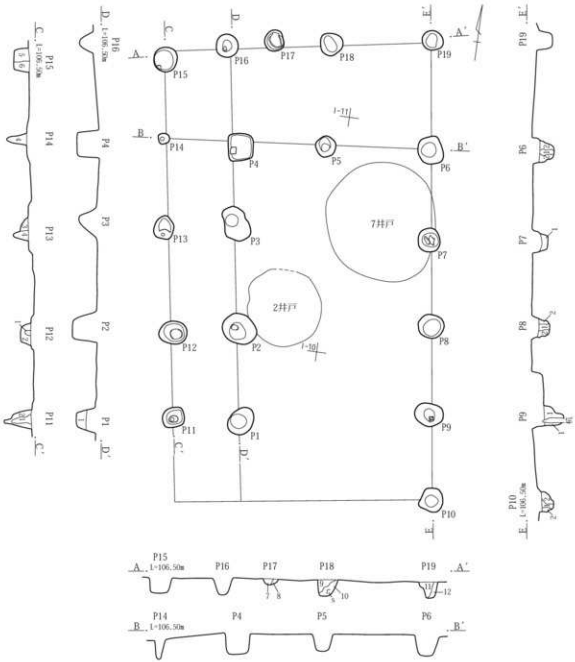


6号建物

1　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土と炭が斑に混入。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　橙色土と灰が斑に混入。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　やや軟弱。橙色土と灰が斑に混入。
4　黒褐色土(10YR3/1)　にぶい黄褐色土と橙色土が斑に混入。
5　黒褐色土(10YR2/2)　にぶい黄橙色土と橙色土が斑に混入。
6　黒褐色土(10YR3/3)　明赤褐色土15％程混入。
7　黒褐色土(10YR3/1・10YR3/2)　細粒。均質。やや軟弱。軽石含む。
8　黒褐色土(10YR2/2・10YR3/2)　細粒。均質。軽石含む。
9　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。均質。
10　黒褐色土(10YR3/1)　明赤褐色土と黄橙色土、炭混入。
11　黒褐色土(10YR2/2)　やや軟弱。黄橙色土混入。
12　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土、軽石、灰混入。
13　黒褐色土(10YR3/2)　橙色土混入。
14　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土混入。
15　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。均質。
16　黒褐色土(10YR3/1)　黄橙色土、木片含む。
17　黒褐色土(10YR2/2)　黄橙色土、炭ブロック混入。
18　黒褐色土(10YR3/2)と黄橙色土(10YR8/6)が斑に混入。
19　黒褐色土(10YR3/3)　均質。やや軟弱。軽石含む。

0　1:80　2m

第14図　6号建物

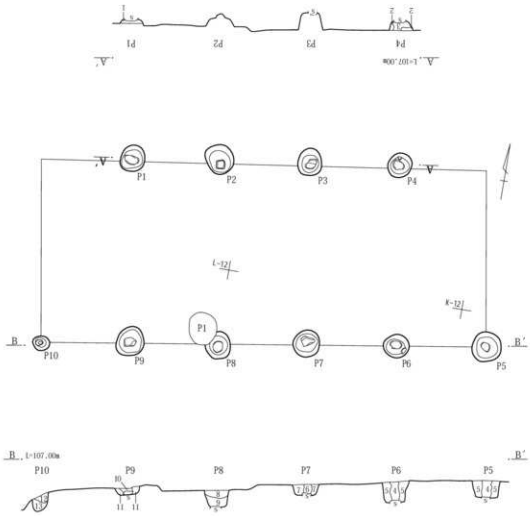


7号建物

1　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。均質。橙色土と炭混入。
2　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。均質。橙色土と炭混入。
3　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。均質。軽石混入。
4　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。均質。やや軟弱。軽石含む。
5　黒褐色土(10YR3/3)　軽石含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　軽石含む。
7　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。均質。軽石混入。
8　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。にぶい黄褐色土、軽石含む。
9　黒褐色土(10YR3/2)　橙色土、にぶい黄褐色土炭、軽石、炭を含む。
10　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土、にぶい黄褐色土炭、軽石、炭を含む。
11　黒褐色土(10YR3/1)と炭黄褐色土(10YR4/2)が斑に混入。軽石、炭、橙色土を含む。
12　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土、軽石、炭を含む。

0　1:80　2m

第15図　7号建物

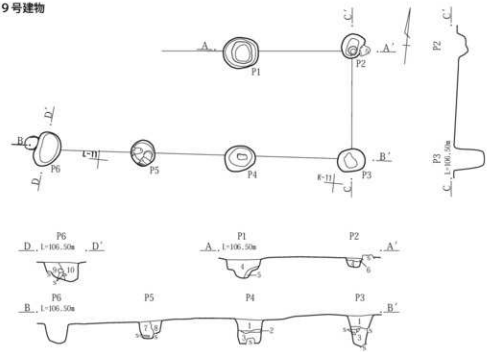


８号建物
1　黒色土(10YR2/1)　細粒。均質。
2　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。橙色土５％程混入。
3　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。明赤褐色土15％程混入。
4　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土と炭が斑に混入。
5　黒褐色土(10YR3/2)　橙色土と炭が斑に混入。
6　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土と炭が斑に混入。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　軽石と明赤褐色土を微量に含む。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　軽石微量。明赤褐色土10％程混入。
9　黒褐色土(10YR3/1)　炭ブロック混入。
10　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。
11　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。軽石と炭微量。
12　黒色土(10YR2/1)　粘質土。均質。
13　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。軽石微量。

0　1:80　2m

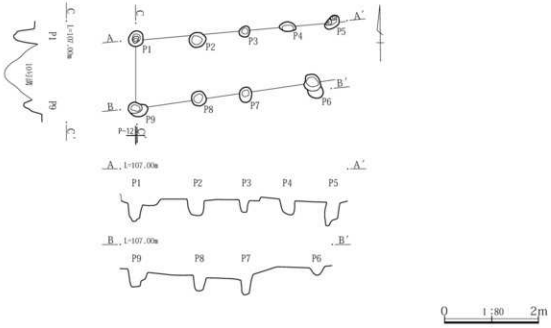
第16図　８号建物

9号建物



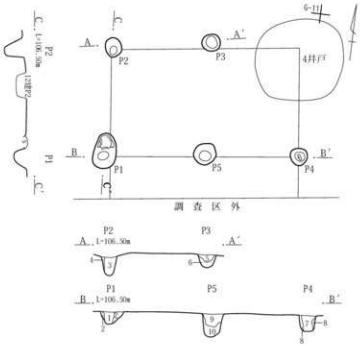
9号建物
1　灰黄褐色土(10YR4/2)と黒褐色土(10YR2/2)が斑に混入。
2　黒色土(10YR1/2)　帯状。
3　黒褐色土(10YR3/1)　砂状。均質。
4　黒褐色土(10YR3/1)　砂状。均質。
5　黒褐色土(10YR3/2)　橙色土混入。
6　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。軽石微量。
7　黒褐色土(10YR3/1)　橙色土と炭が斑に混入。
8　黒褐色土(10YR2/2)　橙色土と炭が斑に混入。
9　黒褐色土(10YR3/1)　軽石微量。
10　黒褐色土(10YR2/2)　軽石微量。

10号建物



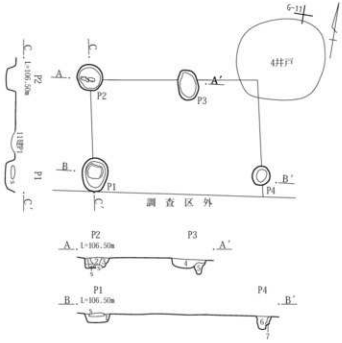
第17図　9・10号建物

11号建物



11号建物
1　黒褐色土(10YR3/3)　硬質。橙色土、炭、軽石含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　硬質。橙色土、炭、軽石含む。
3　黒褐色土(10YR3/1)　やや軟弱。明黄褐色土混入。
4　黒色土(10YR2/1)　細粒。均質。
5　黒褐色土(10YR3/1)　硬質。橙色土含む。
6　黒褐色土(10YR3/3)　細粒。均質。軟弱。
7　黒色土(10YR2/1)　軟弱。橙色土混入。
8　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。均質。橙色土含む。
9　黒褐色土(10YR3/2)　軽石、炭ブロック混入。
10　黒褐色土(10YR2/2)　細粒。均質。

12号建物

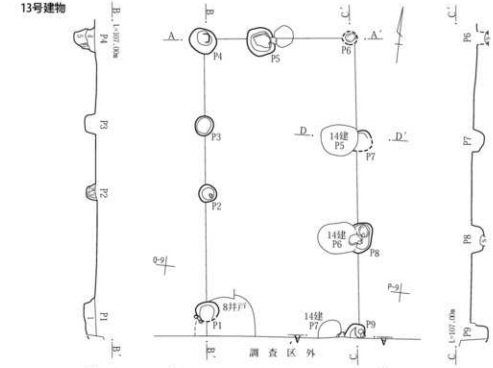


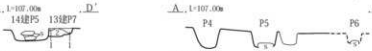
12号建物
1　黒褐色土(10YR2/2)　硬質。黄橙色土、軽石含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　硬質。黄橙色土、軽石含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　硬質。黄橙色土、軽石含む。
4　黒褐色土(10YR3/1)　硬質。黄橙色土、軽石、炭含む。
5　黒褐色土(10YR2/2)　やや軟弱。黄橙色土、軽石。炭含む。
6　黒色土(10YR2/1)やや軟弱。黄橙色土、炭含む。
7　黒色土(10YR2/2)やや軟弱。黄橙色土、炭含む。

0　1:80　2m

第18図　11・12号建物

13号建物





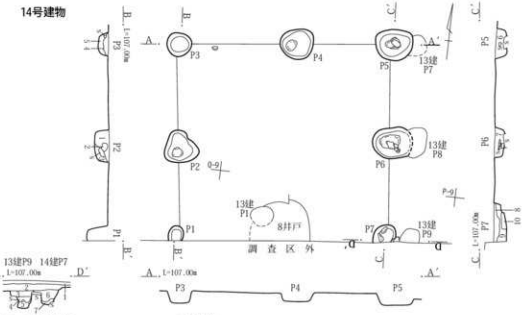
13号建物Ｐ７、14号建物Ｐ５

1　明黄褐色シルト(10YR7/6)
2　暗褐色土(10YR3/2)　径１cm程のシルト15％程混入。

13号建物

1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　焼土、炭、鉄分とシルト10％程混入。
2　明黄褐色シルト(10YR6/6)
3　Ｐ１の１層と同質。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　シルト５％程混入。
5　黒褐色土(10YR3/3)　砂質。
6　黒褐色土(10YR3/2)　シルト混入。

14号建物



14号建物Ｐ９、13号建物Ｐ７

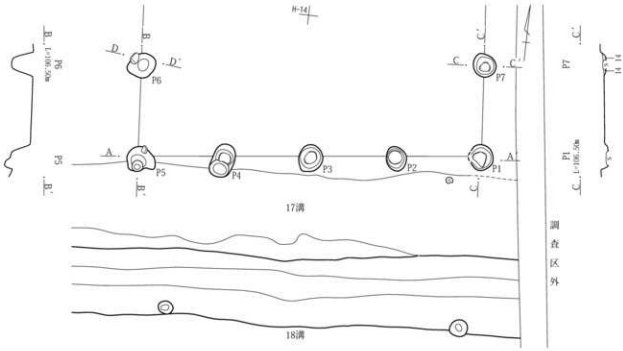
1　明黄褐色シルト(10YR6/4)　１面整地層。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　シルト、褐灰色土が斑状に混入。
3　黒褐色土(10YR3/2)　砂質シルト15％程混入。
4　黒褐色土(10YR3/2)　砂質シルト、炭混入。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　砂質。
6　黒褐色土(10YR3/2)
7　明黄褐色シルト(10YR6/6)

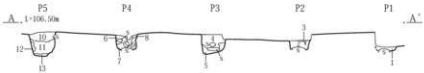
14号建物

1　暗褐色土(10YR3/3)　シルト、鉄分混入。
2　褐灰色土(10YR4/1)　砂質。
3　１層と同質。シルト多い。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　シルト20％程混入。
5　１層と同質。シルト５％程混入。
6　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　シルト10％程混入。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　シルト５％程混入。
8　黒褐色土(10YR3/2)　粘質。鉄分混入。
9　明黄褐色土(10YR6/6)　シルト。
10　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。シルト３％程混入。

0　1:80　2m

第19図　13・14号建物





15号建物

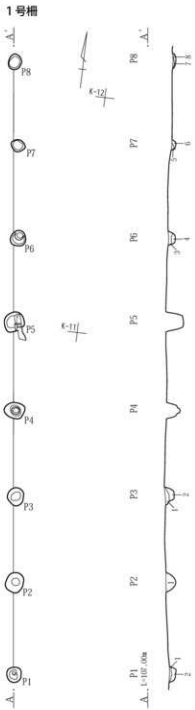
1　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。
2　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。
3　シルトブロック
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。シルト斑紋状に混入。焼土、炭混入。
5　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。シルト混入。
6　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。焼土、炭３％程混入。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。灰オリーブ色シルト混入。
8　灰オリーブ色シルト(5Y5/1)　ブロック状。
9　２層と同質。黒褐色土斑紋状に混入。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。軽石混入。
11　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。シルト５％程混入。
12　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。硬。
13　灰オリーブ砂層(5Y5/2)
14　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。炭３％程混入。

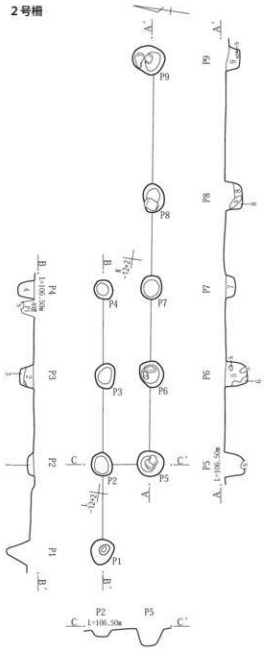
Ｐ６

1　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。
2　黒褐色土(10TR3/1)　砂質。密。鉄分混入。

0　1:80　2m

第20図　15号建物



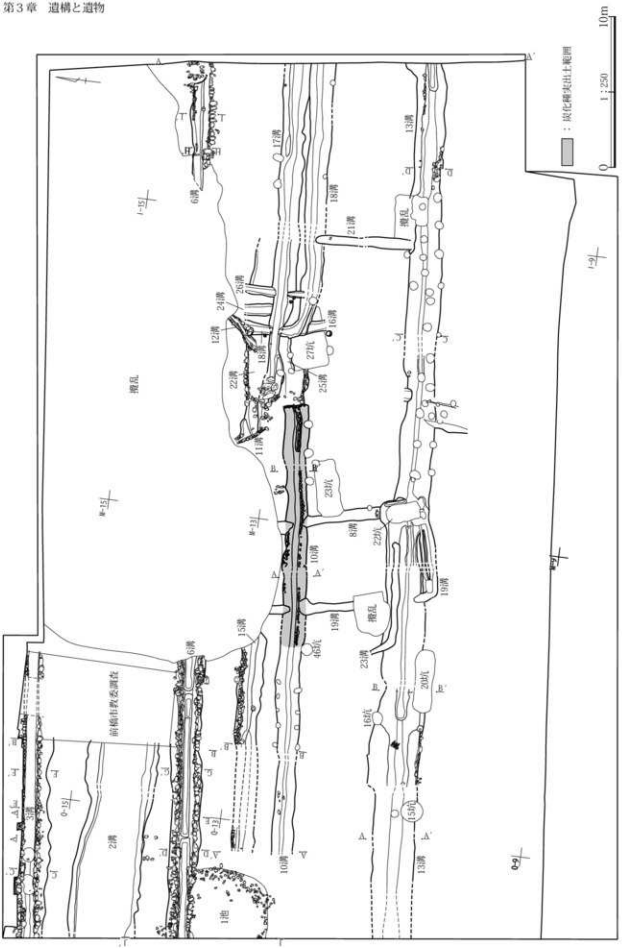


1号柵
1　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。明赤褐色土５％程混入。
2　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。明赤褐色土10％程混入。
3　黒褐色土(10YR3/2)
4　黒褐色土(10YR3/1)　細粒。明赤褐色土15％程混入。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘質土。橙色土５％程混入。
6　黒褐色土(10YR3/1)
7　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。明赤褐色土10％程混入。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　シルト。

2号柵
1　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。シルト、軽石３％程混入。
2　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。軽石、鉄分混入。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。密。
4　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。軽石、炭混入。
5　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。軽石、鉄分混入。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。密。
7　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。軽石、シルト、炭３％程混入。
8　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。密。軽石、炭混入。
9　黒褐色土(10Yr3/2)　砂質。軽石混入。

0　1:80　2m

第21図　1・2号柵



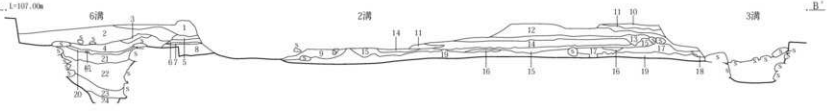
第22図　溝、道状遺構全体図（２・３・６・10・13・15・17・18号溝）

A L=107.00m A'

3号溝に接続する溝A—A'

1　オリーブ黒色土(10Y3/2)　細粒。均質。粘性。
2　1層と同質。灰白色シルト混入。
3　オリーブ灰色土(10Y4/2)　細粒。均質。
4　オリーブ黒色土(5Y3/2)　粘性。灰白色シルト混入。
5　3層と同質。1層が斑紋状に混入。

B L=107.00m

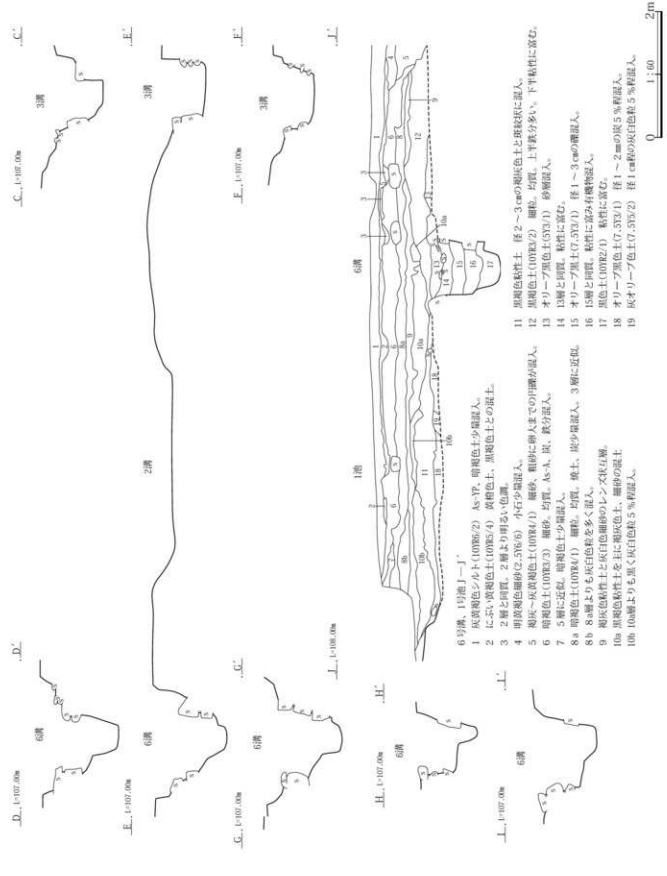


2・3・6号溝B—B'（十人小路）

1　黒褐色土(10YR3/2)　細粒。均質。As-A、鉄分混入。
2　褐灰色土(10YR4/1)　細粒。均質。As-A混入。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　細粒。縞状の互層。
4　灰色土(5Y4/1)　細粒。均質。粘性がある。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　細粒。硬。
6　5層と同質。鉄分の多い細砂が互層にある。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　細砂。鉄分が多い。
8　褐灰色土(10YR4/1)　灰黄褐色土細砂と互層。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　細粒。硬。
10　灰黄褐色土(10YR5/2)　シルト質。
11　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　細砂。
12　褐灰色土(10YR5/1)　最大15mmまでの小石と細砂、鉄分との互層。
13　褐灰色土(10YR4/1)　最大2mmまでの砂粒と互層。硬。
14　13層と同質。細砂と互層。13層より色調は暗い。
15　13層と同質。小石、鉄分が多い。硬。
16　15層と同質。15層よりも鉄分が少ない。
17　黄灰色土(2.5Y4/1)　細粒。均質。密。細砂、鉄分混入。
18　17層と同質。シルト質土混入。
19　灰色土(10Y4/1)　粘性強。地山。
20　有機物層。板、木片が主体。
21　黄灰色土(2.5Y4/1)　シルト質。にぶい黄褐色細砂レンズ状に混入。
22　黒褐色土(10YR3/2)　粘性に富む。細砂が径3～5cmで斑紋状に混入。
23　黒褐色土(10YR3/1)　粘性に富む。有機物混入。
24　黒褐色土(10YR3/1)　オリーブ黒シルト15%程混入。

0　1:60　2m

第22図　2・3・6号溝①


D'
D　I=107.00m
6溝
E
E'
E　I=107.00m
6溝
C
C'
C　I=107.00m
6溝
2溝
B
B'
B　I=107.00m
6溝
A
A'
A　I=107.00m
6溝
C'
C　I=107.00m
3溝
F
F'
F　I=107.00m
3溝
J
J'
J　I=108.00m
1溝
6溝
0
1:60
2m
6号溝、15溝Ⅰ—Ⅰ'
1　灰黄褐色シルト(10BG/2)　As-YP、黒褐色土少混入。
2　にぶい黄褐色土(10BG/4)　黄橙色土、黒褐色土との混土。
3　2層と同質、2層よりも明るい色調。
4　明黄褐色砂(2.5Y6/6)　小石少混入。
5　褐灰—灰黄褐色土(10YR4/1)　細砂、粗砂に粒入まりの円礫が混入。
6　暗褐色土(10BG/3)　細砂、均質、As-A、炭、鉄分混入。
7　5層に近似、暗褐色土少混入。
8a　暗褐色土(10YR4/1)　細砂、均質、硬土、炭少混入。3層に近似。
8b　8a層よりも灰白色を多く混入。
9　褐灰色粘性土と灰白色細砂のレンズ状互層。
10a　黒褐色粘性土を主に褐灰色土、細砂の混土
10b　10a層よりも黒く灰白粒5％程混入。
11　黒褐色粘性土　径2～3cmの褐灰色土と斑状に混入。
12　黒褐色土(10BG/2)　細砂、均質、上半黒分多い、下半粘性に富む。
13　オリーブ黒色土(5Y3/1)　砂礫混入。
14　13層と同質、粘性に富む。
15　オリーブ黒土(7.5Y3/1)　径1～3cmの礫混入。
16　15層と同質、粘性に富み鉄分有機物混入。
17　黒色土(10BG/1)　粘性に富む。
18　オリーブ黒色土(7.5Y3/1)　径1～2mmの炭5％程混入。
19　灰オリーブ色土(7.5Y5/2)　径1cm程の灰白色粒5％程混入。

第24図　2・3・6号溝②

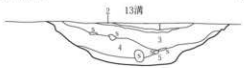
A L=107.00m A′

10号溝A－A′
1　暗褐色土(10YR3/3)　砂質。焼土、炭７％程混入。
2　１層と同質。焼土、炭15％程混入。
3　炭化物層　焼土塊、褐灰色土少量混入。
4　褐灰色土(10YR5/1)　シルト質。軟。

B L=107.00m B′

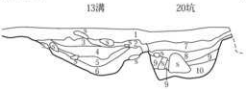
10号溝B－B′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。径１～５㎜の砂礫混入。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。密。硬。中位に褐灰色砂層。
3　炭化物層　焼土塊。下位に炭化種実混入。
4　褐灰色シルト(10YR4/1)　軟。
5　明黄褐色砂層(10YR6/6)　締り弱い。柱穴覆土。

A L=107.00m A′



13号溝A－A′
1　にぶい黄褐色土(10YR6/4)　砂質。密。硬。礫混入。
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘質。密。
3　シルト斑混土　整地土。人為埋没。
4　褐灰色土(10YR4/1)　砂質。鉄分筋状に混入。
5　灰オリーブ色土(5Y4/2)　砂質。粘性を帯びる。

B L=107.00m B′



13号溝、38号土坑B－B′
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。軽石、炭５％程混入。
2　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質。シルト、軽石、鉄分混入。13号溝覆土。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質。シルト10％程混入。13号溝覆土。
4　３層と同質。オリーブ灰色土40％程斑紋状に混入。13号溝覆土。
5　褐灰色土(10YR4/1)　粘質。細砂レンズ状に混入。13号溝覆土。
6　褐灰色土(10YR5/1)　粘質。細砂20％程混入。13号溝覆土。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。密。硬。20号土坑覆土。
8　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。20号土坑覆土。
9　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。As-C混入。20号土坑覆土。
10　褐灰色土(10YR5/1)　粘性を帯びる。密。20号土坑覆土。

C L=107.00m C′

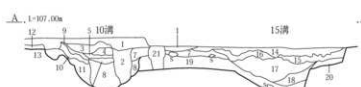
13号溝C－C′
1　シルト斑混土　密。砂礫多数混入。
2　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。硬。細砂、シルトが縞状に混入。
3　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。軽石、炭３％程混入。
4　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。細砂、シルト混入。

D L=107.00m D′

13号溝D－D′
1　灰オリーブシルト砂質土(5Y6/2)　黒褐色土斑紋状に混入。
2　１層と同質。にぶい黄褐色土、炭30％程混入。
3　１層と同質。シルト質。黒褐色土斑紋状に混入。
4　褐灰色土(10YR4/1)　砂質。砂混入。

0　1:60　2m

第25図　10・13号溝



10・15号溝A－A′

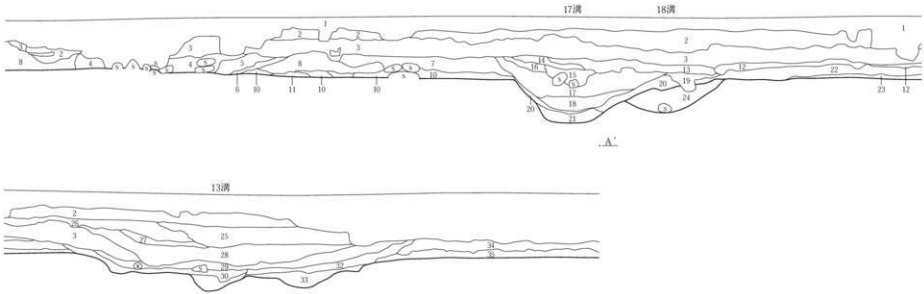
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。砂礫混入。
2　1層と同質。炭程15%程混入。
3　1層と同質。炭5%程混入。
4　1層と同質。シルト10%程混入。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。密。
6　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。炭5%程混入。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　5層に近似。シルト1%程混入。
8　炭化物層。焼土塊混入。人為埋没。
9　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。炭10%程混入。
10　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。シルト、炭10%程混入。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。炭、黒褐色粘性土斑紋状に混入。
12　シルト斑混土　密。硬。
13　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質、小礫混入。
14　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。密。シルト、軽石5%程混入。
15　14層にオリーブ灰色砂混入。
16　15層と同質オリーブ灰色砂10%程混入。
17　オリーブ灰色砂とにぶい黄褐色土が斑紋状に混入。
18　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。灰黄褐色斑紋状に混入。
19　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。レンズ状に砂混入。
20　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。シルト斑紋状に混入。
21　黒褐色土(10YR2/3)

10・15号溝B－B′

1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。密。焼土、シルト混入。
2　炭化物層　焼土塊混入。軟。
3　黄灰色土(2.5Y5/1)　シルト質。軟。
4　灰色土(5Y5/1)　シルト質。軟。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　砂質。3層混入。
6　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質。シルト混入。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。軽石混入。
8　7層にシルト混入。
9　褐灰色土(10YR4/1)　砂質。シルト混入。
10　オリーブ灰色土(10Y6/2)　シルト混入。人為埋没。
11　黒褐色土(10YR3/2)　粘質。密。
12　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。砂混入。
13　有機物層。炭化物多く混入。

0　1:60　2m

第26図　10・15号溝

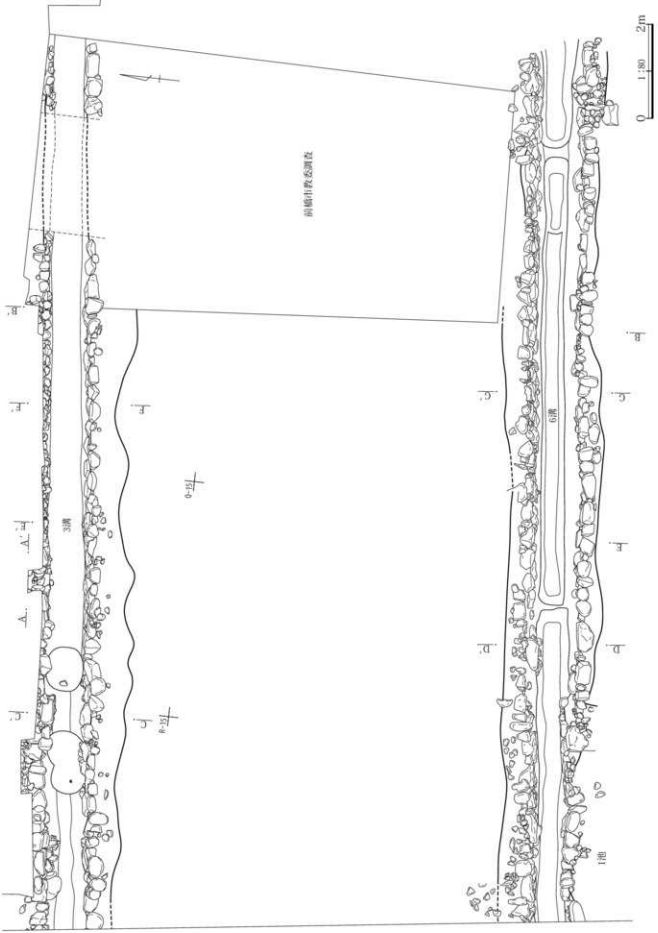


調査区東壁Ａ－Ａ'

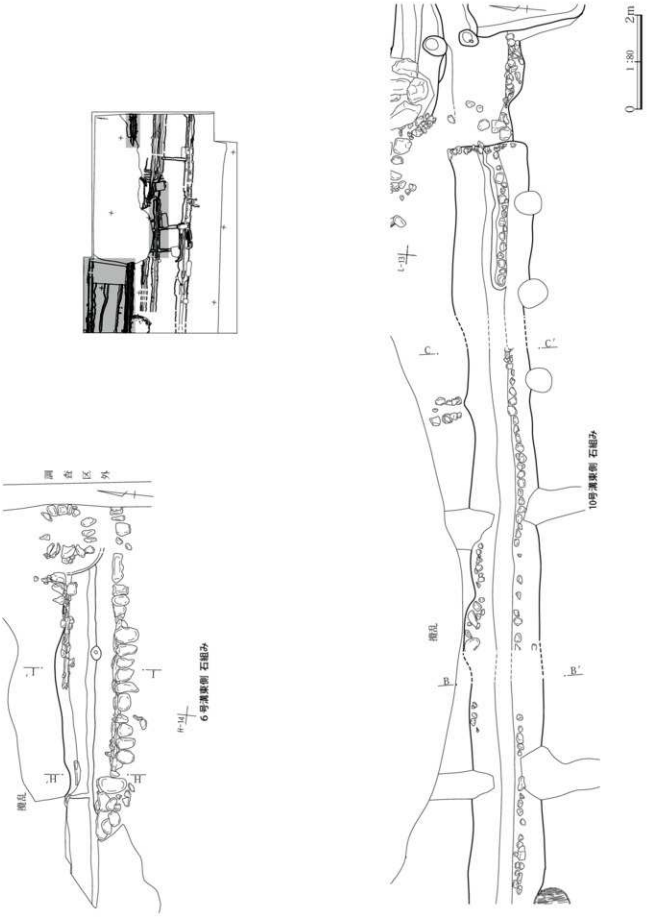
1　表土。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。軽石、シルト混入。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。均質。軽石、炭混入。
4　暗褐色土(10YR3/3)　砂質。シルト、炭混入。井戸覆土。
5　４層と同質。砂質。井戸裏込め。
6　シルト斑混土　細粒、シルトが主体。井戸裏込め。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。炭７％程混入。
8　７層と同質。鉄分が多い。
9　シルト斑混土　細粒。密。砂礫混入。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。
11　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。
12　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。シルト、砂礫混入。
13　12層と同質。軽石、シルト、炭混入。
14　12層と同質。シルトが縞状に混入。
15　12層と同質。大粒のシルト多い。
16　12層と同質。炭が少ない。
17　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。径１cm程のシルト15％程混入。
18　17層と同質。シルト７％程混入。
19　12層と同質。シルト５％程混入。
20　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。砂礫、細砂レンズ状に混入。
21　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。粘性を帯びる。
22　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　砂質。密。径１cm～卵大の砂礫20％程、細砂混入。
24　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。密。
25　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。シルト、炭が縞状に混入。現代の整地土。
26　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。軽石、シルト、炭５％程混入。
27　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。炭、焼土５％程混入。
28　シルト斑混土　密。砂礫混入。人為埋没。
29　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。シルト、炭が一部で薄い互層。
30　褐灰色土(10YR4/1)　砂質。炭、シルト３％程混入。３号遺物集中覆土。
31　オリーブ黒色土(5Y3/1)　砂質。密。砂礫混入。13号溝覆土。
32　オリーブ黒色土(5Y3/2)　砂質。細砂との互層。
33　32層と同質。細砂多い。
34　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。密。As-B混入。
35　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。密。

0　1:60　2m

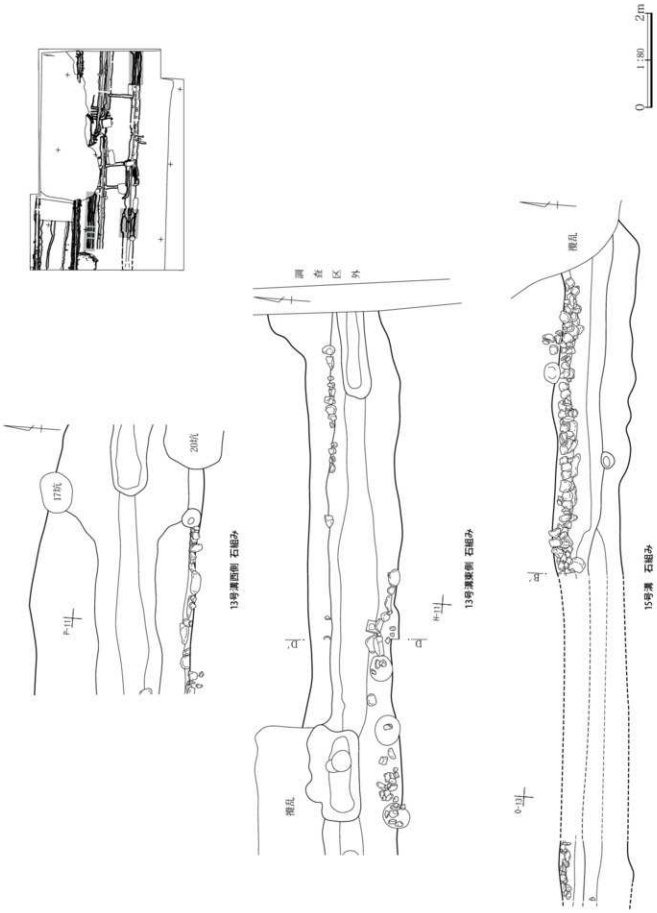
第27図　調査区東壁断面図



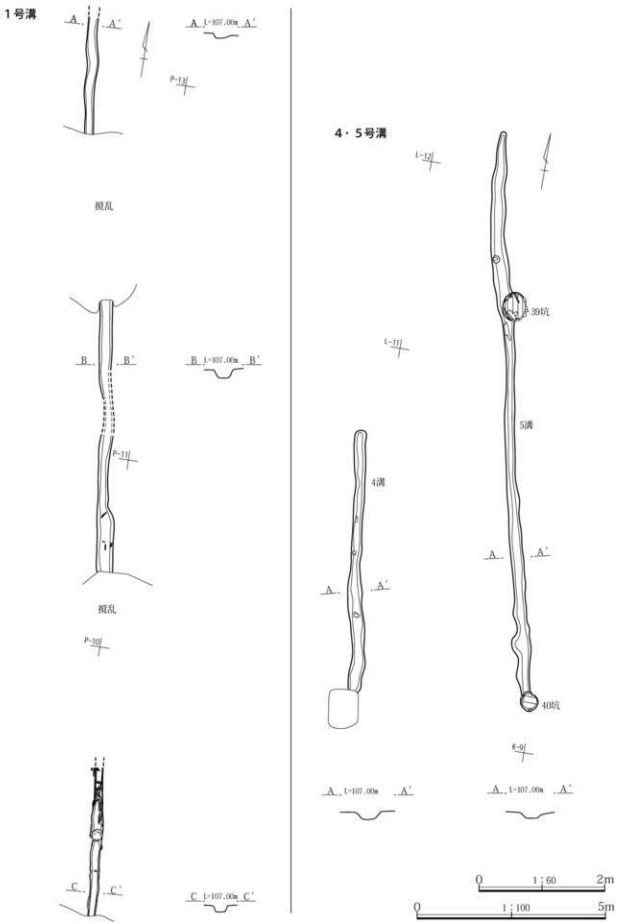
第28図　３・６号溝



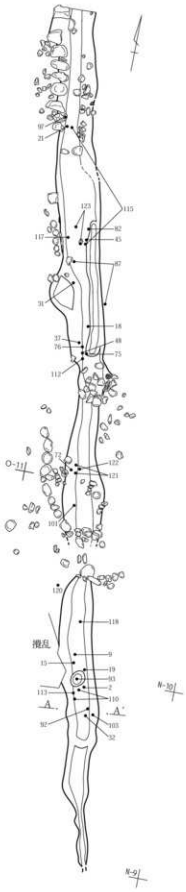
第29図　6・10号溝

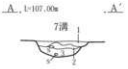


第30図　13・15号溝


1号溝
A
A'
A L=107.00m A'
P-13
撹乱
B
B'
B L=107.00m B'
P-11
撹乱
P-10
C
C'
C L=107.00m C'
4・5号溝
L-12
39坑
L-11
5溝
4溝
A
A'
40坑
K-9
A L=107.00m A'
A L=107.00m A'
0
1:60
2m
0
1:100
5m

第31図　1・4・5号溝

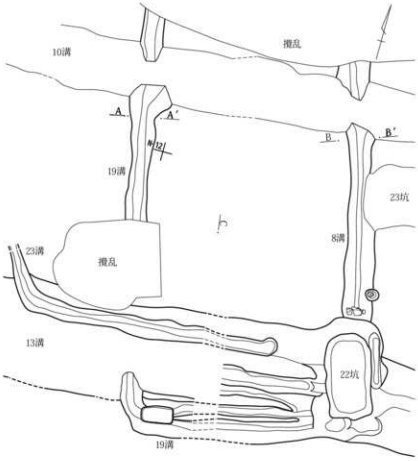


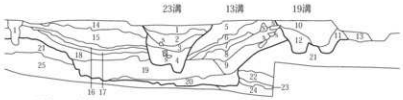


7号溝
1　にぶい黄褐色土　シルト質。砂混入。
2　灰オリーブ砂層(5Y4/2)
3　オリーブ褐色砂層(2.5Y4/4)　砂大までの礫混入。

0　1:60　2m
0　1:100　5m

第32図　７号溝





13・19・23号溝Ｃ－Ｃ'

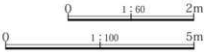
1　暗褐色土(10YR3/3)　砂質。密。軽石、砂礫混入。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。密。細砂、小礫混入。
3　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。
4　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。粘性を帯びる。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。密。径１cm程の砂礫混入。
6　５層と同質。砂礫が多い。
7　にぶい黄褐色砂層(10YR5/4)
8　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。黒色粘質土斑紋状に混入。軽石、炭混入。
9　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。シルト、炭混入。
10　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。径１cm程のシルト、炭５％程混入。
11　10層と同質。やや明るくシルトが多い。
12　10層と同質。鉄分が多い。炭混入。
13　暗褐色土(10YR3/2)　砂質。密。大粒の炭20％程混入。
14　暗褐色土(10YR3/3)　砂質。密。軽石混入。砂礫多く、鉄分も多い。
15　暗褐色土(10YR3/3)　砂質。密。軽石、鉄分混入。
16　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。細砂混入。
17　明黄褐色土(2.5Y7/6)　Hr-FA。
18　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。灰黄褐色細砂を縞状に混入。
19　黄褐色砂層(2.5Y5/6)　細砂と粗砂の互層。
20　黒褐色土(10YR3/2)　粘質。黄褐色砂層縞状に混入。
21　黄褐色土(2.5Y5/3)　砂質。密。粘性に富む。地山。
22　にぶい黄褐色砂層(10YR4/3)　細粒。密。地山。
23　にぶい黄褐色砂層(10YR4/3)　粗粒。密。小砂礫混入。地山。
24　23層と24層の互層。地山。
25　オリーブ黄色土(7.5Y5/3)　砂質。密。地山。

19号溝Ａ－Ａ'

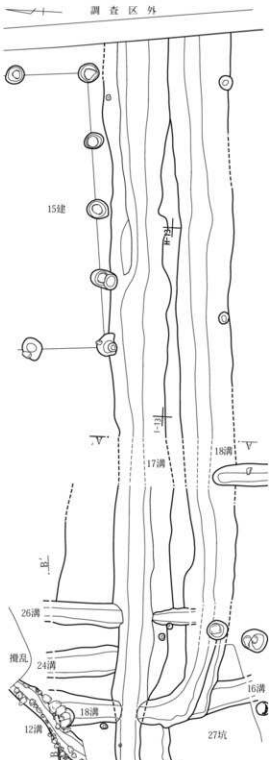
1　にぶい黄褐色土(10YR4/2)　砂質。卵大までの礫混入。

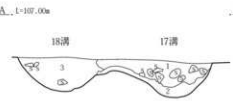
８号溝Ｂ－Ｂ'

1　暗褐色土(10YR3/3)　砂礫。砂混入。
2　１層に厚さ１～２cmの焼土と炭混入。
3　褐灰色土(10YR4/1)　焼土、炭５％程混入。
4　４層と同質。レンズ状に砂が混入。



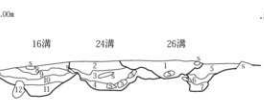
第33図　８・19・23号溝





17・10号溝Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。径１cm程のシルト、拳大～人頭大の砂礫混入。17号溝覆土。
2　褐灰色土(10YR5/1)　粘質。灰オリーブ砂縞状に混入。17号溝覆土。
3　灰オリーブ色土(5Y6/2)　シルト、砂礫、暗褐色土混入。18号溝覆土。



16・24・26号溝Ａ－Ａ'

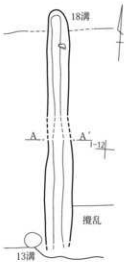
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。シルト、炭10%程混入。無名溝覆土。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。密。硬。大粒シルト25%程混入。24号溝覆土。
3　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。径３～４cmのシルト斑紋状に混入。24号溝覆土。
4　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。シルト10%程混入。24号溝覆土。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。シルト、軽石、炭３%程混入。26号溝覆土。
6　５層と同質。密。シルト10%程混入。26号溝覆土。
7　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。粘性を帯びる。大粒シルト10%程混入。26号溝覆土。
8　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。シルト、軽石３%程混入。16号溝覆土。
9　８層と同質。鉄分が多い。16号溝覆土。
10　８層と同質。シルト３%程混入。16号溝覆土。
11　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。軽石、炭5%程混入。16号溝覆土。
12　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。シルト10%程混入。無名土坑覆土。

0　1:60　2m

0　1:100　5m

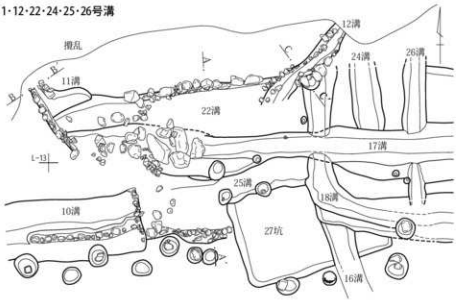
第34図　16～18・24・26号溝

21号溝

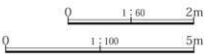


21号溝
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　密。硬。
　砂礫を多く混入。

11・12・22・24・25・26号溝

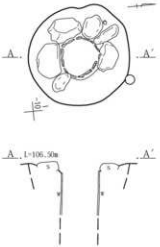


11号溝
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。軽石混入。
2　1層と同質　鉄分混入。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。径1～2cm大の円礫混入。

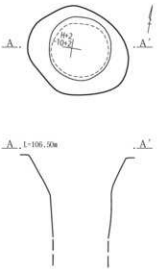


第35図　11・12・21・22・24・25・26号溝

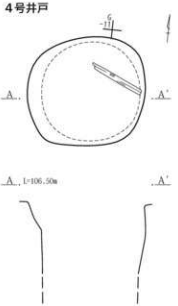
２号井戸



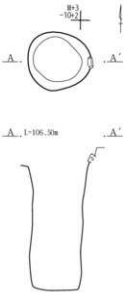
３号井戸



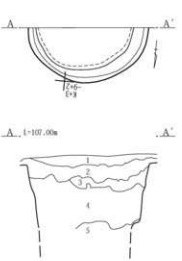
４号井戸



５号井戸

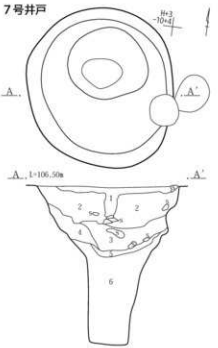


６号井戸



６号井戸
1　暗褐色土、黒褐色土ほか混土。整地層。
2　１層より黒褐色土が多い。整地層。
3　暗褐色土が多い。整地層。
4　１層に砂層が混入。整地層。
5　にぶい黄色砂層(2.5Y6/4)

７号井戸

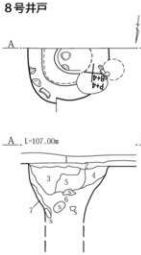


７号井戸
1　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。シルト、軽石、砂礫混入。
2　オリーブ黄色シルト(5Y6/3)　１層混入。
3　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。密。シルト混入。
4　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。シルト、炭５％程混入。
5　灰オリーブ砂層(5Y5/2)　径１cm前後の砂礫混入。
6　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。灰オリーブ色土斑紋状に混入。

0　1:60　2m

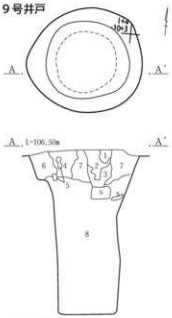
第36図　２～７号井戸

8号井戸



8号井戸
1　シルト混土　1面整地土。
2　灰色土(5Y5/1)　密。硬。1面整地土。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。シルト20％程、焼土、炭混入。
4　3層と同質。焼土が多い。
5　灰褐色土(10YR4/2)　シルト、焼土、炭混入。
6　6層と同質。焼土、石が多い。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。細粒シルト混入。

9号井戸

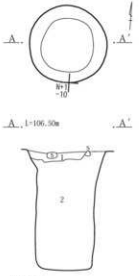


9号井戸
1　灰オリーブ色土(7.5Y6/2)　シルト混入。
2　黒褐色土(10YR3/2)　灰オリーブ色土5％程混入。
3　オリーブ黄色シルト(5Y6/4)　砂礫混入。
4　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。シルト、炭、軽石7％程混入。
5　オリーブ色土(5Y6/6)　ブロック状。
6　黒褐色土(10YR3/2)　砂質。密。灰オリーブ色土、炭3％程混入。
7　6層と同質。シルト。炭が少ない。
8　6層と同質。大粒のシルトが混入。

10号井戸

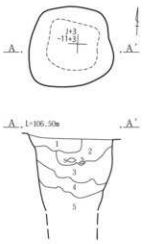
10号井戸
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。シルト、軽石、炭5％程混入。

11号井戸



11号井戸
1　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。密。
2　黒褐色土(10YR2/2)　砂質。密。径1cm前後の焼土、炭5％程混入。

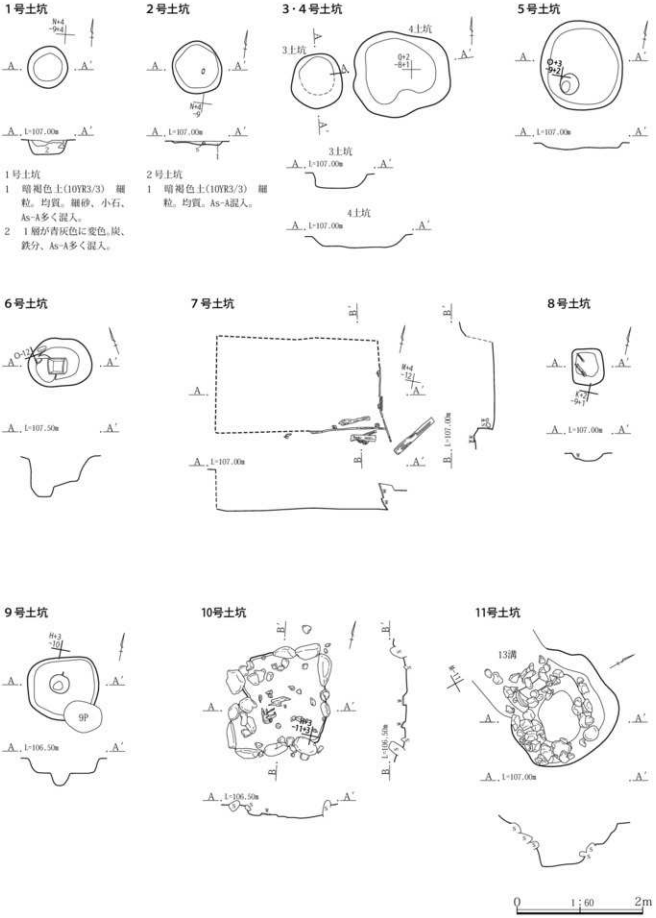
12号井戸



12号井戸
1　シルト斑混土　径1cm大の円礫多数混入。
2　1層に黒褐色土混入。
3　シルトと明褐色土の斑混土。
4　にぶい黄褐色土と黒褐色土、シルトの混土。密。
5　シルト、黒褐色土の斑混土。密。

0　1:60　2m

第37図　8～12号井戸

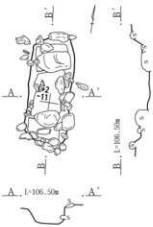


1号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　細粒。均質。礫砂、小石、As-A多く混入。
2　1層が青灰色に変色。炭、鉄分、As-A多く混入。

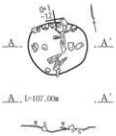
2号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　細粒。均質。As-A混入。

第38図　1～11号土坑

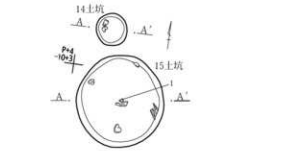
12号土坑



13号土坑



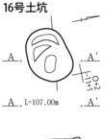
14･15号土坑



14号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　細粒。密。シルト混入。
2　明黄褐色土(10YR7/6)　円礫混入。

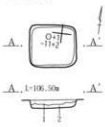
15号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　シルト斑紋状に混入。
2　褐灰色土(10YR4/1)　砂質、灰白色粒３％程混入。

16号土坑



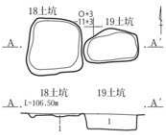
16号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。密。硬。シルト混入。
2　灰オリーブ色土(5Y5/2)　砂質。細砂混入。

17号土坑



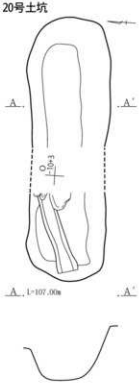
17号土坑
1　灰黄褐色土(10YR5/1)　砂質。シルト混入。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。有機物混入。

18･19号土坑

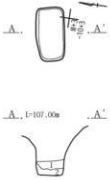


18号土坑
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　密。焼土、灰、炭混入。
19号土坑
1　黄褐色土(10YR5/6)　灰オリーブ色土が斑紋状に混入。密。硬。

20号土坑



21号土坑

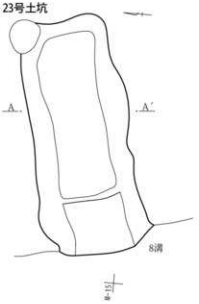


21号土坑
1　黄灰色土(2.5Y4/1)　砂質。シルト混入。
2　灰オリーブ色土(7.5Y4/2)　粘質。密。

22号土坑

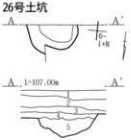
第39図　12～22号土坑

23号土坑



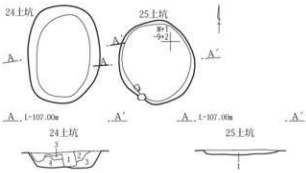
23号土坑
1　にぶい黄褐色砂層(10YR5/4)
2　灰オリーブ土(7.5Y4/2)　粘性、砂混入。
3　オリーブ黒土(7.5Y3/2)　黒褐色粘性土がレンズ状堆積。
4　灰色土(7.5Y4/1)　粘性、砂混入。

26号土坑



26号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　砂質。１面整地土。
2　シルト質混土　密、硬。１面整地土。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　砂質。密。１面整地土。
4　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。鉄分混入。
5　４層と同質。鉄分の混入多い。

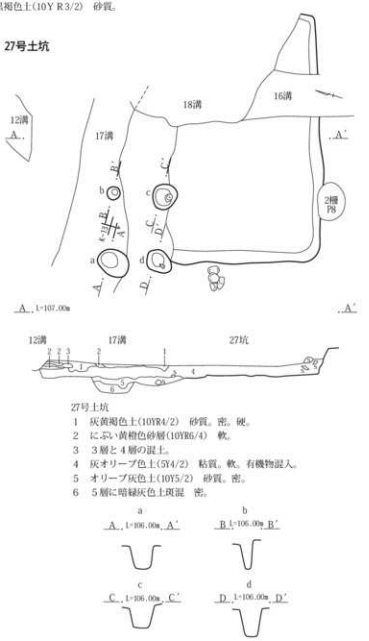
24･25号土坑



24号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)シルト30％程混入。
2　１層と同質　シルト10％程混入。
3　褐灰色土(10YR4/1)　砂質。
4　黒褐色土(10Y R3/2)　砂質。

25号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　径１～２cmの黄白色シルト20％程混入。

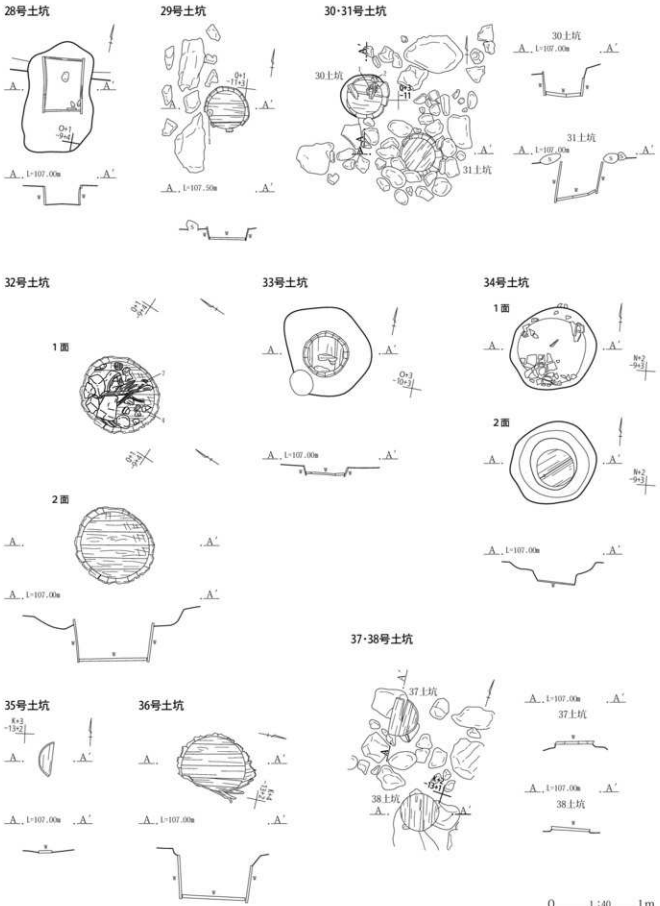
27号土坑



27号土坑
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質。密。硬。
2　にぶい黄橙色砂層(10YR6/4)　軟。
3　３層と４層の混土。
4　灰オリーブ色土(5Y4/2)　粘質。軟。有機物混入。
5　オリーブ灰色土(10Y5/2)　砂質。密。
6　５層に暗緑灰色土斑混　密。

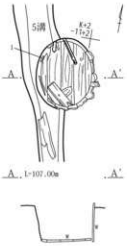
0　1:60　2m

第40図　23～27号土坑

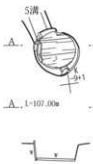


第41図　28 ～ 38号土坑

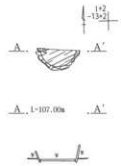
39号土坑



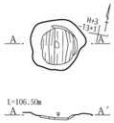
40号土坑



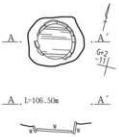
41号土坑



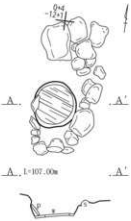
42号土坑



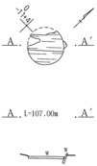
43号土坑



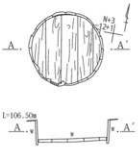
44号土坑



45号土坑

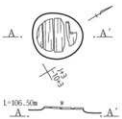


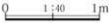
46号土坑



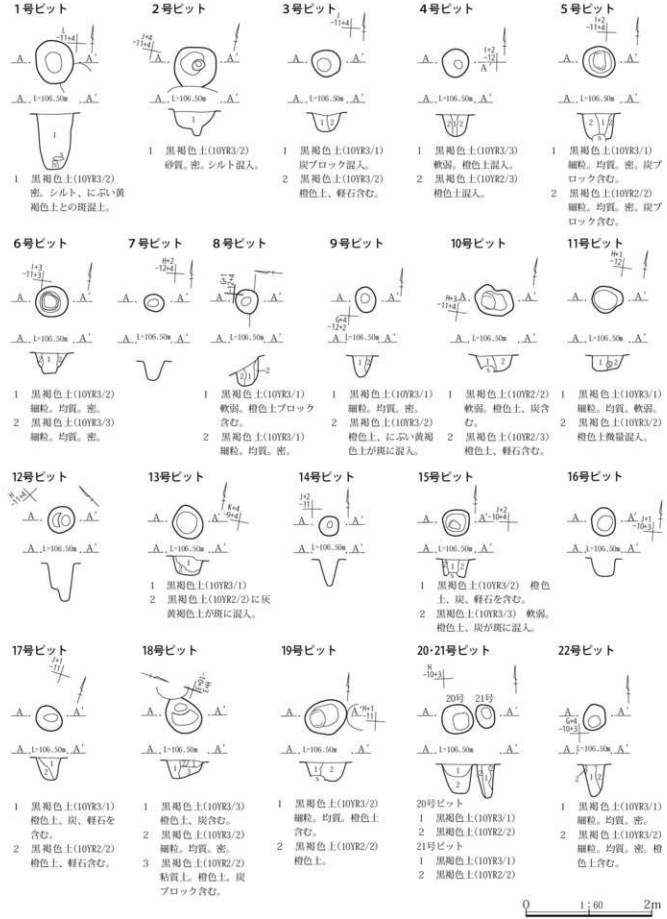
47号土坑

48号土坑

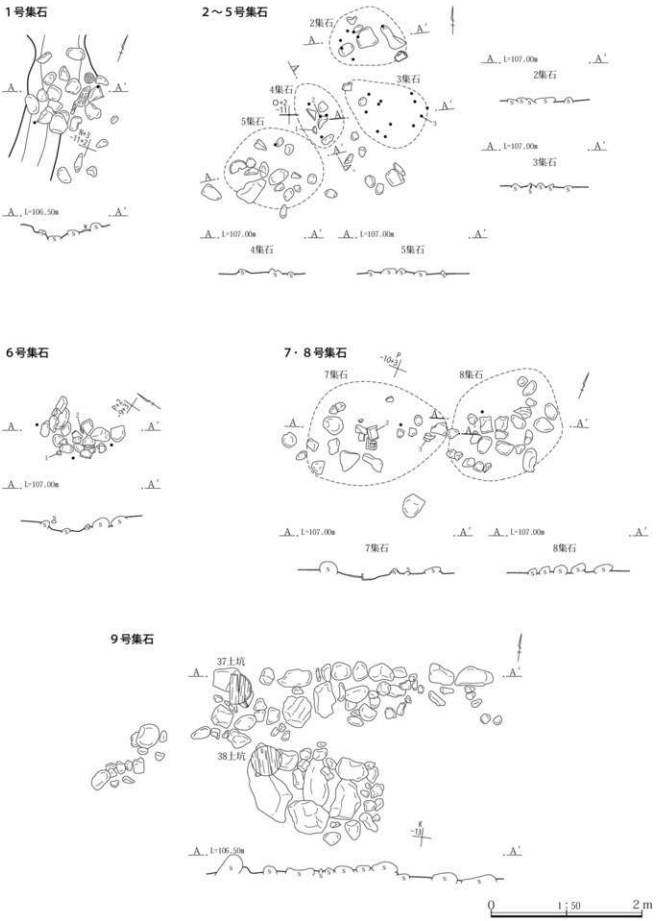




第42図　39 ～ 48号土坑

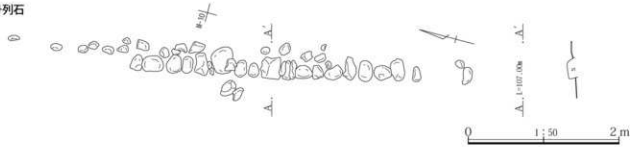


第43図　1～22号ピット

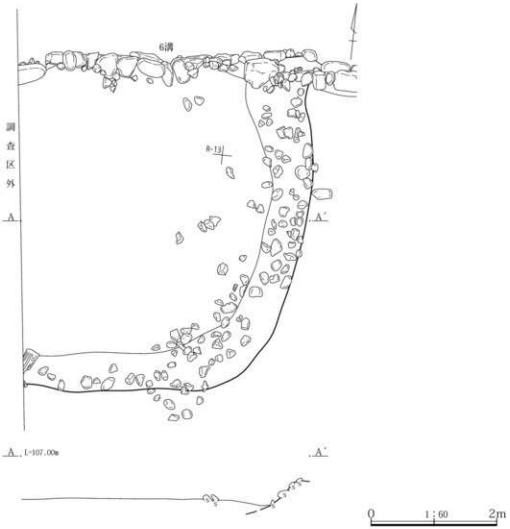

1号集石
A
A'
A L=106.50m
2～5号集石
2集石
3集石
4集石
5集石
A L=107.00m
6号集石
7・8号集石
7集石
8集石
9号集石
37土坑
38土坑
A L=106.50m
0
1:50
2 m

第44図　1～9号集石

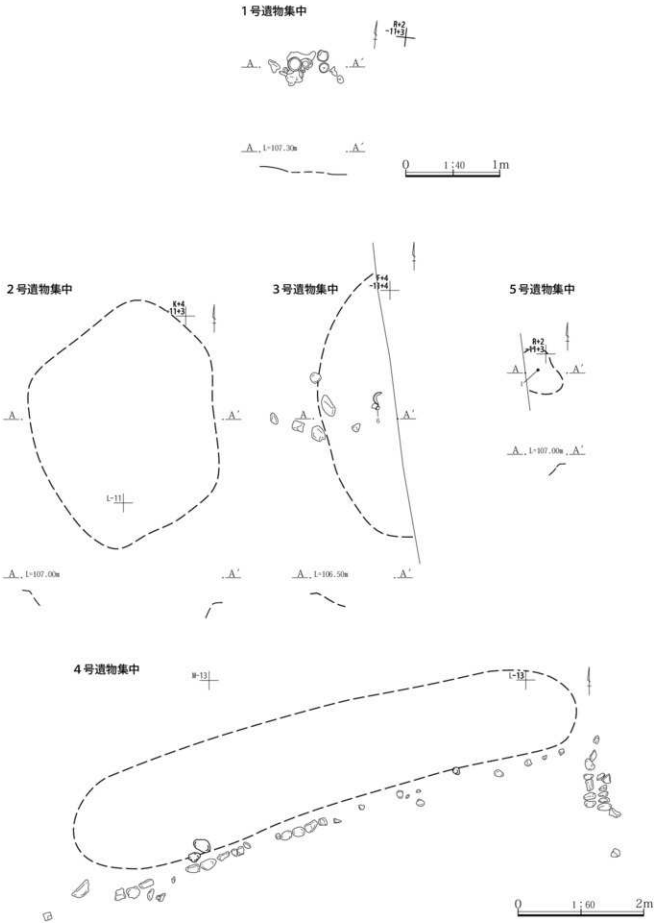
1号列石



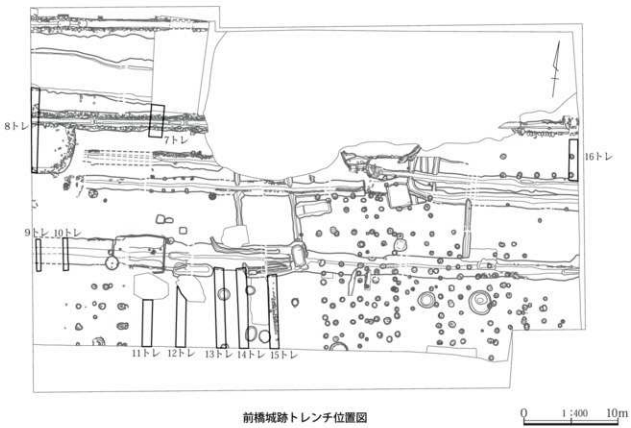
1号池



第45図　1号列石、1号池

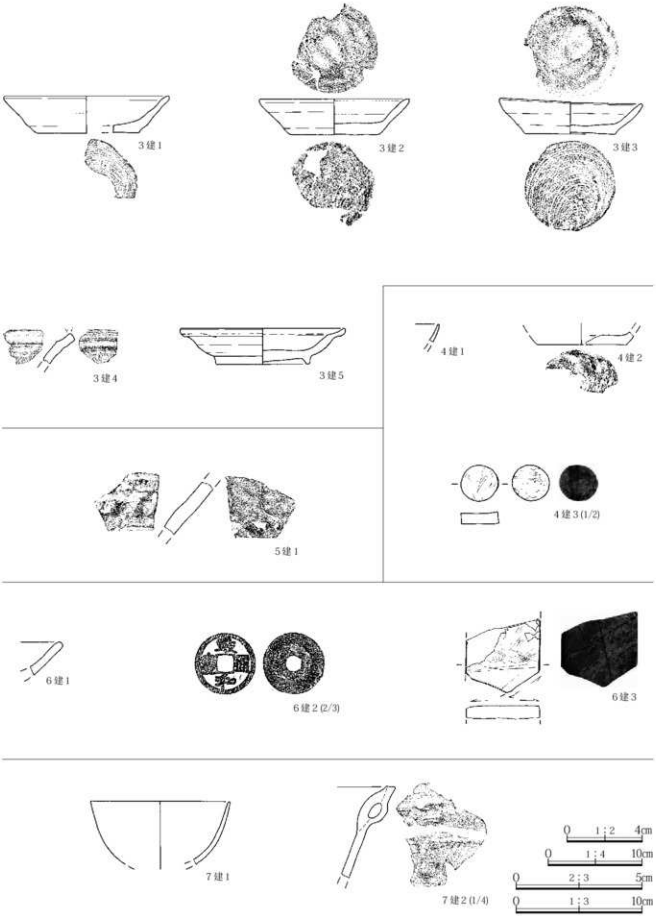


第46図　１～５号遺物集中

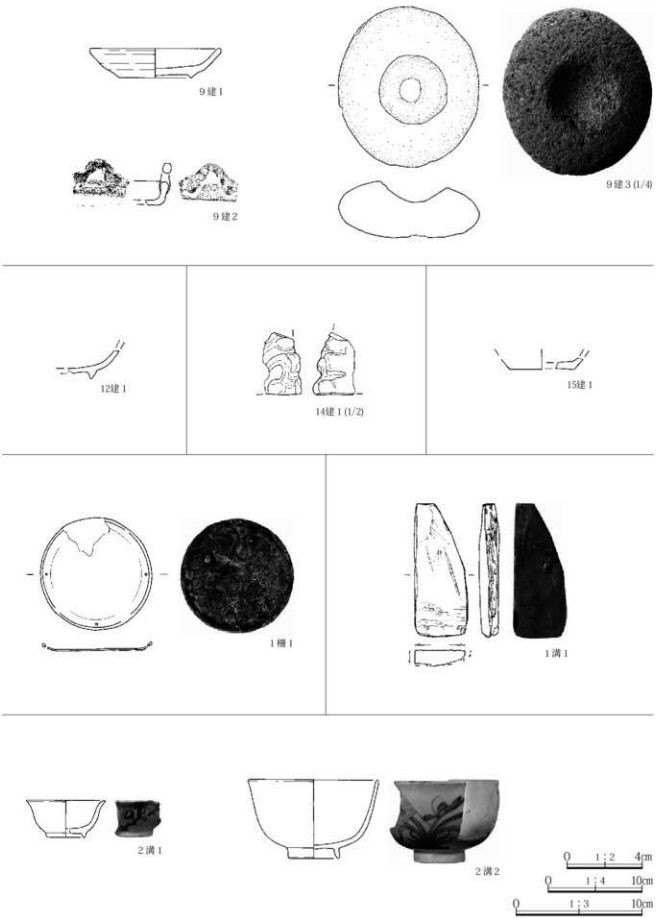


前橋城跡トレンチ位置図

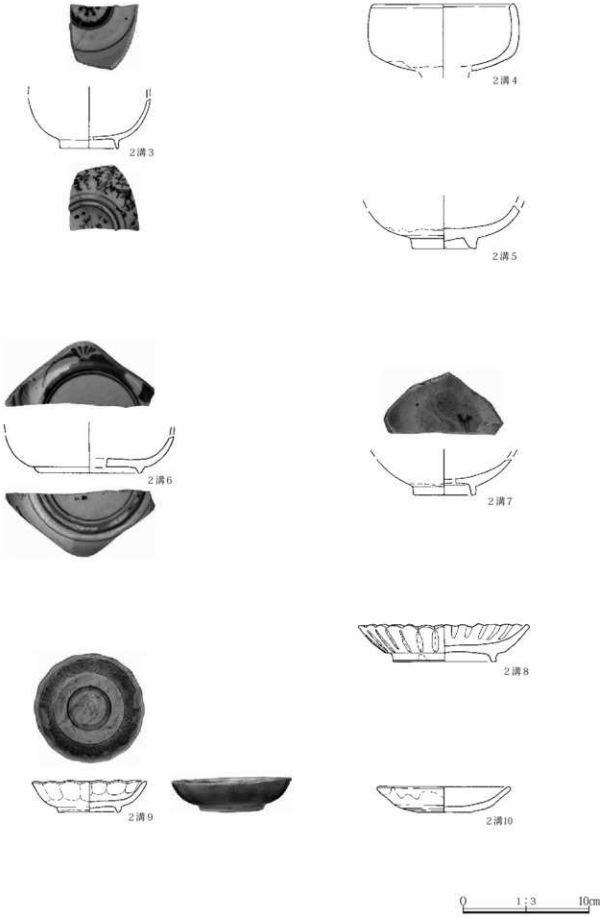
第47図　1・2号瓦だまり、前橋城跡トレンチ位置図



第48図　３号建物１～５、４号建物１～３、５号建物１、６号建物１～３、７号建物１・２出土遺物



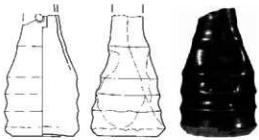
第49図　9号建物1～3、12号建物1、14号建物1、15号建物1、1号柵1、1号溝1、2号溝1・2出土遺物



第50図　２号溝出土遺物３～10

2溝11(1/4)

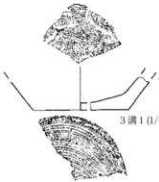
2溝12(1/2)



2溝13(1/4)

2溝14(1/6)

2溝15(2/3)

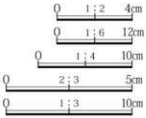


3溝1(1/4)

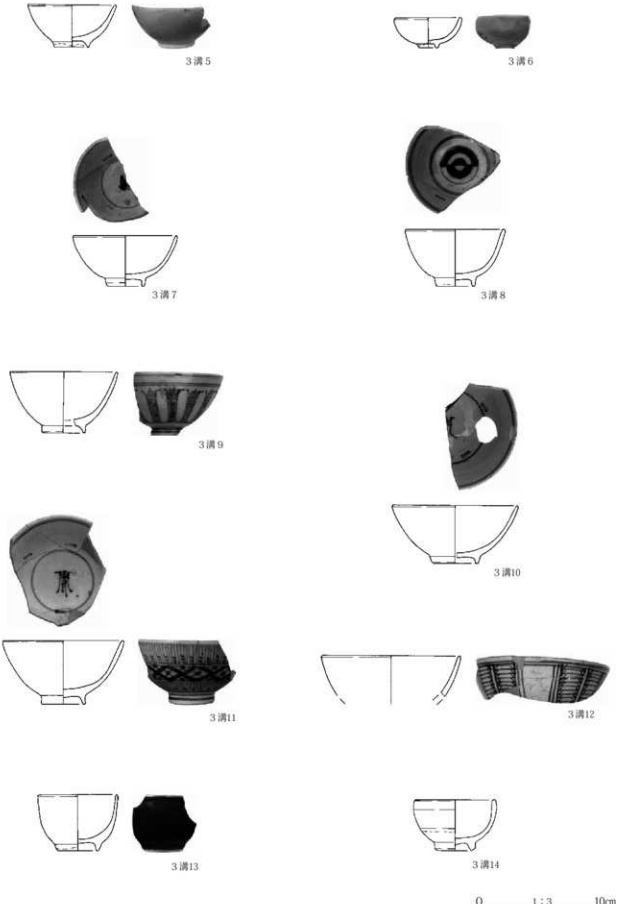
3溝2

3溝4

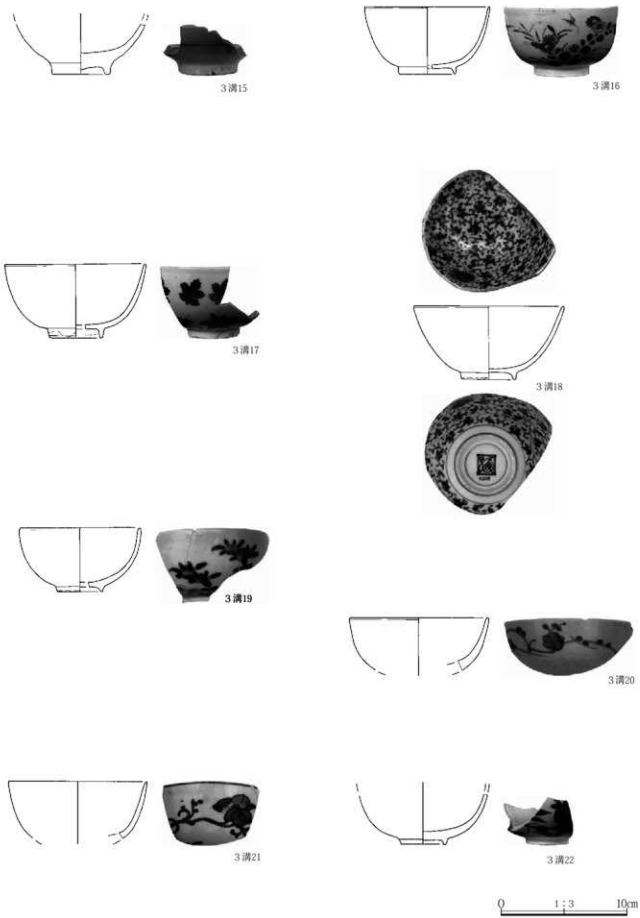
3溝3



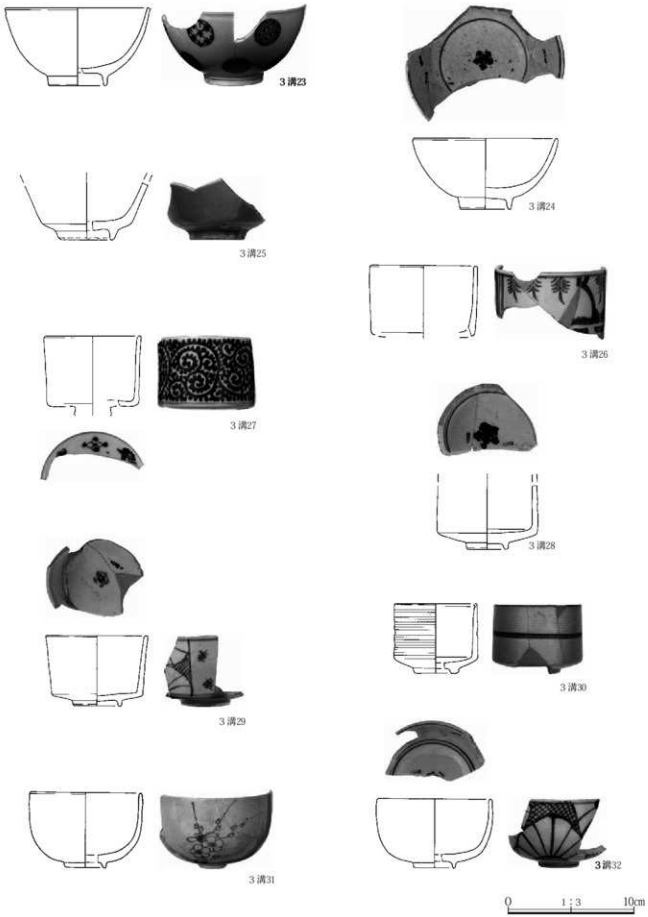
第51図　2号溝11～15、3号溝1～4出土遺物



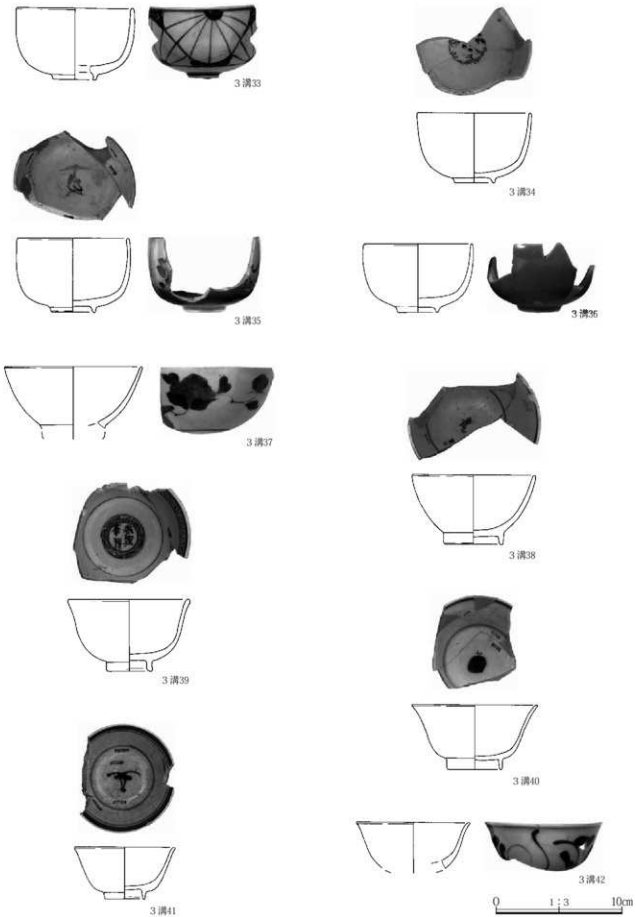
第52図　３号溝出土遺物５～14



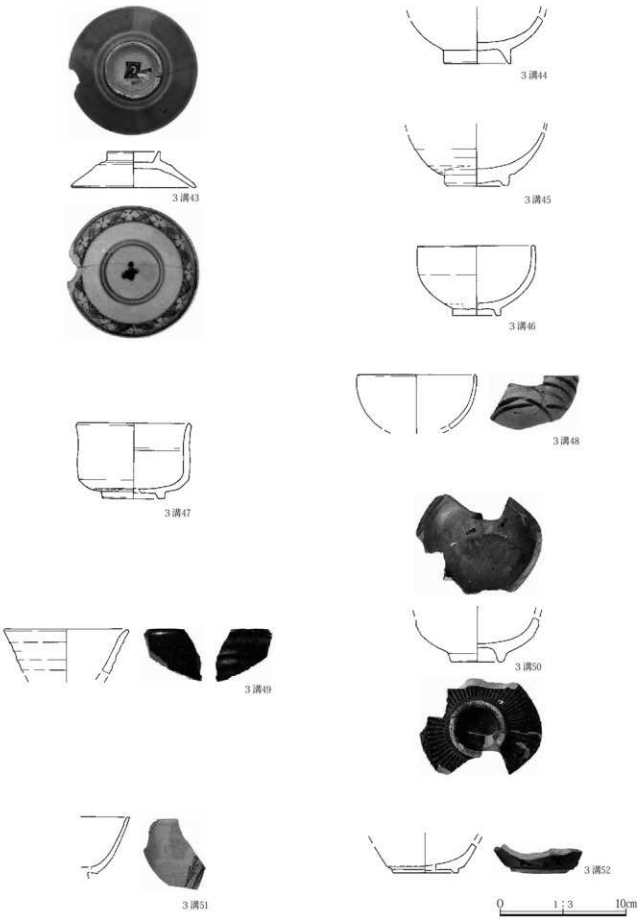
第53図　3号溝出土遺物15～22



第54図　３号溝出土遺物23～32



第55図　3号溝出土遺物33～42



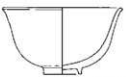
第56図　３号溝出土遺物43～52

3溝53

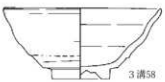
3溝54

3溝55

3溝56



3溝57



3溝58

3溝59

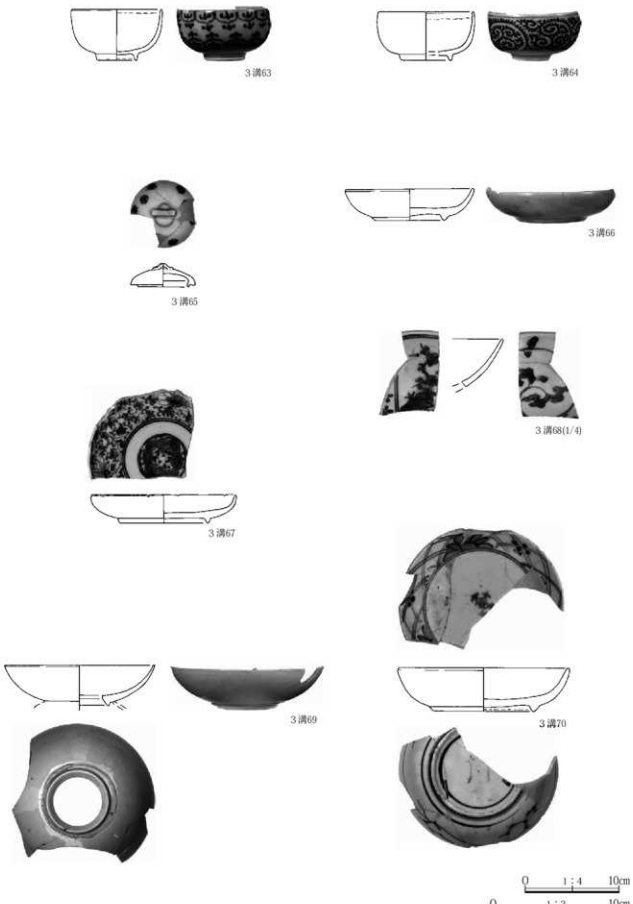
3溝60

3溝61

3溝62

0　1:3　10cm

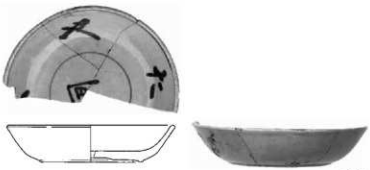
第57図　3号溝出土遺物53～62



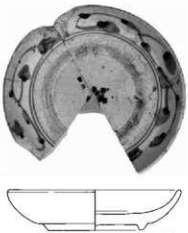
第58図　３号溝出土遺物63～70

3溝71

3溝72



3溝74



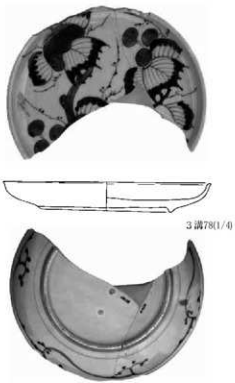
3溝73

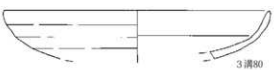
3溝75(1/4)

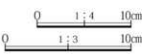
0　1:4　10cm

0　1:3　10cm

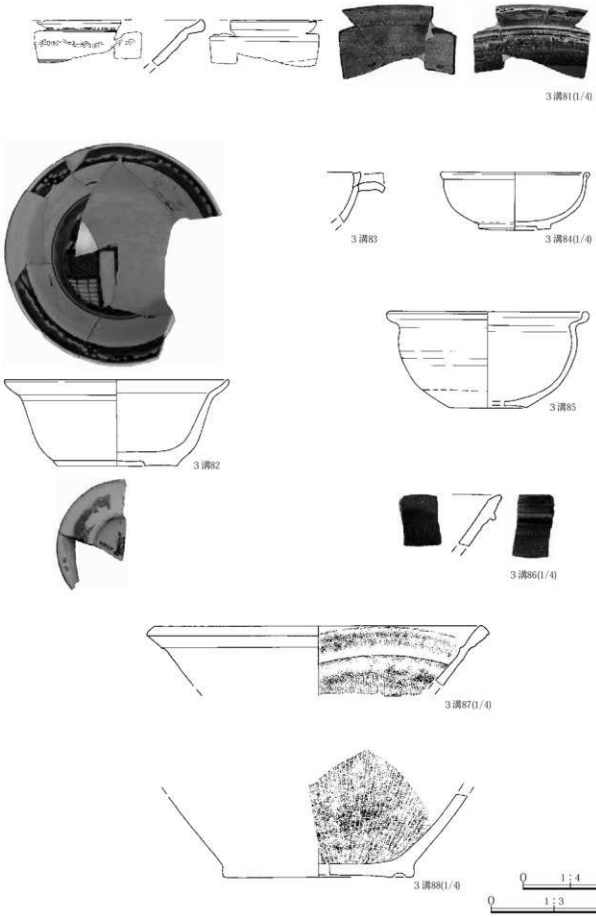
第59図　3号溝出土遺物71～75



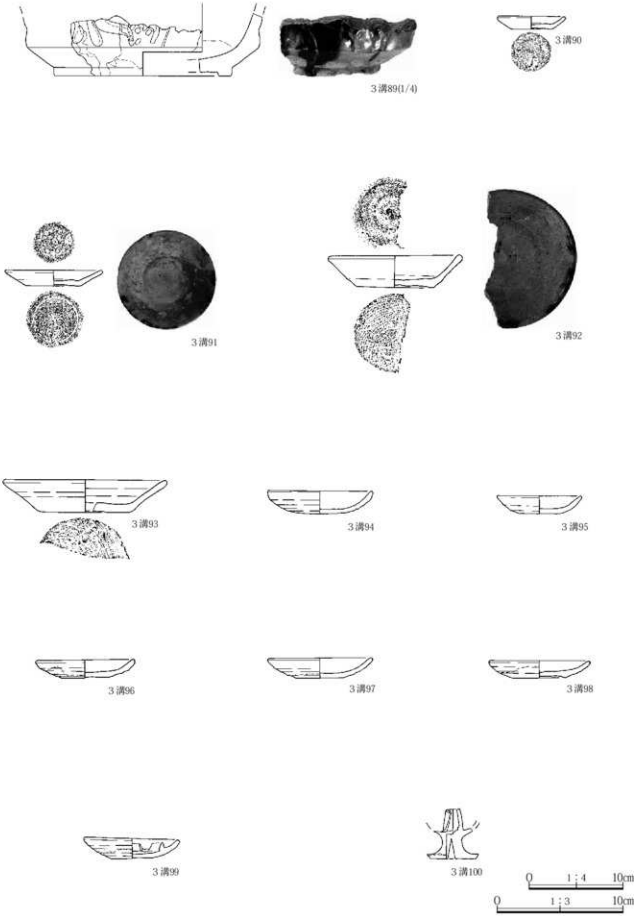




第60図　３号溝出土遺物76～80



第61図　3号溝出土遺物81～88



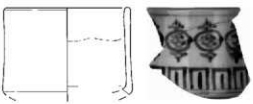
第62図　３号溝出土遺物89～100

3溝101

3溝102

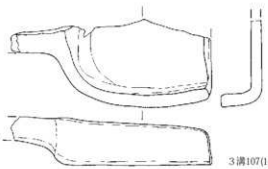
3溝103

3溝104



3溝105

3溝106



3溝107(1/4)

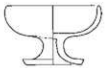
3溝108

3溝109

0　1:4　10cm

0　1:3　10cm

第63図　3号溝出土遺物101～109


３溝110

３溝111

３溝112

３溝113

３溝114

３溝115

３溝116

３溝117

３溝118

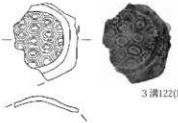
３溝119

３溝120

0　1：3　10cm

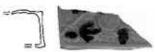
第64図　３号溝出土遺物110～120

3溝121



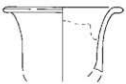
3溝122(1/2)

3溝123

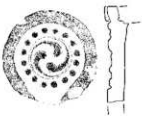


3溝124

3溝125

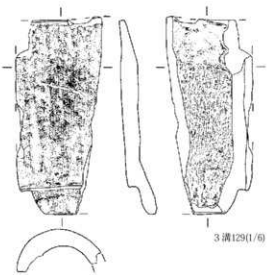


3溝126

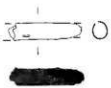


3溝127(1/6)

3溝128(1/6)



3溝129(1/6)



3溝130(1/2)

3溝131

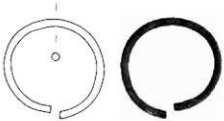
0 1:2 4cm

0 1:6 12cm

0 1:3 10cm

第65図　3号溝出土遺物121～131

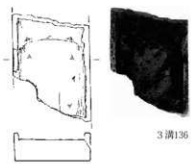
３溝132



３溝133(1/2)

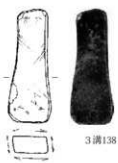
３溝134(2/3)

３溝135(2/3)

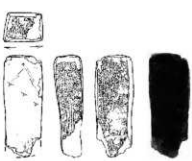


３溝136

３溝137

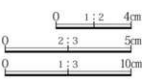


３溝138

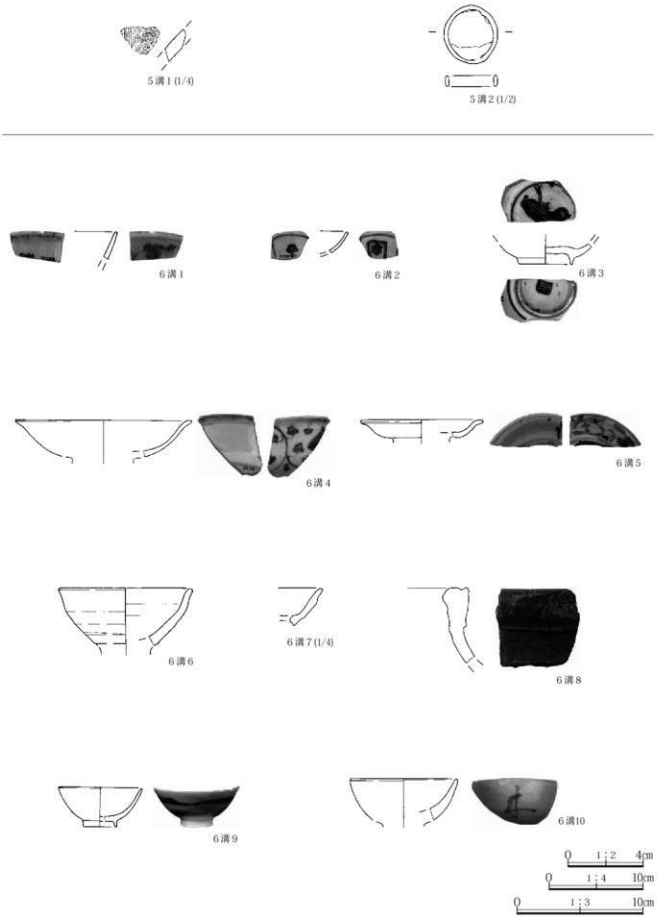


３溝139

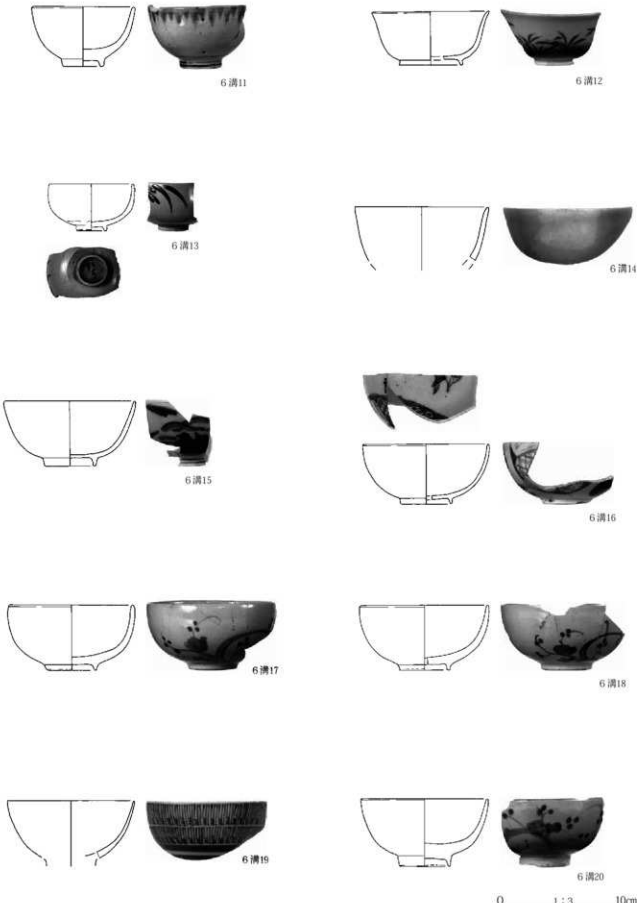
３溝140



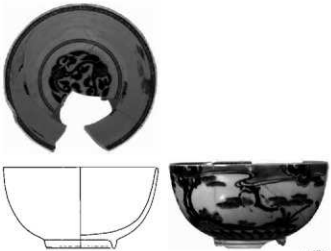
第66図　３号溝出土遺物132～140



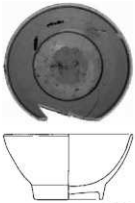
第67図　5号溝1・2、6号溝1～10出土遺物



第68図　６号溝出土遺物11～20



6溝21



6溝22

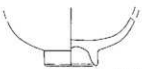
6溝23

6溝24

6溝25

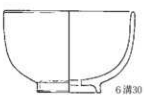
6溝26

6溝27



6溝28

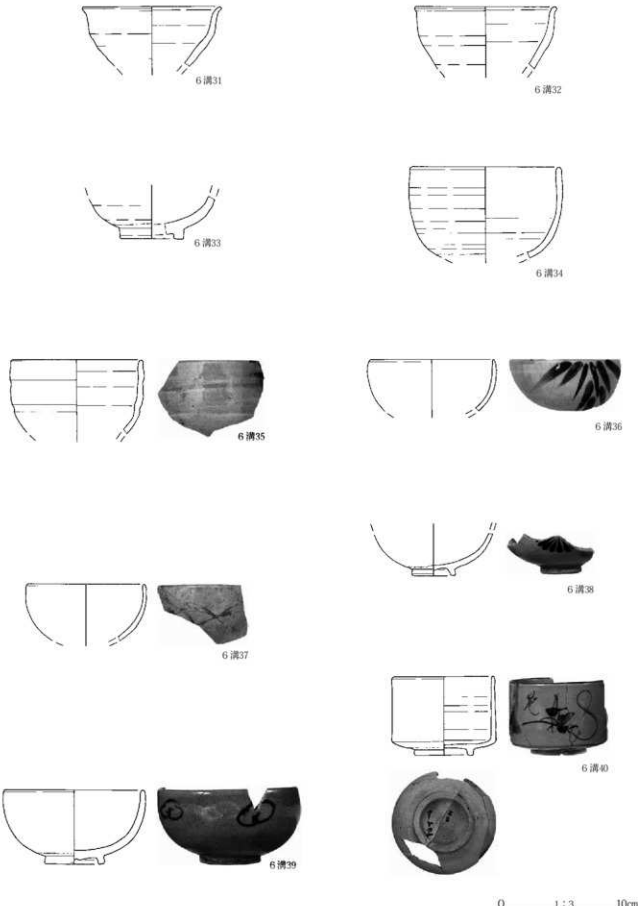
6溝29



6溝30

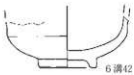
0　1：3　10cm

第69図　6号溝出土遺物21～30



第70図　６号溝出土遺物31～40

6溝41



6溝42

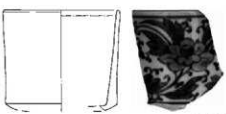
6溝43

6溝44

6溝45

6溝46

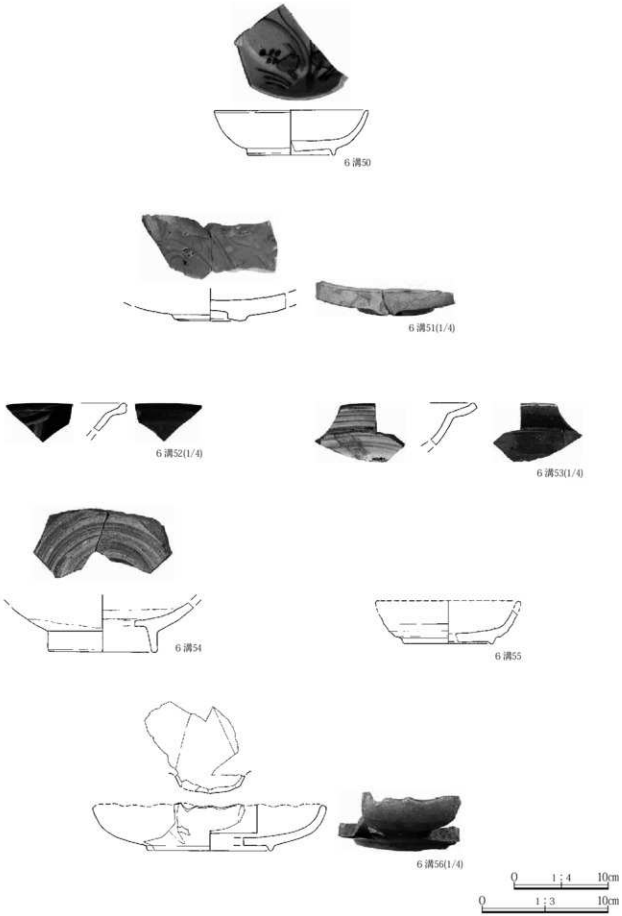
6溝47



6溝48

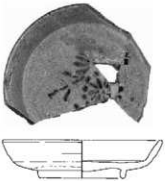
6溝49

第71図　6号溝出土遺物41～49

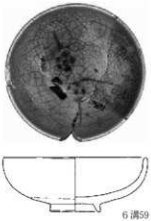


第72図　６号溝出土遺物50～56

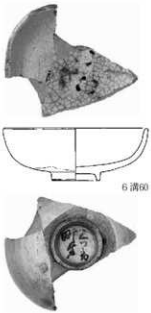
6溝57



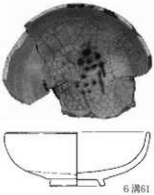
6溝58



6溝59



6溝60

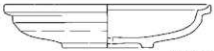


6溝61

6溝62

0　1:3　10cm

第73図　6号溝出土遺物57～62

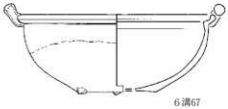


６溝63(1/4)

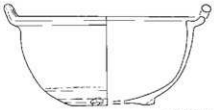
６溝64(1/4)

６溝65(1/4)

６溝66

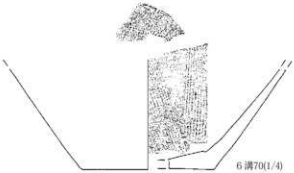


６溝67



６溝68(1/4)

６溝69(1/4)

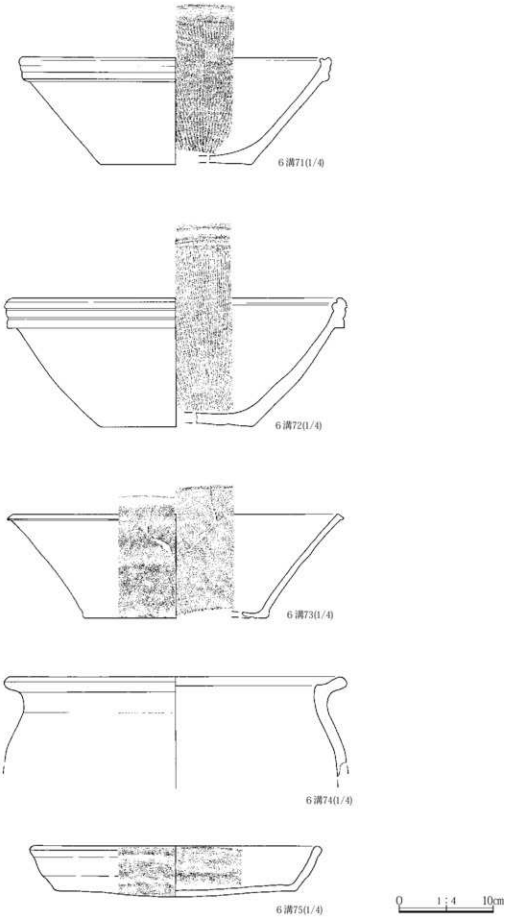


６溝70(1/4)

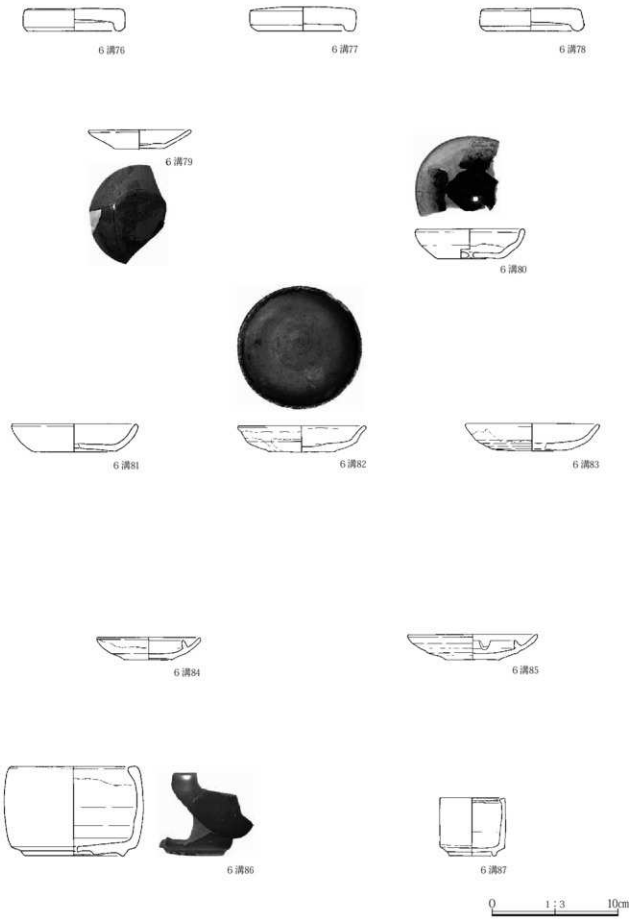
0　1：4　10cm

0　1：3　10cm

第74図　６号溝出土遺物63～70

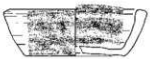


第75図　6号溝出土遺物71～75

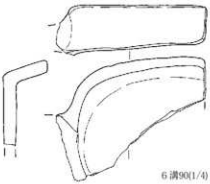


第76図　６号溝出土遺物76～87

6溝88

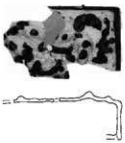


6溝89(1/4)



6溝90(1/4)

6溝91(1/4)



6溝92

6溝93

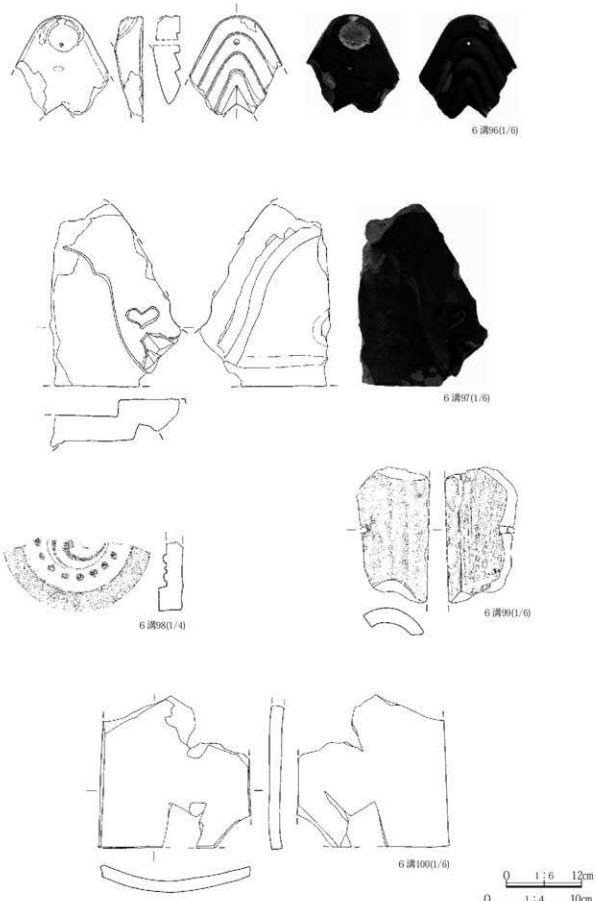
6溝94

6溝95

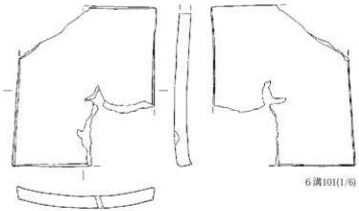
0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

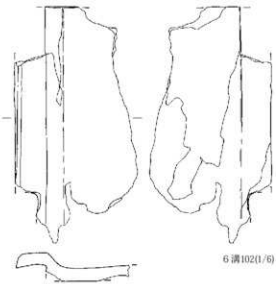
第77図　6号溝出土遺物88～95



第78図　６号溝出土遺物96～100



6溝101(1/6)



6溝102(1/6)

6溝103

6溝105

6溝104

：赤色漆

：黒漆

0　1:6　12cm

0　1:3　10cm

第79図　6号溝出土遺物101～105

6溝106(1/2)

6溝107(1/2)

6溝108(1/2)

6溝109(1/2)

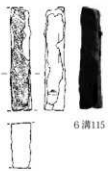
6溝110(2/3)

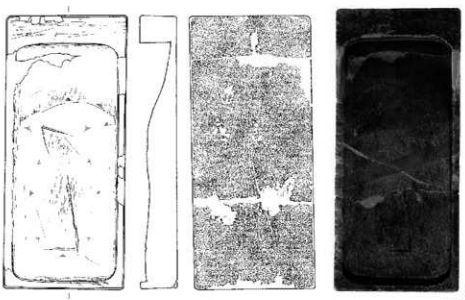
6溝111(2/3)

6溝112(2/3)

6溝113(2/3)

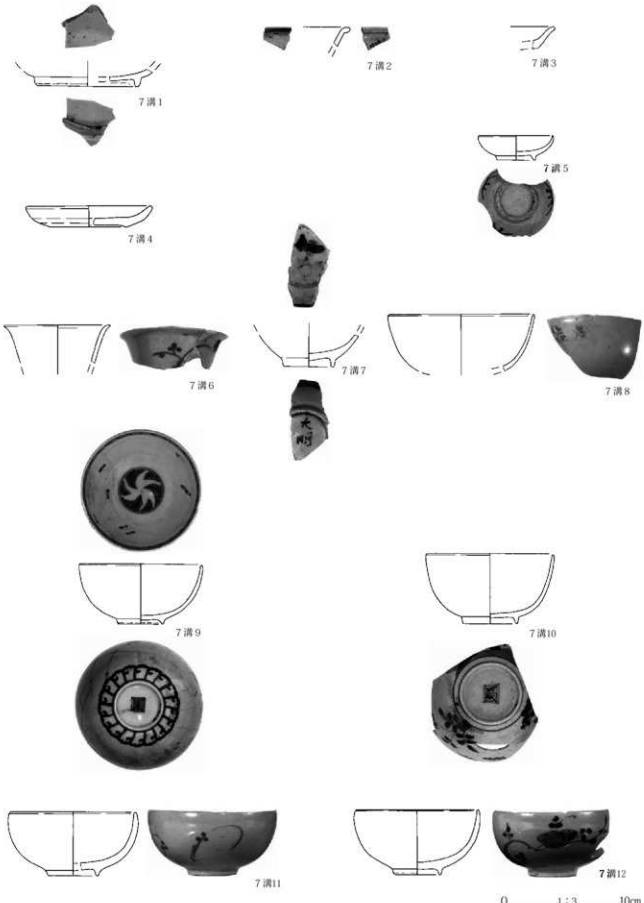
6溝114(2/3)


6溝115

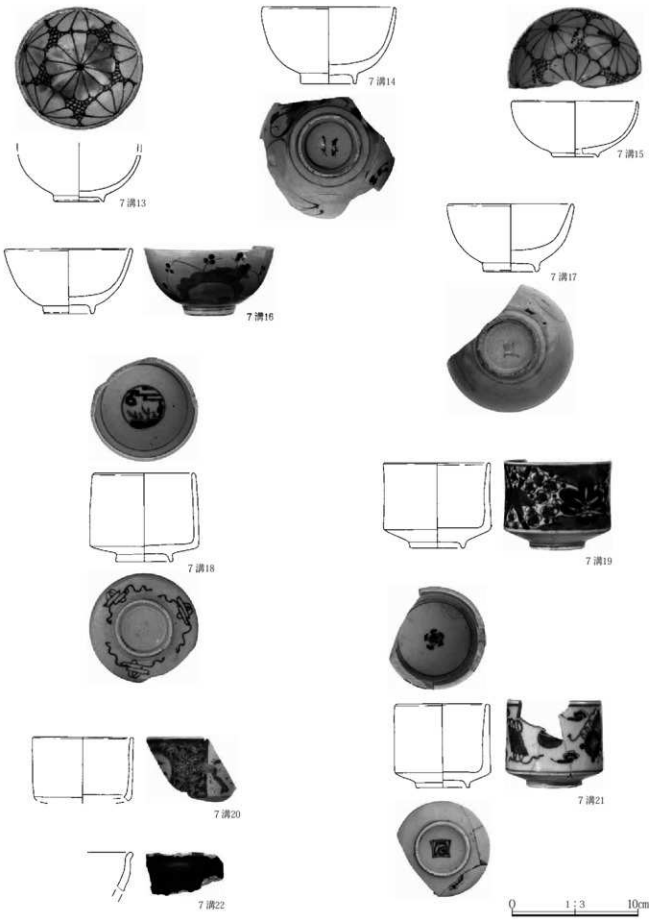

6溝116

0　1:2　4cm
0　2:3　5cm
0　1:3　10cm

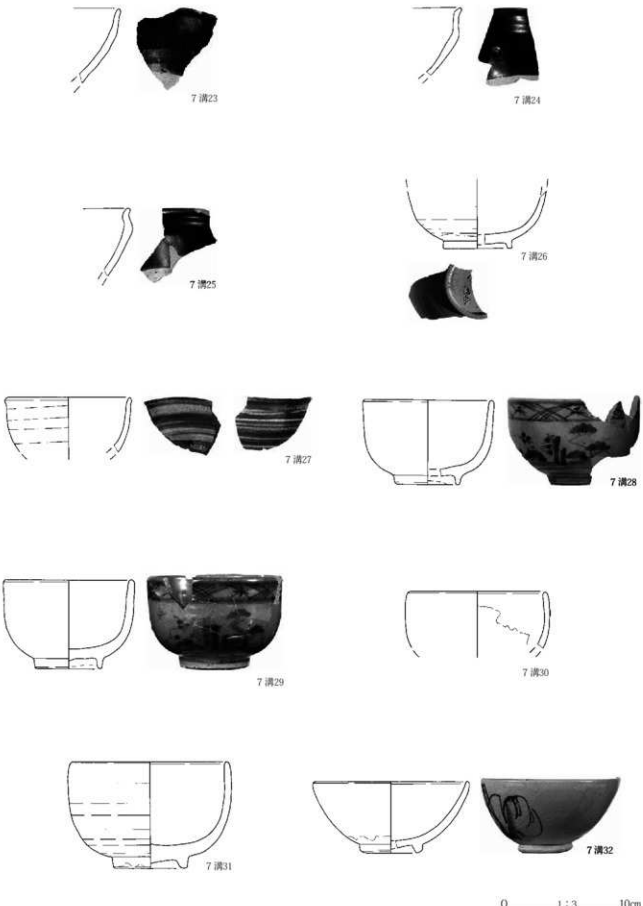
第80図　６号溝出土遺物106～116



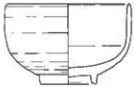
第81図　7号溝出土遺物1～12



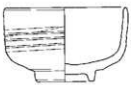
第82図　７号溝出土遺物13～22



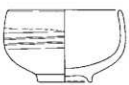
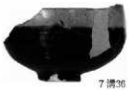
第83図　7号溝出土遺物23～32


７溝33

７溝34



７溝35

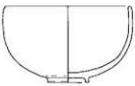


７溝36

７溝37

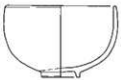
７溝38

７溝39

７溝40

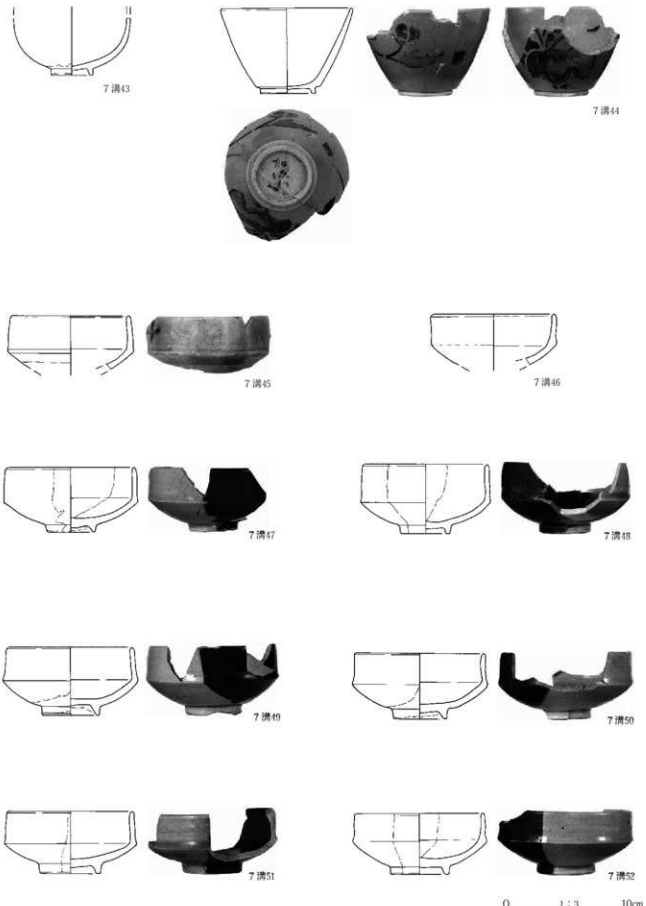


７溝41

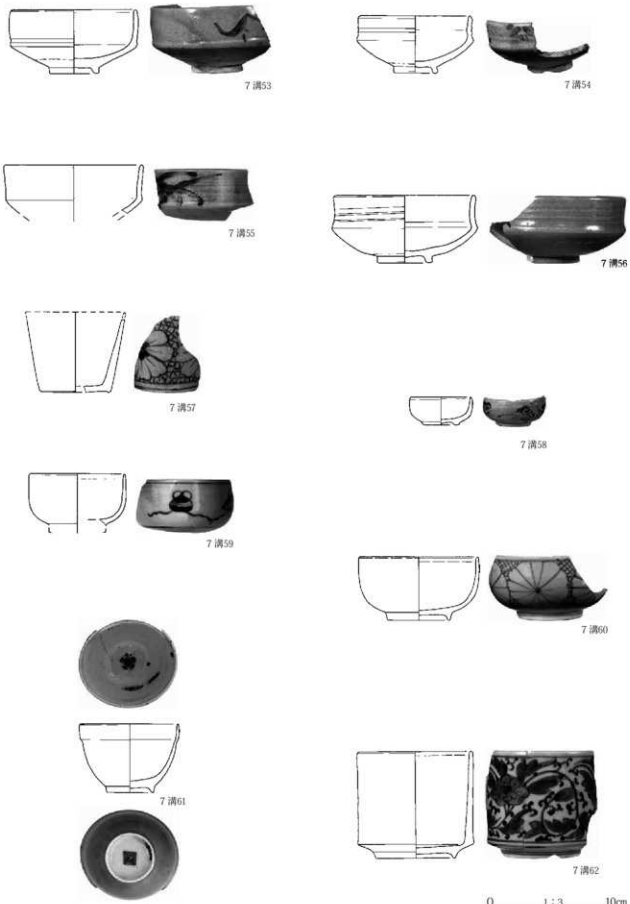


７溝42

第84図　７号溝出土遺物33～42

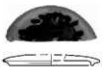


第85図　7号溝出土遺物43～52



第86図　７号溝出土遺物53～62

7溝63

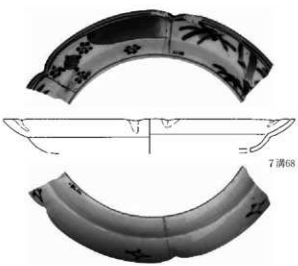


7溝64

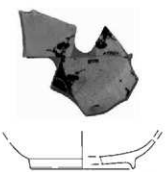
7溝65

7溝66

7溝67(1/4)



7溝68

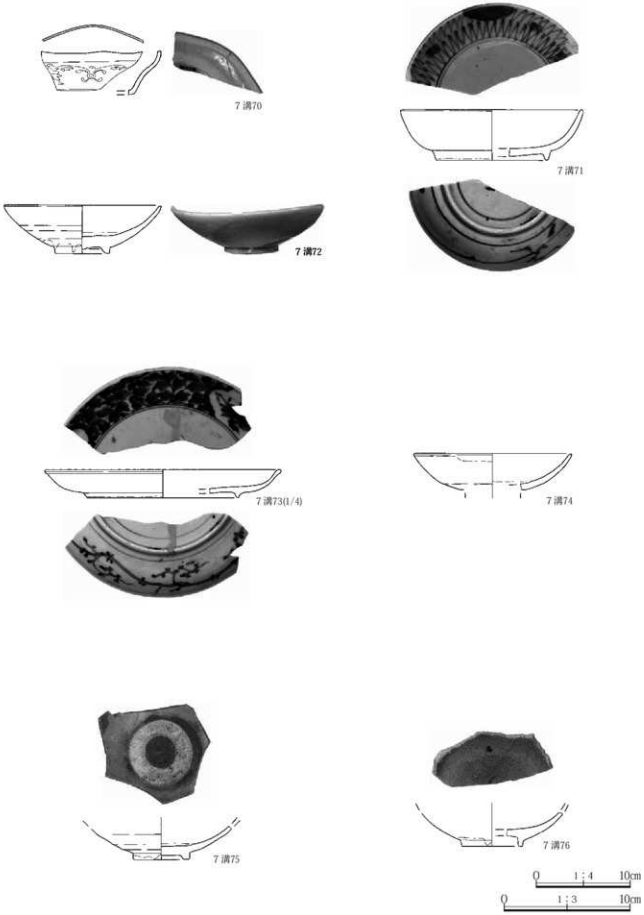


7溝69

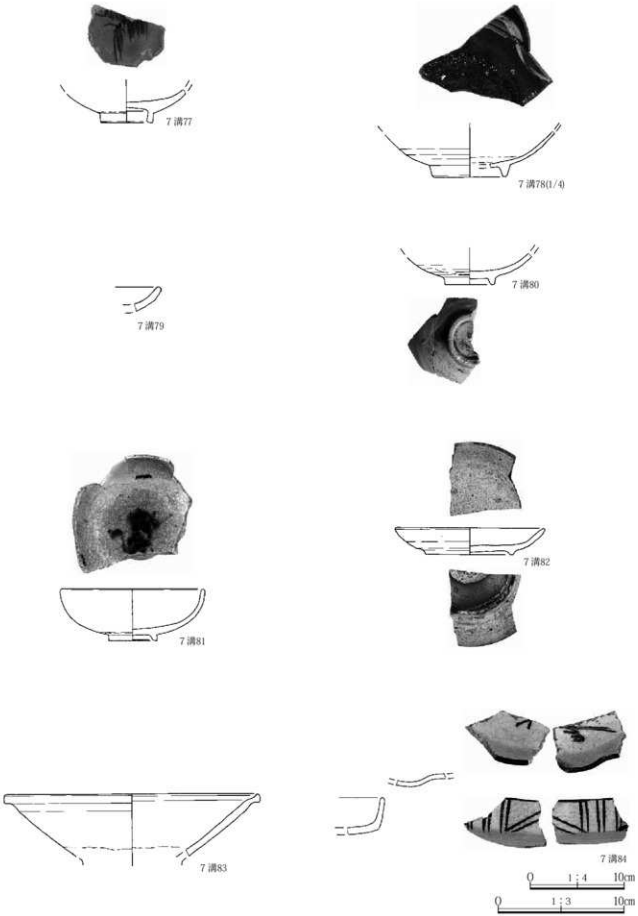
0　1:4　10cm

0　1:3　10cm

第87図　7号溝出土遺物63～69

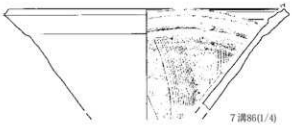


第88図　７号溝出土遺物70～76



第89図　7号溝出土遺物77～84

７溝85(1/4)

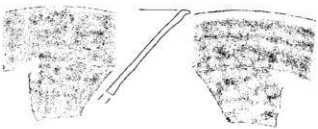


７溝86(1/4)

７溝87(1/4)

７溝88(1/4)

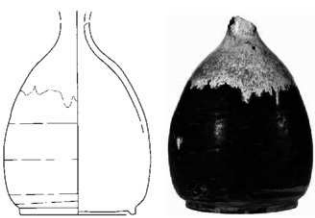
７溝89



７溝90(1/4)

７溝91

７溝92(1/4)



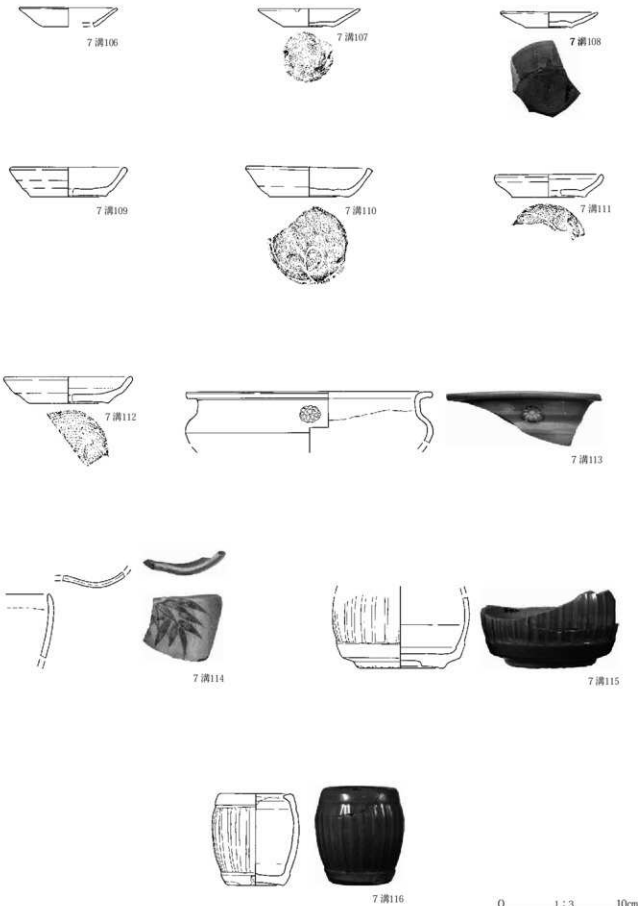
７溝93(1/4)

0　1：4　10cm

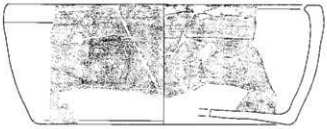
0　1：3　10cm

第90図　７号溝出土遺物85～93

第91図　7号溝出土遺物94～105



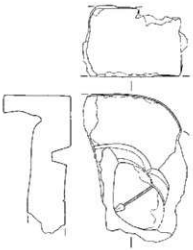
第92図　７号溝出土遺物106～116



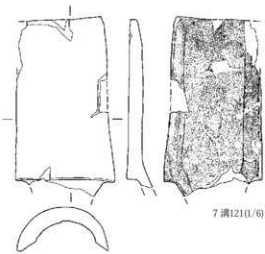
7溝117(1/4)

7溝118(1/4)

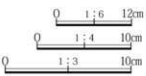
7溝119



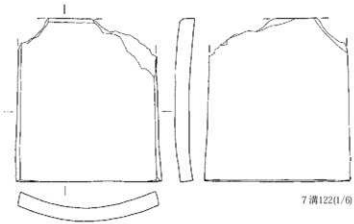
7溝120(1/6)

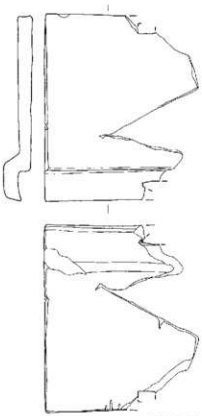


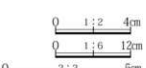
7溝121(1/6)



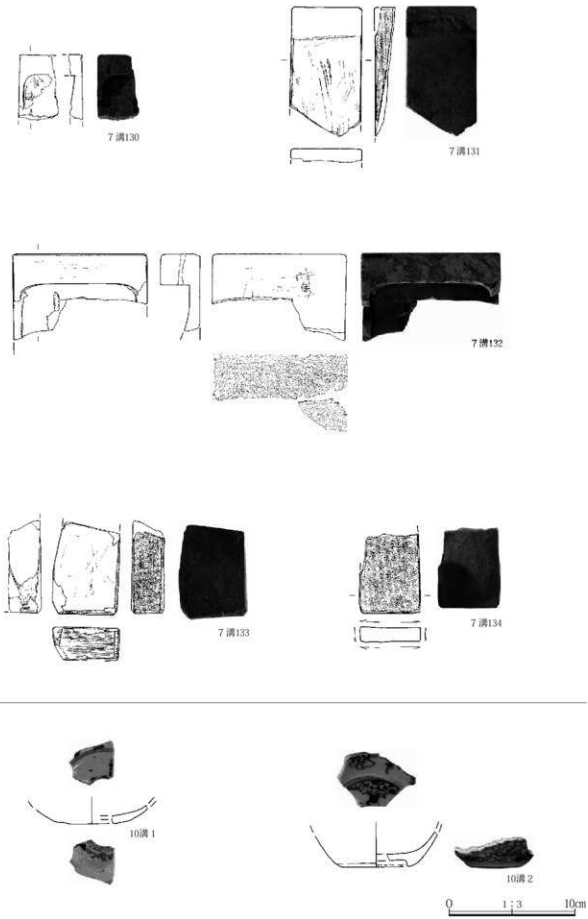
第93図　7号溝出土遺物117～121



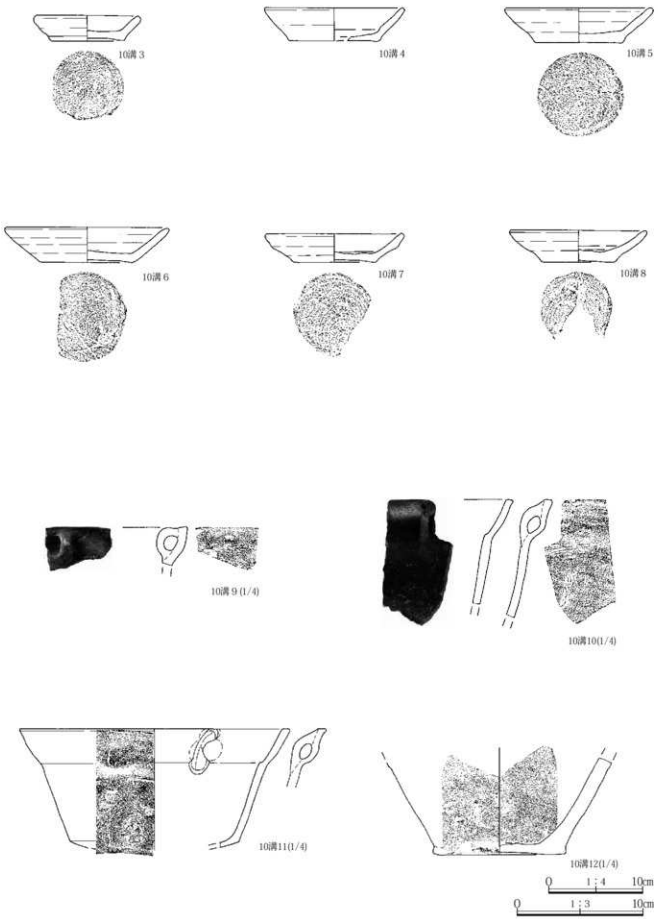




第94図　７号溝出土遺物122～129



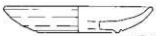
第95図　7号溝130～134、10号溝1・2出土遺物



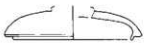
第96図　10号溝出土遺物３～12

10溝13

10溝14

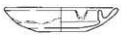

10溝16

10溝15

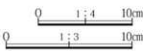

10溝17

10溝18(1/4)

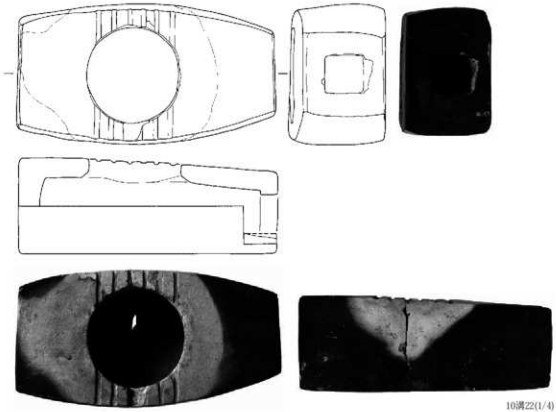
10溝19


10溝20

10溝21

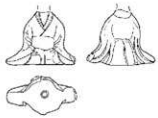


第97図　10号溝出土遺物13～21



第98図　10号溝出土遺物22～26

11溝1(1/4)



11溝3(1/2)

11溝2

13溝1(1/4)

13溝2

13溝3

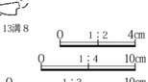
13溝4

13溝5

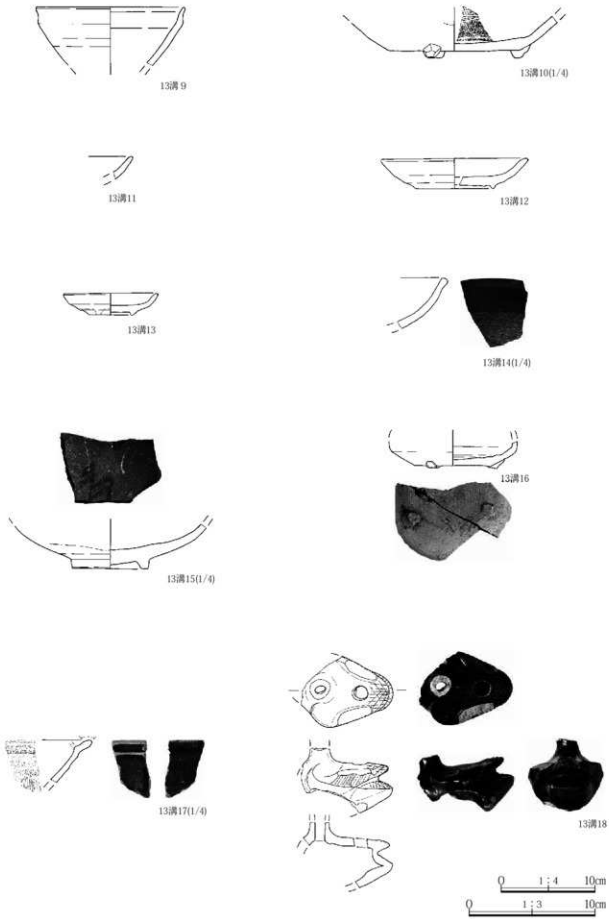
13溝6

13溝7

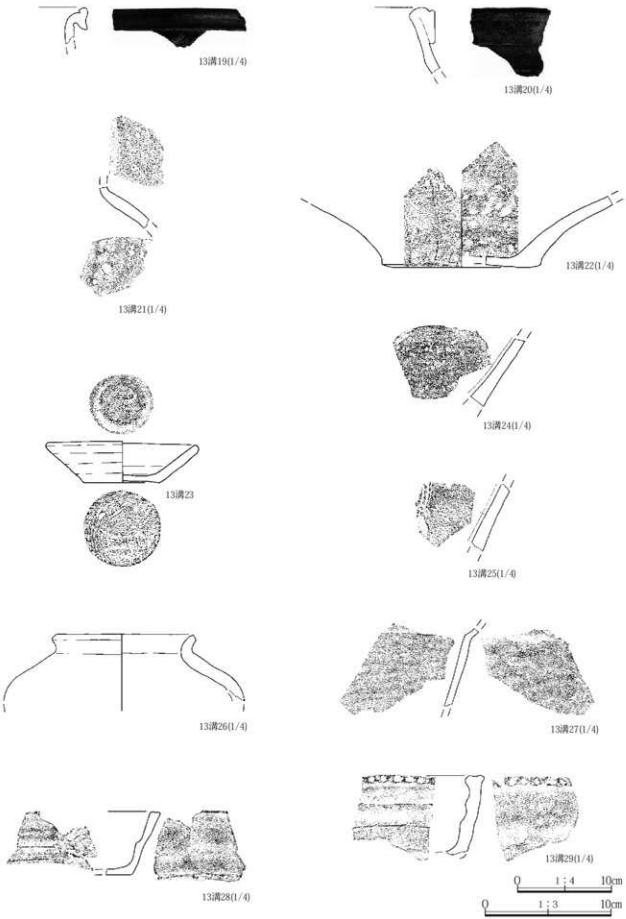
13溝8



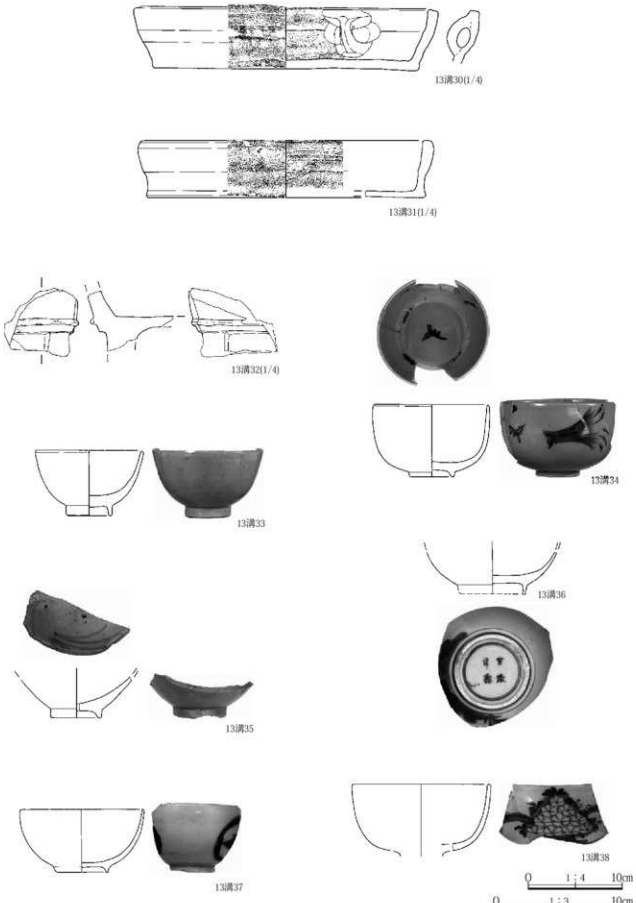
第99図　11号溝1～3、13号溝1～8出土遺物



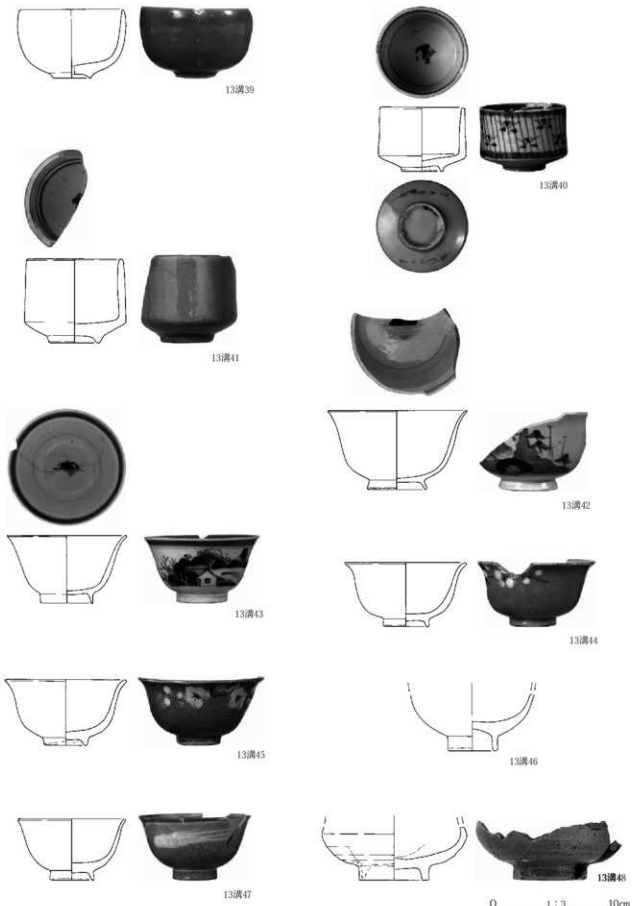
第100図　13号溝出土遺物９～18



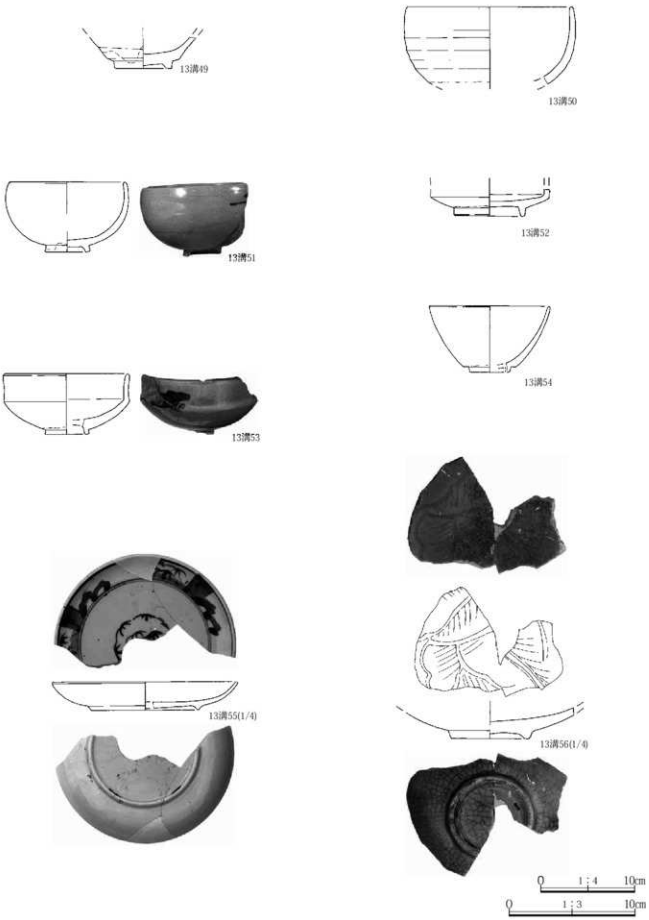
第101図　13号溝出土遺物19～29



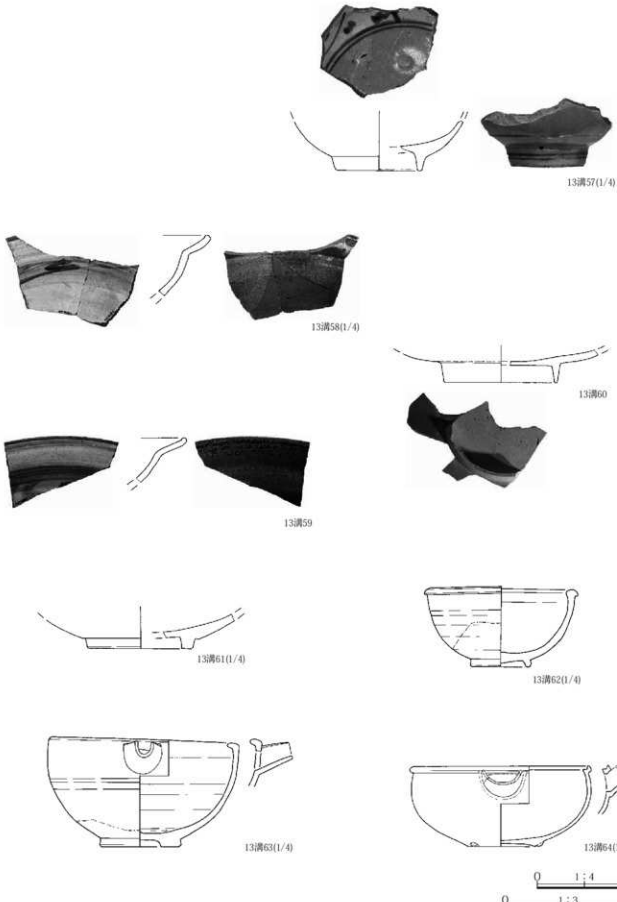
第102図　13号溝出土遺物30～38



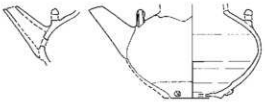
第103図　13号溝出土遺物39～48

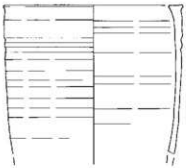


第104図　13号溝出土遺物49～56

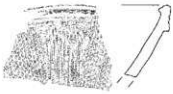


第105図　13号溝出土遺物57～64


13溝65(1/4)

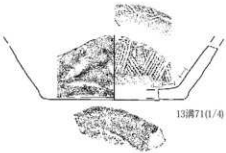

13溝66(1/4)

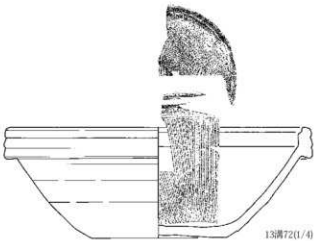
13溝67(1/4)

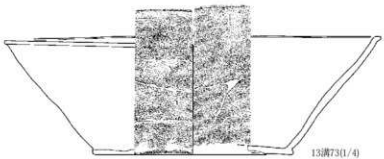

13溝68(1/4)

13溝69(1/4)

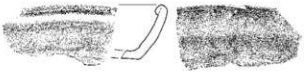
13溝70(1/4)


13溝71(1/4)


13溝72(1/4)


13溝73(1/4)

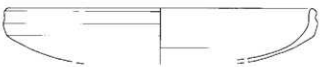
第106図　13号溝出土遺物65～73



13溝74(1/4)

13溝75(1/4)

13溝76(1/4)

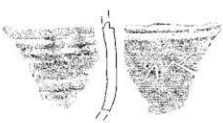


13溝77(1/4)

13溝78

13溝79

13溝80(1/4)



13溝81(1/4)

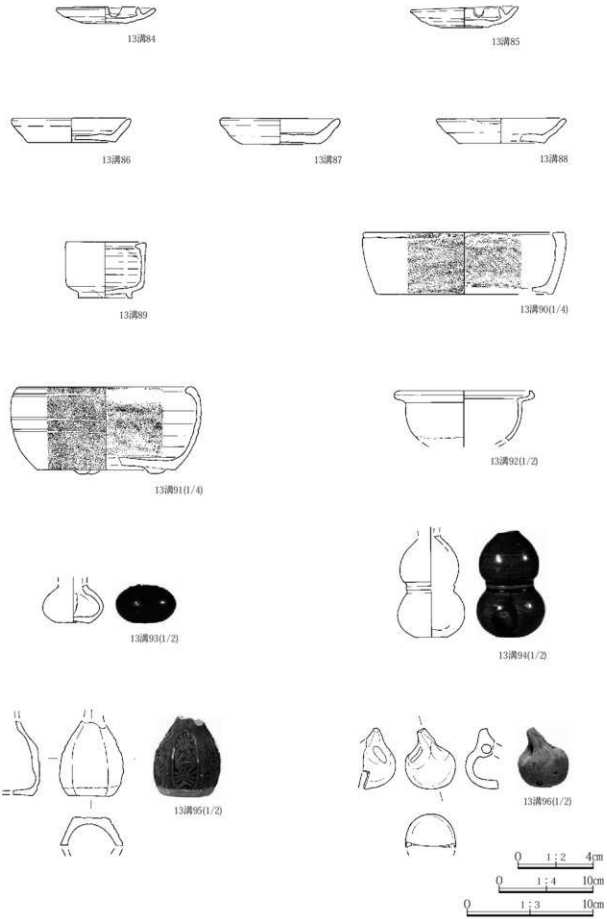
13溝82

13溝83

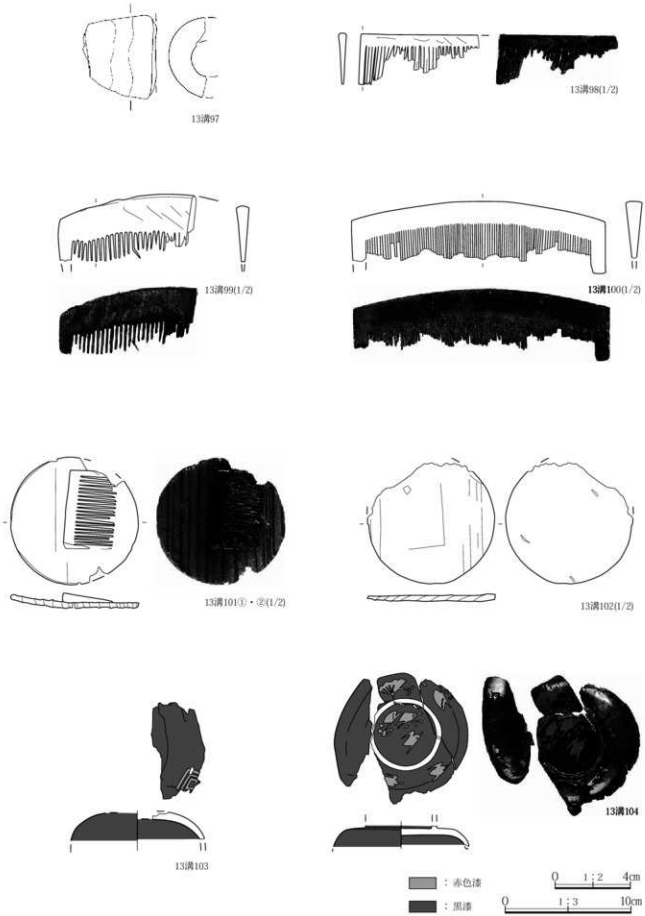
0　1：4　10cm

0　1：3　10cm

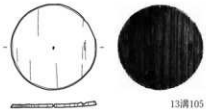
第107図　13号溝出土遺物74～83

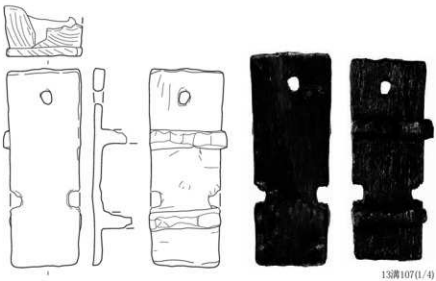


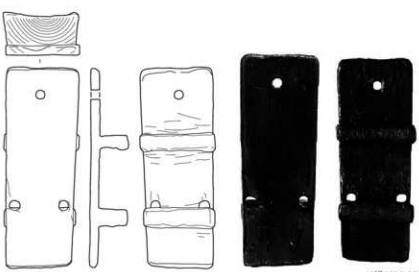
第108図　13号溝出土遺物84～96

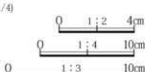


第109図　13号溝出土遺物97～104

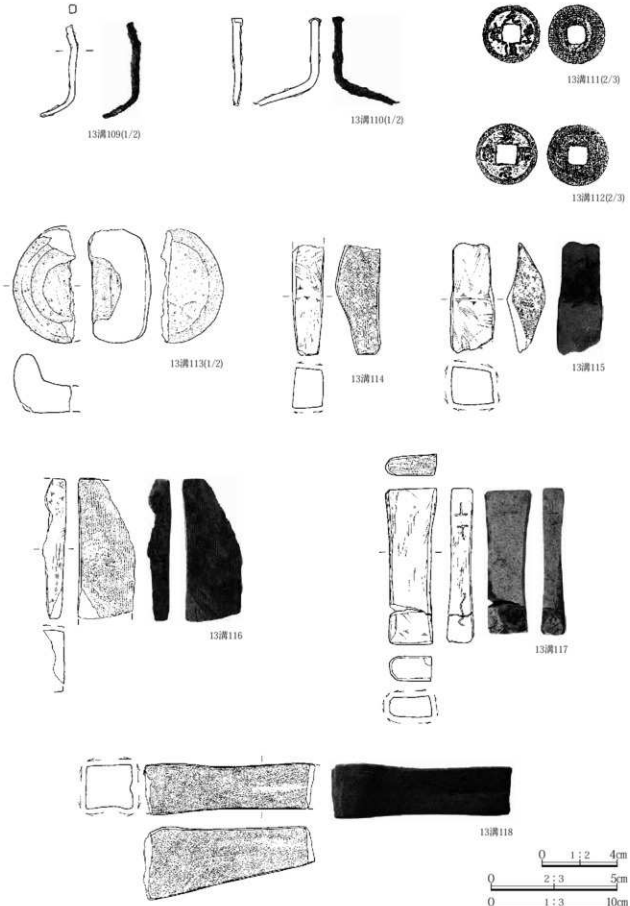




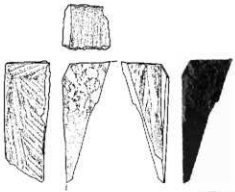




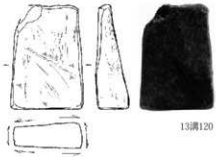
第110図　13号溝出土遺物105～108



第111図　13号溝出土遺物109～118

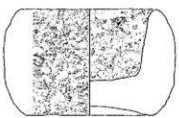


13溝119

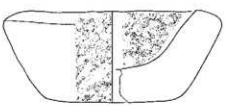


13溝120

13溝121(1/6)

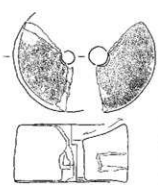


13溝122(1/6)



13溝123(1/6)

13溝124(1/6)

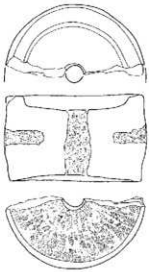


13溝125(1/6)

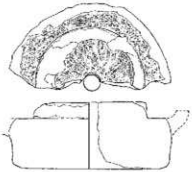
0　1:6　12cm

0　1:3　10cm

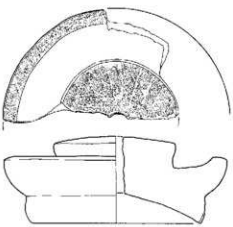
第112図　13号溝出土遺物119～125



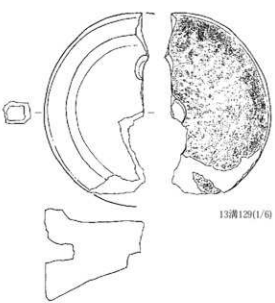
13溝126(1/6)



13溝127(1/6)



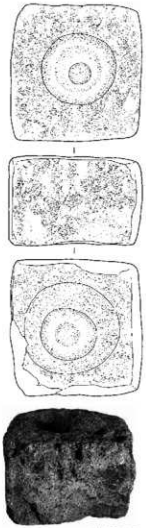
13溝128(1/6)



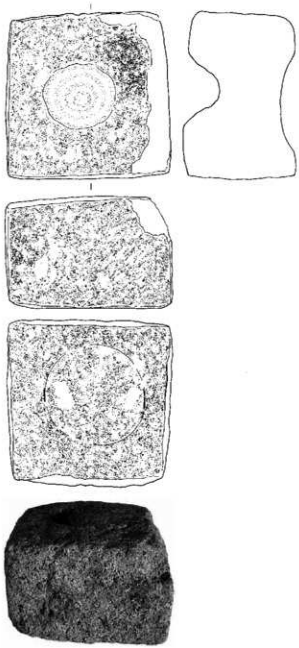
13溝129(1/6)

0　1:6　12cm

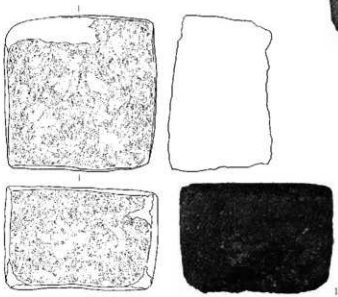
第113図　13号溝出土遺物126～129



13溝130(1/6)



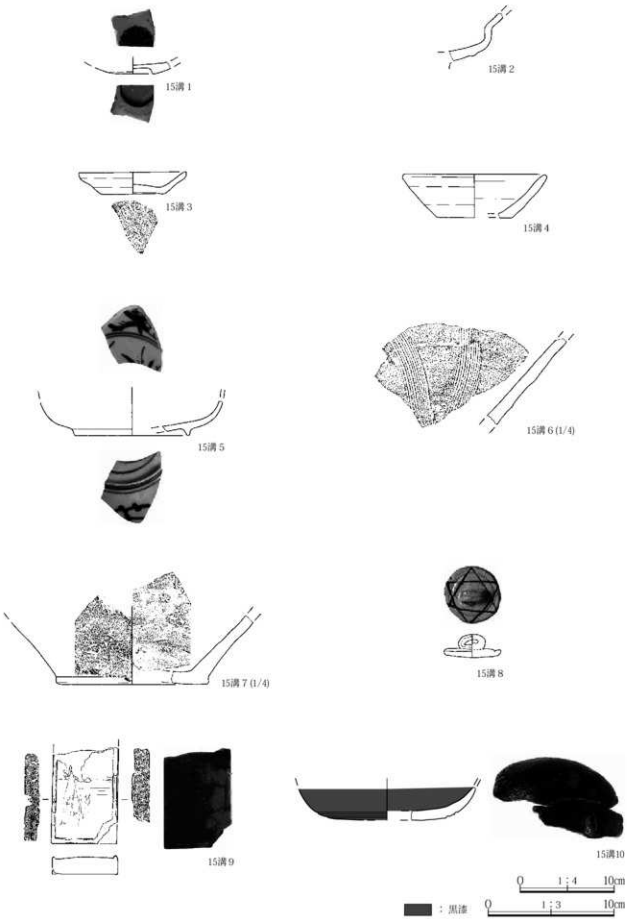
13溝131(1/6)



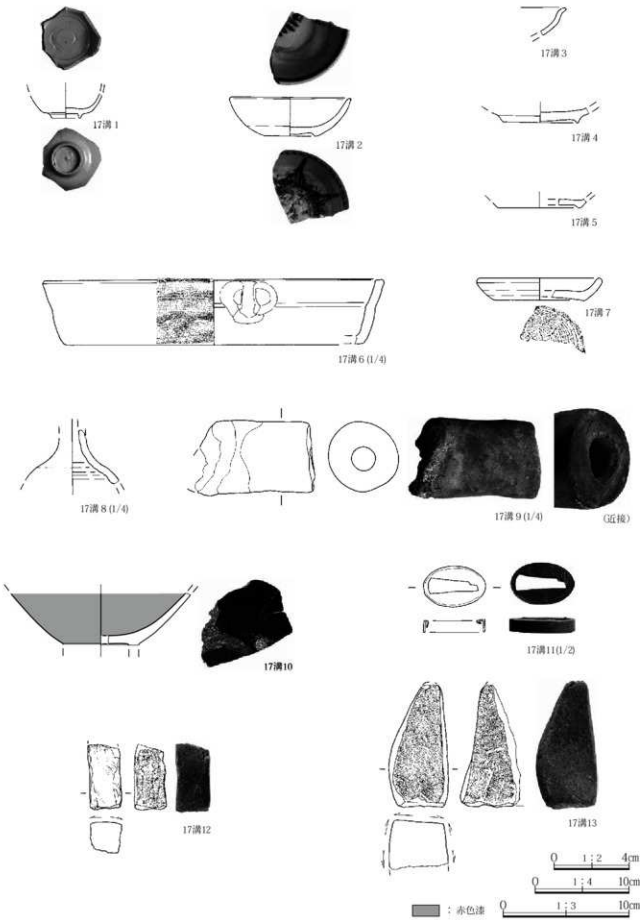
13溝132(1/6)

0　1:6　12cm

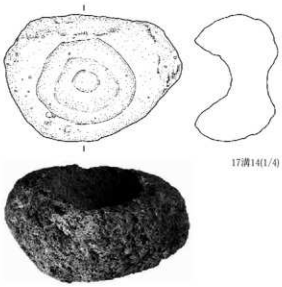
第114図　13号溝出土遺物130～132

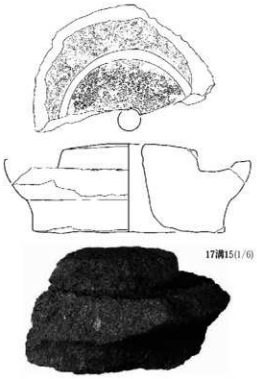


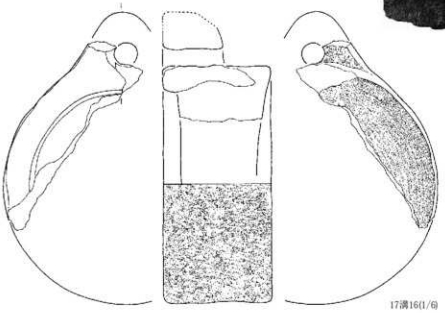
第115図　15号溝出土遺物１～10

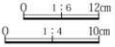


第116図　17号溝出土遺物１～13

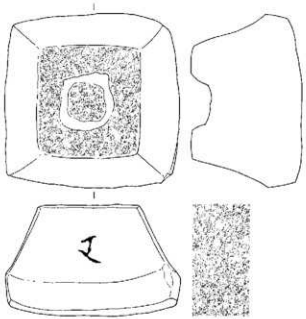




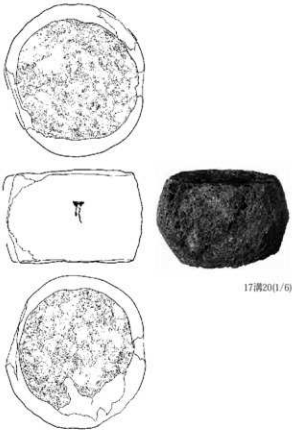




第117図　17号溝出土遺物14～18



17溝19(1/6)



17溝20(1/6)

18溝１

18溝２(1/4)

19溝１

19溝２

19溝３(1/4)

19溝４

(赤外線写真)

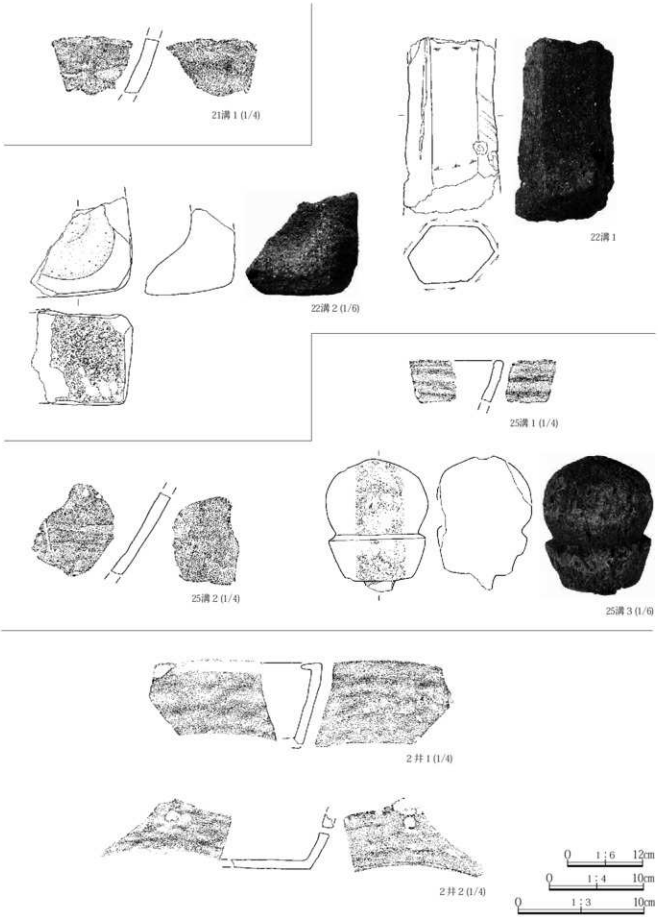
19溝５

0　1：6　12cm

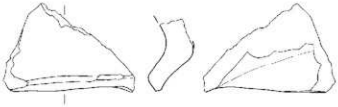
0　1：4　10cm

0　1：3　10cm

第118図　17号溝19・20、18号溝１・２、19号溝１～５出土遺物

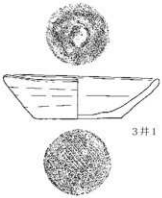


第119図　21号溝1、22号溝1・2、25号溝1～3、2号井戸1・2出土遺物

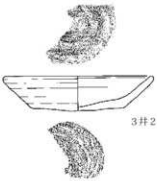


２井３(1/6)

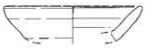
２井４(2/3)



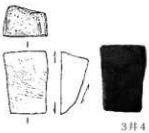
３井１



３井２



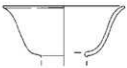
３井３



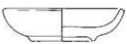
３井４

４井１(1/4)

４井２(1/4)

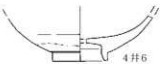


４井３



４井４

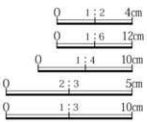
４井５



４井６

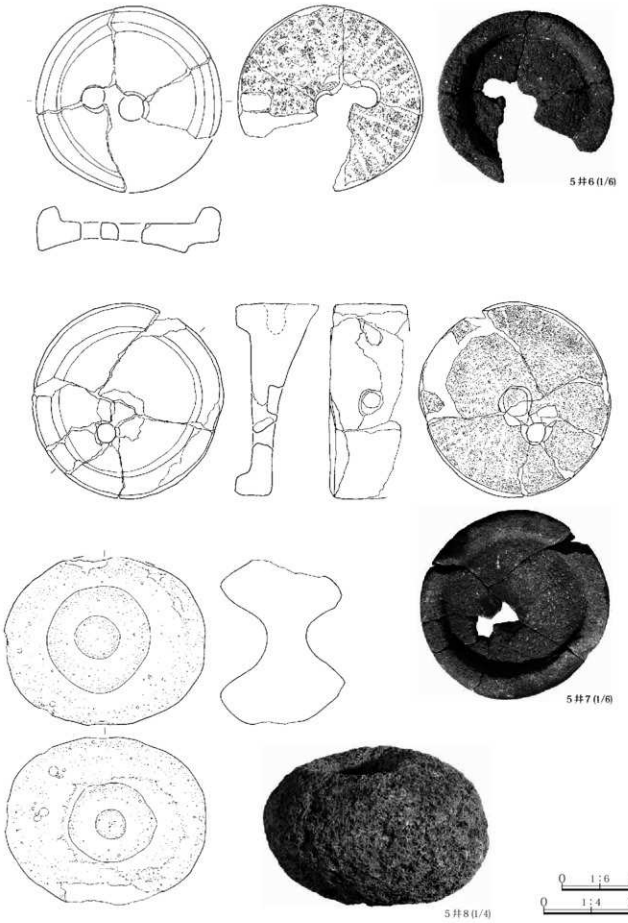
４井７(1/2)

４井８(1/2)

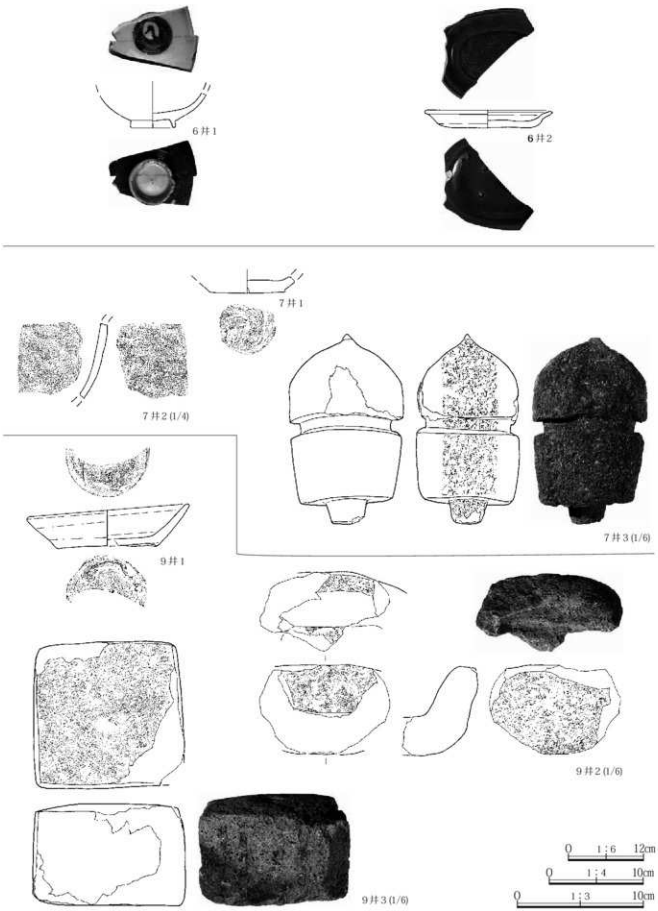


第120図　２号井戸３・４、３号井戸１～４、４号井戸１～８出土遺物

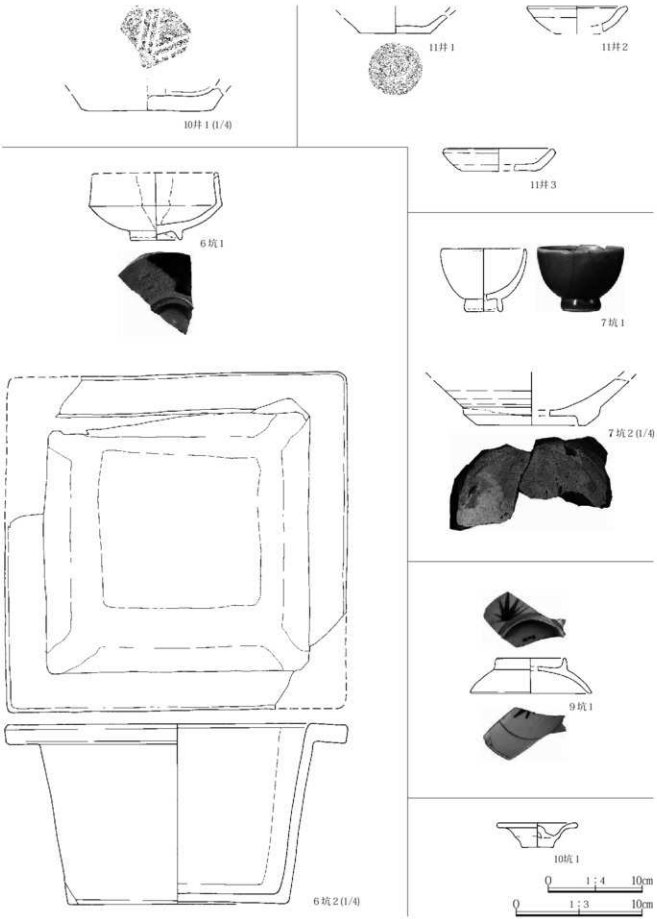
第121図　4号井戸9～12、5号井戸1～5出土遺物



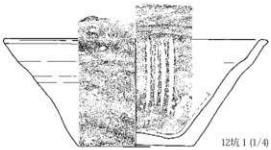
第122図　５号井戸出土遺物６～８

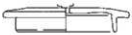


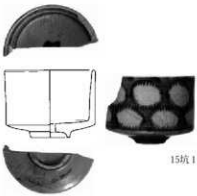
第123図　6号井戸1・2、7号井戸1～3、9号井戸1～3出土遺物

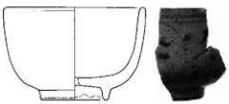


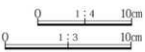
第124図　10号井戸１、11号井戸１～３、６号土坑１・２、７号土坑１・２、９号土坑１、10号土坑１出土遺物



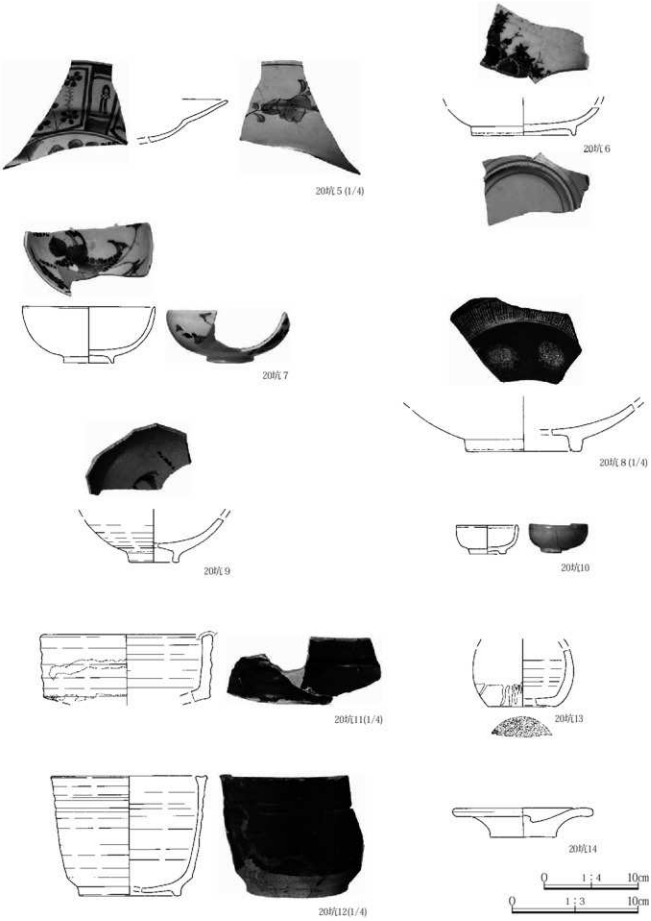




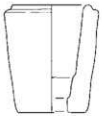




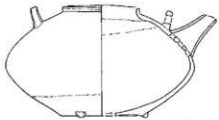
第125図　12号土坑１・２、15号土坑１、17号土坑１～３、20号土坑１～４出土遺物



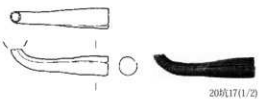
第126図　20号土坑出土遺物５～14



20坑15



20坑16(1/4)

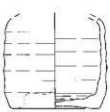


20坑17(1/2)

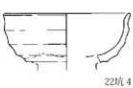
20坑18(1/2)

22坑1

22坑2(1/4)



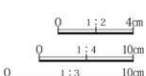
22坑3(1/4)



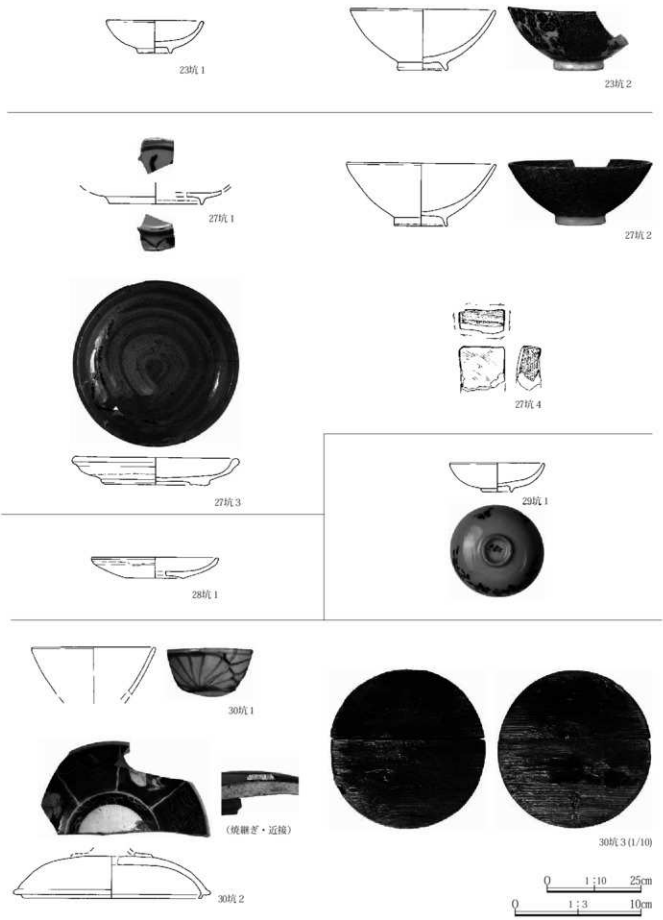
22坑4

22坑5

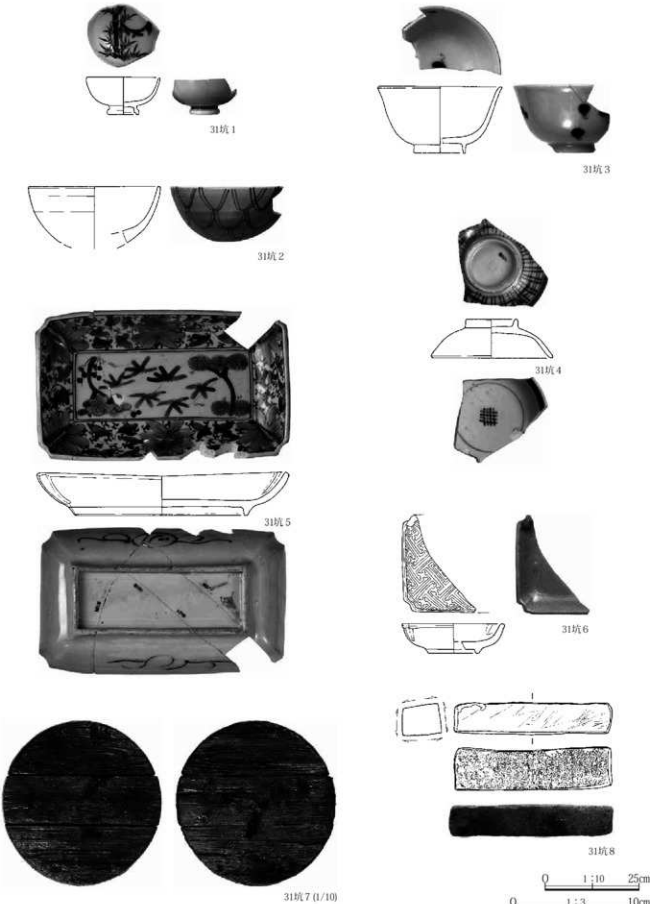
22坑6(1/4)



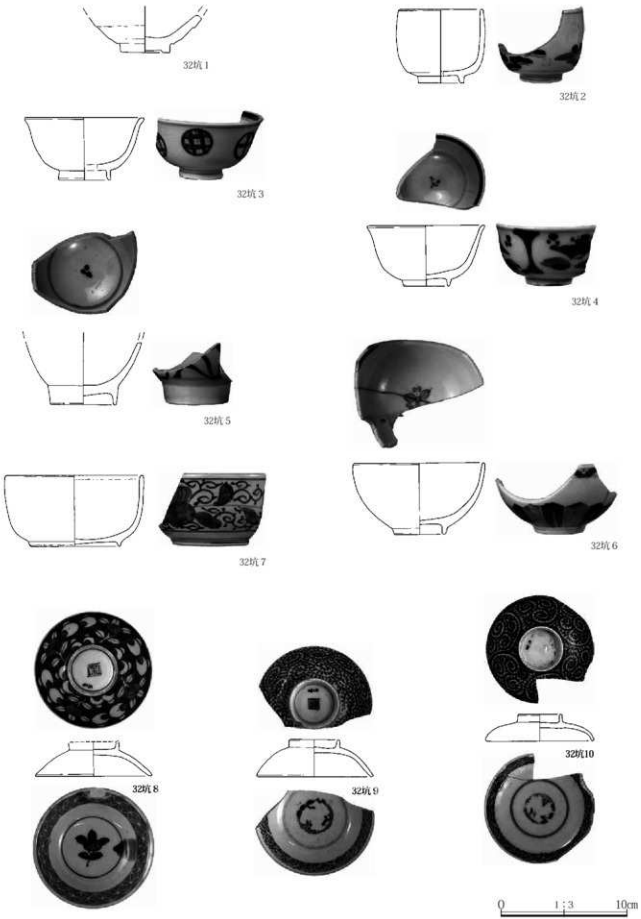
第127図　20号土坑15～18、22号土坑１～６出土遺物



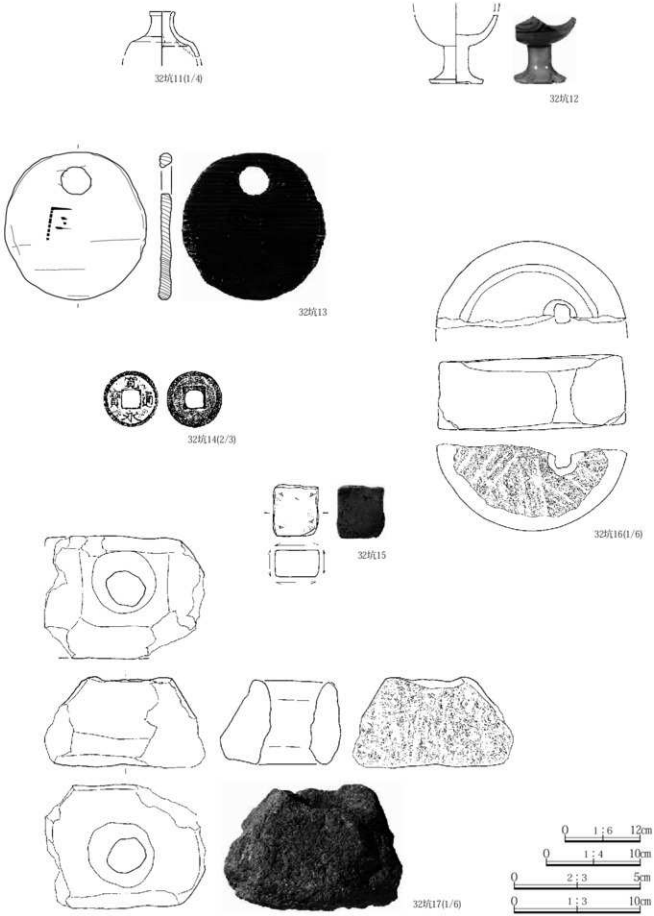
第128図　23号土坑１・２、27号土坑１～４、28号土坑１、29号土坑１、30号土坑１～３出土遺物



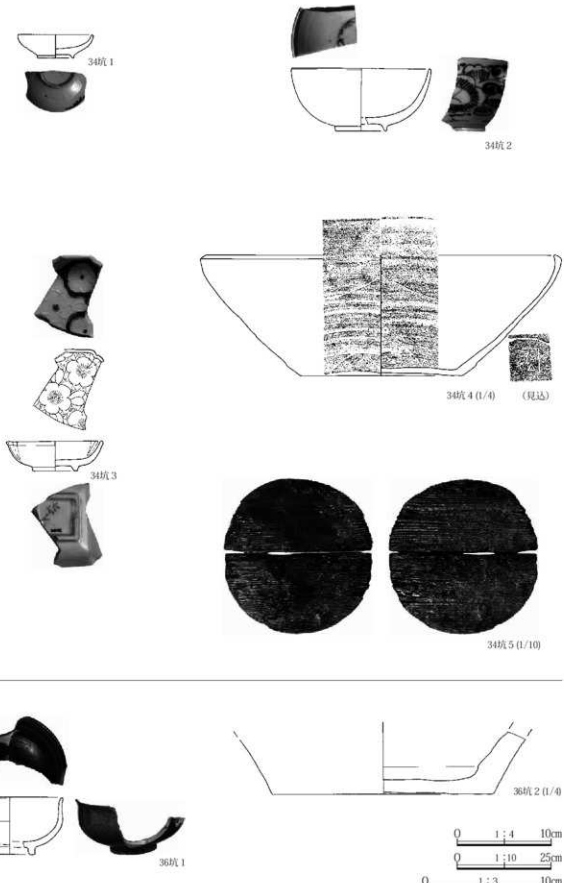
第129図　31号土坑出土遺物１～８



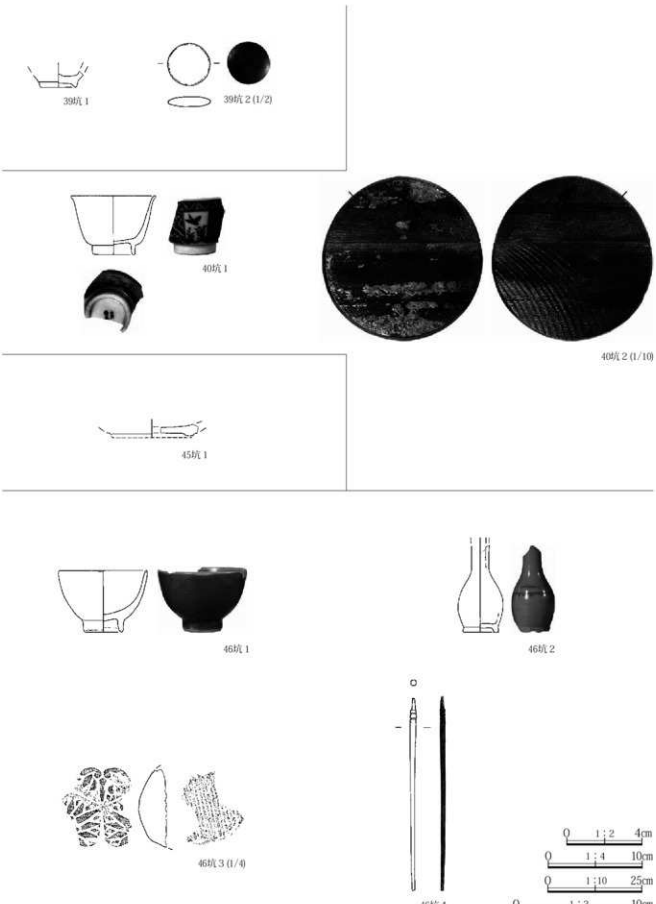
第130図　32号土坑出土遺物１～10



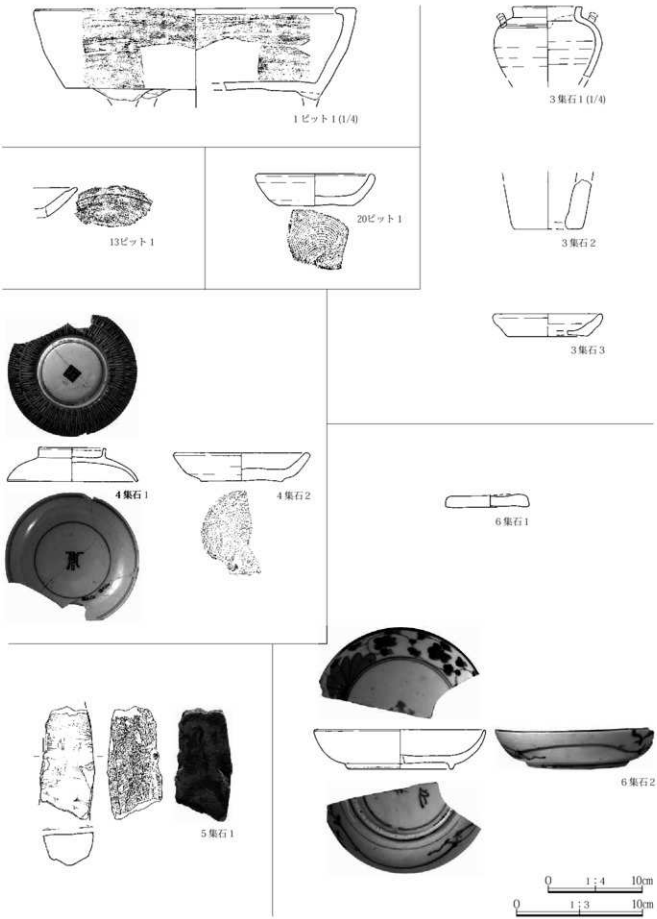
第131図　32号土坑出土遺物11～17



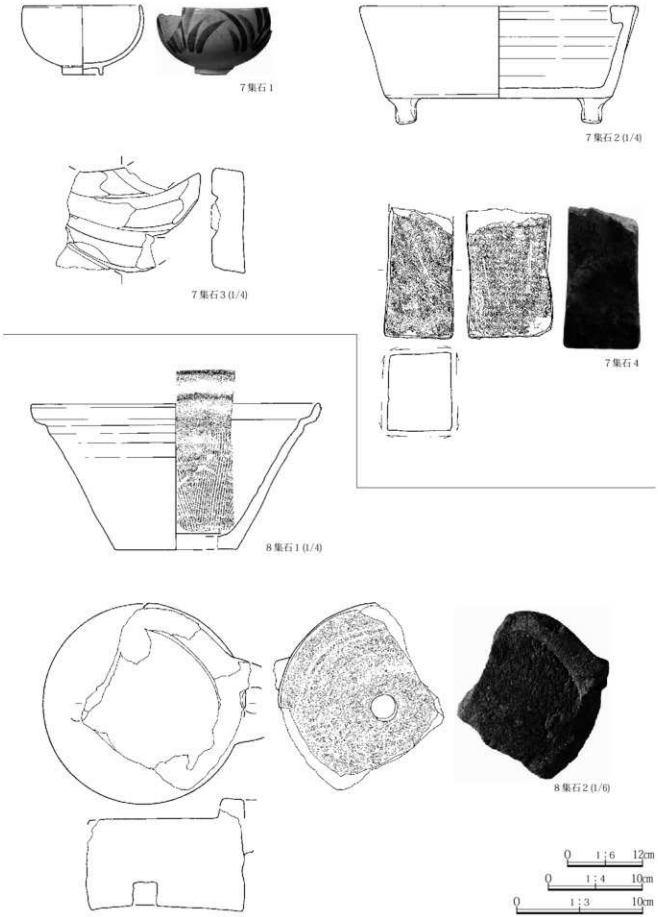
第132図　34号土坑１～５、36号土坑１・２出土遺物



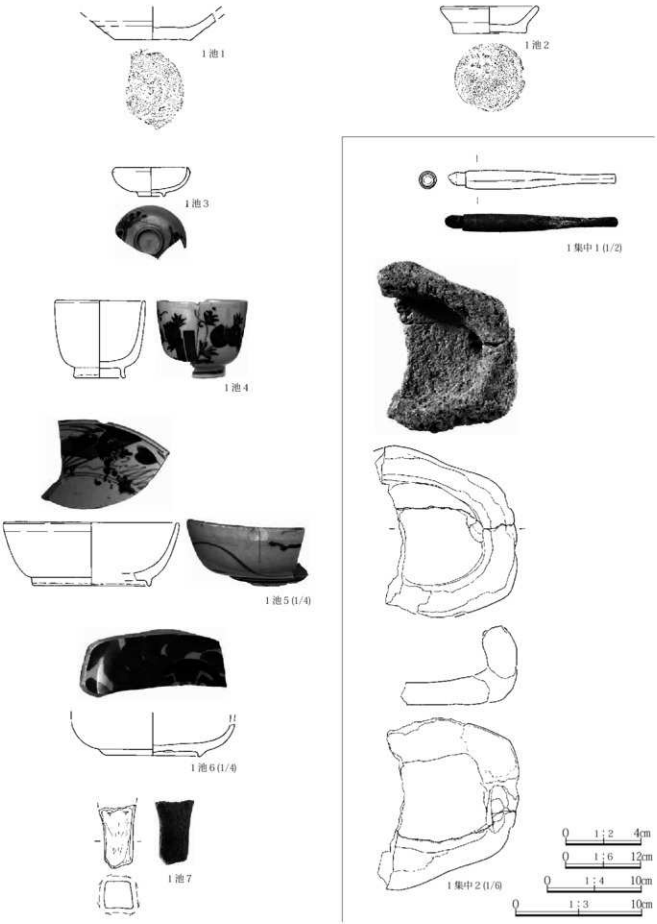
第133図　39号土坑1・2、40号土坑1・2、45号土坑1、46号土坑1～4出土遺物



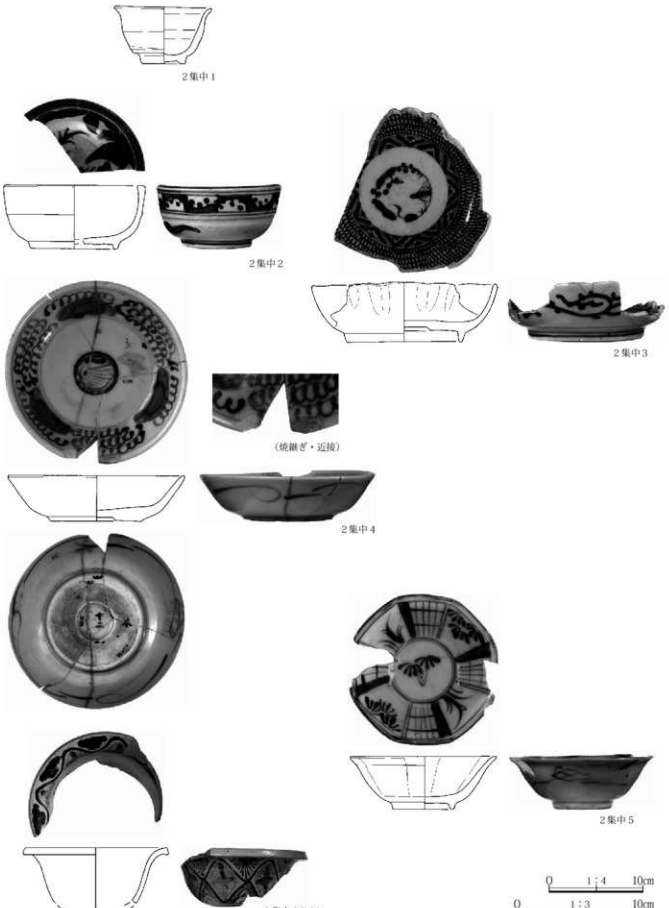
第134図　１号ピット１、13号ピット１、20号ピット１、３号集石１～３、４号集石１・２、５号集石１、６号集石１・２出土遺物



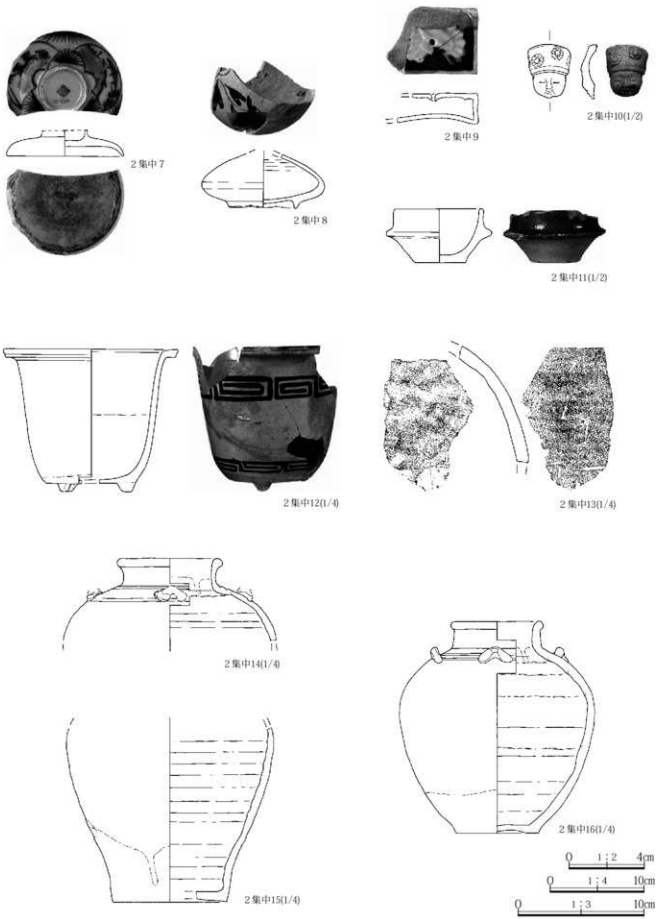
第135図　7号集石1～4、8号集石1・2出土遺物



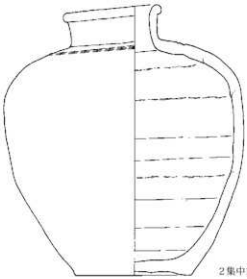
第136図　１号池１～７、１号遺物集中１・２出土遺物



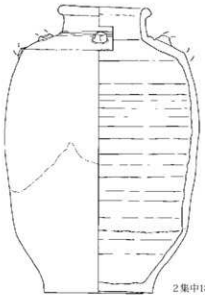
第137図　2号遺物集中出土遺物1～6



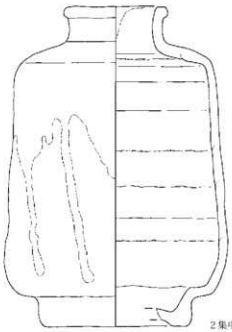
第138図　２号遺物集中出土遺物７～16



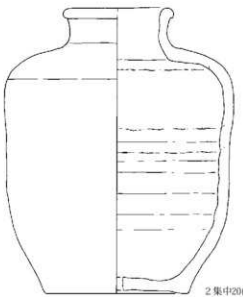
2集中17(1/4)



2集中18(1/4)



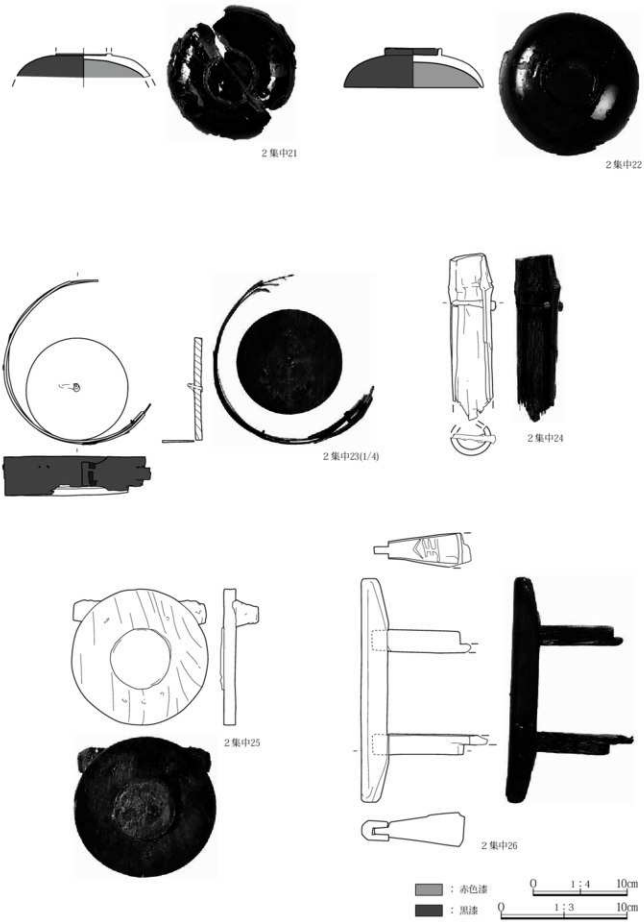
2集中19(1/4)



2集中20(1/4)

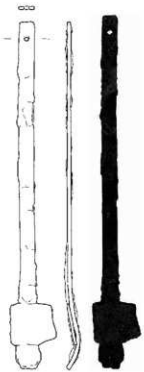
0　1:4　10cm

第139図　2号遺物集中出土遺物17～20



第140図　２号遺物集中出土遺物21～26

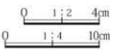
2集中27(1/4)



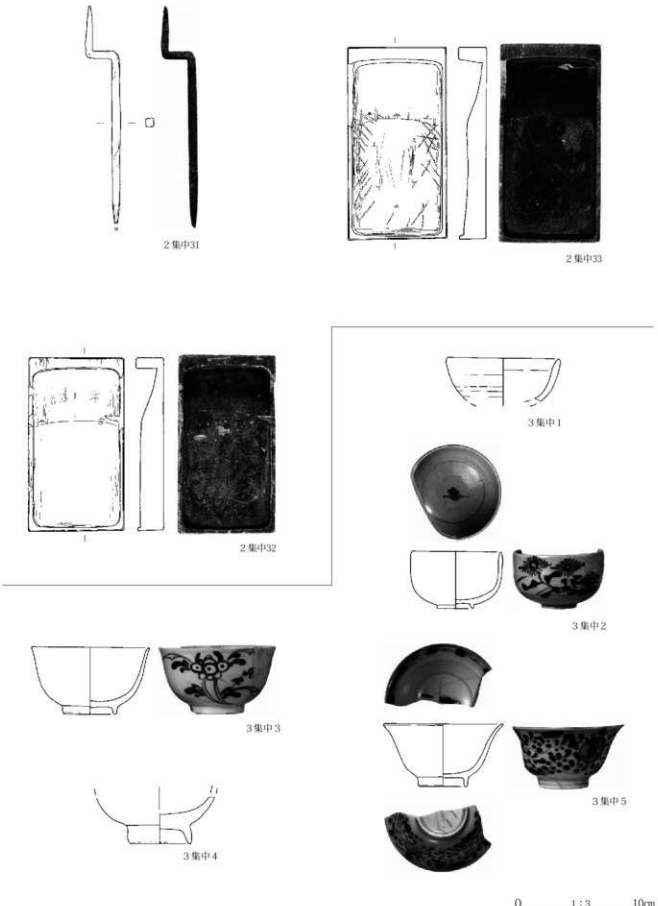
2集中28(1/4)

2集中29(1/2)

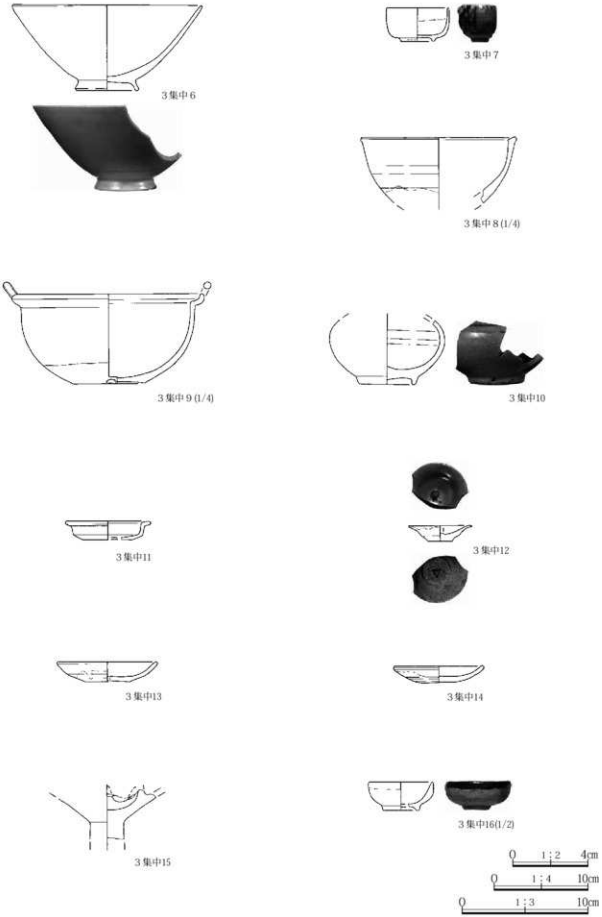
2集中30(1/2)



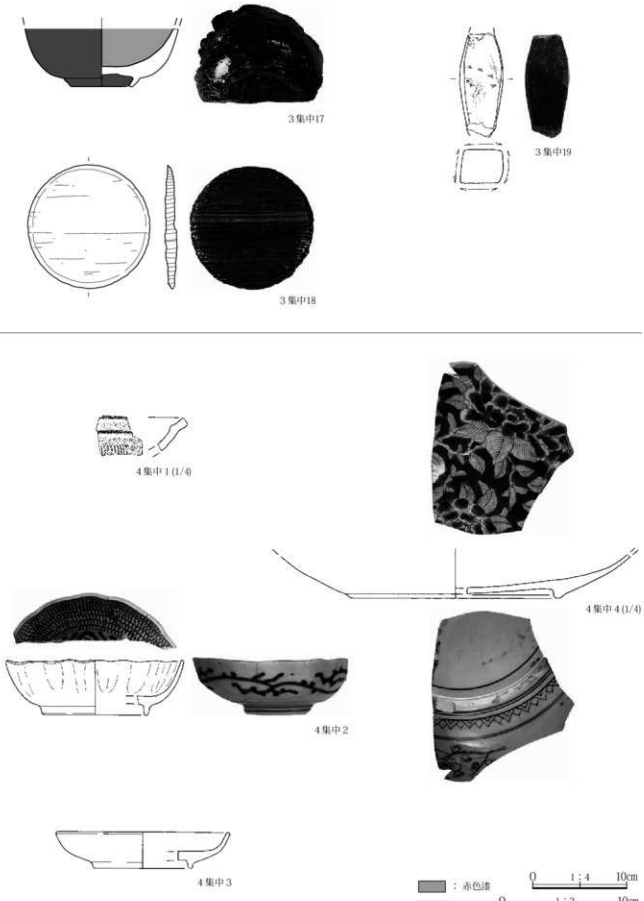
第141図　2号遺物集中出土遺物27～30



第142図　２号遺物集中31～33、３号遺物集中１～５出土遺物

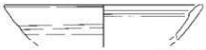


第143図　3号遺物集中出土遺物6～16



第144図　３号遺物集中17～19、４号遺物集中１～４出土遺物

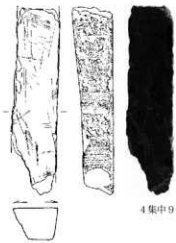
4集中5(1/4)



4集中6(1/4)

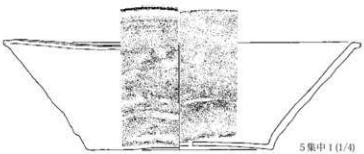
4集中7(1/2)

4集中8(2/3)

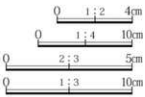


4集中9

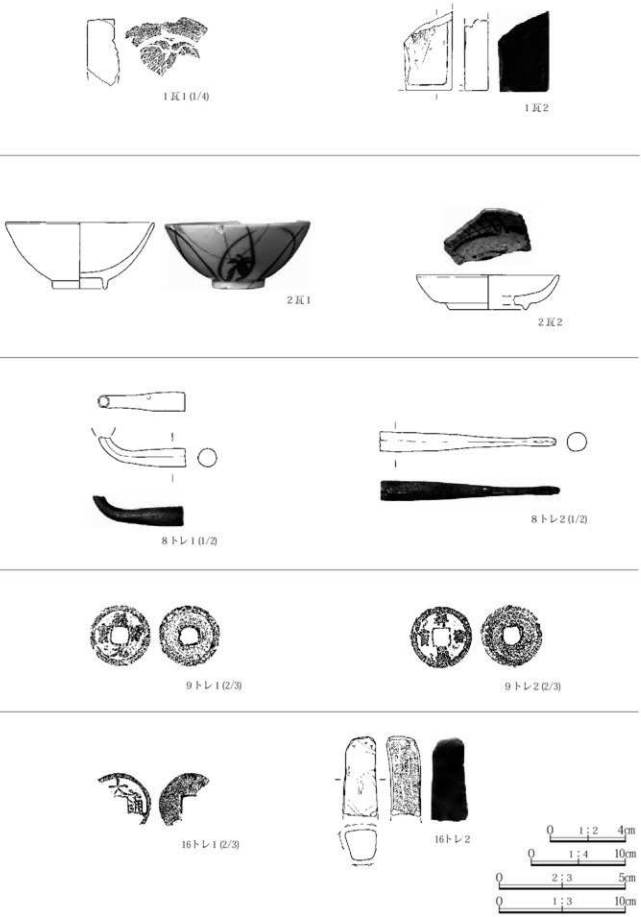
4集中10(1/2)



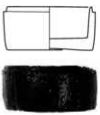
5集中1(1/4)

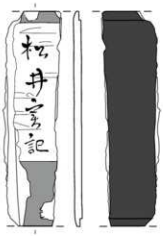


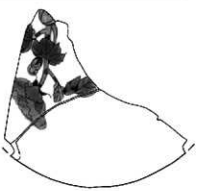
第145図　4号遺物集中5～10、5号遺物集中1出土遺物

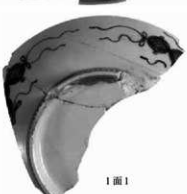


第146図　1号瓦だまり1・2、2号瓦だまり1・2、8号トレンチ1・2、9号トレンチ1・2、16号トレンチ1・2出土遺物





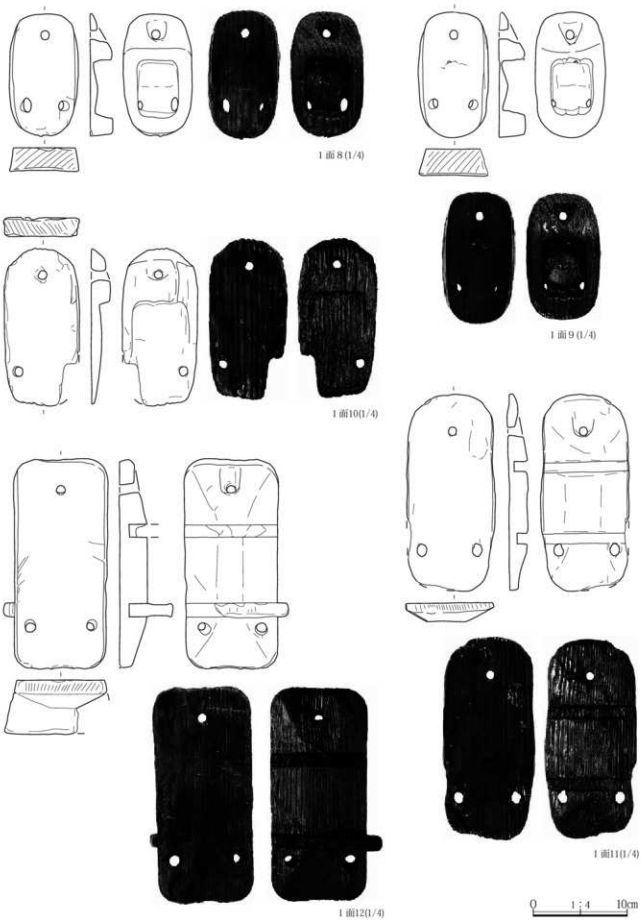




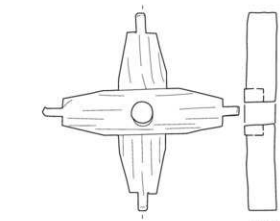
：赤色漆
：黒漆

0　1:3　10cm

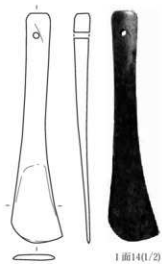
第147図　16号トレンチ３、１面確認面１～７出土遺物



第148図　１面確認面出土遺物８～12

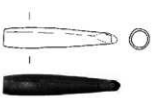


1面13



1面14(1/2)

1面15(1/2)

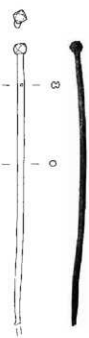


1面16(1/2)

1面17

1面18

1面19



1面20

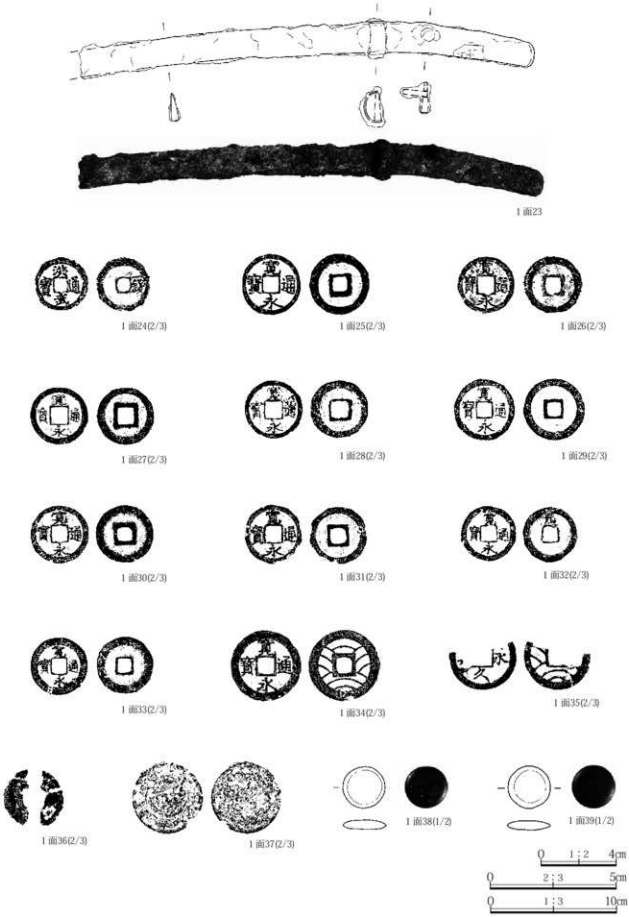
1面21(1/2)

1面22

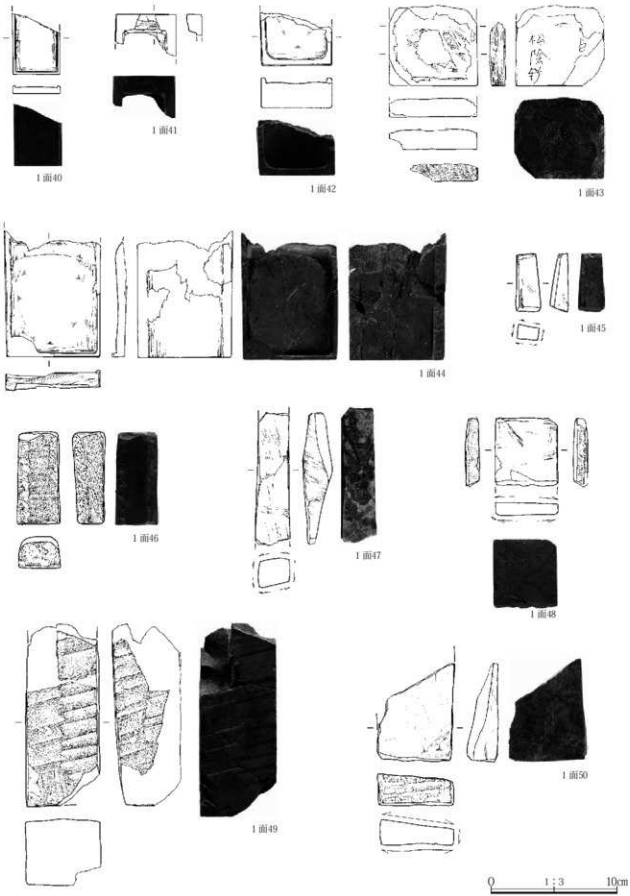
0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

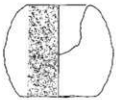
第149図　1面確認面出土遺物13～22



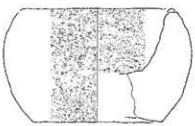
第150図　１面確認面出土遺物23～39



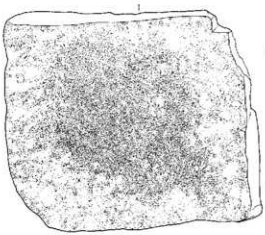
第151図　1面確認面出土遺物40～50



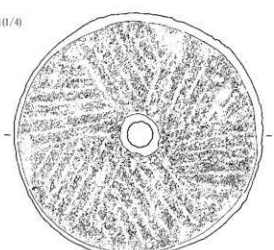
１面52(1/6)

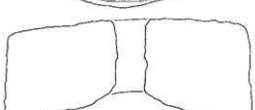


１面53(1/6)



１面51(1/4)





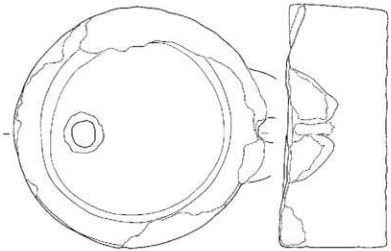
１面55(1/6)

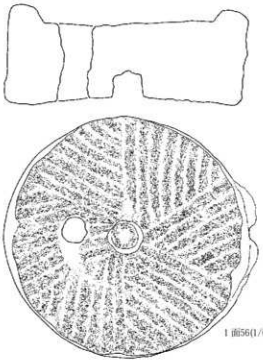
１面54(1/6)

0　1:6　12cm

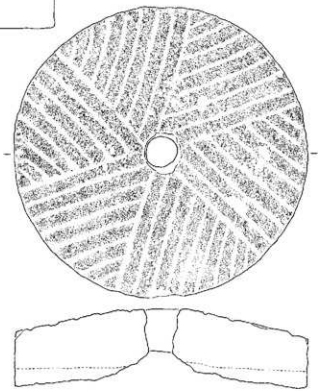
0　1:4　10cm

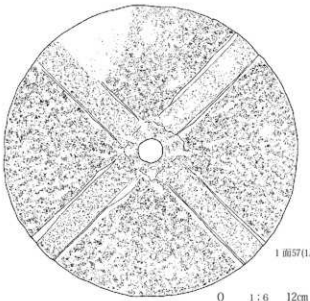
第152図　１面確認面出土遺物51～55





1 面56(1/6)



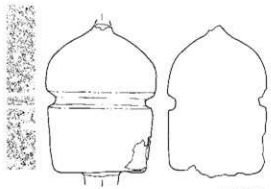


1 面57(1/8)

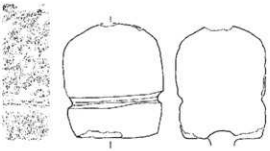
0　1:6　12cm

0　1:8　20cm

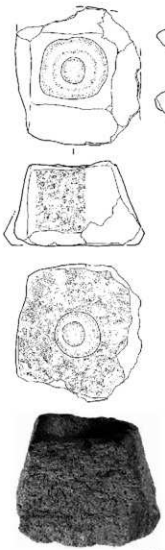
第153図　1 面確認面出土遺物56・57



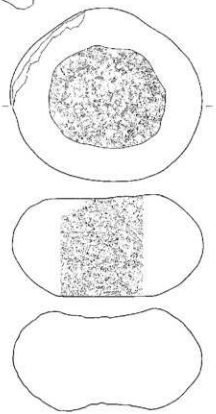
1 面58(1/6)



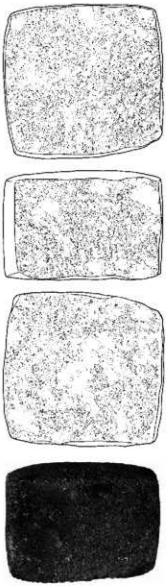
1 面59(1/6)



1 面60(1/6)



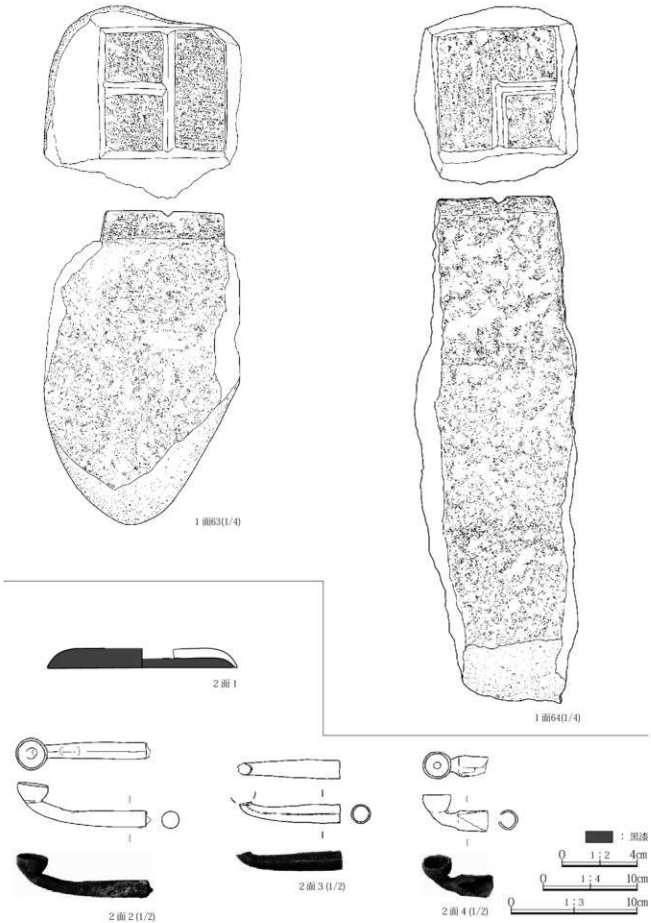
1 面61(1/6)



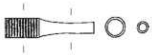
1 面62(1/6)

0　1:6　12cm

第154図　1 面確認面出土遺物58～62



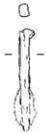
第155図　1面確認面63・64、2面確認面1～4出土遺物


２面５(1/2)

２面６

２面７

２面８(1/2)


２面９(1/2)

２面10(2/3)

２面11(2/3)

２面12(2/3)

２面13(2/3)

２面14(2/3)

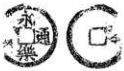
２面15(2/3)

２面16(2/3)

２面17(2/3)

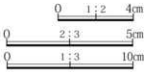
２面18(2/3)

２面19(2/3)

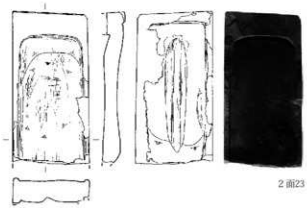

２面20(2/3)

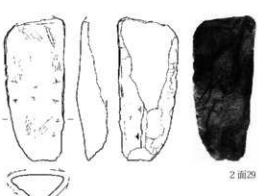
２面21(2/3)

２面22(2/3)



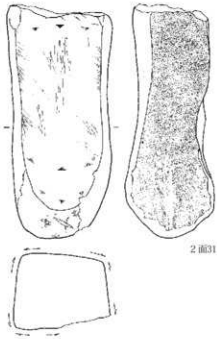
第156図　２面確認面出土遺物５～22

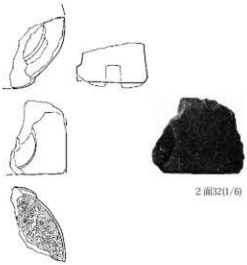


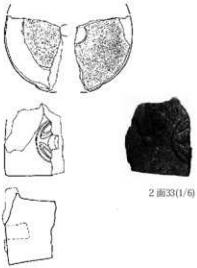


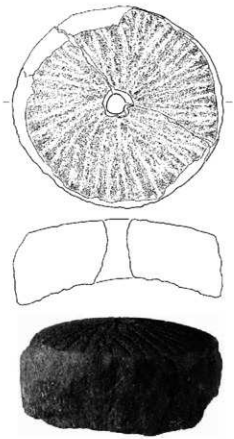
0　1:3　10cm

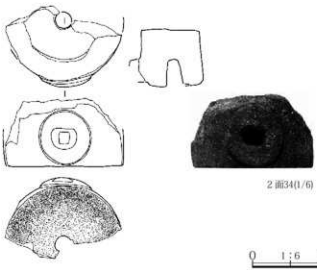
第157図　2面確認面出土遺物23～30







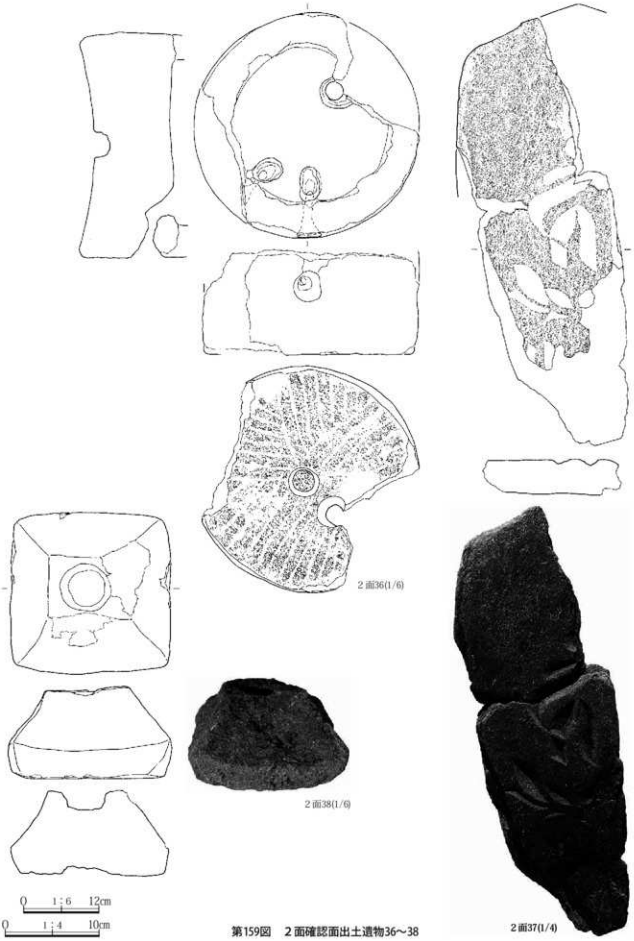




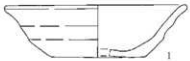
0　1:6　12cm

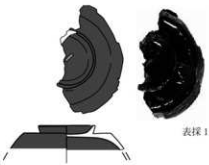
0　1:3　10cm

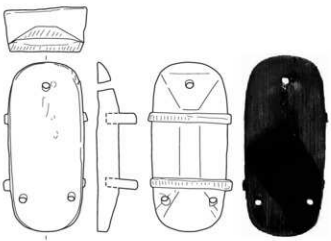
第158図　２面確認面出土遺物31～35

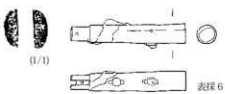


第159図　2面確認面出土遺物36～38









：赤色漆
：黒漆

0　1：4　10cm
0　1：3　10cm

第160図　遺構外１～3、表採１～６出土遺物

第４章　自然科学分析

前橋城跡10号溝からは、多量の炭化種実が出土した。第22図には、炭化種実の出土したおよその範囲を示している。炭化種実は、溝の覆土の多くを占める炭化物層よりまとまって出土した。溝の堆積状況から考えると、一括で廃棄されたものと思われる。伴う遺物が確認できないため廃棄された時期については明らかでないが、10号溝は中世末から近世初頭頃には埋没していたと思われることから、炭化種実もその頃に廃棄された可能性が考えられる。

近隣の調査例では、群馬県庁舎建設に伴う前橋城遺跡の発掘調査で、１次２号堀底面付近より炭化種実が多量に出土したと報告されている。２号堀は断面が逆台形状で、上幅6.4～8.2m、下幅2.6～5.2m、深さ2.41～2.53mと大規模であり、中世前橋城の堀の可能性が高いと指摘されていた。出土遺物には16世紀の瀬戸・美濃系陶器や貿易陶磁器、渡来銭、茶臼や石臼、カワラケ、内耳土器などがあり、また17世紀前半の天目茶碗や近世のすり鉢も確認されている。そのため、２号堀は近世になってから人為的に埋められたと解釈され報告された。10号溝も中世末から近世初頭頃に埋没した可能性が高く、２号堀と10号溝から出土した炭化種実が近似した時期に埋められた可能性も考えられる。

２号堀で出土した炭化種実の自然科学分析は行われていないため、その詳細については明らかでない。今回、10号溝の炭化種実を同定することは、当時の生活の一端を知る貴重な資料になるものと考えている。

本遺跡からは、確認面１面及び２面、19号溝より馬歯が出土した。また、ガン類の左尺骨は十人小路の側溝と思われる６号溝より出土している。出土状況の詳細については明らかでないが、ガン類の左尺骨は食用にされたものの一部との可能性が指摘され、城内の様相を知る手掛かりになると考えている。

詳細については後述する通りである。

１　前橋城跡10号溝から出土した炭化種実および炭化種実塊

はじめに

前橋城跡の10号溝から得られた炭化種実および炭化種実塊について報告する。

（１）試料と方法

試料は、10号溝の覆土から一括で取り上げられた炭化種実および炭化種実塊である。炭化種実および種実塊は出土量が多かったため、調査では一部が取り上げられた。取り上げられた試料のうち、タッパーウェア（27×20×８㎝）２個分に入っていた土つきの試料を同定用の試料とした。10号溝覆土はおよそ３層に分かれ、炭化種実および種実塊は溝底部より１層をはさみ、覆土の大半を占める炭化物層よりまとまって出土した。10号溝の開削時期は明らかでないが、炭化種実および種実塊も中世末から近世初頭頃には埋められたと考えられている。

試料の採取および水洗は、群馬県埋蔵文化財調査事業団が行った。取り上げられた炭化種実、さらに分析試料にした炭化種実は任意の量であるため、どのような種類がどのような状態（塊もしくは単独か）で出土しているかの把握に重点を置いた。このため、計数は行っていない。同定された試料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

（２）結果

同定した結果、木本植物は含まれておらず、草本植物のソバ炭化果実と、ササゲ属アズキ亜属アズキ型炭化種子、ヒエ炭化有ふ果・炭化種子、イネ炭化籾殻・炭化種子、アワ炭化有ふ果・炭化種子、オオムギ炭化果実・炭化種子の６分類群が得られた。

試料は、全体量の一部でありかつ大量なため、ここではそれぞれの分類群の出土比率を示す。

イネ炭化籾・炭化種子　≒90％

アワ炭化有ふ果・炭化種子　≒６％

ヒエ炭化有ふ果・炭化種子　≒１％

オオムギ炭化果実・炭化種子　≒１％

ソバ炭化果実　＜１％

ササゲ属アズキ亜属アズキ型炭化種子　＜１％

イネが約９割と非常に多く、アワが少量、オオムギとヒエがわずか、ソバとアズキ型がごくわずか含まれていた。これらのうち、イネとアワのみ種実塊があった。塊中に複数の種類はみられず、それぞれ単一の種類で構成されていた。部位別にみると、イネ科の４種は殻つきの種実が多く、種子の状態はわずかであった。

以下、炭化種実について記載し、図版に示して同定の根拠とする。

①ソバ *Fagopyrum sagittatum* Gilib.　炭化果実　タデ科

上面観は三稜形にわかれ、端部は翼状に突き出る。側面観は広卵形。長さ4.9㎜、幅4.5㎜。

②ササゲ属アズキ亜属アズキ型 *Vigna angularis* var. *angularis* type　炭化種子　マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。臍がない個体と、小畑ほか(2007)に示されたアズキ型の特徴である長楕円形の臍の内部に厚膜(Epihilum)が残存している個体がある。臍は全長の半分から2/3ほどの長さで、片側に寄る。小畑(2008)に示された現生種と大きさを比較すると、栽培種のアズキに近い。任意に抽出した種子10点の大きさは、長さ4.0 ～ 5.3(平均4.7±0.4)㎜、幅2.7 ～ 4.0(平均3.5±0.5)㎜、厚さ2.6 ～ 3.5(平均3.1±0.4)㎜であった。

③ヒエ *Echinochloa esculenta* (A.Braun) H.Scholz　炭化有ふ果・炭化種子　イネ科

果実は楕円形。先端と基部はやや尖り、内穎は膨らまない。微細な縦筋がある。壁は薄く、光沢がある。任意に抽出した有ふ果５点の大きさは、長さ2.9 ～ 4.6(平均3.6±0.8)㎜、幅1.6 ～ 2.1(平均1.9±0.2)㎜であった。種子は側面観が卵形、断面が片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広く、長さは全長の2/3程度と長い。臍は幅が広いうちわ型。任意に抽出した種子５点の大きさは、長さ1.9 ～ 2.4(平均2.2±0.2)㎜、幅1.5 ～ 2.0(平均1.8±0.2)㎜であった。

④イネ *Oryza sativa* L.　炭化籾・炭化種子・炭化種実塊　イネ科

籾は、側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。任意に抽出した籾10点の大きさは、長さ6.2～8.0(平均7.3±0.4)㎜、幅3.1～3.7(平均3.4±0.2)㎜であった。種子は上面観が両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の２本の浅い溝がある。任意に抽出した種子10点の大きさは、長さ4.1～5.6(平均4.8±0.5)㎜、幅2.4～3.3(平均2.9±0.3)㎜であった。分析を行ったイネ種実塊の最大の大きさは、長軸7.28㎝、短軸6.08㎝、厚さ2.60㎝であった。

⑤アワ *Setaria italica* P.Beauv.　炭化有ふ果・炭化種子・炭化種実塊　イネ科

有ふ果は、紡錘形。内頴と外頴に独立した微細な乳頭突起がある。任意に抽出した有ふ果10点の大きさは、長さ1.7～2.1(平均1.9±0.1)㎜、幅1.3～1.6(平均1.5±0.1)㎜であった。種子の上面観は楕円形、側面観は円形に近く、先端がやや突出することがある。腹面下端中央の窪んだ位置に楕円形の胚がある。胚の長さは全長の2/3程度。任意に抽出した種子10点の大きさは、長さ1.2～1.6(平均1.4±0.1)㎜、幅1.1～1.4(平均1.2±0.1)㎜であった。

⑥オオムギ *Hordeum vulgare* L.　炭化果実・炭化種子　イネ科

果実の上面観は円形、側面観は紡錘形。下端は残存していない。縦方向に筋がある。任意に抽出した果実10点の大きさは、長さ6.4～8.2(平均7.3±0.6)㎜、幅2.6～3.8(平均3.0±0.3)㎜、厚さ2.0～3.2(平均2.4±0.3)㎜であった。種子の側面観は長楕円形、腹面中央部には上下に走る１本の溝がある。背面の下端中央部には三角形の胚がある。断面は楕円形である(Jacomet,2006)。任意に抽出した種子10点の大きさは、長さ4.2 ～ 7.0(平均5.5±0.8)㎜、幅2.4～3.3(平均2.8±0.3)㎜、厚さ1.8～2.6(平均2.2±0.3)㎜であった。

(３)考察

10号溝から得られた炭化種実および種実塊を検討した結果、多量の穀類が得られた。栽培植物では、ソバ、ヒエ、イネ、アワ、オオムギが得られた。イネ科の穀類は、種子もみられるが、有ふ果や籾が多いため本来は殻が付いた状態で保管されていたと考えられる。またササゲ属

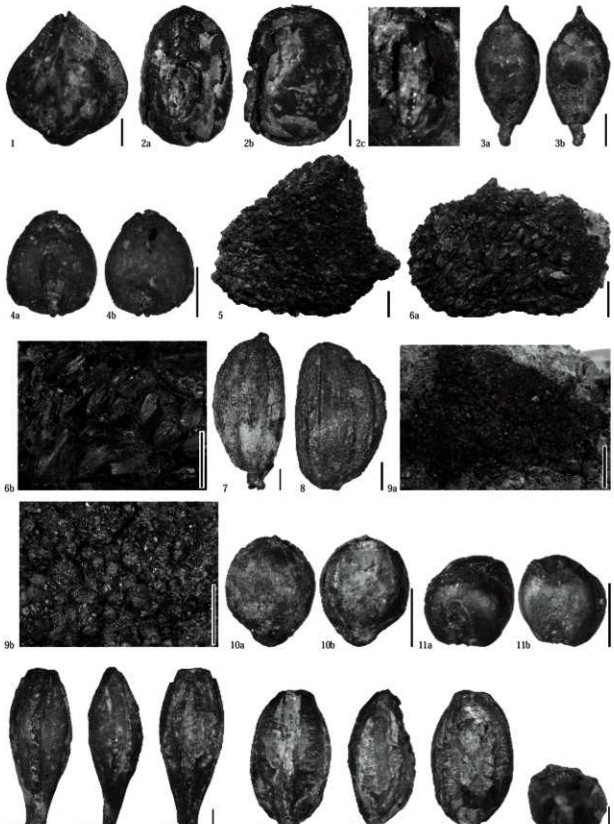
アズキ亜属アズキ型は、大きさから栽培種のアズキと考えられる。

出土状況の詳細については明らかでないため明確にはいえないが、炭化種実および種実塊はイネの籾を主体としていた。種実塊はイネとアワのみにみられ、イネとアワの比率は種実塊の表面で確認できる数から推定すると９：１であった。またアワの塊の大きさはイネに比べて小さかった。炭化種実および種実塊は、イネを主体として多種類の穀類を保管していた場所が熱を受けて炭化し、溝内に流れ込み堆積したか、片付けないし廃棄によって溝内に人為的に堆積したなどの可能性が考えられる。イネとアワの種実塊には複数種が混じっていないため、当時は種類ごとに別々の袋で保管されていたと考えられる。

中世末から近世初頭にかけての一括性が高い多種類の穀類利用（しかも塊を伴う）が明らかな例は少ない。県内の事例では、長野原町東宮遺跡で、1783年の浅間山噴火の泥流によって埋没した建物跡から、多種類の穀類などが検出されている（佐々木・バンダリ，2012）。一見炭化米のみの塊にみえる炭化種実塊も一定量を分析し、種実塊の組成や部位を検討すると、当時の利用植物がより明らかになると期待される。

引用文献

Jacomet,S.and collaborators Archaeobotany Lab.(2006) Identification of cereal remains from archaeological sites.2nd edition,IPAS,Basel Univ.
小畑弘己(2008)マメ科種子同定法．小畑弘己編「縄東先史古代の穀物３」：225-252.
小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子(2007)土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培．植生史研究15（２），97-114.
佐々木由香・バンダリ　スダルシャン(2012)東宮遺跡から出土した大型植物遺体．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「東宮遺跡（２）－遺物編－」：437-461．群馬県埋蔵文化財調査事業団.



スケール 1,2a-b,3,4,7,8,10-13:1mm,5,6a,9a:10mm,6b,9b:5mm,2cは任意

1．ソバ炭化果実、2．ササゲ属アズキ亜属アズキ型炭化種子、3．ヒエ炭化有ふ果、4．ヒエ炭化種子、5・6．イネ炭化種実塊、7．イネ炭化籾、8．イネ炭化種子、9．アワ炭化種実塊、10．アワ炭化有ふ果、11．アワ炭化種子、12．オオムギ炭化果実、13．オオムギ炭化種子

写真１　前橋城跡10号溝から出土した炭化種実・種実塊

2　前橋城跡出土鳥・獣骨について

(1)ガン類(6号溝)

マガンもしくはそれに近いガン属の左尺骨で、きわめて保存がよい。

骨表面には藍鉄鉱が観察される。これは骨類に含まれるリンと水中の鉄分が反応して生じる鉱物で、長い間水中もしくは湿気の多い所に埋存していたことを表す。

江戸屋敷跡では少なからぬ鳥類骨が発掘され、ガン類はニワトリ、カモ類に次いで出土骨片数が多い。食されたものとされている(山根, 1998、2013)が、本遺跡の鳥骨も、人による切痕などは確認されてないものの、左尺骨だけの不自然な出土状況からみて、食用にされたものの一部であることも考えられる。

(2)馬歯(確認面1面)

破損した右?上顎第3後臼歯の破片で、前小窩、後小窩が残存する。歯冠高は最低でも58.3mmあり、西中川・他(1991)による年齢推定法によれば5歳以下の幼齢馬である。

(3)馬歯(確認面2面)

左下顎第3前臼歯と左下顎第4前臼歯と下顎骨片と思われる小骨片数片が出土した。いずれの前臼歯も外側をセメント質で覆われ、保存状態は極めて良好である。表30に示したように歯冠高が高く、西中川・他(1991)によれば7歳前後の若い壮齢馬である。

歯の大きさからみると日本の中型在来馬相当の馬格が推定される。

(4)馬歯(19号溝)

右上顎第2切歯と骨片の出土である。

この切歯は歯冠長が15.1mm、歯冠幅が9.3mm、歯冠高が46.6mmあって、切歯咬合面の形状は8歳～10歳程度の壮齢馬であることを示している。

引用・参考文献

江田直毅(2005)「生活復元資料としての鳥類遺体の研究－カモ亜科遺体の同定とその考古学的意義－」海交史研究会考古学論集刊行会『海と考古学』六一書房、387-406

松井　晃(2008)「動物考古学」京都大学学術出版会、312P

西中川駿編(1991)「古代遺跡から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書。

山根洋子(1998)近世江戸出土の鳥類遺体－文京区駒込追分町遺跡の資料を中心に「動物考古学」11、55-68

山根洋子(2013)近世江戸の鳥獣類利用「動物考古学」30、105-120

表29　ガン属左尺骨計測値

	GL	Bp	Dip	Did
前橋城跡	142.0	14.6	17.9	15.0
マガモ※	135.0	12.1	16.8	14.1
ヒシクイ※	177.0	17.9	22.5	18.1

単位:mm

※現生種の計測値及び計測法は松井(2008)による

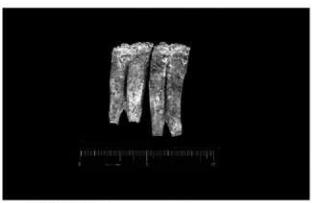
表30　左下顎馬歯(確認面2面)**計測値**

	第3前臼歯	第4前臼歯
歯冠近遠心径	28.9	26.0
〃　頬舌径	15.3	15.0
歯冠高頬側	44.1	53.7
〃　舌側	46.4	54.0
下後錘谷長	9.6	9.4
下内錘谷長	14.0	11.4
doubleknot長	15.8	14.7
咬合面の傾斜	77°	87°
下内錘幅	6.6	5.2

単位:mm

１．ガン類（６号溝）

２．馬歯（確認面１面）



３．馬歯（確認面２面）

４．馬歯（19溝）

第５章　総括

本章では、前橋城跡の調査成果として、第１節で遺構、第２節で遺物について述べる。前橋城に関連した遺跡の調査では、絵図や文献等を参考に発掘や整理事業を進め、一定の成果を得ている。本章でも、絵図や文献等を踏まえ調査成果について言及したいと思う。

前橋城は、以下の４時期に大別することができる。

①中世前橋城（築城時期～ 1590年頃）

中世前橋城は、厩橋城とも呼ばれる。

②近世前橋城（1590年頃～ 1767年）

平岩親吉の入城から松平朝矩が川越へ移城するまでの間。この間に、利根川による城郭の侵食。本丸の崩落により、三の曲輪に御殿を築く。

③廃城期・陣屋支配（1767年～ 1867年）

前橋城の破城。この間に、天明三（1783）年の浅間山噴火に伴う天明泥流が堀に流入。堀内の泥流堆積物上に水田が造られる。

④再築前橋城以降（1867年～）

前橋城の再築。松平直克帰城以降。

本章では、以上の時期区分を踏まえ前橋城跡の発掘調査成果について述べていく。また表31は、前橋城の城主・城代の変遷と瀬戸・美濃系陶磁器の編年を示したものである。『群馬県史』通史編４近世１（群馬県史編さん委員会1990）、『愛知県史』別編窯業２　中世・近世　瀬戸系（愛知県史編さん委員会2007）、「戦国期上野長野氏の動向」『日本史攷究』第35号（黒田基樹2011）等をもとに作成した。表10 ～ 28の陶磁器一覧表とともに参照していただきたい。

表31　前橋城（厩橋城）　城主・城代の変遷

	瀬戸・美濃編年	西暦	年　代	石高（万石）	城主・城代
	大窯第１段階	1489?	延徳元年?～		長野宗賢
		～	～		長野顕業
1530	大窯第２段階	1506以前?	永正三年以前?～		厩橋（長野）賢忠
		15417	天文十年?～		長野道安
		15537	天文二十二年?～		長野道賢
1560		15577	弘治三年頃?～		長野亟九郎
	大窯第３段階	1560	永禄三年～		河田長親
		1562	永禄五年～		北条高広
		1574	天正二年～		北条景広
		1579	天正七年～		北条高広
		1582	天正十年～		滝川一益
		1582	天正十年～		北条高広
		1583	天正十一年～		小田原北条氏
1590	大窯第４段階	1590	天正十八年～	3.3	平岩親吉
1610	登窯第１小期	1601	慶長六年～	3.3	酒井重忠
		1617	元和三年～	8.5	酒井忠世
	登窯第２小期	1636	寛永十三年～	15.25	酒井忠行
1650	登窯第３小期	1637	寛永十四年～	10	酒井忠清
	登窯第４小期				
	登窯第５小期	1681	延宝九年～	13	酒井忠挙
1700	登窯第６小期	1707	宝永四年～	15	酒井忠相
		1708	宝永五年～	15	酒井親愛
		1720	享保五年～	15	酒井親本
		1731	享保十六年～	15	酒井忠恭
1750	登窯第７小期	1749	寛延二年～	15	松平朝矩
1800	登窯第８小期	明和四(1767)年～慶応三(1867)年			陣屋支配
	登窯第９小期				
	登窯第10小期				
1850	登窯第11小期	1867	慶応三年～	17	松平直克

ており、遺構も同時期のものが多いと推測している。

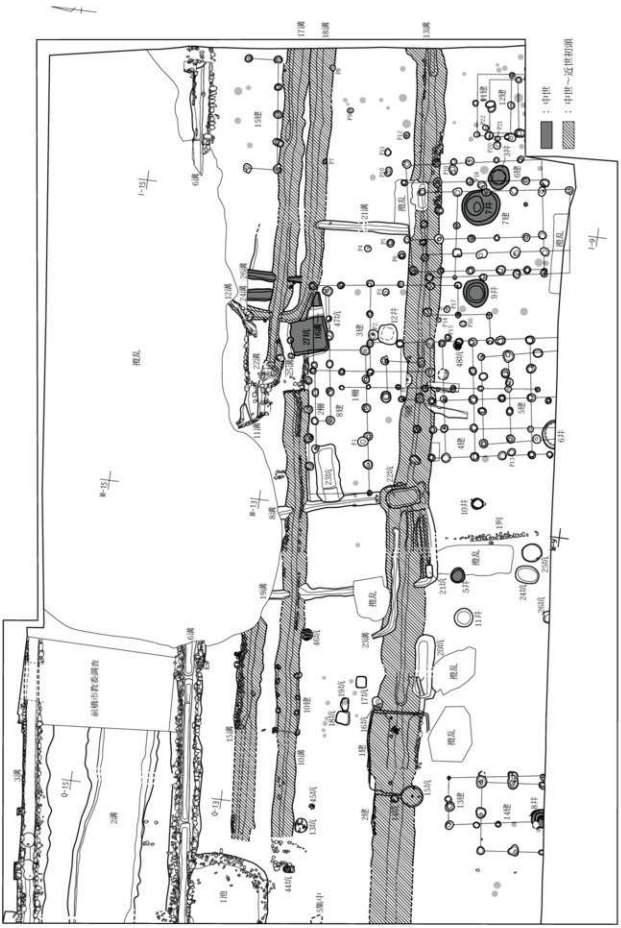
第161図には、検出された遺構のうち、中世及び中世から近世初頭に比定できた遺構を示している。10・13・18号溝等については、開削時期が判然としないため中世から近世初頭としたが、遺跡出土の中世陶磁器が16世紀を中心としており、16世紀頃に開削された溝ではないかと考えている。３・６号溝の開削時期についても明らかでないが、十人小路の両側溝と思われることから、城絵図が描かれる以前の中世末から近世初頭頃には存在していたと推測される。

10・13・15・17・18号溝は、３・６号溝と近接し同様の溝であることから、同時期には併存していなかったと考えている。また、調査区南東側を中心に、これらの溝と建物との重複が顕著であった。中世末から近世初頭ま

第１節　遺構

１　前橋城跡の中世遺構

前橋城跡からは、建物跡や溝など多くの遺構が検出されている。本遺跡より出土した陶磁器は、表10 ～ 13の通り中世末から近世初頭（16世紀後葉から17世紀前葉頃）及び近世後半以降（18世紀後半から19世紀頃）を中心とし



第161図　前橋城跡　中世遺構

での陶磁器が多く出土し、中世前橋城から近世前橋城への拡張、整備も同様の時期に行われたと思われることから、これらの溝(道か)が廃絶され建物が建てられるまでの間は、おそらく短期間であったろうと推測している。詳細については後述する。

2　前橋城「十人小路」の変遷

(1)検出された十人小路

前橋城跡は、近世前橋城の外曲輪に位置する。近世前橋城の絵図では両側に側溝を伴う幅広の道が描かれており、これを「十人小路」と呼んでいる。十人小路は車橋門より外曲輪を通って三の門に向かう道で、二の丸、本丸へと続くため、前橋城にとっては最も重要な道だと判断される。

前橋城跡の調査では、この十人小路の側溝と思われる3・6号溝が検出された(第161図)。溝は、ともに両側面に石組みを伴い、およそ東西方向に並行して直線的に走行する。道幅は、両溝の心々で10.3mほどであった。

十人小路は、堀を渡り車橋門を通り抜けるまで、三の丸側が見えないように屈曲させている。さらに三の門へ直接向かうことはなく、道が堀に達すると南側、西側、北側に折れ曲がり、堀にある「中島」を渡り、三の門を抜ける喰違虎口のような複雑な構造となっている(第163図)。

(2)十人小路とそれ以前

十人小路に伴う虎口等を設けるには、車橋門や三の門及び外曲輪も含めた大規模な普請が必要であったと考えている。あるいは既に車橋門や三の門があり、虎口などを設けられる位置に十人小路を新たに普請したのではないかとも考えられる。

群馬県庁舎建設に伴う発掘調査では、近世前橋城の絵図に描かれていない遺構は中世以前または近世後半以降と判断され、一定の成果を得ている。本遺跡でも同様に判断すれば、絵図に描かれていない中世遺物が出土する13号溝及び10・18号溝は、中世の遺構と考えられるだろう。また13号溝及び10・18号溝は、3・6号溝と同様に道状遺構の可能性もある。13号溝と10・18号溝との幅は、両溝の心々で7.5mほどであった。

前橋城跡より出土した陶磁器の年代については、表10～13に示した通りである。悉皆的な調査結果ではないが、肥前系陶磁器では1590～1610年代より出土量が多く、また瀬戸・美濃系陶磁器では大窯3段階から増加し、大窯4段階が最も多く、登窯第1・2小期も出土量が多いことがわかった。貿易陶磁器では、16世紀後葉から17世紀前葉頃の出土量が多いことが確認できた。陶磁器の出土状況はともに同様の傾向であり、遺跡より検出された遺構の時期についても、多くは陶磁器と同様の時期に比定できるものと考えている。

第163図は、3・6号溝と13号溝及び10・18号溝を、近世前橋城の絵図に任意で重ねたものである。3・6号溝に比べ南側に位置する13号溝及び10・18号溝は、より直接的に三の門、車橋門方向へ向かっていることがわかる。三の門で中島を伴う喰違虎口のような構造にするには、13号溝及び10・18号溝より北側、3・6号溝が検出された位置に道を敷設する必要があったのだろう。

(3)十人小路の普請

前橋城跡で出土陶磁器が増加するのは、16世紀後葉から17世紀前葉頃である。これは、中世前橋城から近世前橋城へと拡張、整備された時期と重なる(表31)。また、3・6号溝出土陶磁器に中世に比定できるものはわずかだが、17世紀中葉から後葉頃からは数多く確認でき、13号溝及び10・18号溝の出土陶磁器の年代と大きく異なることはない(表14～28)。そのため、13号溝及び10・18号溝を埋め、3・6号溝を開削するまでは、比較的短い期間であったと推測している。

中世前橋城から近世前橋城へと拡張、整備される過程で、それまでの道(13号溝及び10・18号溝)が廃絶され、新たに十人小路(3・6号溝)を敷設した可能性も指摘できるだろう。絵図では、調査区である外曲輪に「侍屋敷」と書かれており、重複する建物の多くは城内の屋敷跡だと思われる。出土遺物から考えても、13号溝及び10・18号溝が廃絶され、建物が建てられるまでの間は比較的短い期間であったと思われる。

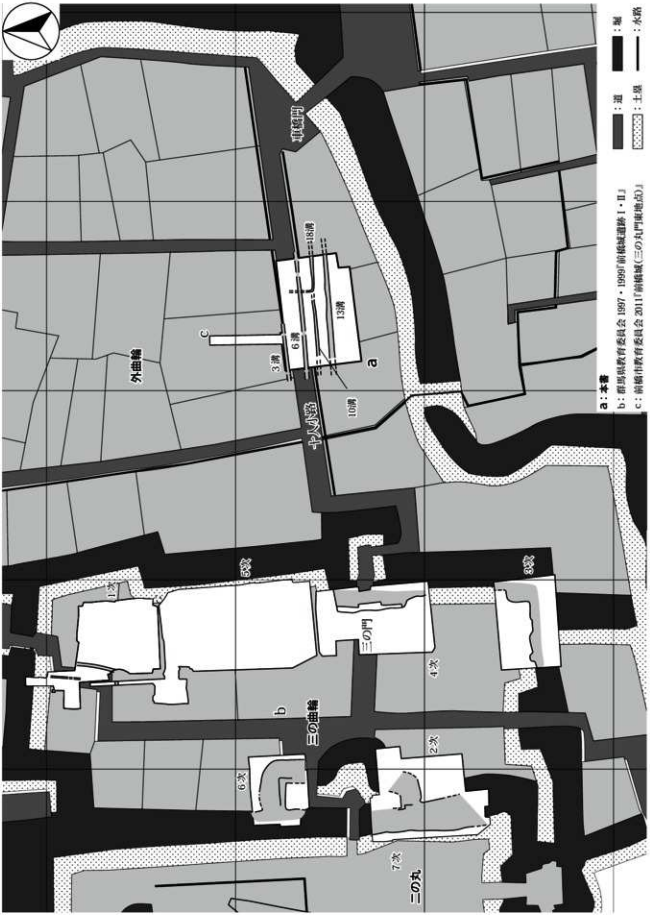
群馬県庁舎建設に伴う発掘調査では、近世前橋城三の曲輪付近を中心に広域な調査が行われた。そこでは、近世前橋城の絵図に描かれていない遺構も検出され、出土遺物などから中世と判断された溝や堀も確認されている(第164図)。これまでは中世前橋城の資料が少ないため、近世前橋城の絵図から中世前橋城の姿を推測することが

第162図　近世前橋城縄張図（竜海院に所蔵されていた前橋城絵図をトレース、一部修正）

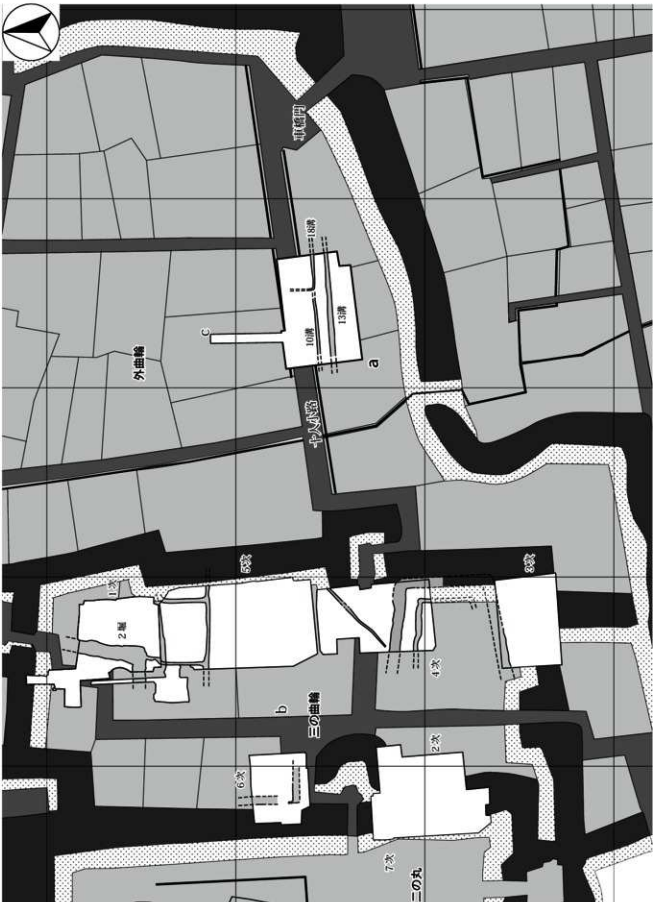
多かった。その中で、近世城郭に拡張、整備される際には、中世城郭の縄張りを大きく変えることはなく踏襲されていくとの考え方もあった。しかし、第164図に示した通り、近世前橋城三の曲輪では、絵図にある前橋城の縄張りとは異なる中世の堀が検出された。これらの中世遺構が中世前橋城の一部となるかは明らかでないが、少なくとも近世前橋城三の曲輪付近の縄張りが、中世のある段階と異なることは確かだろう。

前橋城跡は三の曲輪の東側、外曲輪に位置し、ここから16世紀後葉から17世紀前葉の陶磁器が数多く出土した。中世前橋城から近世前橋城へと拡張、整備された際の痕跡が色濃く残されていたのだが、この普請を行った城主は誰であろうか。表11をみると、大窯４段階から出土量が増えていることがわかる。この時期は、天正十八（1583）年に徳川家康が江戸城に入封し、前橋城に平岩親吉や酒井重忠を配した時期と重なる（表31）。親吉は、甲府城代（郡代）から3.3万石で前橋城に入封したが、その際、家臣には甲斐武田氏の遺臣御嶽衆・武川衆・津金衆、三河以来の家臣団、厩橋衆なども在地した（『群馬県史』通史編４近世１）。多くの家臣を抱えることになった親吉が、手狭であったろう城を拡張、整備した可能性は充分に考えられる。

前橋城における親吉の治世は11年に及ぶが、京都警護の五隊の隊長となり、文禄元（1592）年には肥前名護屋に赴くなど、実際の前橋在城期間はあまり長くないと指摘されている（『前橋市史』第二巻）。また治世等に関する資



第163図　近世前橋城跡と3・6号溝、10・13・18号溝(近世前橋城絵図に、前橋城跡と『前橋城遺跡Ⅰ・Ⅱ』の近世遺構を重ねる)



第164図　近世前橋城跡と10・13・18号溝（近世前橋城絵図に、前橋城跡と『前橋城遺跡Ⅰ・Ⅱ』で確認された中世遺構を重ねる）

料が少ないことから、親吉による普請の実態については明らかでない。そのため、城内及び城下の本格的な拡張、整備は酒井氏より行われたのではないかと理解されてきた。しかし、これまで以上の家臣を抱えることになった親吉が、城郭の拡張、整備に着手しなかったとは考えにくく、着手していれば相応の規模であったと思われる。

酒井重忠が前橋城の城主になると、その家臣も『川越一万石の城主から三万三〇〇〇石の城主になる過程で、その家臣団は急速に増加」（群馬県史通史編４近世１）した。表11をみると、大窯４段階の出土量が多く、その中でも後半から増えていることがわかる。これは、重忠が城主であった時期とおよそ重なる（表31）。今回の調査成果からは、ある程度の規模で前橋城外曲輪の整備が行われたのは親吉頃からで、重忠へと引き継がれていき、その過程で十人小路が敷設された可能性があると考えられるだろう。

（４）外曲輪の普請

『直泰夜話』には、「前橋の城中広小路は、平岩主計（頭）殿在城の節、出来候郭なり」（『前橋市史』第二巻）とある。前橋市史では中世前橋城（厩橋城）を三の曲輪までと推定しており、島田郭を「広小路の郭」と理解していた。しかし、外曲輪を発掘調査した本遺跡で16世紀中葉以前の陶磁器が少なく、16世紀後葉頃から増加することを考えれば、幅広い道であった「十人小路」が「広小路」とも考えられ、親吉が城主の頃にできた（整備された）曲輪が外曲輪である可能性も指摘できるだろう。

『直泰夜話』には、四代酒井忠清が、「柏木門、是は普請の初めに柏木にて橋を掛ける故に名付く、大昌院様（忠清）御代、慶安年中に出来候由」（『前橋市史』第二巻）と、慶安年間（1648 ～ 51）に水曲輪の北側から三の曲輪に抜ける柏木門の整備を行った記録が残る。同じく「前橋御城内車橋の矢倉門、大手の矢倉門は大昌院様御代出来候由、其れ以前は冠木門なり、三の御門御橋の擬宝珠は、台徳院様（秀忠）より降興院様（忠世）御拝領被遊候、其外二の御門に二ヵ所、車橋、大手、坪呂岩共に六ヵ所に擬宝珠あり」（『前橋市史』第二巻）と、四代忠清の頃、17世紀中葉にかけても外曲輪付近の整備を続けていたことがわかる。

近世前橋城が、絵図に描かれたような城構えになるのは17世紀後葉頃だと思われる。『直泰夜話』には、「大昌院様御代、寛文十年、前橋の御城の絵図を小幡勘兵衛に為御見被遊候処、二の御門、太鼓矢倉の所を殊の外賞美被遊候由云々」（『前橋市史』第二巻）とある。著名な軍学者であった小幡勘兵衛に前橋城の絵図を見せたとすれば、寛文十（1670）年頃には城郭としてほぼ完成していたと考えて良いだろう。少なくとも、竜海院に所蔵されていた前橋城絵図が描かれた元禄年間（1688 ～ 1703）以降、五代忠挙の頃には近世前橋城の城構えになっていたと考えられ（絵図の年代については関口荘右氏ご教授による）、少なくともこの頃までには、外曲輪の普請も終わっていたと思われる。

（５）廃城期・陣屋支配頃の十人小路

十人小路は、廃城期・陣屋支配頃の絵図にも描かれており、３・６号溝は埋没することなく長く使用されていたと思われる。そのためか、両溝からは幕末頃までの陶磁器が確認でき、出土遺物からも溝（道）が長く使用されていたことが確認できた。

３・６号溝の石組みには組み方に違いがあり、見映えを重視した結果ではないかと前述したが、長い期間の利用により何度も修繕された結果とも考えられる。または、構築時期の違いが石組みの違いとして確認されたのかもしれない。

再築された前橋城絵図にも、やや形状を変えた道が描かれている。本調査区で検出された溝の中に、再築前橋城の道に伴う側溝があるのかもしれないが、明らかにすることはできなかった。

（６）残る課題

十人小路が３・６号溝の位置に敷設された原因には、堀と道との位置関係もあったと考えている。13号溝及び10・18号溝が十人小路以前の道であるとすると、外曲輪を囲む南側の堀に近接した位置に道があったことになる（第163・164図）。堀と道との間は狭く、城内の侍屋敷として利用するには不都合があったのかもしれない。古い溝（道か）を埋め北側へ新たな道を敷設することは、この様な複合的な原因から行われた可能性もあるだろう。

しかし、外曲輪を囲む堀がいつ開削されたのか、その時期を特定することは難しく、手狭であったことが新たな道を敷設した理由になるのかは明らかでない。今後の調査例増加に期待したい。

十人小路より以前の道とも思われる13号溝及び10・18

号溝は、群馬県庁舎建設に伴う発掘調査では確認されていない(第164図)。この溝が道になるのか、道とすればどの様な道となり、その後どの様に展開するのかは確認できていない。今後も検証が必要だと考えている。

中世前橋城に関する具体的な記述としては、「謙信在城の節は三の郭は城下にて沼田への往来の街道也」(『前橋風土記付録』山崎一『古城塁址の研究』上巻)や、『石川忠総留書』(『群馬県史』資料編７中世３)の、中世の前橋城(厩橋城)の本丸の内には天神山という高い所があり、謙信の祈願所であったなどがある。しかし、記された文献はわずかで、また県庁の西側、利根川との間で行われた発掘調査例も少なく、中世前橋城の実態については明らかなことが少ない。本遺跡の調査でもその実態に迫ることはできなかった。今後、中世前橋城の実態に迫れる調査例が増えることを期待したい。

絵図と調査区を重ね合わせた第162～164図は、任意で縮尺を合わせ、検出された遺構の輪郭を合わせながら図版を重ねたものである。前橋城の歴史と発掘成果を理解する上では有益な資料となるが、この図版での微細な違いを論点にすることは難しい。また、数多くの絵図が残されている前橋城であっても、絵図に描かれなかった道や溝などがあった可能性は高い。あくまでも参考資料として扱っていただければと思う。

引用・参考文献
群馬県史編さん委員会1989『群馬県史』通史編３中世
群馬県史編さん委員会1990『群馬県史』通史編４近世１
前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』第一巻
前橋市史編さん委員会1973『前橋市史』第二巻
愛知県史編さん委員会2007『愛知県史』別編窯業２　中世・近世　瀬戸系
山崎一1978『群馬県古城塁址の研究』上巻
山崎一1979『群馬県古城塁址の研究』補遺篇下巻
黒田基樹2011「戦国期上野長野氏の動向」『日本史攷究』第35号
群馬県教育委員会1997『前橋城遺跡Ⅰ』
群馬県教育委員会1999『前橋城遺跡Ⅱ』
群馬県立文書館開館30周年記念特別展「絵図でたどるふるさと群馬－城・関所・村の風景－」パンフレット

第２節　遺物

本調査区から出土した陶磁器は、16世紀後葉から17世紀前葉頃、及び18世紀後半から19世紀頃が多い。15世紀以前では龍泉窯系の青磁、渥美や常滑、古瀬戸などが確認できるが、16世紀後葉と比較すればその数は少ない。

本章第１節で述べた通り、16世紀後葉から17世紀前葉頃は、平岩親吉や酒井重忠が、それまで以上の多くの家臣を抱え前橋城に入封された時期と重なる。城郭の拡張、整備は急務であり大規模なものであったため、その痕跡が出土遺物にも色濃く残ったのだと考えている。一方、18世紀後半から19世紀頃の遺物が多い理由は判然としない。前橋城は破城され、陣屋支配となっていた同時期に人々の痕跡が多く残る理由が明らかでないのだ。同時期の遺物には、鍋島焼や貿易陶磁器、瓶平焼など、優品として扱われただろう陶磁器も含まれている。これらを使用するには財力が必要であり、財力のある同時期の人々と考えると、生糸商人達が思い浮かぶ。早急には判断できないが、調査区に18世紀後半から19世紀頃の優品も含む陶磁器が出土していることは、前橋の生糸商人達とも関連があるのではないかと指摘しておきたい。

前橋城跡から出土した遺物の概要は、第３章で述べた通りである。本節では、特徴的ないくつかの遺物について述べる。また、ここで述べる遺物の中には、諸々の事情により後日図版等を補う遺物があることを付け加えておく。

１　近世後半頃の出土陶磁器

（１）鍋島焼

18世紀後半より19世紀頃の陶磁器には、優品として扱われていただろうものも多く含まれていた。その一つが染付芙蓉文皿（１面No.１）の鍋島焼である。

鍋島焼は、1644年の明清革命の後に唐物の購入ができなくなった鍋島家が、徳川家への献上品を模索する中で焼成したもので、将軍への献上や大名、公家への贈答などのため、採算を度外視して作らせた磁器製品である。献上は毎年11月に行われたが、献上された鍋島焼の一部は家臣などにも下賜されたようだ。

前橋城跡から出土した鍋島焼は、19世紀前葉頃の後期鍋島に比定された。この頃の鍋島焼は、将軍や大名、公家への贈答だけではなく、一部の人々が使用することもできたようだ。群馬県では高崎城下の櫓物遺跡等で出土例があり、ここでは後期鍋島と盛期鍋島が確認されている。しかし、鍋島焼の県内での出土例はわずかであり、後期鍋島であっても、少なくとも県内では優品として扱われていたと考えている。

（２）貿易陶磁器

前橋城跡からは、清朝期頃に比定された貿易陶磁器が７点出土している。出土した貿易陶磁器の中には、碗や皿類だけでなく、朱肉入れに使用されたと思われる染付合子（１面No.82）や人形か水滴と思われる染付（１面No.83）、染付蓋物鉢（１面No.84）などの器種も確認された。県内でも出土例のわずかな同時期の貿易陶磁器が、雑器として扱われたとは思えず、優品として扱われていた可能性が高いと考えている。

（３）珉平焼

珉平焼は、文政年間（1818 ～ 30）頃より淡路島の南端、三原郡伊賀野村（現南あわじ市）において賀集珉平が創始した陶磁器である。前橋城跡からは12点の珉平焼（口絵６）が出土したが、一つの遺跡より出土した例としては多い。ともに、19世紀後半から20世紀前葉までには収まるものであった。器種は蓮華２点、鉢７点、小判型龍文皿２点などと多く、完形に近いものもみられた。

（４）萩焼

前橋城跡より出土した萩焼と思われる碗（３溝No.58）は、３号溝より出土した。18世紀後葉から19世紀中葉と比定され、福岡で焼成された可能性も指摘された。残存率も高い。

隣接する前橋城（三の丸門東地点）でも萩焼碗が出土し、報告されている。

２　信楽壺

前橋城跡からは、信楽あるいは信楽と思われる壺が７個体以上確認された。残存率が高く、大半が17世紀前後に収まり、その中には腰白茶壺（７溝No.92、13溝No.80）と思われるものもある。管見の範囲ではあるが、県内において信楽壺の出土例はない。

２号遺物集中からは、信楽壺や製作地が明らかでない陶器の壺も含め、口縁から底部までの形状が確認できる壺類が６点出土した。ここからは、中国製と思われるほぼ完形の硯（２集中No.32・33）も出土している。この様な遺物が出土するのは、近世城郭の屋敷跡を調査したことが要因と思われるが、ともに被熱痕跡はなく特異な出土状況といえる。城内の生活様相の一端を伝える遺物と思われるが、なぜそのような出土状況であったのかは判然としない。

調査区は近世前橋城外曲輪の「侍屋敷」にあり、２号遺物集中は調査区中央付近に位置する。第３章でも述べたが、２号遺物集中からは近代以降の陶磁器が数多く出土している。一方で17世紀頃の陶磁器もみられるのだが、これは重複する８号溝（22号土坑も含むか）と区分できずに調査した結果だと思われる。調査時の資料がなく詳細は明らかでないが、壺や硯は、８号溝や22号土坑等から出土した可能性が高いだろう。しかし、高級品と思われる壺や硯の出土状況については疑問が残り、今後も検証が必要だと考えている。

前橋城跡からは、中国製と思われる壺も破片で３点出土している。これらも17世紀頃のものと思われるが、同様の時期に生産地の異なる壺類が数多く出土したことを付け加えておく。

３　前橋藩窯

前橋城跡からは、前橋藩窯製品と窯道具が出土した（口絵６）。ここでいう前橋藩窯は、基本的には城内で焼成された高浜焼のことを指す。しかし、富士見村（現前橋市）で焼成された皆沢焼と高浜焼とを明確に区分することは難しい。ここでは、本遺跡が前橋城内に位置すること、窯変した製品が出土していることなどから高浜焼と判断している。

本遺跡より出土した前橋藩窯製品及び窯道具は59点を数え、３号遺物集中や３号溝等から数多く出土した。具体的には、前橋藩窯製品では染付広東碗や染付端反碗、小杯等の磁器製品と行平鍋、片口鉢、灯火受皿等が確認された。また出土した窯道具には棚板、匣鉢、支柱等があり、18点確認された。

高浜焼は高浜曲輪で焼成されていたといわれている

が、遺跡は外曲輪南側に位置する。遺跡からまとまって窯道具や製品が出土したのは、調査区が高浜焼に関わる地域であったためとも思われる。

前橋城北曲輪遺跡でも、窯道具である匣鉢が出土し報告されている。前橋城北曲輪遺跡は再築前橋城の北曲輪、近世前橋城外曲輪の北側に位置する。窯道具の出土する地域が窯業に関わる地域なのか、あるいは窯道具も含めて散在して埋没しているのかは明らかでない。今後の調査例増加に期待したい。

４　墨書、刻書

墨書や刻書は、陶磁器や硯、五輪塔等で確認された。ここでは、陶磁器に書かれた墨書を中心に言及する。

墨書は在地系土器の皿（カワラケ）や陶磁器にあり、中世では、大窯１段階の緑釉はさみ皿（５井戸No.２）底部外面に「上」の墨書が確認できた。

近世在地系土器では、皿（カワラケ）で墨書が確認された。判読困難なものもあるが、底部外面に「中」の墨書が確認できた例が数点ある（６溝No.79、７溝No.108他）。近世陶磁器では、18世紀の色絵鳥の水入（７溝No.119）底部外面に「部京利大」、18世紀の色絵碗（７溝No.44）高台内に「加満や」、登窯第８・９小期の梅文皿（６溝No.60）高台内に「三ツ番　町方」、18世紀の鉄・呉須絵碗（６溝No.40）高台内に「アトエ」、18世紀の小鉢と思われる高台に「カフ」（「こう」のことか）等が確認された。多くは短い語句であることから、何を意味するものかは明らかでない。

墨書の中でも、登窯第８・９小期の片口鉢高台内の「渥美」、登窯第９小期の輪禿皿高台内の「竹澄？」、17世紀後葉から18世紀初頭に比定された青磁小香炉底部外面の「原本」等は、所有者を示す可能性がある。具体的には、明治三年の柳原御門内武家屋敷の配置の中に「渥美源五」の名前が確認できる。また蓋内面の墨書には、「文政　徳太（郎）　寅正月」と年号が確認できる例もあった。

引用・参考文献

大橋康二2013「将軍家へ献上される器の諸相」『江戸の武家地出土の肥前磁器－罹災資料と初期色絵・鍋島・柿右衛門－』
兵庫県教育委員会2005『瓶平焼窯跡』
前橋市教育委員会2011『前橋城（三の丸門東地点）』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『前橋城北曲輪遺跡』

前橋城跡　遺物観察表(陶磁器)

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第48図	1	在地系土器皿	3 号建物 P 10 1/3	口 (12.8) 底 (8.0)	高 2.9			橙	体部から口縁部直線的に開く。胎土に片岩由来の結雲母？多く含む。底部左回転糸切無調整。	16世紀中葉～後葉か。
第48図	2	在地系土器皿	3 号建物 P 17 1/2	口 (11.7) 底 6.8	高 2.9			にぶい黄橙	体部から口縁部直線的に開く。底部左回転糸切無調整。底部外面板状圧痕。見込指撫で。	16世紀中葉～後葉か。
第48図	3	在地系土器皿	3 号建物 P 17 ほぼ完形	口 11.1 底 7.2	高 2.4～2.8			にぶい黄橙	体部下位器壁括れるように薄い。底部左回転糸切無調整。底部外面板状圧痕。見込指撫で。	16世紀中葉～後葉か。
第48図	4	瀬戸・美濃陶器すり鉢	3 号建物 P 13 口縁部片	口 － 底 －	高 －			灰白	内外面鉄釉。口縁端部上面使用による摩滅。	大窯４段階後半。
第48図	5	瀬戸・美濃陶器折縁鉄絵皿	3 号建物 P 3 口縁部1/4、底部1/2	口 (12.8) 底 7.3	高 2.8			灰白	口縁部灰釉。見込鉄絵。	登窯１小期。
第48図	1	中国磁器染付皿	4 号建物 P 19 口縁部小片	口 － 底 －	高 －			白	口縁部縦くり内溝。口縁部内面１重圏線。残存部外面無文。	景徳鎮。16世紀末～17世紀初頭。
第48図	2	在地系土器皿	4 号建物 底部1/3	口 － 底 (7.0)	高 －			にぶい橙	底部左回転糸切無調整。	中世以降。
第48図	1	瀬美濃陶器甕か	5 号建物 P 10 体部片	口 － 底 －	高 －			灰	内外面撫で。内面指撫で。	12世紀～13世紀前葉。
第48図	1	在地系土器か皿か	6 号建物 P 10 口縁部片	口 － 底 －	高 －			灰白	口縁部やや外反。	時期不詳。
第48図	1	中国磁器染付碗	7 号建物 P 20 1/7	口 (11.0) 底 －	高 －			白	口縁部内面２重圏線。	景徳鎮。16世紀末～17世紀前葉。
第48図	2	在地系土器内耳鍋	7 号建物 P 18 口縁部片	口 － 底 －	高 －			黒	断面にぶい橙色。屈曲部内面緩い段差。器壁やや厚い。	16世紀後葉～17世紀初頭。
第49図	1	瀬戸・美濃陶器丸皿	9 号建物 P 4 口縁部1/10、底部2/3	口 (10.1) 底 5.7	高 2.3			灰白	内外面灰釉。高台内輪状の目痕。	大窯３段階。
第49図	2	在地系土器焙烙	9 号建物 P 1 口縁部片	口 － 底 －	高 －			灰、黒	断面灰白色。内面器表灰色、外面器表黒色。丸底。口縁端部上面に吊り手貼り付け。	近現代。
第49図	1	中国磁器白磁皿	12号建物 P 3 底部片	口 － 底 －	高 －			灰白	高台体部付近外面軸掻き取る。高台内外面付近軸切れあり。内外面施釉。	景徳鎮。16世紀。
第49図	1	土製品土入形	14号建物 1/3	高 (4.4) 幅 －	厚 －			にぶい黄橙	頭部、後部、向かって左側欠損。残存部無着色。	江戸時代以降。
第49図	1	在地系土器皿	15号建物 P 2 底部1/3	口 － 底 (5.0)	高 －			橙	底部左回転糸切無調整。	江戸時代か。
第49図	1	肥前系磁器染付小杯	2 号溝 口縁部1/8、底部1/2	口 (6.2) 底 (3.0)	高 2.9			灰白	高台内一部軸切れ。見込不明文様。	江戸後期。
第49図	2	肥前磁器染付端反碗	2 号溝 口縁部1/4、底部欠	口 10.1 底 4.0	高 6.2			白	内面無文。	1820 ～ 60年代。
第50図	3	肥前磁器染付碗	2 号溝 体部下位～底部1/4	口 － 底 (4.6)	高 －			白	高台内１重圏線内に文字。	18世紀。
第50図	4	志戸呂陶器鉢か	2 号溝 口縁部1/4、体部1/2	口 (11.0) 底 －	高 －			灰白～黄橙	内面から体部外面下位鉄釉系の釉。高台付く可能性あり。	登窯。
第50図	5	美濃陶器丸碗	2 号溝 体部1/4、底部1/2	口 － 底 5.1	高 －			灰白	内面から体部外面下位に灰釉。	登窯３小期。
第50図	6	肥前磁器染付皿	2 号溝 底部1/3	口 － 底 (8.0)	高 －			灰白	体部内面は草文か。高台内１重圏線。	18世紀前葉～中葉。
第50図	7	肥前陶器京焼風皿	2 号溝 体部下位1/2、底部1/4	口 － 底 (5.2)	高 －			淡黄	高台内は高台外面より削り込む。見込鉄絵。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀前葉。
第50図	8	美濃陶器丸皿菊皿	2 号溝 口縁部1/8、底部1/4	口 (11.0) 底 －	高 －			灰白～黄橙	内面から高台外面に灰釉。貫入。見込目痕１か所残る。	登窯４小期。
第50図	9	瀬戸・美濃系磁器染付手塩皿	2 号溝 完形	口 9.0 底 4.8	高 2.4			白	焼成不良により白濁。見込型により花文を陽刻。体部内面蛸唐草文。	19世紀中葉～後葉。
第50図	10	美濃陶器灯火皿	2 号溝 1/2	口 10.3 底 4.2	高 2.0			灰	鉄釉施釉後外面口縁部以下拭う。内面重焼痕。	登窯８・９小期。
第51図	11	常滑陶器甕	2 号溝 口縁部片	口 － 底 －	高 －			明赤褐	内面の突き出しは小さく外面が大きく厚い。口縁端部上面中央やや窪む。	19世紀前葉（文政期以降）。
第51図	12	製作地不詳陶器軟質施釉陶ミニチュアか	2 号溝 体部3/4、底部完	口 － 底 3.0	高 －			淡黄	轆轤成形。瓶類のミニチュアか。外面底部付近まで黄釉。内面無釉。	江戸時代か。
第51図	13	美濃陶器掛け花生	2 号溝 口縁部欠	口 － 底 6.5	高 －			灰白	轆轤目を第若に残す。頸部に円孔。肩部と体部下位を窪ませる。体部外面下端を除き鉄釉。内面の釉は薄い。底部右回転糸切無調整。	登窯。
第51図	14	瓦軒丸瓦	2 号溝 瓦当1/4	径 (15.5)	長 －			灰白	器表暗灰色。巴文。	

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図	1	瀬戸・美濃陶器すり鉢	3号溝底部1/4	口底	–(10.0)	高	–	灰白	錆釉施釉後、体部外面以下拭う。底部回転糸切無調整。	大窯2・3段階。
第51図	2	肥前磁器染付小杯	3号溝1/2	口底	(6.9)2.6	高	3.4	白	内面無文。	18世紀。
第51図	3	肥前系磁器染付小杯	3号溝口縁部1/2、底部1/3	口底	(7.2)(3.0)	高	3.6	灰白	内面無文。高台端部付近無釉。	18世紀。
第51図	4	肥前磁器染付小杯	3号溝口縁部1/8、底部完	口底	(6.9)2.3	高	2.6	灰白	口縁部外面染付一部残る。内面無文。	18世紀後葉。
第52図	5	肥前磁器白磁か染付小杯	3号溝口縁部1/3、底部1/2	口底	(6.9)2.6	高	3.3	灰白	残存部無文。	18世紀後葉。
第52図	6	肥前系磁器染付小杯	3号溝1/3	口底	(5.1)(1.5)	高	2.4	灰白	高台外面から端部付近無釉。	19世紀初頭～中葉。
第52図	7	肥前磁器染付小碗	3号溝口縁部1/4、底部1/2	口底	(8.2)2.8	高	4.0	白	焼成不良で透明釉白濁。口縁部内面2重圏線。見込1重圏線内に昆虫状文。高台内渦気味。	1770～1810年代。
第52図	8	肥前磁器染付小碗	3号溝口縁部1/4、底部完	口底	(7.8)2.8	高	4.5	白	口縁部内面2重圏線。見込2重圏線内交互に塗り分けた円形文。貫入。	1770～1810年代。
第52図	9	肥前磁器染付小碗	3号溝1/4	口底	(8.4)(3.4)	高	4.8	白	口縁部内面2重圏線。見込四縁1重圏線。部分的に貫入。	1770～1810年代。
第52図	10	肥前磁器染付小碗	3号溝口縁部1/4、底部1/2	口底	(9.9)(3.5)	高	4.6	白	口縁部内面2重圏線。見込四縁1重圏線内変形字文。	1770～1810年代。
第52図	11	肥前磁器染付小碗	3号溝口縁部1/4、底部完	口底	(9.5)3.4	高	5.0	白	口縁部内面2重圏線。見込1重圏線内「福」様変形字文。	1770～1810年代。
第52図	12	肥前磁器染付小碗	3号溝口縁部1/3	口底	(10.9)–	高	–	灰白	焼成不良。口縁部内面2重圏線。	1770～1810年代。
第52図	13	肥前磁器瑠璃小碗	3号溝口縁部1/6、底部1/4	口底	(6.3)(3.2)	高	4.4	白	外面瑠璃釉。高台内と内面透明釉。口縁部内面2重圏線。見込付近貫入。	18世紀末～19世紀前葉。
第52図	14	美濃陶器灰釉小碗	3号溝口縁部1/2、底部完形	口底	(6.3)3.2	高	4.0	灰白	内面から高台外面灰釉。全体に貫入。	登窯8・9小期。
第53図	15	肥前磁器染付碗	3号溝体部一部、底部完	口底	–4.4	高	–	灰白	焼成不良。外面1重圏線か。内面無文。	1630～50年代。
第53図	16	肥前磁器色絵碗	3号溝1/3	口底	(9.8)(4.4)	高	5.3	白	外面花弁文、茎と花を赤、葉の輪郭を黒、葉を薄い紫と緑色で描く。内面無文。	有田。1690～1730年代。
第53図	17	肥前磁器染付碗	3号溝口縁部1/6、底部1/4	口底	(11.0)(4.0)	高	5.8	白	外面文様コンニャク印判。内面無文。	1690年代～18世紀前葉。
第53図	18	肥前磁器染付碗	3号溝口縁部一部、底部完	口底	(11.8)4.2	高	5.8	白	内外面花唐草文。高台内1重圏線内2重角渦「福」字銘。	有田。18世紀前葉。
第53図	19	肥前磁器染付碗	3号溝口縁部1/3、底部1/4	口底	(9.4)(3.6)	高	5.0	白	内面無文。	18世紀第2～第3四半期。
第53図	20	肥前磁器染付碗	3号溝口縁部1/3	口底	(10.8)–	高	–	白	内面無文。	波佐見系。18世紀後葉。
第53図	21	肥前磁器染付碗	3号溝口縁部～体部1/5	口底	(10.8)–	高	–	白	口縁部内面四方襷文。見込四縁2重圏線。	18世紀後葉。
第53図	22	肥前磁器染付碗	3号溝体部1/4、底部2/3	口底	–3.6	高	–	白	内面無文。	18世紀後葉。
第54図	23	肥前磁器染付碗	3号溝口縁部1/4、底部1/3	口底	(11.2)(4.4)	高	6.1	白	内面無文。	18世紀後葉。
第54図	24	肥前磁器染付碗	3号溝口縁部1/4、底部2/3	口底	(11.3)4.0	高	5.6	灰白	口縁部内面2重圏線。見込1重圏線内五弁花コンニャク印判。	18世紀後葉。
第54図	25	肥前磁器青磁染付碗	3号溝体部一部、底部1/2	口底	–(4.1)	高	–	灰白	外面青磁釉。高台内と内面透明釉。見込2重圏線内五弁花か。粗い貫入。	18世紀後葉。
第54図	26	肥前磁器染付筒形碗	3号溝口縁部1/2、体部1/4	口底	8.3–	高	–	白	口縁部内面四方襷文。	18世紀後葉。
第54図	27	肥前磁器染付筒形碗	3号溝口縁部～体部1/3	口底	(7.7)–	高	–	白	高台臨宝文。口縁部内面四方襷文。見込2重圏線。	18世紀後葉。
第54図	28	肥前磁器染付筒形碗	3号溝底部2/3	口底	–3.2	高	–	灰白	高台臨折松葉状文。見込1重圏線内五弁花コンニャク印判。	1780～1810年代。
第54図	29	肥前系磁器染付筒形碗	3号溝口縁部～体部1/10、底部ほぼ完	口底	(8.0)3.8	高	5.5	白	高台脇1重圏線。口縁部内面3重圏線か螺旋状圏線。見込1重圏線内簡略化した五弁花。	1780～1810年代。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第54図	30	肥前磁器 筒形碗	3号溝 1/2	口 6.4 底 3.5	高 5.5	白			外面中位沈線、外面中位沈線部と口縁端部銹輪。口縁部から体部外面細い櫛描線。口縁部内面1条沈線。	1780 ～ 1810年代。
第54図	31	肥前磁器 染付碗	3号溝 1/3	口 (8.8) 底 (3.2)	高 5.9	白			見込鷺文か。全体に貫入。やや焼成不良。	1780 ～ 1810年代。
第54図	32	肥前磁器 染付小丸碗	3号溝 口縁部1/5、底部1/4	口 (9.0) 底 (3.1)	高 5.4	灰白			口縁部内面と見込周縁２重圏線。見込五弁花か。	1780 ～ 1810年代。
第55図	33	肥前磁器 染付小丸碗	3号溝 1/4	口 (9.3) 底 (3.4)	高 5.6	灰白			口縁部内面２重圏線。見込周縁１重圏線。	1780 ～ 1810年代。
第55図	34	肥前磁器 染付碗	3号溝 口縁部一部、底部2/3	口 (8.9) 底 3.1	高 5.5	白			素描、高台脇蛸面文。見込環状の松竹梅文。	1780 ～ 1810年代。
第55図	35	肥前磁器 染付碗	3号溝 口縁部1/4、底部完	口 (8.7) 底 3.4	高 5.8	白			見込鷺文。	1780 ～ 1810年代。
第55図	36	肥前磁器 青磁丸碗	3号溝 口縁部一部、底部2/3	口 (8.4) 底 3.2	高 5.4	白			高台端部を除き青磁釉。	18世紀第４四半期～1810年代。
第55図	37	肥前磁器 染付広東碗	3号溝 口縁部～体部1/4	口 (10.8) 底 –	高 –	白			口縁部内面２重圏線。見込周縁１重圏線。	1780年代～19世紀前葉。
第55図	38	肥前磁器 染付碗	3号溝 口縁部～体部1/4、底部1/3	口 (9.6) 底 (4.6)	高 5.5	灰白			口縁部内面１重圏線。見込１重圏線内小さい変形字銘。	1770 ～ 1810年代。
第55図	39	肥前磁器 染付端反碗	3号溝 口縁部1/8、底部完	口 (9.5) 底 3.5	高 5.6	白			口縁部内面２重圏線内に雷文帯。見込周縁１重圏線。見込１重圏線内輪状に雷文状連続文。連続文内の２重圏線内不明銘。	1820 ～ 60年代。
第55図	40	瀬戸・美濃磁器 染付端反碗	3号溝 口縁部1/5、底部2/3	口 (9.9) 底 4.2	高 5.1	白			高台内不明銘。口縁部内面１重圏線。見込２重圏線内不明文様。	登窯９小期。
第55図	41	瀬戸・美濃磁器 端反碗	3号溝 口縁部1/4欠	口 8.0 底 3.2	高 4.1	白			焼成不良。口縁部内面幅広と中太の２重圏線。見込１重圏線内不明文様。貫入。	登窯10小期。
第55図	42	瀬戸・美濃磁器 端反碗	3号溝 口縁部～体部1/2	口 (9.0) 底 –	高 –	白			口縁部内面幅広の１重圏線。見込１重圏線。	登窯11小期。
第56図	43	肥前磁器 青磁染付碗蓋	3号溝 口縁部一部欠	口 9.8 摘 4.2	高 2.8	白			つまみ内２重角渦「福」字崩銘。口縁部内面四方薄文。天井部内面２重圏線内五弁花コンニャク印刊。つまみ内と内面透明釉。	18世紀後葉。
第56図	44	肥前陶器 呉器手碗	3号溝 底部完	口 – 底 5.2	高 –	灰白			高台径大きい。高台端部を除き透明釉。貫入。	17世紀中葉～末。
第56図	45	美濃陶器 丸碗	3号溝 体部一部、底部完	口 – 底 4.7	高 –	淡黄			内面から高台脇灰釉。	高台内不明墨書。登窯３・４小期。
第56図	46	瀬戸陶器 灰釉丸碗	3号溝 口縁部1/4、底部1/2	口 (9.0) 底 3.8	高 5.5	灰白			内面から高台脇灰釉。粗い貫入。	登窯８・９小期。
第56図	47	美濃陶器 鉄釉碗	3号溝 口縁部一部、底部1/3	口 (8.8) 底 (4.8)	高 5.9	灰白			体部内面中位沈線。内面から高台脇棒釉。高台内不明墨書。	登窯８～11小期。
第56図	48	関西系陶器 色絵碗	3号溝 口縁部1/8、体部上位1/4	口 (9.1) 底 –	高 –	淡黄			内外面灰釉。細かい貫入。草葉を緑、赤、暗緑灰色で描く。	18世紀。
第56図	49	関西系陶器か 地方窯鉄絵碗	3号溝 口縁部～体部1/8	口 (9.7) 底 –	高 –	橙			外面蛸釉口銘著。内外面施釉で器表は唐津系と同様な色調。内面鉄絵花卉文。	江戸後期。
第56図	50	関西系陶器 軟質施釉陶碗	3号溝 底部完	口 – 底 4.0	高 –	黄橙			体部外面から高台内踏釉の後、7.5PB 2/10色の上絵具を線状に盛り上げる。内面透明釉。高台端部施釉するが一部摩れる。	江戸後期。
第56図	51	京・信楽系陶器 小杉碗	3号溝 口縁部～体部下位片	口 – 底 –	高 –	淡黄			外面簡略化した鉄絵松文。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀後葉～19世紀中葉。
第56図	52	京・信楽系陶器 小杉碗か	3号溝 体部下位～底部1/2	口 – 底 (5.2)	高 –	灰白			高台脇水平に返く削り込む。幹と枝を鉄絵、葉を呉須で若松文。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀中葉。
第57図	53	関西系陶器 小杉碗	3号溝 体部下位～底部	口 – 底 4.5	高 –	灰白			高台幅狭く径大きい。鉄絵若松文。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀中葉か。
第57図	54	京・信楽系陶器 小杉碗か	3号溝 体部下位一部、底部1/2	口 – 底 (4.0)	高 –	灰白			高台脇水平に返く削り込む。残存部無文。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀後葉～19世紀。
第57図	55	関西系陶器 小杉碗	3号溝 体部～底部1/2	口 – 底 4.0	高 –	灰白			高台脇削り込む。体部外面鉄絵若松文。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀後葉。
第57図	56	京・信楽系陶器 小杉碗	3号溝 口縁部1/8、底部3/4	口 (9.6) 底 (3.8)	高 5.3	灰白～淡黄			外面簡略化した鉄絵松文。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀後葉～19世紀中葉。
第57図	57	関西系陶器 碗	3号溝 口縁部1/3欠	口 9.5 底 3.0	高 5.3	白			内面から高台脇灰釉。ヒビ焼。	19世紀前葉。
第57図	58	萩陶器か 墨灰釉碗	3号溝 口縁部～体部1/3欠	口 (12.3) 底 4.5	高 5.6	灰			口縁部やや歪む。体部外面下位低い段を削り出す。高台内螺旋状に挟る。内面から体部外面下位墨灰釉。	18世紀後葉～19世紀中葉。福岡の可能性もあり。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第57図	59	肥前磁器染付猪口	3号溝口縁部1/5、底部1/4	口 7.5 底 (5.3)	高 6.0			白	内面無文。	18世紀後葉。
第57図	60	肥前磁器染付蓋物	3号溝体部～底部1/3	口 底 – (8.0)	高 –			灰白	高台端部以外鉛釉。外面圏線のみ残存。	17世紀末～18世紀初頭。
第57図	61	肥前磁器染付蓋付小鉢	3号溝体部一部、底部1/2	口 底 – 6.6	高 –			白	高台端部以外鉛釉。外面圏線のみ残存。	有田。18世紀前葉。
第57図	62	関西系陶器蓋物	3号溝体部下位～底部1/2	口 底 – 4.9	高 –			灰白	体部外面中位鉄泥刷毛塗り後、内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀後葉～19世紀。
第58図	63	肥前磁器染付蓋物	3号溝口縁部～体部1/3欠	口 底 7.1 3.1	高 4.0			白	口縁端部内面の釉掻き取る。	18世紀第4四半期～19世紀初頭。
第58図	64	肥前磁器染付蓋物	3号溝1/3	口 底 (7.5) (4.0)	高 3.8			白	口縁端部から内面無釉。	18世紀後葉～19世紀初頭。
第58図	65	肥前磁器染付蓋	3号溝口縁部1/3欠	口 底 5.1 –	高 1.8			白	小型蓋物の蓋。天井部外面梅鉢状文。つまみの廃固釉で埋まる。	被熱。18世紀。
第58図	66	肥前磁器青磁染付小皿	3号溝1/2	口 底 (10.0) 5.6	高 2.5			灰白	口縁部から体部内面青磁釉。青磁釉の発色薄い。内面と高台内面透明釉。内面細物文。	18世紀後葉頃。
第58図	67	肥前磁器染付小皿	3号溝口縁部1/9、底部1/3	口 底 (11.4) (7.0)	高 2.2			白	口縁部輪花。体部から口縁部内外面花唐草文。高台内1重圏線内に「富貴長春」銘。	有田。18世紀前葉。
第58図	68	肥前磁器染付皿	3号溝口縁部片	口 底 – –	高 –			白	外面唐草文。内面梅折れ枝文か。	有田。1670～1710年代。
第58図	69	肥前磁器「福」端焼壺か杯台	3号溝口縁部1/2、杯底部完	口 底 (11.8) –	高 –			白	杯底部が円形に抜ける。高台状に突き出た外側から外方に開く体部延びる。体部は杯部に接合。	1690～18世紀前葉。
第58図	70	肥前磁器染付皿	3号溝口縁部1/3、底部2/3	口 底 (13.4) 7.8	高 3.4			灰白	見込五弁花コンニャク印刊。高台内1重圏線内「大明年製」崩れ銘か。	18世紀前葉～中葉。
第59図	71	肥前磁器染付皿	3号溝1/2	口 底 12.9 7.5	高 3.7			灰白	見込五弁花コンニャク印刊。高台内1重圏線内に渦「福」字銘。	波佐見系。18世紀中葉～後葉。
第59図	72	肥前磁器染付皿か	3号溝体部1/4、底部1/2	口 底 – (4.0)	高 –			灰白	内面から高台外面透明釉。見込蛇ノ目釉剥ぎ。欠損部染付入る可能性高い。	波佐見系。18世紀。
第59図	73	肥前磁器染付皿	3号溝口縁部2/3、底部3/4	口 底 13.3 7.5	高 3.2			灰白	外面無文。蛇ノ目釉剥ぎ。釉剥ぎ部アルミナ刷毛塗り。体部内面唐草文。見込五弁花コンニャク印刊か。	波佐見系。18世紀後葉。
第59図	74	肥前磁器染付皿	3号溝1/2	口 底 (13.0) 8.0	高 2.9			灰白	体部内面「かねたや」の染付か。見込1重圏線内「田」染付。蛇ノ目円形高台。外面無文。焼成不良。	18世紀後葉～19世紀初頭。
第59図	75	肥前磁器青磁皿	3号溝底部1/5	口 底 – (11.6)	高 –			白	内面、型による施文。高台内ハリ支え。高台端部を除き青磁釉。	有田。18世紀後葉頃。
第60図	76	肥前磁器染付皿	3号溝底部1/4	口 底 – (9.8)	高 –			白	蛇ノ目円形高台。高台内「富貴長春」銘か。高台外面2重圏線。体部外面下位1重圏線。	18世紀後葉。
第60図	77	肥前磁器染付皿	3号溝口縁部1/4、底部1/2	口 底 (19.0) 10.8	高 2.8			白	高台内ハリ支え。	18世紀後葉。
第60図	78	肥前磁器染付皿	3号溝口縁部1/2、底部2/3	口 底 21.8 13.6	高 2.8～3.2			白	口縁部小さい輪花。口縁部小さく外反。高台内ハリ支え。	18世紀後葉。
第60図	79	美濃陶器摺絵皿	3号溝口縁部1/4	口 底 (12.0) –	高 –			灰白	残存部摺絵なし。内面から体部外面上位灰釉。	登窯5～7小期。
第60図	80	瀬戸陶器灰釉中皿	3号溝口縁部1/3	口 底 (21.0) –	高 –			灰白	内面口縁部下小さい段差。内外面灰釉。貫入。残存部無文。	登窯8・9小期。
第61図	81	肥前陶器三島手大皿	3号溝口縁部片	口 底 – –	高 –			白	内面素地に施文後白土かけ。内面透明釉。口縁部外面鉄泥。	17世紀末～18世紀前葉。
第61図	82	肥前磁器青磁染付鉢	3号溝2/3	口 底 17.6 9.4	高 6.8			白	口縁部から体部外面青磁釉。内面と底部外面透明釉。口縁部内面と見込染付。高台内1重方角枠渦「福」字銘か。	漆継ぎ。18世紀後葉。
第61図	83	美濃陶器片口鉢	3号溝片口部片	口 底 – –	高 –			淡黄	内外面黄釉。口縁部内面小さく突き出る。	登窯7小期。
第61図	84	製作地不詳陶器鉢か片口鉢	3号溝口縁部1/3、底部完	口 底 (15.3) 4.9	高 6.1			灰白	口縁端部外方に丸める。内面から高台脇灰釉。見込目痕3カ所。	19世紀中葉～近現代か。
第61図	85	美濃陶器鉢	3号溝1/6	口 底 (15.4) (6.2)	高 7.6			灰白	口縁部受け口状。取っ手と鐔欠損。内面から体部外面下位鉄釉。	登窯10・11小期。
第61図	86	堺陶器すり鉢	3号溝片口部片	口 底 – –	高 –			橙	片口部内面扇形枠内に「上長」銘押印。	18世紀前葉～中葉。
第61図	87	瀬戸陶器すり鉢	3号溝口縁部1/3	口 底 (34.4) –	高 –			淡黄	内外面鉄釉。	登窯9小期。
第61図	88	堺・明石陶器すり鉢	3号溝体部下位～底部1/3	口 底 – (20.0)	高 –			橙	底部外面周縁高台状とする。すり目間隔広い。内面使用により平滑。体部すり目底部にかかる。	18世紀か。
第62図	89	瀬戸陶器水煙	3号溝体部下位片	口 底 – –	高 –			淡黄	体部外面素地を彫って施文。内面から高台脇灰釉。鉄縁釉流しかけ。見込団子状目痕1カ所。	登窯8・9小期。
第62図	90	在地系土器皿	3号溝口縁部1/3欠	口 底 5.4 3.3	高 1.0			浅黄橙	小型皿。体部直線的に開く。見込周縁沈線状に窪む。底部左回転糸切無調整。	3溝91と同形の小皿。江戸時代。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第62図	91	在地系土器皿	3号溝完形	口 7.6 底 4.2	高 1.2	にぶい黄橙	見込周縁沈線状に窪む。底部左回転糸切無調整。口縁端部油煙。	江戸時代。
第62図	92	在地系土器皿	3号溝1/2	口 10.2 底 6.0	高 2.6	橙	口縁端部油煙。底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第62図	93	在地系土器皿	3号溝1/2	口 (12.7) 底 (7.0)	高 2.6	灰黄褐	底部左回転糸切無調整。還元気味で他の皿とは色調異なる。	江戸時代。
第62図	94	美濃陶器灯火皿	3号溝2/3	口 8.2 底 3.0	高 1.8	灰白	鉄釉施釉後、底部外面拭う。	登窯8・9期。
第62図	95	美濃陶器灯火皿	3号溝完形	口 6.6 底 2.8	高 1.4	灰白	鉄釉施釉後、底部外面拭う。内外面重焼痕。	登窯9・10小期。
第62図	96	美濃陶器灯火皿	3号溝口縁部～部欠	口 7.7 底 3.6	高 1.4	灰	鉄釉施釉後、底部外面拭う。内外面重焼痕。	登窯9・10小期。
第62図	97	美濃陶器灯火皿	3号溝口縁一部欠	口 8.0 底 3.6	高 1.6	灰	鉄釉施釉後、底部外面拭う。内外面重焼痕。	登窯9・10小期。
第62図	98	美濃陶器灯火皿	3号溝2/3	口 8.0 底 4.0	高 1.4	灰白	鉄釉施釉後、底部外面拭う。内外面重焼痕。	登窯9・10小期。
第62図	99	美濃陶器灯火受皿	3号溝完形	口 7.5 底 3.3	高 1.4～1.8	灰白	歪む。鉄釉施釉後、外面口縁部以下拭う。受け部と体部外面重焼痕。	登窯10小期。
第62図	100	美濃陶器ひょうそく	5号溝杯部欠	口 － 底 3.5	高 4.0か	灰白	内面から胴部上面鉄釉。脚部下面無釉。脚部下面右回転糸切後周辺穴あける。	登窯8・9小期。
第63図	101	肥前磁器青磁灰落とし	3号溝1/2	口 5.8 底 4.8	高 7.6	灰白	外面轆轤工具による縦位凹線。口縁部内面から体部外面下端青磁釉。口縁端部外面の一部に敲打による釉剥がれ。	18世紀。
第63図	102	美濃陶器筒形小香炉	3号溝口縁部1/2、底部1/4	口 5.4 底 (3.5)	高 4.4	灰白	高台脇清由させ高台内抉る。口縁部内面から体部外面下位灰釉。貫入。	登窯8・9小期。
第63図	103	肥前磁器筒形小香炉	3号溝口縁部～体部1/4	口 (7.4) －	高 －	灰白	焼成不良。頸部内面から外面透明釉。	18世紀後葉～19世紀初頭。
第63図	104	瀬戸・美濃陶器筒形香炉	3号溝底部1/3	口 － 底 (8.2)	高 －	淡黄	体部外面施釉。底部外面胴貼付。脚1カ所残存。	登窯5・6小期。
第63図	105	肥前磁器染付火入	3号溝口縁部～体部1/4	口 (10.8) －	高 －	白	口縁部内面四方襷文。体部内面以下無釉。	18世紀第4四半期～19世紀前葉。
第63図	106	志戸呂陶器火入か	3号溝底部1/2	口 － 底 6.4	高 －	灰	削り出し高台。体部外面下位まで鉄釉。内面と高台脇以下無釉。	登窯。
第63図	107	在地系土器十能	3号溝1/2	長幅 － －	高 －	黒	断面灰白色、器表付近から器表黒色。外面から無面型作り痕。	江戸時代以降。
第63図	108	肥前磁器白磁か染付仏飯器	3号溝口縁部一部、脚部完	口 (6.7) 底 3.9	高 5.4	白	焼成不良で透明釉白濁。残存部無文。	18世紀。
第63図	109	肥前磁器染付仏飯器	3号溝杯部1/2欠	口 6.8 底 3.7	高 6.2	白	脚底部は蛇ノ目凹形高台状。接地部のみ無釉。	18世紀第4四半期～19世紀初頭。
第64図	110	美濃陶器仏餉具	3号溝口縁部1/4、脚部完	口 (7.3) 底 4.4	高 4.7	灰白	内面から杯部外面下位灰釉。脚部無釉。	登窯8・9小期。
第64図	111	肥前磁器青磁大型香炉	3号溝頸部～体部片	口 － －	高 －	灰白	頸部から口縁部「コ」の字状。頸部内面から外面青磁釉。	17世紀末～18世紀前葉。
第64図	112	肥前磁器染付小瓶	3号溝口縁部～肩部2/3	口 2.0 －	高 －	白	肩部外面蛸唐草文。	18世紀第4四半期～19世紀前葉。
第64図	113	肥前磁器染付小瓶	3号溝口縁部～頸部	口 1.7 －	高 －	白	残存部無文。体部梅鉢状文入るか。内面頸部以下無釉。	18世紀末～19世紀中葉。
第64図	114	肥前磁器染付小瓶	3号溝体部1/3、底部1/2	口 － 底 4.1	高 －	白	外面植物文。	18世紀後葉。
第64図	115	肥前磁器染付小瓶	3号溝口縁部完、肩部1/2	口 2.1 －	高 －	白	欠損部括れる。頸部内面以下無釉。	18世紀末～19世紀前葉。
第64図	116	肥前磁器染付瓶	3号溝体部一部、底部1/3	口 － 底 (4.8)	高 －	灰白	肩部外面低い凸帯。内面無釉。	18世紀第4四半期～19世紀前葉。
第64図	117	陶器か	製作地不詳	3号溝1/4	口 (8.5) 底 －	高 －	灰～にぶい黄橙	口縁端部内面を除き鉄釉。	19世紀か。
第64図	118	軟質施釉陶器（ミニチュア）	3号溝完形	口 2.6 底 1.8	高 1.1	灰白	型押成形。上面透明から酸色釉。	江戸時代～近代。
第64図	119	関西系陶器合子蓋	3号溝1/4	口 (5.2) －	高 0.9	灰白	内外面灰釉。貫入。口縁端部から端部内面無釉。天井部外面鉄絵。	18世紀後葉～19世紀中葉。
第64図	120	陶器蓋	製作地不詳	3号溝口縁部一部欠	口 5.2	高 2.7	にぶい赤褐	天井部外面酸色の釉。	時期不詳。
第65図	121	肥前磁器白磁紅皿	3号溝2/3	口 4.8 底 1.4	高 1.6	白	型打成形。内面から外面中位に透明釉。	18世紀。
第65図	122	軟質施釉陶器亀	3号溝上面2/3	口 － －	高 －	灰白	下部欠損。型作りで甲羅をかたどる。上面に緑釉。	江戸時代～近代。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第65図	123	美濃陶器 御飯	3号溝 口縁部2/3欠	口 (5.1) 底 5.2	高 2.9	灰白			環状つまみ1方所。内面から体部外面灰釉。底部右回転糸切無調整。	登窯10・11小期。
第65図	124	肥前磁器 染付水滴	3号溝 角部片	縦 – 横 –	高 3.0	白			側面無釉部に不明墨書。上面型押しで菊を陽刻、菊部分只須を入れる。	有田。18世紀中葉～末。
第65図	125	信楽陶器 有耳壺	3号溝 肩部片	口 – 底 –	高 –	灰白			狸部内面から外面鉄釉。耳中央肩部に近いか接する。釉薬で耳の隙間埋まる。	江戸時代。
第65図	126	志戸呂陶器 植木鉢	3号溝 口縁部～体部1/4	口 (9.6) 底 –	高 –	灰黄褐			口縁部内面から外面錆色の鉄釉。	登窯。
第65図	127	瓦 軒丸瓦	3号溝 瓦当一部欠	径 15.2	長 –	灰白			器表灰色から黒色。巴文。	
第65図	128	瓦 軒丸瓦	3号溝 瓦当1/2	径 –	長 –	灰白			器表黒色。器表剥離著しい。巴文。	
第65図	129	瓦 丸瓦	3号溝 一側面欠	幅 –	長 30.4	灰白			器表暗灰色。内面布痕。外面撫無で。	
口絵6	141	前橋藩窯磁器 染付小鉢	3号溝 口縁部1/5	口 (13.0) 底 –	高 –	灰白			口縁部外面花弁もしくは葉の染付。口縁部内面牡丹文か。	19世紀前葉～中葉。
口絵6	142	前橋藩窯 匣鉢	3号溝 1/4	口 – 底 (22.0)	高 8.4	明赤褐～暗赤褐			口縁部歪み著しい。口縁端部重ね痕。	19世紀前葉～中葉。
第67図	1	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	5号溝 体部小片	口 – 底 –	高 –	淡黄			内外面錆釉。	大窯。
第67図	1	景徳鎮磁器 染付皿	6号溝 東側口縁部片	口 (13.0か) 底 –	高 –	白			被熱。口縁内面1重圏線。	16世紀。
第67図	2	景徳鎮磁器 染付皿	6号溝 口縁部片	口 – 底 –	高 –	白			口縁部輪花。	16世紀末～17世紀初頭。
第67図	3	景徳鎮磁器 染付碗	6号溝 底部1/2	口 – 底 4.2	高 –	白			腰頭心。	16世紀後葉。
第67図	4	景徳鎮磁器 染付皿	6号溝 口縁部～体部1/9	口 (14.0) 底 –	高 –	白			被熱。外面唐草文。口縁部内面鋸歯状文帯下に1重圏線。見込周縁2重圏線。	16世紀後葉頃。
第67図	5	景徳鎮磁器 染付小皿	6号溝 口縁部～体部1/5	口 (9.5) 底 –	高 –	白			口縁部内面1重圏線。見込不明文様。漆継ぎ。	16世紀。
第67図	6	瀬戸・美濃陶器 天目碗	6号溝 口縁部～体部1/8	口 (10.4) 底 –	高 –	灰白			全体に器壁厚い。内外面鉄釉。	大窯4段階。
第67図	7	瀬戸・美濃陶器 志野向付	6号溝 口縁部～高台部小片	口 – 底 –	高 –	灰白			高台畳筒底状か。内外面厚い長石釉。貫入。	大窯4段階後半。
第67図	8	常滑陶器 甕	6号溝 口縁部片	口 – 底 –	高 –	灰赤			器表にぶい赤褐色。口縁部外方に折り返す。端部外面が上方に小さく突き出し、下部は明瞭な段差。	15世紀後半。
第67図	9	肥前磁器 染付小杯	6号溝 1/2	口 (6.5) 底 (2.6)	高 3.1	白				18世紀後葉～19世紀初頭。
第67図	10	肥前磁器 染付小碗	6号溝 口縁部～体部1/4	口 (8.3) 底 –	高 –	灰白			外面「木」の文字か。見込周縁1重圏線。	18世紀後葉。
第68図	11	肥前磁器 染付小碗	6号溝 口縁部1/2欠	口 (8.0) 底 3.1	高 4.7	灰白			外面型紙による雨降り文。内面無文。	18世紀前葉。
第68図	12	肥前磁器 染付小碗	6号溝 1/4	口 (9.2) 底 (5.0)	高 4.2	白			内面無文。	18世紀後葉。
第68図	13	陶西系陶器 色絵小碗	6号溝 口縁部1/6、底部完	口 (6.6) 底 2.2	高 3.7	淡黄			内面から高台脇透明釉。細かい貫入。口縁部外面こげ茶と緑の上絵。高台内墨書。	18世紀。
第68図	14	肥前磁器 青磁碗	6号溝 東側口縁部1/3	口 (10.5) 底 –	高 –	白			内外面青磁釉。	17世紀中葉～末。
第68図	15	肥前磁器 染付碗	6号溝 口縁部一部、底部1/3	口 (10.2) 底 4.0	高 5.1	白			コンニャク印判オシドリ文か。高台内1重圏線。内面無文。	18世紀前葉。
第68図	16	肥前磁器 染付碗	6号溝 口縁部1/8、底部1/2	口 (9.8) 底 (4.0)	高 4.7	白			内外面丸文。内外同文様。	18世紀前葉～中葉。
第68図	17	肥前磁器 染付碗	6号溝 口縁部一部、体部1/3欠	口 9.7 底 3.9	高 5.1	灰白			内面無文。	18世紀前葉～中葉。
第68図	18	肥前磁器 染付碗	6号溝 口縁部1/3、底部1/2	口 (10.0) 底 (4.0)	高 5.1	灰白			内面無文。	18世紀前葉～中葉。
第68図	19	肥前磁器 染付碗	6号溝 口縁部～体部1/3	口 (10.0) 底 –	高 –	白			口縁部内面と見込周縁2重圏線。	18世紀後葉。
第68図	20	肥前磁器 染付碗	6号溝 口縁部1/4、底部1/2	口 (10.0) 底 (4.0)	高 5.3	灰白			内面無文。高台内不明銘。	波佐見系。18世紀後葉。
第69図	21	肥前磁器 染付大型碗	6号溝 口縁部～体部一部欠	口 12.1 底 5.2	高 6.4	白			口縁部内面簡略化した四方襷文。見込2重圏線内花唐草文。	有田。18世紀前葉～中葉。
第69図	22	肥前系磁器 染付広東碗	6号溝 口縁部1/8欠	口 10.0 底 5.4	高 5.2	灰白			口縁部内面2重圏線。見込1重圏線内不明文様。	19世紀前葉。

挿図No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第69図	23	前橋藩窯磁器 染付皿東碗	6号溝 口縁部～部欠	口 11.0 底 6.0	高 6.2			灰白	口縁部内面1重圏線。見込1重圏線内帆掛船。	19世紀前葉～中葉。
第69図	24	瀬戸・美濃磁器 染付端反碗	6号溝 口縁部1/4欠	口 9.4 底 4.0	高 5.2			灰白	見込紅葉文か。	登窯10小期。
第69図	25	前橋藩窯磁器 染付碗	6号溝 口縁部1/2欠	口 8.0 底 3.1	高 4.7			灰白	焼成不良で文様不明。外面、山と帆掛船か。	19世紀前葉～中葉。
第69図	26	肥前陶器 陶胎染付碗	6号溝 底部	口 － 底 5.0	高 －			灰白	見込広い。器壁全体に薄い。内面無文。貫入。	18世紀前葉。
第69図	27	肥前陶器 陶胎染付碗	6号溝 体部下位～底部1/2	口 － 底 5.2	高 －			灰	貫入。全体に器壁厚い。内面無文。	18世紀前葉。
第69図	28	肥前陶器 呉器手碗	6号溝 体部下位1/4, 底部1/2	口 － 底 (4.0)	高 －			灰白	高台高い。高台端部を除き透明釉。貫入。	17世紀後葉。
第69図	29	肥前陶器 京焼風碗	6号溝 口縁部1/3	口 － 底 (5.0)	高 －			灰白	内面高台脇透明釉。細かい貫入。高台内「清水」銘か。	1670～90年代。
第69図	30	肥前陶器 京焼風碗	6号溝 1/3	口 (10.3) 底 (5.0)	高 6.4			灰黄	内面から高台外面付近透明釉。貫入。高台内残存部に銘なし。	1670～90年代。
第70図	31	瀬戸・美濃陶器 天目碗	6号溝 口縁部1/8、体部1/4	口 (10.7) ～	高 －			灰白	内外面鉄釉。内外面やや禾目状。	登窯2小期。
第70図	32	瀬戸・美濃陶器 天目碗	6号溝 口縁部～体部1/4	口 (11.0) ～	高 －			灰白	内外面鉄釉。	登窯2小期。
第70図	33	瀬戸・美濃陶器 丸碗	6号溝 体部下位～底部1/5	口 － 底 (5.0)	高 －			灰白	内面から高台脇鉄釉。	登窯1～4小期。
第70図	34	美濃陶器 丸碗	6号溝 口縁部1/6、体部1/4	口 (11.7) ～	高 －			淡黄	内面から高台脇灰釉。貫入。	登窯5～7小期。
第70図	35	美濃陶器 沈線碗	6号溝 口縁部～体部1/4	口 (10.3) ～	高 －			灰白	口縁部から体部外面2条の沈線。内外面灰釉。口縁部外面一部に鉄釉。	登窯8・9小期。
第70図	36	関西系陶器 色絵碗	6号溝 口縁部1/4	口 (9.7) ～	高 －			灰白	内外面透明釉。白土の拭き取り粗い。細かい貫入。外面縁色世状文上絵。幅の狭い世状文は濃赤色上絵。	18世紀。
第70図	37	関西系陶器 色絵碗	6号溝 口縁部1/4	口 (9.2) ～	高 －			灰白	内外面透明釉。細かい貫入。外面縁色笹文上絵。	18世紀。
第70図	38	関西系陶器 色絵碗	6号溝 体部1/3、底部2/3	口 － 底 3.3	高 －			灰白	内面から高台脇透明釉。細かい貫入。外面濃縁色の上絵菊花文。見込濃縁色上絵鳥点状に3カ所3組付くが、意図的か否かが不明。	18世紀。
第70図	39	関西系陶器 鉄絵碗	6号溝 口縁部1/2、底部完	口 (11.0) 底 4.7	高 5.9			灰白	口縁部外面鉄絵。内面から高台脇灰釉。貫入。高台内周縁赤色物残る。見込目痕2カ所。	18世紀。
第70図	40	関西系陶器 鉄・呉須絵碗	6号溝 口縁部2/3、底部完	口 (7.9) 底 4.6	高 6.2			灰白	鉄絵具で外面に文様と文字。口縁端部鉄泥。体部1カ所に呉須を使用。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。高台内墨書符丁。	18世紀。
第71図	41	関西系陶器 乾山風碗	6号溝 口縁部1/2、底部完	口 9.4 底 5.3	高 6.1			灰白	体部外面の一方にしだれ柳?と文字。柳?部分のみ下地白土塗り。花か菓部分は呉須、他は鉄絵具。口錆。内面から高台脇透明釉。貫入。高台内浅い螺旋状所り痕。	18世紀。
第71図	42	瀬戸・美濃陶器 鐵絵碗	6号溝 底部	口 － 底 4.4	高 －			灰白	器壁厚い。内面灰釉、外面飴釉状の鉄釉。灰釉に粗い貫入。高台端部のみ無釉。	登窯7小期。
第71図	43	瀬戸陶器 せんじ碗	6号溝 口縁部1/2、底部完	口 9.8 底 4.0	高 4.9			灰白	口縁部下稜をなして屈曲。内面から高台脇灰釉。貫入。	登窯8小期。
第71図	44	美濃陶器 せんじ碗	6号溝 口縁部1/2、底部完	口 (9.5) 底 4.5	高 4.9			灰白	口縁部下稜をなして屈曲。灰釉鉄釉左右掛け分け。高台端部を除き施釉。	登窯8小期。
第71図	45	美濃陶器 せんじ碗	6号溝 口縁部1/2、底部完	口 9.8 底 4.1	高 4.8			灰白	灰釉鉄釉左右掛け分け。高台端部無釉。	登窯8小期。
第71図	46	関西系陶器 鉄絵碗	6号溝 口縁部～体部下位1/6	口 (10.4) ～	高 －			灰白	体部内面中位鉄絵1重圏線。内面から高台脇灰釉。貫入。	18世紀。
第71図	47	関西系陶器 鉄絵碗	6号溝 1/2	口 (10.8) 底 (4.3)	高 5.7			灰白	口縁部外面鉄絵一部残る。内面高台脇透明釉。細かい貫入。見込目痕。	18世紀。
第71図	48	肥前磁器 染付蓋付鉢	6号溝 1/5	口 (9.0) ～	高 －			白	口縁端部から端部内面軸掻き取る。内面無文。	18世紀後葉。
第71図	49	肥前磁器 染付蓋付鉢	6号溝 体部下位～底部2/3	口 － 底 (7.4)	高 －			白	貫入。内面無文。	有田。18世紀前葉。
第72図	50	肥前磁器 染付皿	6号溝 口縁部1/5、底部1/4	口 (12.0) 底 (6.8)	高 3.5			灰白	漆継ぎか。外面無文。	17世紀後葉～18世紀初頭。
第72図	51	肥前磁器 青磁大皿	6号溝 体部一部、底部1/2	口 － 底 6.4	高 －			灰白	内面片彫りによる施文。高台端部を除き青磁釉。高台端部鉄泥刷毛塗り。	波佐見系の可能性高い。1630～40年代。

挿図No.	No.	器種	出土位置 残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第72図	52	肥前陶器 刷毛目大皿	6号溝 口縁部片	口 底	– –	高	–	灰赤	内面白土刷毛塗り後、口縁端部と内面の一部に錆釉を流す。錆釉部分以外無釉。	17世紀後葉頃。
第72図	53	肥前陶器 二彩大皿か	6号溝 口縁部片	口 底	– –	高	–	にぶい橙	内面白土刷毛塗り後、内外面透明釉。	17世紀後葉。
第72図	54	肥前陶器 刷毛目中皿	6号溝 底部1/4	口 底	– (8.4)	高	–	にぶい橙	内面から高台脇透明釉。見込蛇ノ目釉剥ぎ。高台端部付近砂付着。	18世紀第２四半期～後葉。
第72図	55	瀬戸・美濃陶器 志野丸皿	6号溝 底部1/4	口 底	– (7.0)	高	–	灰白	高台端部を除き長石釉。底部器壁厚い。	登窯１・２小期。
第72図	56	美濃陶器 菊皿	6号溝東側 口縁部一部、底部1/4	口 底	– (13.2)	高	5.0	灰白	口縁部波状で大きく輪花とする。内面降帯で区画。内面から高台外面灰釉。貫入。	登窯２小期。
第73図	57	美濃陶器 菊皿	6号溝 底部1/3	口 底	– (6.6)	高	–	灰白	内面から高台脇灰釉。貫入。底部回転糸切後高台貼り付け。	登窯４小期。
第73図	58	美濃陶器 摺り絵皿	6号溝 口縁部1/4、底部2/3	口 底	(12.5) 6.6	高	3.0	灰白	見込鉄絵具による型紙摺り。内面から高台脇灰釉。	登窯５・６小期。
第73図	59	瀬戸陶器 梅文皿	6号溝 ほぼ完	口 底	11.2 4.0	高	4.3	灰白	内面から高台脇灰釉。貫入。内面鉄絵具で梅花、呉須で梅樹描く。	登窯８小期。
第73図	60	瀬戸陶器 梅文皿	6号溝 口縁部一部、底部完	口 底	(11.2) 3.7	高	4.2	灰白	内面から高台脇灰釉。貫入。内面鉄絵具で梅花、呉須で梅樹描く。高台内墨書。	登窯８小期。
第73図	61	瀬戸陶器 梅文皿	6号溝 口縁部1/4、底部完	口 底	(11.2) 4.2	高	4.3	灰白	内面から高台脇灰釉。貫入。内面鉄絵具で梅花、呉須で梅樹描く。	登窯８小期。
第73図	62	美濃陶器 鉄絵皿	6号溝 口縁部一部欠	口 底	10.0 6.6	高	2.2	灰白	内面から高台脇透明釉。貫入。内面鉄絵。口縁部小片漆継ぎ。	登窯８・９小期。
第74図	63	瀬戸陶器 大皿	6号溝 口縁部一部、底部2/3	口 底	(21.7) 9.6	高	4.6	灰白	内外面鉄絵。口銷。高台端部を除き透明釉。	登窯８・９小期。
第74図	64	肥前陶器 刷毛目鉢	6号溝 口縁部片	口 底	– –	高	–	褐灰	口縁部外面に白土波状に刷毛塗り。内外面透明釉。	17世紀後葉頃。
第74図	65	美濃陶器 黄瀬戸鉢	6号溝 口縁部片	口 底	– –	高	–	淡黄	内面櫛状工具による波状文。内外面黄瀬戸釉。口縁部内面銅緑釉。	登窯７小期。
第74図	66	肥前磁器 染付段重	6号溝 1/8	口 底	(14.8) (9.7)	高	5.7	白	口縁端部上面から内面釉掻き取る。体部下位重ね部無釉で砂付着。内面無文。	有田。18世紀後葉。
第74図	67	製作地不詳陶器 都付き鉢	6号溝 1/3	口 底	(15.0) 6.2	高	7.2	灰白	２カ所に「コ」の字状取っ手貼り付け。内面から体部外面上位鉄釉。底部周縁に粒状の脚３カ所カ。口縁部上面無釉。	近代。
第74図	68	美濃陶器 鍋	6号溝 体部～底部1/4欠	口 底	21.0 7.7	高	10.7	灰白	口縁部器壁厚い。口縁部アーチ状の取っ手２カ所貼り付け。内面から体部外面下位銅色の鉄釉。粒状の脚２カ所残存。	登窯10・11小期。
第74図	69	瀬戸陶器 すり鉢	6号溝 底部片	口 底	– –	高	–	浅黄橙	内外面銅釉。底部回転糸切無調整。	登窯１・２小期。
第74図	70	瀬戸陶器 すり鉢	6号溝 体部2/3、底部1/3	口 底	– (14.0)	高	–	灰白	内外面銅釉。底部右回転糸切無調整。内面体部下位以下使用により摩滅。	登窯５～７小期。
第75図	71	堺陶器 すり鉢	6号溝 口縁部1/4、底部1/8	口 底	(32.4) (16.0)	高	11.3	にぶい赤	口縁部外面２条の沈線。口縁端部内面明瞭な突帯。体部内面下位以下使用により摩滅。	18世紀前葉～中葉。
第75図	72	堺陶器 すり鉢	6号溝 口縁部1/8、底部1/4	口 底	(34.4) (16.0)	高	13.6	明赤褐	口縁部外面２条の沈線。口縁端部内面丸み を持つ突帯。体部内面下位以下使用により摩滅。	18世紀前葉～中葉。
第75図	73	在地系土器 鍋	6号溝 1/3	口 底	(34.3) (19.5)	高	(10.9)	にぶい黄橙	器表黒色。器壁やや厚い。口縁端部平坦で外方は稜をなす。	江戸時代。
第75図	74	在地系土器 甕	6号溝 1/8	口 底	(35.0) –	高	–	にぶい黄橙	断面中央暗灰色、器表付近から器表にぶい黄橙色。口縁部外反。屈曲部内面稜をなす。	江戸時代か。
第75図	75	在地系土器 焙烙	6号溝 1/3	口 底	(30.0) (25.5)	高	5.4	にぶい黄橙	体部外面煤付着。丸底。残存部に内耳なし。	江戸時代後期以降か。
第76図	76	搬入系土器 焼塩壺蓋	6号溝 一部欠	口 天	7.4 7.8	高	1.8	浅黄橙	天井部平坦。天井部内面布圧痕。	江戸時代。
第76図	77	搬入系土器 焼塩壺蓋	6号溝 完形	口 天	7.8 7.3	高	1.9	浅黄橙	天井部ほぼ平坦。天井部内面布圧痕。	江戸時代。
第76図	78	搬入系土器 焼塩壺蓋	6号溝 完形	口 天	7.3 7.8	高	1.8	浅黄橙	天井部平坦。天井部内面布圧痕。	江戸時代。
第76図	79	在地系土器 か 皿	6号溝 口縁部1/2欠	口 底	(8.0) 4.0	高	1.5	橙～黄橙	器壁薄い。口縁部直線的に開く。見込周縁沈線状に窪む。底部左回転糸切無調整。外面「中」墨書。	江戸時代。
第76図	80	在地系土器 皿	6号溝 1/3	口 底	(8.4) (5.3)	高	2.3	灰白	口縁部屈曲して立ち上がる。底部内面黒色物付着。底部中央焼成後の円孔。底部回転糸切無調整。	江戸時代。
第76図	81	在地系土器 皿	6号溝 1/4	口 底	(9.8) (6.6)	高	2.2	にぶい橙	体部内湾。底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第76図	82	志戸呂陶器 灯火皿	6号溝 完形	口 底	10.0 5.4	高	2.1	にぶい橙	底部右回転糸切無調整。内面から口縁部外面鉄釉。口縁端部付近全体に油壺付着。	18世紀。
第76図	83	瀬戸・美濃陶器 灯火皿	6号溝 1/3	口 底	(10.4) (4.0)	高	2.1	灰	錆釉施釉後、口縁部外面以下拭う。見込と体部外面重焼痕。	登窯９・10小期。
第76図	84	美濃陶器 灯火受皿	6号溝 1/2	口 底	(8.1) 3.8	高	1.8	灰白	錆釉施釉後、口縁部外面以下拭う。受け部と体部外面重焼痕。	登窯９小期。
第76図	85	美濃陶器 灯火受皿	6号溝 口縁部一部欠	口 底	10.1 4.2	高	2.0	灰	受け部１カ所「U」字状に挟る。錆釉施釉後、口縁部外面以下拭う。受け部と体部外面重焼痕。	登窯10小期。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第76図	86	肥前磁器青磁香炉かや火人	6号溝口縁部一部、底部1/4	口 (10.0) 底 (7.9)	高	7.0	灰白	蛇ノ目円形高台、高台釉剥ぎ部鉄泥。口縁部内面から高台内青磁釉。	17世紀第4四半期～18世紀第1四半期。
第76図	87	美濃陶器筒形小香炉	6号溝口縁部一部、底部1/2	口 (5.2) 底 3.7	高	4.5	灰白	口縁端部内面から体部外面下端灰釉。輪高台。	登窯8・9小期。
第77図	88	美濃陶器火人	6号溝口縁部1/4、底部1/2	口 (8.0) 底 4.5	高	6.0	灰	高台脇に段。口縁端部外面から体部下位段差間、外面横位沈線の後縦位沈線。口縁部下外面取っ手状飾り貼り付け。口縁部内面から体部外面下位の段差鉄釉。	登窯5～7小期。
第77図	89	在地系土器手焙りか	6号溝口縁部～体部2/3、底部一部	口 14.0 (10.5)	高	4.8	暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表暗灰色。三脚であろう。	
第77図	90	在地系土器十能	6号溝1/2	口 底 – –	高	–	暗灰	断面中央黒色、器表付近橙色から灰白色。側面と底面型作り痕。取っ手欠損。	江戸時代以降。
第77図	91	美濃陶器水指	6号溝底部1/5	口 底 – (20.0)	高	–	灰白	器壁厚い。底部付近正円でなく径不明瞭。外面灰釉、括れ部僅かに鉄釉流れる。	美濃伊賀。登窯1小期。
第77図	92	肥前磁器水滴	6号溝上面～側面片	長 – 幅 –	高	3.7	白	型押しでリスと葡萄文。部分的に鉄泥を塗る。	有田。18世紀前葉第1小期。
第77図	93	美濃陶器蓋	6号溝口縁部一部欠	口 6.5 底 3.6	高	1.9	灰白	下部底部石回転糸切無調整。口縁端部から天井部外面灰釉。粗い貫入。アーチ状のつまみ貼り付け。	登窯8・9小期。
第77図	94	瀬戸・美濃陶器蓋	6号溝1/4	口 (9.4) 摘 (3.6)	高	2.4	灰白	つまみ端部を除き透明釉。口縁部卵の斑釉。口縁部外面鉄絵。	登窯8・9小期。
第77図	95	肥前磁器白磁紅皿	6号溝1/2	口 5.0 底 1.2	高	1.8	白	型押し成形。内縁から体部外面下位透明釉。	18世紀。
第78図	96	瓦鯱鉾	6号溝2/3	長 – 幅 –	厚	–	灰白	接合部欠損。接合補強の孔1カ所残る。鰭先端部欠損。	江戸時代末～近代か。
第78図	97	瓦鬼瓦	6号溝1/4	長 – 幅 –	厚	–	暗灰	断面灰色。中央文様部欠損。	江戸時代か。
第78図	98	瓦軒丸瓦	6号溝瓦当1/2	径 (15.2) 長 –	高	–	灰白	器表暗灰色。瓦当文様は巴文。	
第78図	99	瓦丸瓦	6号溝1/2	幅 – 長 –	高	–	灰白	器表黒色。内面布痕。焼成前円孔1カ所。	
第78図	100	瓦平瓦	6号溝2/3	長 – 幅 23.7	厚	1.7	灰褐	器表黒色。裏面砂付着。	
第79図	101	瓦平瓦	6号溝	長 25.6 幅 21.8	厚	2.0	灰	器表灰色から暗灰色。	
第79図	102	瓦角板桟瓦	6号溝1/4か	長 – 幅 –	厚	2.0	にぶい橙～褐灰	器表灰色。裏面全面砂付着。長方形孔1カ所残る。	江戸時代以降か。
口絵6	117	前橋藩窯磁器染付碗	6号溝口縁部1/2欠	口 8.0 底 3.1	高	4.7	灰白	焼成不良で文様不明瞭。外面、山と帆掛船。見込帆掛船か。	19世紀前葉～中葉。
口絵6	118	瀬平焼陶器碗か鉢	6号溝底部片	口 – 底 –	高	–	淡黄	轆轤成形。全面施釉後、高台端部の釉掻き取る。器表は2.5YR7/8(黄)色。細かい貫入。	19世紀後半頃。
第81図	1	中国磁器白磁皿	7号溝底部1/8	口 – 底 (8.0)	高	–	白	高台端部外面面取り。高台内側一部無釉。底部と高台内端ヒビ状の釉切れ。	景德鎮。16世紀。
第81図	2	中国磁器染付皿か	7号溝口縁部小片	口 – 底 –	高	–	白	口縁端部外面1重圏線。端部内面2重圏線。端部屈曲部外面ヒビ状の釉切れ。	17世紀前葉。
第81図	3	瀬戸・美濃陶器志野	7号溝口縁部小片	口 – 底 –	高	–	灰白	体部下位外面稜をなして屈曲。内外面長石釉。	大窯4段階後半。
第81図	4	瀬戸・美濃陶器志野丸皿	7号溝口縁部1/6、底部1/3	口 (9.8) 底 (6.0)	高	1.6	灰白	内面から高台内周縁長石釉。貫入。高台内無釉。	大窯4段階後半。
第81図	5	肥前磁器染付小杯	7号溝口縁部1/3、底部3/4	口 5.8 底 3.1	高	1.9	灰白	外面3カ所に笹文。内面無文。	肥田か。18世紀中葉～末。
第81図	6	肥前磁器染付小碗	7号溝口縁部1/3	口 (8.4) 底 –	高	–	灰白	口縁部外面一部釉切れ。内面無文。	18世紀前葉。
第81図	7	肥前磁器染付碗	7号溝体部一部、底部1/5	底 – (4.0)	高	–	白	高台内1重圏線内に「大明」銘。	1650～60年代。
第81図	8	肥前磁器色絵碗	6号溝口縁部～体部1/4	口 (11.4) 底 –	高	–	白	外面上絵で小さい蝶文。上絵は剥がれ、色は不明。内面無文。	有田。17世紀後葉～18世紀初頭。
第81図	9	肥前磁器色絵碗	7号溝ほぼ完形	口 9.7 底 3.5	高	4.7	白	高級品。高台脇染付。口縁部から体部外面金色の上絵で斜格子と藤文か。高台内2重方角枠内銘「福」字銘。	有田。18世紀前葉～中葉。
第81図	10	肥前磁器染付碗	7号溝口縁部1/8、底部完	口 (10.0) 底 4.4	高	5.5	白	貫入。内面無文。高台内2重方角内銘「福」字銘。	18世紀前葉。
第81図	11	肥前磁器染付碗	7号溝1/2	口 (9.8) 底 (4.0)	高	5.0	灰白	内面、高台内無文。	18世紀前葉～中葉。
第81図	12	肥前磁器染付碗	7号溝口縁部1/4、底部3/4	口 (9.6) か 底 3.7	高	5.1	灰白	口縁部歪む。内面、高台内無文。	18世紀前葉～中葉。
第82図	13	肥前磁器染付碗	7号溝下半	口 – 底 4.0	高	–	白	内外面水裂地に菊花文。高台内無文。	18世紀第2～第3四半期。
第82図	14	肥前磁器染付碗	7号溝口縁部一部、底部完	口 (10.3) 底 4.4	高	6.0	灰白	内面無文。高台内1重圏線内に「大明年製」崩れ銘か。	18世紀第2～第3四半期。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第82図	15	肥前磁器染付碗	7号溝 1/2	口 (9.8) 底 3.6	高 4.4			白	内外面氷裂地に菊花文。高台内無文。	18世紀後葉。
第82図	16	肥前磁器染付碗	7号溝 口縁部1/2次	口 10.0 底 3.9	高 5.1			灰白	内面、高台内無文。	18世紀後葉。
第82図	17	肥前磁器染付碗	7号溝 口縁部～体部1/3次	口 9.7 底 4.4	高 5.3			灰白	貫入。やや焼成不良。内面無文。高台内不明銘。	波佐見系。18世紀後葉。
第82図	18	肥前磁器染付筒形碗	7号溝 口縁部1/2、底部完	口 (7.8) 底 4.5	高 7.0			白	高台脇宝文。口縁部内面唐草文帯。見込周縁1重圏線。見込1重圏線内岩と植物文。	1770～90年代。
第82図	19	肥前磁器染付筒形碗	7号溝 口縁部1/3次	口 8.1 底 4.3	高 6.7			白	口縁部内面四方唐文。見込2重圏線内五弁花。高台内2重方角枠内不明銘。	1770～90年代。
第82図	20	肥前磁器色絵筒形碗	7号溝 口縁部1/8	口 (7.8) 底 –	高 –			白	外面丸文と菱形状文。腰部1重圏線突付。木の幹は黒線に青灰色の上絵。菱形と丸文は金色の輪郭。唐草は赤地金色塗り。七宝繋ぎ文は赤の細線。口縁部内面四方唐文。	18世紀後葉。
第82図	21	肥前磁器染付筒形碗	7号溝 口縁部1/3、底部完	口 (7.0) 底 4.3	高 6.6			白	外面宝尽くし文。高台内2重方角枠内渦「福」字銘。口縁部内面四方唐文。見込2重圏線内五弁花。	18世紀第4四半期。
第82図	22	瀬戸・美濃陶器天目碗	7号溝 口縁部片	口 – 底 –	高 –			灰白	内外面鉄釉。	登窯1小期。
第83図	23	瀬戸・美濃陶器天目碗	7号溝 口縁部～体部片	口 – 底 –	高 –			灰白	内面から体部外面下位鉄釉。	登窯1小期。
第83図	24	瀬戸・美濃陶器天目碗	7号溝 口縁部～体部片	口 – 底 –	高 –			灰白	内面から体部外面下位鉄釉。	登窯2小期。
第83図	25	瀬戸・美濃陶器天目碗	7号溝 口縁部～体部片	口 – 底 –	高 –			灰白	内面から体部外面下位鉄釉。	登窯3・4小期。
第83図	26	肥前陶器京焼風碗	7号溝 体部一部、底部1/3	口 – 底 (5.4)	高 –			浅黄	高台内「清水」印。内面から高台脇透明釉。	1660～90年代。
第83図	27	肥前陶器刷毛目碗	7号溝 口縁部1/5	口 (9.7) 底 –	高 –			明赤褐	内外面白土刷毛塗り。内外面透明釉。	18世紀前葉。
第83図	28	肥前陶器陶胎染付碗	7号溝 口縁部1/4	口 (10.0) 底 (5.3)	高 7.0			灰白	外面染付は明瞭。内面無文。貫入。	18世紀前葉。
第83図	29	肥前陶器陶胎染付碗	7号溝 口縁部一部欠	口 10.0 底 5.3	高 7.0			灰白	内面無文。外面の束屋山水文やや簡略化。貫入。	18世紀前葉。
第83図	30	美濃陶器丸碗	7号溝 口縁部1/3	口 (10.7) 底 –	高 –			浅黄	内外面飴釉。内面釉切れ部分あり。	登窯5～7小期。
第83図	31	美濃陶器丸碗	7号溝 口縁部1/3、底部3/4	口 (12.2) 底 5.8	高 8.4			灰白	内面から高台外面付近灰釉。貫入。	登窯5・6小期。
第83図	32	美濃陶器柳茶碗	7号溝 1/2	口 (12.0) 底 (4.7)	高 5.6			灰白	外面鉄絵具による柳文。内面から高台脇灰釉。粗い貫入。	登窯8小期。
第84図	33	美濃陶器丸碗	7号溝 口縁部1/6、底部1/3底部完	口 (9.6) 底 4.4	高 6.3			灰白	内面から高台脇柿釉。	登窯8・9小期。
第84図	34	美濃陶器沈線碗	7号溝 口縁部1/4	口 (10.0) 底 –	高 –			灰白	外面横位沈線2条。内外面灰釉。口縁端部から内面に鉄釉流し、蛇釉状から薄い飴釉状に発色。	登窯8・9小期。
第84図	35	美濃陶器鐵錆碗	7号溝 口縁部1/3次	口 9.5 底 4.5	高 5.8			灰白	外面口縁部下4条の蛇蛇状凹線。内面から口縁部外面灰釉、外面体部以下薄い鉄釉。灰釉に貫入。高台端部のみ無釉。	登窯9小期。
第84図	36	瀬戸陶器鐵錆碗	7号溝 口縁部1/3、底部1/2	口 (8.8) 底 4.2	高 5.7			灰白	外面口縁部下蛇蛇状凹線。内面から口縁部外面灰釉、外面体部以下鉄釉。高台端部無釉。灰釉に貫入。	登窯9小期。
第84図	37	関西系陶器色絵碗	7号溝 口縁部～体部1/2	口 9.0 底 –	高 –			灰白	砂質胎に焼き締まる。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。緑色で葉、青灰色で枝？、赤色で花の上絵。上絵具が発泡しており、被熱か。	18世紀。
第84図	38	関西系陶器色絵碗	7号溝 口縁部1/4、体部1/3	口 (9.2) 底 –	高 –			灰白	丸碗。内外面透明釉。細かい貫入。外面緑色と青灰色で松状文、赤色で直線文。内面無文。	18世紀。
第84図	39	関西系陶器色絵碗	7号溝 口縁部一部、底部完	口 (9.5) 底 3.2	高 5.3			灰白	口縁部外面鉄絵具の細線。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。外面緑色・赤色・青灰色で植物文の上絵。底部中央付近のヒビを青灰色上絵具で補修。	瀬地補修。18世紀。
第84図	40	関西系陶器色絵碗	7号溝 口縁部2/3、底部完	口 9.2 底 3.0	高 5.6			淡黄	丸碗。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。外面緑色・赤・暗紫灰色で梅樹文。反対側には同色で花文を2カ所描く。内面無文。	18世紀。
第84図	41	関西系陶器色絵碗	7号溝 口縁部1/4、底部2/3	口 (9.8) 底 3.2	高 6.0			淡黄	丸碗。内面から高台脇透明釉。外面暗紫灰色で茎と葉。薄い緑色で葉を描く。反対側には青灰色で松状文。内面無文。	18世紀。
第84図	42	関西系陶器鉄絵碗	7号溝 口縁部1/6、底部1/2	口 (8.7) 底 3.0	高 5.6			灰白	内面から高台脇透明釉。細かい貫入。口縁部内面一部鉄絵残る。	18世紀。
第85図	43	関西系陶器鉄絵碗か	7号溝 体部1/2、底部2/3	口 – 底 3.2	高 –			灰白	内面から高台脇透明釉。細かい貫入。残存部無文。	18世紀。
第85図	44	関西系陶器色絵碗	7号溝 口縁部一部、底部完	口 (10.2) 底 4.3	高 6.7			灰白	内面から高台脇透明釉。細かい貫入。緑色、黒色、紫色で桐文の上絵。高台内墨書。上手。	18世紀。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図	45	瀬戸陶器せんじ碗	7号溝 口縁部～体部 1/3	口 (9.3) 底 ～	高 －			灰白	口縁部外面鉄絵具と呉須による施文。内面から高台脇灰釉。細かい貫入。	登窯8小期。
第85図	46	美濃陶器せんじ碗	7号溝 1/4	口 (9.5) 底 ～	高 －			淡黄	内外面灰釉。	登窯9小期。
第85図	47	美濃陶器せんじ碗	7号溝 口縁部1/2、底部完	口 (10.0) 底 3.8	高 5.1			灰白	灰釉鉄釉左右掛け分け。灰釉に貫入。高台端部付近のみ無釉。	登窯8小期。
第85図	48	美濃陶器せんじ碗	7号溝 口縁部一部、底部完	口 (9.8) 底 3.8	高 5.4			灰白	灰釉鉄釉左右掛け分け。灰釉に貫入。高台端部付近のみ無釉。	登窯8小期。
第85図	49	美濃陶器せんじ碗	7号溝 口縁部1/2、底部完	口 (9.8) 底 4.4	高 5.3			灰白	灰釉鉄釉左右掛け分け。灰釉に貫入。高台端部付近のみ無釉。	登窯8小期。
第85図	50	美濃陶器せんじ碗	7号溝 口縁部1/4、底部1/2	口 10.1 底 4.1	高 5.1			灰白	灰釉鉄釉左右掛け分け。灰釉に貫入。高台端部付近のみ無釉。	登窯8小期。
第85図	51	美濃陶器せんじ碗	7号溝 口縁部1/4、底部完	口 9.8 底 4.7	高 4.9			灰白	灰釉鉄釉左右掛け分け。灰釉に貫入。高台端部付近のみ無釉。	登窯8小期。
第85図	52	美濃陶器せんじ碗	7号溝 口縁部1/2、底部完	口 10.0 底 4.5	高 4.8			灰白	灰釉鉄釉左右掛け分け。灰釉に貫入。高台端部付近のみ無釉。	登窯8小期。
第86図	53	瀬戸陶器せんじ碗	7号溝 口縁部1/2欠	口 (9.3) 底 3.9	高 5.0			灰白	口縁部外面鉄と呉須絵、内面から高台脇灰釉。貫入。	登窯8小期。
第86図	54	関西系陶器色絵碗	7号溝 口縁部1/6、底部1/2	口 (8.7) 底 3.4	高 4.5			淡黄	せんじ碗形。口縁部外面鉄絵。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。口縁部外面緑色・青灰色で笹状文の上絵。見込青灰色の上絵具が粒状に4カ所。	18世紀。
第86図	55	関西系陶器鉄絵碗	7号溝 1/4	口 (10.8) 底 ～	高 －			灰白	口縁部外面浅い沈線状に窄む。口縁部外面鉄絵。	18世紀。
第86図	56	関西系陶器鉄絵碗	7号溝 口縁部1/3、底部一部欠	口 (10.9) 底 4.3	高 5.3			灰白	内面から高台脇透明釉。口縁部外面一部鉄絵残る。見込目痕2カ所。	18世紀。
第86図	57	肥前磁器染付猪口か	7号溝 体部一部、底部1/4	口 － 底 (5.2)	高 －			灰白	内面無文。高台内無文。	18世紀第2～第3四半期。
第86図	58	肥前磁器色絵器物	7号溝 1/2	口 (4.3) 底 (2.8)	高 2.2			白	外面赤色の上絵。口縁端部付近無釉。高台端部無釉でやや幅広。	18世紀前葉。
第86図	59	肥前磁器蓋付小鉢	7号溝 1/4	口 (7.5) 底 ～	高 －			白	高台欠損。口縁端部内面釉掻き取り。内面無文。	18世紀中葉～末。
第86図	60	肥前磁器染付蓋付鉢	7号溝 口縁部1/4、底部1/2	口 (9.3) 底 5.0	高 5.0			白	内面、高台内無文。口縁端部から内面釉を掻き取る。	18世紀後葉。
第86図	61	肥前磁器青磁染付猪口	7号溝 口縁部1/3次	口 7.8 底 3.7	高 5.4			白	口縁部歪み、平面形は楕円。口縁部外面四方瓣文。見込五弁花。高台内2重方角枠内渦「福」字銘。内面から口縁部外面、高台内透明釉。体部外面青磁釉。	有田。18世紀後葉。
第86図	62	肥前磁器染付蓋付鉢	7号溝 口縁部～体部1/3、底部2/3	口 (9.0) 底 6.2	高 8.4			白	内面、高台内無文。口縁端部から内面釉を掻き取る。	18世紀中葉～末。
第87図	63	肥前磁器蓋付鉢	7号溝 1/4	口 (14.0) 底 (7.8)	高 6.3			白	内面、高台内無文。口縁端部内面釉掻き取り。	18世紀第2～第3四半期。
第87図	64	肥前磁器蓋	7号溝 1/2	口 (7.6) 摘 －	高 －			白	合わせ部無釉、砂付着。	18世紀中葉～末。
第87図	65	肥前磁器染付蓋	7号溝 完形	口 8.0 摘 2.2	高 2.8			灰白	天井部外面梅花・折れ枝文。合わせ部無釉、砂付着。	18世紀前葉～中葉。
第87図	66	肥前磁器染付皿	7号溝 口縁部1/4、底部2/3	口 (14.5) 底 7.7	高 4.4			白	内面松竹梅文か。外面古いタイプの唐草文。高台内1重圏線。ハリ支え。	有田。1660～80年代。
第87図	67	肥前磁器染付深皿	7号溝 口縁部底部一部、体部1/4	口 (21.2) 底 (8.4)	高 8.5			白	上手。高台内1重圏線。漆継ぎ。	有田。1660～80年代。
第87図	68	肥前磁器染付皿	7号溝 口縁部1/4	口 (25.0) 底 ～	高 －			白	口縁部梅花。体部中位外反。内外面染付。	有田。1660～90年代。
第87図	69	肥前磁器染付皿	7号溝 底部1/3	口 － 底 (8.2)	高 －			白	高台内1重圏線。貫入。	有田。1670～18世紀初頭。
第88図	70	肥前磁器白磁皿	7号溝 口縁部～体部片	口 － 底 ～	高 －			白	型打ち成形。内面文様は隔剣。口縁部平面形は花状か。	有田。17世紀末～18世紀前葉。
第88図	71	肥前磁器染付皿	7号溝 1/3	口 (14.2) 底 (8.7)	高 4.0			灰白	高台内1重圏線内不明銘。	18世紀前葉～中葉。
第88図	72	肥前磁器染付皿	7号溝 1/4	口 (12.2) 底 4.2	高 3.8			灰白	見込蛇ノ目釉剥ぎ。内面から高台脇透明釉。	波佐見系。18世紀。
第88図	73	肥前磁器染付皿	7号溝 1/4	口 (24.7) 底 (15.8)	高 3.0			白	口縁部内面唐草文、窯内に松文。外面唐草文。高台内1重圏線。口縁部小さい輪花。	18世紀後葉。
第88図	74	肥前陶器青磁釉皿	7号溝 口縁部1/3	口 (12.5) 底 ～	高 －			灰白	内面青緑釉。口縁部外面から体部外面下位透明釉。見込蛇ノ目釉剥ぎ。	内野山。17世紀末～18世紀前葉。
第88図	75	肥前陶器青磁釉皿	7号溝 底部	口 － 底 4.4	高 －			灰白	内面青緑釉施釉後蛇ノ目釉剥ぎ。口縁部外面から高台外面付近透明釉。高台端部目痕4カ所。	内野山。17世紀末～18世紀前葉。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第89図	76	肥前陶器 京焼風皿	7号溝 底部1/4	口 – 底 (4.8)	–	高	–	淡黄	見込染付。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀前葉。
第89図	77	肥前陶器 京焼風皿	7号溝 底部1/4	口 – 底 (4.0)	–	高	–	灰白	見込簡略化した鉄絵。内面から高台脇透明釉。貫入。	18世紀前葉。
第89図	78	肥前陶器 刷毛目皿	7号溝 底部1/4	口 – 底 (7.6)	–	高	–	灰褐	内面白土刷毛塗り。内面透明釉。見込蛇ノ目釉剥ぎ。残存部外面無釉。	18世紀。
第89図	79	瀬戸・美濃陶器 志野丸皿	7号溝 口縁部片	口 – 底 –	–	高	–	灰	内外面長石釉。貫入。	登窯1・2小期。
第89図	80	瀬戸陶器 碗	7号溝 底部1/2	口 – 底 (4.0)	–	高	–	灰白	内面から高台脇灰釉。貫入。	登窯8・9小期。
第89図	81	瀬戸陶器 梅文皿	7号溝 口縁部～体部～底部完	口 (11.2) 底 3.8	高	高	4.1	浅黄橙	見込鉄絵具で梅花、呉須で梅蕾。内面から高台脇灰釉。細かい貫入。	登窯8小期。
第89図	82	製作地不詳陶器 皿	7号溝 口縁部1/8、底部1/4	口 (11.7) 底 (7.0)	高	高	2.1	灰白	焼成不良で釉白濁。全面施釉後、高台内蛇ノ目釉剥ぎ。高台内釉剥ぎ部と見込小さい目痕各2カ所残る。高台は角張る。	江戸時代。
第89図	83	瀬戸・美濃陶器 折縁輪禿皿	7号溝 口縁部～体部 1/6	口 (20.0) 底 –	高	高	–	灰白	口縁部外反。内面から体部外面下位灰釉。底部内面釉掻き取る。	登窯7小期。
第89図	84	瀬戸・美濃陶器 向付	7号溝 口縁部～体部片	口 – 底 –	–	高	–	灰白	織部か再興織部。口錆。口縁部外面と見込鉄絵。内外面長石釉。貫入。口縁部輪花。	登窯1か8小期。
第90図	85	美濃陶器 罐鉄	7号溝 底部1/4欠	口 18.3 底 8.2	高	高	7.8～8.4	灰白	やや歪む。内面から高台脇灰釉。内面目痕2カ所残る。	登窯8小期。
第90図	86	瀬戸陶器 すり鉢	7号溝 1/5	口 (29.0) 底 –	–	高	–	灰白	内外面錆釉。体部内面下位使用により平滑。口縁端部上面使用による器表摩滅。	登窯2小期。
第90図	87	堺陶器 すり鉢	7号溝 口縁部～体部1/2、底部3/4	口 22.0 底 10.8	高	高	8.3	暗赤褐	口縁部内面突帯明瞭。側面すり目底部に及ぶ。	18世紀前葉～中葉。
第90図	88	美濃陶器 鍋	7号溝 口縁部1/3、体部1/4	口 (21.0) 底 –	–	高	–	灰黄	取っ手欠損。内外面柿釉。	登窯10・11小期。
第90図	89	瀬戸陶器 小壺	7号溝 口縁部～体部上位1/5	口 (10.0) 底 –	–	高	–	灰白	内外面錆色の鉄釉。肩部に灰釉2カ所流し掛け。	登窯10・11小期。
第90図	90	在地系土器 鍋	7号溝 口縁部片	口 – 底 –	–	高	–	黒	断面外半黒色、内半灰白色。口縁端部平坦で外方に突き出る。	江戸時代。
第90図	91	搬入系土器 焼塩壺	7号溝 口縁部1/5	口 (7.0) 底 –	–	高	–	橙色	内面布痕。口縁端部内面器表欠損。	江戸時代。
第90図	92	信楽陶器 腰白茶壺か	7号溝 体部～部、底部1/2	口 – 底 9.2	高	高	–	灰白	体部外面鉄釉、体部外面下位以下透明釉。内面無釉。体部外面沈線状の轆轤目。	17世紀後葉～18世紀。
第90図	93	美濃陶器 尾呂徳利	7号溝 口縁部～頸部欠	口 – 底 12.2	高	高	–	灰白	外面酸釉施釉後高台脇以下を拭う。頸部から肩部外面に藁灰釉。	登窯5・6小期。
第91図	94	関西系陶器 色絵水指	7号溝 口縁部～体部上位1/4	口 (30.0) 底 –	–	高	–	白	外面に呉須と鉄絵具による草文。体部上位内面から外面透明釉。体部内面以下薄い透明釉。細かい貫入。蓋との合わせ部無釉。被熱。	18世紀。
第91図	95	関西系陶器 色絵水指	7号溝 体部1/3、底部3/4	口 – 底 6.2	高	高	–	白	体部外面に呉須と鉄絵具による草文。外面透明釉。内面薄い透明釉。細かい貫入。高台脇以下無釉。被熱。見込目痕2カ所残る。	18世紀。
第91図	96	美濃陶器 有耳壺	7号溝 上半	口 10.2 底 –	–	高	–	淡黄	三耳壺。口縁部内面から体部外面鉄釉。	登窯8小期。
第91図	97	美濃陶器 蓋	7号溝 口縁部2/3欠	口 10.3 底 5.4	高	高	2.4	淡黄	全面薄い錆釉。底部右回転糸切無調整。	登窯5～7小期。
第91図	98	在地系土器 焙烙	7号溝 口縁部～体部片	口 – 底 –	–	高	5.9	暗灰	断面中央黒色。器表付近灰白色、器表暗灰色。体部中位肥厚し、内側は段をなす。口縁端部上面窪む。	16世紀末～17世紀か。
第91図	99	在地系土器 耳部片	7号溝 耳部片	口 – 底 –	–	高	5.8	黒	断面灰白色。器表黒色。体部内面中位に段。内耳下部は体部下位に接合。口縁端部上面窪む。	17世紀か。
第91図	100	在地系土器 焙烙	7号溝 口縁部～体部片	口 – 底 –	–	高	5.5	黒、にぶい黄橙	断面中央淡黄色、器表付近にぶい橙色、外面器表黒色、内面器表にぶい黄橙色。体部中位肥厚。口縁端部上面僅かに窪む。	江戸時代。
第91図	101	在地系土器 焙烙	7号溝 口縁部～底部片	口 – 底 –	–	高	5.6	黒、暗灰	断面中央黒色。器表付近灰白色、外面器表黒色、内面器表暗灰色。口縁端部上面浅い沈線2条。	江戸時代。
第91図	102	在地系土器 焙烙	7号溝 口縁部～体部片	口 – 底 –	–	高	–	黒	断面灰白色。外面下半型作り痕。	江戸時代。
第91図	103	在地系土器 焙烙	7号溝 口縁部～底部片	口 – 底 –	–	高	5.4	黒	断面灰白色。外面下半以下型作り痕。	江戸時代。
第91図	104	在地系土器 皿	7号溝 口縁部～体部1/3	口 (10.8) 底 (6.0)	高	高	2.6	にぶい黄橙	体部上位外反気味。体部外面墨書か。	15世紀後半か。
第91図	105	在地系土器 皿	7号溝 口縁部1/6	口 (10.3) 底 (6.0)	高	高	2.4	にぶい橙	体部中位緩く外反。底部回転糸切無調整。	15世紀中葉～後葉。
第92図	106	在地系土器 皿	7号溝 口縁部～体部1/4	口 (7.8) 底 (4.2)	高	高	1.5	にぶい橙	器壁薄い。体部から口縁部直線的に開く。	江戸時代。
第92図	107	在地系土器 皿	7号溝 口縁部～部、底部3/4	口 (8.0) 底 4.0	高	高	1.4	浅黄橙	器壁薄い。体部から口縁部直線的に開く。見込周縁窪む。底部左回転糸切無調整。口縁端部油煙付着。	江戸時代。
第92図	108	在地系土器 皿	7号溝 口縁部1/8、底部完	口 (7.7) 底 3.6	高	高	1.2	にぶい黄橙	器壁薄い。体部から口縁部直線的に開く。見込小央と周縁窪む。底部左回転糸切無調整。底部外面墨書。	江戸時代。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)					胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第92図	109	在地系土器皿	7号溝口縁部1/7、底部1/4	口 (9.0) 底 (6.0)	高	2.3	橙	体部内湾気味。底部回転糸切無調整。	江戸時代。
第92図	110	在地系土器皿	7号溝2/3	口 9.8 底 6.2	高	2.2～2.4	にぶい橙	口縁端部内面内側に肥厚。見込左回転煤状物帯目。底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第92図	111	在地系土器皿	7号溝1/2	口 (8.4) 底 (5.8)	高	1.8	灰白	口縁部内湾して立ち上がる。見込周縁窪む。底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第92図	112	在地系土器皿	7号溝口縁部一部、底部1/3	口 (10.0) 底 (6.2)	高	2.1	にぶい橙	体部中位で緩く屈曲し、外面は段をなす。底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第92図	113	肥前磁器青磁香炉	7号溝口縁部1/5	口 (19.4) 底 –	高	–	灰白	大型品。同部外面に花状貼付文1カ所残存。頸部内面から外面青磁釉。	17世紀第4四半期～18世紀第1四半期。
第92図	114	美濃陶器色絵火入	7号溝口縁部片	口 – 底 –	高	–	灰白	口縁部輪花。口縁部内面から外面白化粧の後灰釉。貫入。緑色と青色花がかった上絵で世状文。	登窯8小期。
第92図	115	肥前磁器青磁火入	7号溝底部	口 – 底 7.0	高	–	灰白	外面擬状工具で縦位押縁。外面青磁釉。蛇ノ目四形高台。	波佐見か。18世紀。
第92図	116	肥前磁器青磁灰落とし	7号溝口縁部一部、底部付近1/3欠	口 5.7 底 4.4	高	7.2	灰白	外面の擬状工具により縦位押縁。口縁端部内面から体部外面青磁釉。口縁端部外面敲打による釉剥ぎ。	18世紀。
第93図	117	在地系土器火鉢か	7号溝1/4	口 (32.0) 底 (26.3)	高	–	暗灰	断面中央暗灰色、器表付近に示い黄橙色。器表暗灰色。口縁端部内面欠損部多い。底部外面鑢釉が残る。	江戸時代か。
第93図	118	在地系土器火鉢か	7号溝1/6	口 (28.0) 底 (22.6)	高	14.7	灰白	断面中央黒色、器表付近から器表灰白色。欠損部に鑢部存在か。	江戸時代～近代か。
第93図	119	関西系陶器色絵鳥の水入	7号溝口縁部一部、底ヶ手欠	口 5.2 底 3.9	高	2.6	灰白	外面に緑色の雲文、一方の外面に赤色の梅花状文。棒状取っ手欠損。高台脇から底部外面回転撫削りで無釉。底部外面墨書。	18世紀。
第93図	120	瓦鬼瓦	7号溝1/4	高 – 幅 –	厚	–	黒	燻し焼成。断面灰白色。中央に酒井家家紋の剣カタバミ。	17世紀～18世紀中葉。
第93図	121	瓦丸瓦	7号溝玉縁欠	長 – 幅 14.5	厚	2.3	黒・灰白	断面灰白色、部分的に燻し。外面縦位撫で。内面粗い布痕。玉縁欠損。酒井期か。	
第94図	122	瓦平瓦	7号溝一部欠	長 26.1 幅 22.5	厚	2.1	灰白・黒	断面灰白色。部分的に燻し。酒井期か。	
第94図	123	瓦角桟板瓦	7号溝1/2	長 – 幅 29.5	厚	2.1	灰	黄面離れ砂多く付着。桟と側縁割れ口に焼成前の切り込み残存。切り込みの大きさと形状不明。右側円の一部に二次加工の切り込み3カ所。	江戸時代か。
第95図	1	中国磁器染付皿	10号溝1/3	口 – 底 (3.4)	高	–	白	碁笥底。残存部外面無文。高台脇付近と高台端部無釉。	景德鎮。16世紀。
第95図	2	中国磁器染付皿	10号溝1/4	口 – 底 (5.0)	高	–	白	碁笥底。内外面染付。高台部接地部付近のみ無釉。	景德鎮。16世紀前葉～中葉。
第96図	3	在地系土器皿	10号溝口縁部1/3欠	口 8.2 底 5.9	高	2.0	にぶい黄橙	器壁厚く体部直線的に開く。底部外面短く立ち上がる。底部左回転糸切無調整。	15・16世紀。
第96図	4	在地系土器皿	10号溝1/6	口 (10.8) 底 (7.0)	高	2.6	にぶい橙	体部外反気味。口縁部内湾気味。底部左回転糸切無調整。	16世紀前半。
第96図	5	在地系土器皿	10号溝口縁部1/4、底部完	口 (11.4) 底 6.9	高	2.7	にぶい黄橙	体部から口縁部直線的に開く。底部器壁厚い。底部左回転糸切無調整。	16世紀後半。
第96図	6	在地系土器皿	10号溝口縁部1/3、底部1/2	口 (12.7) 底 7.2	高	2.7	にぶい黄橙	体部から口縁部直線的に開く。底部左回転糸切無調整。	16世紀後半か。
第96図	7	在地系土器皿	10号溝口縁部1/4、底部1/2	口 (10.7) 底 6.5	高	2.2	にぶい橙	体部内面から口縁部内面は緩く内湾。体部外面は窪み、外反するように見える。口縁部外面非厚し、内側に屈曲するように見える。	16・17世紀か。
第96図	8	在地系土器皿	10号溝口縁部一部、底部3/4	口 (10.7) 底 5.6	高	2.5	にぶい黄橙	体部から口縁部内湾気味。底部左回転糸切無調整。	17世紀か。
第96図	9	在地系土器焙烙	10号溝口縁部片	口 – 底 –	高	–	黒褐	断面黒色、器表付近灰赤色。口縁部から体部内面に耳貼り付け。	17世紀～18世紀前半。
第96図	10	在地系土器内耳鍋	10号溝口縁部～体部片	口 – 底 –	高	–	にぶい褐	断面から外面器表にぶい褐色、内面器表黒褐色。屈曲部内縁明瞭な段差。	15世紀末～16世紀中葉。
第96図	11	在地系土器内耳鍋	10号溝2/3、底部中央欠	口 28.4 底 –	高	–	黒、褐灰	断面にぶい黄橙色、外面器表黒色、内面器表褐灰色。丸底。口縁部下屈曲部内面明瞭な段差。内耳2カ所貼り付け。	15世紀末～16世紀中葉。
第96図	12	常滑陶器壺	10号溝底部1/3	口 – 底 (14.0)	高	–	橙～にぶい赤褐	外面縦位撫で。	15・16世紀
第97図	13	美濃陶器小碗	10号溝口縁部一部欠	口 6.2 底 3.0	高	3.9	灰白	内面から高台脇灰釉。貫入。	登窯8小期。
第97図	14	肥前陶器陶胎染付碗	10号溝底部	口 – 底 5.2	高	–	灰	外面染付。内面無文。貫入。	18世紀前葉。
第97図	15	肥前陶器刷毛目碗	10号溝底部	口 – 底 5.5	高	–	にぶい橙・灰	内面から高台脇白土刷毛塗り後、高台端部を除き透明釉。	18世紀前葉。
第97図	16	瀬戸・美濃陶器志野丸皿	10号溝1/8	口 (11.5) 底 (6.3)	高	2.1	灰白	高台脇削り込む。内外面長石釉。	登窯1小期。
第97図	17	肥前磁器蓋物の蓋	10号溝1/3	口 (9.3) 底 –	高	–	白	つまみ部欠損。合わせ部無釉。	18世紀第2～第3四半期。
第97図	18	瀬戸・美濃陶器すり鉢	10号溝口縁部片	口 – 底 –	高	–	灰白	内外面鉄釉。口縁端部上面使用による摩滅。	登窯1小期。

挿図No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第97図	19	美濃陶器 灯火受皿	10号溝 口縁部1/3欠	口底 7.6 3.7	高 1.7			灰白	受け部内湾。鉋痕施釉後、外面口縁部以下拭う。受け部端部と体部外面に重焼痕。	登窯8小期。
第97図	20	美濃陶器 灯火受皿	10号溝 口縁部一部欠	口底 8.8 3.7	高 1.9			灰白	鉋痕施釉後体部外面拭う。受け部端部と体部外面に重焼痕。	登窯8小期。
第97図	21	瀬戸・美濃磁器 クロム青磁碗	10号溝 完形	口底 8.0 3.0	高 3.8			白	口縁部から体部外面飛び跳風の施文。内面から高台外面クロム青磁釉。高台内蝶旋状削り。	近現代。
第98図	22	在地系土器か 甕5小風口	10号溝 ほぼ完形	長幅 27.0 14.6	高 10.5			黒	燃し焼成。胎土焼成ともに瓦に似る。瓦窯で製作か。通常の風口に比して大型で厚い。燃焼部を乗せる部分は微化により燃し が戻り、浅黄色から橙色を呈する。	江戸時代～近代。
第99図	1	瀬戸・美濃陶器 徳利	11号溝 口縁部1/5	口底 (7.7) –	高 –			灰色	内外面鉄釉。	大窯。
第99図	2	肥前磁器 小杯	11号溝 口縁部一部、底部1/3	口底 (6.1) (4.0)	高 3.8			白	内面無文。	18世紀後葉。
第99図	3	搬入系土器? 土人形	11号溝 頭部欠	高幅 – 3.8	厚 2.0			橙	着物を着た女性の正座像。姉様か。前後の合わせ型。底部空気抜き穴。表面にキラ付着。	江戸時代～近代。
口絵6	4	前橋藩窯 窯道具	11号溝 1/4	径厚 (13.2) 1.4	穴 –			にぶい橙	中央に孔のあく円盤状窯道具。	19世紀前葉～中葉。
第99図	1	龍泉窯系 青磁 青磁盤	13号溝西側 体部片	口底 – –	高 –			灰白	内面丸盤状工具による施文か。釉は厚い。	14世紀後葉～15世紀前葉。
第99図	2	龍泉窯系 青磁 碗か	13号溝東側 体部片	口底 – –	高 –			灰白	外面蓮弁文。内面櫛描文。内外面青磁釉。粗い貫入。	14世紀末～15世紀中葉。
第99図	3	中国磁器 染付鉢	13号溝 1/4	口底 – (12.8) –	高 –			灰白	焼成不良。口縁部内面1重圏線。見込周縁2重圏線。	漳州窯。16世紀末～17世紀初頭。
第99図	4	中国磁器か 染付小皿	13号溝東側 口縁部片	口底 – –	高 –			灰白	口縁部内面と体部内面1重圏線。粗い貫入。	16世紀末～17世紀前葉。
第99図	5	中国磁器 染付皿	13号溝 口縁部片	口底 – –	高 –			灰白	器壁やや厚い。	漳州窯。16世紀末～17世紀初頭。
第99図	6	古瀬戸陶器 天目碗	13号溝西側 口縁部1/9	口底 – –	高 –			灰白	内外面光沢のやや強い鉄釉。	後Ⅳ期前。
第99図	7	瀬戸・美濃陶器 天目碗	13号溝西側 口縁部～体部1/8	口底 – (11.8) –	高 –			灰白	内面から体部外面下位鉄釉。体部外面下位以下鉄化粧。	大窯1段階。
第99図	8	瀬戸・美濃陶器 天目碗	13号溝東側 底部	口底 – 4.2	高 –			灰黄褐	残存部内面鉄釉。高台内浅く抉る。被熱。	大窯3段階。
第100図	9	瀬戸・美濃陶器 天目碗	13号溝東側 口縁部～体部1/6	口底 – (11.8) –	高 –			灰白	内外面鉄釉。釉は漆黒に近い発色。被熱か。	大窯3段階。
第100図	10	古瀬戸陶器 卸目付大皿	13号溝西側 体部下位～底部1/3	口底 – 13.9	高 –			灰白	底部外面周縁に貼り付け卸1カ所残存。残存部外面上端に灰釉。体部内面に卸目。体部内外面下位無釉。	後Ⅳ期。
第100図	11	瀬戸・美濃陶器 丸皿	13号溝東側 口縁部片	口底 – –	高 –			灰白	内外面灰釉。	大窯3段階。
第100図	12	瀬戸・美濃陶器 丸皿	13号溝西側 底部1/4、口縁部一部	口底 (11.5) (6.0)	高 2.4			灰白	内面から高台内灰釉。高台内の釉薄い。	大窯3段階。
第100図	13	瀬戸・美濃陶器 丸皿	13号溝西側 口縁部1/3欠	口底 7.5 3.4	高 1.7			灰白	内面から高台輪灰釉。碁笥底状。	大窯4段階。
第100図	14	志戸呂陶器 大皿	13号溝西側 口縁部片	口底 – –	高 –			赤褐	内外面鉄釉。	大窯4段階。
第100図	15	肥前陶器 鉢唐津大皿	13号溝東側 体部一部、底部1/4	口底 – (8.0)	高 –			橙	高台径小さい。内面跳絵。内面から体部外面下位透明釉。釉は白濁。	1590～1610年代。
第100図	16	古瀬戸陶器 灯籠形香炉	13号溝西側 底部1/2	口底 – (6.0)	高 –			淡黄	残存部無釉。底部右回転糸切後、脚貼り付け。脚2カ所残存。底部横断するように漆継ぎ。	後Ⅳ期。
第100図	17	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	13号溝 口縁部片	口底 – –	高 –			灰白	内外面鉄釉。体部内面下位使用により平滑。口縁端部上面使用により器表摩滅。口縁端部上面と内面突帯器表摩滅。	大窯4段階後半。
第100図	18	瀬戸・美濃陶器 水鳥形水滴	13号溝西側 2/3	長幅 – –	高 –			浅黄	水鳥形で羽根先矢羽、頭部、腹部欠損。内外面鉄釉、内面の鉄釉は薄い。	大窯。
第101図	19	常滑陶器 甕	13号溝西側 口縁部片	口底 – –	高 –			灰赤	断面暗灰色。口縁部小さい「N」字状。	13世紀第3四半期、6a期
第101図	20	常滑陶器 甕	13号溝 口縁部片	口底 – –	高 –			暗灰	口縁部密着した「N」字状。	15世紀後葉、10型式。
第101図	21	常滑陶器 壺	13号溝西側 肩部片	口底 – –	高 –			赤灰	外面一部に自然釉。	16・17世紀か。
第101図	22	常滑陶器 甕	13号溝東側 体部下位～底部1/4	口底 – (17.0)	高 –			灰黄褐	外面櫛状工具による撫で。内面撫で。内面器表やや摩滅。	15・16世紀。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第101図	23	在地系土器皿	13号溝東側完形	口	11.4～12.0	高	3.0～3.2	にぶい黄橙	口縁部平面形楕円。轆轤左回転整形。底部回転糸切後、板状圧痕と鏡痕で。底部内面指圧で。	16世紀中葉～後葉か。
第101図	24	在地系土器片口鉢	13号溝東側体部片	口	–	高	–	にぶい赤褐	内面使用により摩滅。	中世。
第101図	25	在地系土器すり鉢	13号溝西側体部下位片	口	–	高	–	にぶい黄橙	内面すり目。内面下半使用により摩滅、上半平滑。	中世。
第101図	26	在地系土器壺	13号溝西側口縁部～肩部1/6	口	(14.4)	高	–	橙、灰	胎土中に片岩含む。断面灰色。器表付近から外面器表橙色。内面器表灰白色から黒色。口縁部横撫で。肩部外面撫で、指押さえ痕残る。	中世か。
第101図	27	在地系土器内耳鍋	13号溝西側体部片	口	–	高	–	灰	残存部外面平行軸方撫で。屈曲部内面段差。	15・16世紀。
第101図	28	在地系土器焙烙	13号溝東側口縁部～体部片	口	–	高	–	明赤褐	器高やや高い。内面中位明瞭な段差。口縁端部やや窄む。口縁部から段差部内面に耳貼り付け痕。	15世紀末～17世紀初頭。
第101図	29	在地系土器火鉢	13号溝口縁部～体部片	口	–	高	–	赤	断面中央黒色。器表付近から器表赤色。口縁端部内外面刻み状の凹凸。内面轆轤目顕著。	16世紀以降。
第102図	30	在地系土器焙烙	13号溝東側1/7	口	(32.0) (28)	高	6.5	黒	断面中央黒色。器表付近灰白色。器表黒色。口縁部歪み、実際は推定径より大きい。内面中位明瞭な段差。内耳は口縁部内面から体部下位内面に貼り付け。	16世紀後葉～17世紀前半。
第102図	31	在地系土器焙烙	13号溝東側1/8	口	(30.2) (29.2)	高	6.0	灰白	外面器表煤付着。口縁部断面中央黒色、断面灰白色、器表付近にぶい橙色。器表灰白～にぶい黄橙色。内面下位に低い段差。	16世紀後葉～17世紀前半。
第102図	32	在地系土器か火鉢	13号溝西側体部小片	口	–	高	–	暗灰	断面にぶい黄橙色。燒し焼成。角形火鉢の角部片。	中世。
第102図	33	肥前磁器白磁か染付小碗	13号溝西側口縁部1/3欠	口	8.4	高	5.1	灰白	残存部無文。	18世紀。
第102図	34	肥前磁器染付小碗	13号溝西側口縁部～体部1/4欠	口	8.9 5.7	高	5.7	白	外面刈り取った稲束と雀か。見込雀文か。	1780 ～ 1810年代。
第102図	35	肥前磁器染付うがい碗か	13号溝西側底部1/2	口	– (4.0)	高	–	灰白	内外面染付。	18世紀後葉。
第102図	36	肥前磁器染付碗	13号溝西側底部	口	–	高	–	白	高台欠損。高台内2重圏線内に「宣徳年製」銘。上手。	有田。1670 ～90年代。
第102図	37	肥前磁器染付碗	13号溝	口	(9.6) (4.0)	高	4.9	白	内面無文。	18世紀前葉～中葉。
第102図	38	肥前磁器染付碗	13号溝西側口縁部1/4、体部下位3/4	口	(11.0) –	高	–	白	口縁部内面四方灌文。見込周縁2重圏圏線。	18世紀後葉。
第103図	39	肥前磁器青磁碗	13号溝西側1/2	口	(8.2) (3.0)	高	5.4	灰白	高台端部を除き青磁釉。	18世紀後葉。
第103図	40	肥前磁器染付筒形碗	13号溝東側完形	口	6.7 3.4	高	5.0	白	口縁部内面簡略化した四方灌文。見込周縁1重圏線内に五弁花。高台脇唐草状文。	1780 ～ 1810年代。
第103図	41	肥前磁器青磁染付筒形碗	13号溝西側1/3	口	(7.2) (4.0)	高	6.6	灰白	外面高台端部を除き青磁釉。口縁部内面四方灌文。見込周縁2重圏線内にコンニャク印判五弁花。	18世紀後葉。
第103図	42	肥前系磁器染付端反碗	13号溝西側口縁部一部、底部1/2	口	(11.0) (4.6)	高	6.2	白	器壁薄い。口縁部内面2重圏線。見込1重圏線内に不明文様。	19世紀前葉頃。
第103図	43	瀬戸系陶器染付端反碗	13号溝西側ほぼ完形	口	9.4 4.2	高	5.3	白	口縁部内面幅広の1重圏線。見込2重圏線内に不明文様。	登窯10小期。
第103図	44	瀬戸陶器梅花文碗	13号溝西側口縁部1/2、底部完	口	9.6 3.6	高	5.0	淡黄	内面白土掛け。口縁部外面白土で梅花、鉄絵具で梅樹。高台端部を除き透明釉。貫入。	登窯11小期。
第103図	45	瀬戸陶器梅花文碗	13号溝西側1/2	口	9.5 (3.4)	高	5.1	灰	内面白土掛け。口縁部外面白土で梅花、鉄絵具で梅樹。高台端部付近を除き透明釉。貫入。	登窯11小期。
第103図	46	肥前陶器呉器手碗	13号溝西側底部	口	– 3.8	高	–	浅黄	高台径小さく。内面アーチ状に抉る。高台端部を除き透明釉。細かい貫入。	18世紀前葉。
第103図	47	肥前陶器か刷毛目碗	13号溝西側口縁部一部欠	口	8.5 3.3	高	5.3	灰白	内外面白土刷毛塗り。高台端部を除き透明釉。	18 ～ 19世紀中葉。
第103図	48	瀬戸・美濃陶器掛分碗	13号溝西側体部下位～底部1/2	口	– 5.4	高	–	灰白	器壁厚く高台高い。灰釉と鉄釉左右掛け分け。高台端部のみ無釉。	登窯1・2小期。
第104図	49	瀬戸陶器天目碗	13号溝底部	口	– 4.5	高	–	灰白	内面から高台脇鉄釉。	登窯5小期。
第104図	50	美濃陶器丸碗	13号溝西側1/4	口	(13.0) –	高	–	灰白	内外面灰釉。	登窯5～7小期。
第104図	51	美濃陶器鉄絵丸碗	13号溝西側1/3欠	口	9.3 (3.4)	高	85.5	灰白	口縁部外面鉄絵。内面から高台脇灰釉。	登窯10小期。
第104図	52	関西系陶器碗か向付	13号溝西側底部1/2	口	– 5.5	高	–	灰白	内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀。
第104図	53	関西系陶器鉄絵碗	13号溝西側1/4	口	(9.8) (3.3)	高	4.8	淡黄	口縁部外面白土と鉄絵具による下絵。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀。
第104図	54	関西系陶器碗	13号溝西側口縁部1/5、底部一部	口	(9.4) (3.2)	高	5.2	灰白	高台脇削り込む。残存部無文。内面から高台脇灰釉。細かい貫入。小杉碗か。	18世紀中葉～19世紀前葉。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高					
第104図	55	肥前磁器染付皿	13号溝西側1/2	(19.4)(11.4)	高	2.9	白		文様に間が抜ける感があり、色絵素地が流通した可能性あり。高台内ハリ支え。	18世紀第4～19世紀第1四半期。
第104図	56	肥前磁器青磁皿	13号溝西側底部3/4	口 - 底 8.2	高 -		灰白		内面片彫り状の施文後、青磁釉。高台内周縁施釉以前の沈線1条。高台端部のみ無釉。貫入。	波佐見青磁か。1630～40年代。
第105図	57	肥前陶器陶胎染付皿	13号溝西側底部6/6	口 - 底 (9.0)	高 -		灰白		体部内面唐草文か。体部外面1重圏線。高台外面2重圏線。	18世紀前葉。
第105図	58	肥前陶器二彩手大皿	13号溝西側口縁部片	口 - 底 -	高 -		にぶい橙		内面白土掛け後、鉄絵。内面から体部外面透明釉。	17世紀後葉。
第105図	59	肥前陶器二彩手大皿か	13号溝東側口縁部片	口 - 底 -	高 -		灰		内面白土刷毛塗り。内外面透明釉。	17世紀後葉頃。
第105図	60	肥前陶器京焼風中皿	13号溝西側底部1/4	口 - 底 (9.0)	高 -		灰白		見込み渦絵。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。高台内「森」押印跡。	1670～90年代。
第105図	61	肥前陶器鉄釉皿	13号溝西側底部1/4	口 - 底 (11.0)	高 -		灰赤		内面から高台脇鉄釉。見込と高台端部目痕。	17世紀後葉頃。
第105図	62	瀬戸陶器鉄絵	13号溝西側口縁部1/4欠	口 14.7 底 6.1	高 8.2～8.5		灰白		口縁部丸く外方に折り返す。内面から体部中位外面に灰釉。見込は目痕5方所。小型の鉄絵。	登窯8・9小期。
第105図	63	前橋藩窯陶器片口鉢	13号溝西側口縁部～体部	口 19.6 底 8.0	高 10.9～11.6		灰白～にぶい黄橙		口縁端部逆「L」字状に内側に折り曲げる。口縁端部下に片口部。内面から体部外面下位に鉄色の光沢のある鉄釉。	19世紀前葉～中葉。
第105図	64	前橋藩窯陶器か行平鍋	13号溝西側口縁部～体部1/3欠	口 18.5 底 7.1	高 8.5		橙		内外面無釉。内面調整丁寧。外面口縁部下非常に丁寧な回転調削ら。残存部に片口。残存部に取っ手なし。蓋付鍋。底部外面粒状の脚3方所貼り付け。	素焼き段階の陶器。19世紀前葉～中葉。
第106図	65	瀬戸陶器半胴徳	13号溝西側口縁部～体部1/3	口 - 底 6.0	高 -		灰白		落とし蓋であろう。体部外面下位以上縁釉。内面の台部分に釉薄くかかる。体部外面下位に粒状脚1カ所残る。	19世紀か。
第106図	66	瀬戸陶器半胴徳	13号溝西側口縁部～体部1/3	口 - 底 (18.8)	高 -		浅黄		外面口縁部下沈線2条。口縁端部小さい「T」字状で端部上面やや窪む。内外面鉄釉。	登窯8～11小期。
第106図	67	丹波陶器すり鉢	13号溝西側口縁部片	口 - 底 -	高 -		灰黄褐		口縁端部上面窪む。口縁部縁帯下部丸く突き出る。	17世紀後葉～18世紀中葉。
第106図	68	堺陶器すり鉢	13号溝西側口縁部片	口 - 底 -	高 -		橙～赤		口縁部内面突帯明瞭。外面は口縁部下から逆削り。	18世紀前葉～中葉。
第106図	69	堺・明石陶器すり鉢	13号溝西側口縁部片	口 - 底 -	高 -		赤		口縁部内面の突帯は段差状、突帯上面境浅い横線。	18世紀後半～19世紀初頭。
第106図	70	丹波陶器すり鉢	13号溝体部下位～底部1/4	口 - 底 (15.0)	高 -		にぶい橙		体部外面下位指撫で状痕。内面すり目やや粗い。	江戸時代。
第106図	71	在地系土器すり鉢	13号溝東側1/5	口 - 底 (14.9)	高 -		灰白		断面中央黒色。器表付近から器表灰白色。底部外面型作り時の輪轆状擦痕。内面8本一単位のすり目を交差させる。底部内面付近摩滅。	17世紀～18世紀か。
第106図	72	堺・明石陶器すり鉢	13号溝西側1/3	口 (31.8) 底 (14.3)	高 11.6		赤灰		口縁部内面段差。体部外面すり目起点は底部に入らない。見込まり目「ウールマーク」状か。	18世紀後半～19世紀初頭。
第106図	73	在地系土器鍋	13号溝西側1/4欠	口 39.6 底 21.0	高 11.6～12.6		黒		断面灰白色。口縁部外方に小さく開く。口縁端部上面平坦。口縁端部外面やや平坦。体部外面下端括れる。	江戸時代。
第107図	74	在地系土器焙烙	13号溝西側1/10	口 - 底 -	高 -		にぶい黄橙		断面から内面器表にぶい黄橙色、外面器表黒色。口縁端部内面に丸める。	江戸時代。
第107図	75	在地系土器焙烙	13号溝西側口縁部1/10、底部1/8	口 (31.4) 底 (28.0)	高 4.6		灰白		外面器表上半黒色。体部内面轆轤目。口縁端部上面平坦。	江戸時代。
第107図	76	在地系土器焙烙	13号溝西側1/6	口 (33.0) 底 (28.0)	高 6.4		橙～灰		口縁部から体部内面轆轤目。口縁端部上面沈線状に窪む。	江戸時代。
第107図	77	在地系土器焙烙	13号溝西側1/2	口 (32.2) 底 -	高 -		橙		丸底。口縁部外面窪む。残存部に取っ手なし。	近現代。
第107図	78	搬入系土器焼塩壺	13号溝西側体部下半～底部1/8	口 - 底 (6.0)	高 -		橙		外面器表摩滅。残存部に押印なし。内面布痕。	江戸時代。
第107図	79	肥前磁器染付瓶	13号溝東側体部下位～部、底部1/2	口 - 底 (5.5)	高 -		灰白		内面無釉。体部外面草文。	18世紀後葉。
第107図	80	信楽陶器腰白茶壺か	13号溝西側体部片	口 - 底 -	高 -		灰白		胎土白色に近い。鉄釉薄く半透明。内面無釉。胎土に長石少量含む。	17・18世紀頃。
第107図	81	美濃陶器水指	13号溝西側体部片	口 - 底 -	高 -		灰白		外面横線の後、篦状工具による波状文。内外面灰釉。部分的に厚く施釉。	登窯1小期。
第107図	82	美濃陶器灯火皿	13号溝西側口縁部1/4、底部1/2	口 (7.3) 底 3.5	高 1.2		灰		口縁部外面以下回転調削ら。鉄釉施釉後、口縁部外面以下を拭う。	登窯9・10小期。
第107図	83	美濃陶器灯火皿	13号溝東側1/5	口 (10.5) 底 (5.0)	高 2.2		灰白		口縁端部丸みを持ち、端部内面段差状に小さく窪む。鉄釉施釉後、体部外面以下を拭う。見込重焼痕。	登窯10・11小期。
第107図	84	美濃陶器灯火受皿	13号溝西側口縁部一部、底部片	口 (7.8) 底 3.4	高 1.3		灰白		口縁部外面以下回転調削ら。鉄釉施釉後、口縁部外面以下を拭う。体部外面と受け部端部に重焼痕。	登窯9・10小期。
第108図	85	美濃陶器灯火受皿	13号溝西側口縁部1/4欠	口 8.4 底 3.7	高 1.4～1.7		灰		受け部「U」字状抉り1カ所。鉄釉施釉後、外面口縁部以下拭う。体部外面中位と口縁端部上面重焼痕。	登窯9小期。
第108図	86	在地系土器皿	13号溝東側1/4	口 (9.3) 底 (7.0)	高 1.9		にぶい黄橙		器壁やや薄い。口縁部直線的に開く。底部左回転糸切無調整。口縁部歪み、推定径が実際より大きい可能性高い。	江戸時代。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第108図	87	在地系土器皿	13号溝東側口縁部1/9, 底部1/4	口 (9.3) 底 (6.0)	高 2.0			にぶい黄橙	器壁やや厚い。底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第108図	88	在地系土器皿	13号溝西側口縁部一部、底部1/3	口 (10.0) 底 (6.8)	高 1.9			にぶい橙	体部から口縁部内湾気味。口縁端部油煙付着。底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第108図	89	美濃陶器筒形香炉	13号溝西側口縁部一部、底部1/2	口 (6.3) 底 4.3	高 4.4			灰白	口縁部内面から高台脇灰釉。	登窯8・9小期。
第108図	90	在地系土器手焙か	13号溝西側	口 (21.0) 底 (18.5)	高 –			灰白	黒褐端部内側に肥厚。体部内面斜位撫での後口縁部横撫で。底部鞴貼り付け力。	江戸時代～近代。
第108図	91	在地系土器手焙か	13号溝西側 1/3	口 (18.3) 底 14.4	高 9.2			灰	外面型か回転撫文具による施文。外面3条の沈線。底部外面脚1カ所残存。鞴端部摩滅。	江戸～近代。
第108図	92	製作地不詳陶器ミニチュア	13号溝西側 1/3	口 (7.0) 底 –	高 –			灰白	内面から体部外面下位錆色の鉄釉。残存部に取っ手なし。	18世紀後葉～19世紀。
第108図	93	製作地不詳陶器水滴かミニチュア	13号溝西側下部1/2	口 – 底 1.8	高 –			灰白	形押し成形した半分すつを貼り付ける。外面棒軸施釉後、底部外面を拭う。	18～19世紀。
第108図	94	製作地不詳陶器水滴かミニチュア	13号溝西側口縁部欠	口 – 底 1.7	高 –			灰白	瓢箪形。括れ部に小さい突帯。外面施釉。底部外面目痕2カ所。体部外面下位目痕か溶着痕1カ所。	18～19世紀。
第108図	95	軟質施釉陶器ミニチュア	13号溝西側頭部以下1/2	口 – 底 –	高 –			灰白	断面6角形の徳利か。形押し成形の頭部以下半分。接合部で欠損。頸部外面から体部外面下位縁釉。	江戸時代～近代。
第108図	96	搬入系土器か土鈴	13号溝西側 1/2	径 2.6	高 3.1			灰白	手づくね。上部は取っ手状につまみ上げる。紐穴は棒状具を通して成形。体部は入り込み部で1/2欠損。無釉。在地系土器皿と胎土が明確に異なる。	江戸時代～近代か。
第109図	97	土製品羽口	13号溝西側 1/2	長外径 – (6.3)	内径 1.8			にぶい橙～灰白	基部先端から3cm前後で還元状態の被熱痕。	時期不詳。
口絵6	133	前橋藩窯陶器蓋	13号溝 1/3	口 (9.3) 底 –	高 2.3			にぶい黄橙	合わせ部から下面回転篦削り。上面灰釉。口縁屈曲部外面上端(最高部)無釉、重焼のためであろう。つまみ欠損。	19世紀前葉～中葉。
口絵6	134	前橋藩窯陶器灯火受皿	13号溝西側 1/4	口 – 底 –	高 –			灰	受け部コ字状に近く抉る。光沢のある錆色の鉄釉施釉後、体部外面下半抉る。体部外面中位と受け部上端重焼痕。	19世紀前葉～中葉。
口絵6	135	前橋藩窯磁器小杯	13号溝西側口縁部1/6、底部完	口 – 底 2.7	高 3.8			白	外面刈り取った稲束と雀か。内面無文。	19世紀前葉～中葉。
口絵6	136	前橋藩窯磁器小碗	13号溝西側口縁部1/3、底部完	口 – 底 2.7	高 3.5			灰白	残存部口縁部外面に笹文1カ所。	19世紀前葉～中葉。
口絵6	137	前橋藩窯支柱(窯道具)	13号溝西側破片	長短径 – 7.4	長径 8.2			浅黄橙	両端欠損。直径1cmほどの心棒に両側から粘土を貼り付けて成形。ほぼ中央部に接合部あり。色調から使用頻度は少ない。	19世紀前葉～中葉。
口絵6	138	前橋藩窯耀板	13号溝西側	長幅 –	厚 3.0			灰白	一面に窯道具か製品痕弧状に残る。一側面に鉄釉付着。表面の状態から使用回数は少ないであろう。	19世紀前葉～中葉。
第115図	1	中国磁器染付小皿	15号溝 1/3	口 – 底 (3.0)	高 –			白	緒等跳。高台脇釉掻き取る。漆継ぎ。	16世紀。
第115図	2	肥前陶器絵唐津小皿	15号溝体部片	口 – 底 –	高 –			にぶい橙	内面鉄絵。高台脇以下無釉。高台脇釉溜まり。	1590～1610年代。
第115図	3	在地系土器皿	15号溝 1/4	口 (8.5) 底 (5.0)	高 1.7			黒	体部中位緩く屈曲して外反。口縁端部尖り気味。底部左回転糸切無調整。	16世紀。
第115図	4	在地系土器皿	15号溝口縁部1/2、底部1/4	口 (11.0) 底 (6.0)	高 3.4			橙	器壁やや厚く、体部から口縁部直線的に開く。器高高い。底部回転糸切無調整。	16世紀か。
第115図	5	肥前磁器染付皿	15号溝 1/7	口 – 底 (9.0)	高 –			白	底部下方に下がる。高台内1重圏線。	18世紀後葉。
第115図	6	瀬戸・美濃陶器すり鉢	15号溝体部片	口 – 底 –	高 –			灰白	内外面錆釉。	登窯1～4小期。
第115図	7	常滑陶器甕	15号溝体部下位～底部1/4	口 – 底 (16.0)	高 –			浅黄橙	外面刷毛状工具による斜位撫で。	17世紀。
第115図	8	瀬戸・美濃陶器蓋	15号溝完形	口 – 摘 4.4～4.6	高 1.8			灰白	上面周縁とつまみ中央1条の圏線。つまみ接合部はずらして接合。下面篦削り。上面鉄絵。上面灰釉。	登窯1・2小期。
第116図	1	中国磁器白磁小杯	17号溝体部下位～底部	口 – 底 2.3	高 –			白	残存部無文。見込蛇ノ目釉剥ぎ。高台端部無釉。高台内周縁から高台内面の一部無釉部分あり。	景德鎮。16世紀後葉。
第116図	2	中国磁器染付小皿	17号溝 1/4	口 (9.4) 底 (4.0)	高 3.0			灰白	緒等底状。高台付近から見込に初版痕付着。	漳州窯系。16世紀後葉。
第116図	3	瀬戸・美濃陶器端反皿	17号溝口縁部小片。	口 – 底 –	高 –			灰白	口縁部下位緩く屈曲して内湾。口縁部外反。灰釉。粗い貫入。	大窯1段階。
第116図	4	瀬戸・美濃陶器端反皿	17号溝口縁部1/2	口 – 底 5.9	高 –			灰白～灰	見込菊印花文。内面から高台外面灰釉。高台内灰釉薄い。粗い貫入。高台内輪状目痕。	大窯1段階。
第116図	5	瀬戸・美濃陶器稜皿	17号溝 1/4	口 – 底 (6.5)	高 –			灰白	体部緩く外反。全面錆色の鉄釉。高台内輪状目痕。	大窯2段階。

挿図No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第116図	6	在地系土器 焙烙	17号溝 1/6	口 (35.6) 底 (31.6)	高 6.8			にぶい橙	外面器表黒色。内面中位に段差。口縁部内面から段差下部に内耳貼り付け。体部外面下端篦削り。	16世紀後葉～17世紀初頭。
第116図	7	在地系土器 皿	17号溝 1/4	口 (9.6) 底 (7.0)	高 1.7			灰白	体部から口縁部緩く内湾。底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第116図	8	瀬戸・美濃 陶器 徳利	17号溝 肩部	口 – 底 –	高 –			灰白	外面鉄釉。内面薄い鉄釉。	登窯。
第116図	9	土製品 羽口	17号溝 先端一部欠	長径 – 径 7.8	内径 2.6			橙～褐灰	芯に粘土を貼り付けて成形。先端部溶けてガラス状。基部内面は接続時に内面を削って調整。	時期不詳。
第118図	1	中国磁器 染付碗か	18号溝 体部小片	口 – 底 –	高 –			白	内面無文。外面花唐草か。	景徳鎮。17世紀か。
第118図	2	在地系土器 焙烙	18号溝 口縁部～底部片	口 – 底 –	高 –			灰黄	内面中位緩い段差。口縁部から体部内面下位に内耳貼り付け。体部外面下端篦削り。口縁端部上面やや窪む。口縁端部内外面被をなす。	16世紀後葉～17世紀初頭。
第118図	1	瀬戸・美濃 陶器 丸皿	19号溝 底部1/4	口 – 底 (5.0)	高 –			灰白	内外面灰釉。粗い貫入。高台内輪状目痕。	大窯3段階。
第118図	2	瀬戸・美濃 陶器 志野向付	19号溝 体部下位片	口 – 底 –	高 –			灰白	体部外面下位明瞭な被をなす。内面から高台脇長石釉。高台脇は釉を削り取る。	大窯4段階後半。
第118図	3	瀬戸・美濃 陶器 鉢	19号溝 口縁部小片	口 – 底 –	高 –			灰白	内面鉄釉。内外面灰釉。口縁部部分的に緑釉。	登窯1小期。
第118図	4	在地系土器 皿	19号溝 1/4欠	口 10.5 底 6.2	高 2.0～2.3			浅黄橙	体部外反。底部左回転糸切無調整。底部外面不明瞭な墨書。	江戸時代。
第119図	1	常滑陶器 甕	21号溝 体部片	口 – 底 –	高 –			褐灰	外面器表赤褐色。内面器表暗赤灰色。	15・16世紀。
第119図	1	在地系土器 内耳鍋か	25号溝 口縁部片	口 – 底 –	高 –			にぶい橙	外面丁寧な横撫で。口縁端部内面沈線1条。	中世。
第119図	2	常滑陶器 甕	25号溝 体部片	口 – 底 –	高 –			灰	器表暗赤褐色。	15・16世紀。
第119図	1	在地系土器 火鉢	2号井戸 口縁部片	口 – 底 –	高 –			黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。口縁部逆「L」字状。	江戸時代か。
第119図	2	在地系土器 焙烙	2号井戸 破片	口 – 底 –	高 –			灰白	口縁部付近の器表灰色。平底。口縁部焼成前の穿孔1カ所。耳は口縁部上部に貼り付け。	江戸時代。
第120図	3	瓦か 不詳	2号井戸 破片	口 – 底 –	高 –			にぶい黄橙	内面調整は雑。外面は丁寧な撫で。鰭反の一部か。	江戸時代か。
第120図	1	在地系土器 皿	3号井戸 1/3欠	口 12.0 底 7.0	高 3.0～3.4			にぶい黄橙	口縁部緩く内湾。体部直線的に開く。底部左回転糸切無調整。見込指撫で。底部外面板状圧痕。	16世紀中葉～後葉。
第120図	2	在地系土器 皿	3号井戸 1/4欠	口 11.6 底 7.3	高 2.7			にぶい黄橙	体部から口縁部直線的に開く。底部左回転糸切無調整。見込指撫で。底部外面板状圧痕。	16世紀中葉～後葉。
第120図	3	在地系土器 皿	3号井戸 1/5	口 (10.8) 底 –	高 –			灰黄	器壁やや厚い。口縁部僅かに内湾。	17世紀か。
第120図	1	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	4号井戸 口縁部片	口 – 底 –	高 –			灰白	内外面錆釉。	大窯4段階前半。
第120図	2	在地系土器 すり鉢	4号井戸 体部片	口 – 底 –	高 –			にぶい橙	内面幅広のすり目。	中世。
第120図	3	瀬戸磁器 端反碗	4号井戸 口縁部～体部 1/4	口 (9.6) 底 –	高 –			白	口縁部内面と見込周縁2重圏線。	登窯10小期。
第120図	4	肥前磁器 染付小皿	4号井戸 完形	口 9.3 底 5.0	高 2.6			灰白	高台内1重圏線内に渦「福」字崩れ銘か。外面唐草文。見込五弁花コンニャク印刑か。	波佐見系。18世紀後葉。
第120図	5	瀬戸・美濃 系陶器 摺鉢皿	4号井戸 1/10	口 – 底 –	高 –			灰白	鉄絵具による型紙摺り。内面から高台脇灰釉。	18世紀。
第120図	6	肥前陶器 京焼風皿	4号井戸 底部1/2	口 – 底 (4.4)	高 –			にぶい黄橙	見込簡略化した鉄絵。内面から高台脇透明釉。細かい貫入。	18世紀前葉。
第120図	7	肥前磁器 白磁ミニチュア	4号井戸 完形	口 2.2 底 0.9	高 1.1			白	型押し成形。外面蓮弁状陽刻文。全面施釉。	17世紀末～18世紀。
第120図	8	肥前磁器 染付ミニチュアか	4号井戸 体部～底部1/2	口 – 底 (2.0)	高 –			白	外面青海波状と窓絵。	18世紀後葉頃。
第121図	9	瀬戸陶器 すり鉢	4号井戸 体部下位～底部 3/4	口 – 底 14.8	高 –			灰白	底部右回転糸切無調整。錆釉施釉後、体部外面下位以下を拭う。内面使用により器表やや摩滅。	登窯8～11小期。
第121図	10	搬入系土器? 不詳	4号井戸 1/6	口 (10.0) 底 –	高 –			灰白	夾雑物少なく比重軽い。残存部焼成前穿孔2カ所。孔径推定1cm。	時期不詳。
第121図	11	搬入系土器? 土人形	4号井戸 下半	高 – 幅 –	奥 –			灰白	背面無文。仏像の台座部分か。前後の型で成形。中央に棒状断面円形の穴が通る。	江戸時代以降。
口絵6	13	前橋藩窯 鉢	4号井戸 口縁部片	口 – 底 –	高 –			灰・橙	歪み著しい。断面灰色で一部橙色。内外面灰釉。内面に同種の体部溶着。外面陣鉢?口縁部溶着。焼成中の変形で他の製品や窯道具と溶着。	19世紀前葉～中葉。
第121図	1	瀬戸・美濃 陶器 端反皿	5号井戸 完形	口 8.9 底 5.4	高 2.4			灰白	内面菊花押印文。内面から高台内灰釉。粗い貫入。高台端部摩滅。	大窯1段階。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第121図	2	瀬戸・美濃陶器 緑釉はさみ皿	5号井戸 完形	口 9.3 底 4.6	高 1.7～1.9			灰白	底部右回転糸切無調整。口縁部灰釉。底部外面墨書。	大窯１段階。
第123図	1	製作地不詳 磁器 碗	6号井戸 底部	口 － 底 3.6	高 －			白	外面銅板転写による青海波文。見込銅板転写による団鶴文。	近現代。
第123図	2	底平焼陶器 小判型龍文皿	6号井戸 1/2	長径 (10.0か) 短径 －	高 1.4			灰白	底部内面型押しによる龍文。内外面施釉。細かい貫入。器表2.5Y7/8（黄）色。底部外面目痕３カ所。	19世紀後半頃。
第123図	1	在地系土器 皿	7号井戸 底部	口 － 底 6.0	高 －			橙	見込浅い左回転螺旋状轆轤目。底部左回転糸切無調整。	中世以降。
第123図	2	在地系土器 内耳鍋	7号井戸 体部片	口 － －	高 －			にぶい褐	内面丁寧な撫で。外面下位施撫で。外面中位接合痕残る。外面上端横撫で。	中世。
第123図	1	在地系土器 皿	9号井戸 1/2	口 (12.5) 底 8.0	高 2.6～3.1			明赤褐	体部直線的に開く。底部左回転糸切無調整。底部外面周縁の一部に粘土紐貼り付け。粘土紐貼り付け部内面指撫で。素地補修の可能性高い。	16世紀。
第124図	1	在地系土器 すり鉢	10号井戸 底部1/4	口 － 底 (14.0)	高 －			褐灰・にぶい褐	底部内面幅広の３本一単位のすり目。底部外面砂底。	中世。
第124図	1	在地系土器 皿	11号井戸 底部	口 － 底 5.6	高 －			灰褐	底部左回転糸切無調整。	中世か。
第124図	2	在地系土器 皿	11号井戸 口縁部1/5	口 (7.9) －	高 －			灰白	口縁部緩く外反。	江戸時代。
第124図	3	在地系土器 皿	11号井戸 1/6	口 (8.4) 底 (6.0)	高 1.8			にぶい橙	底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第124図	1	美濃陶器 せんし碗	6号土坑 1/5	口 － 底 (4.0)	高 －			灰白	灰釉と鉄色の鉄釉の左右掛け分け。高台端部付近のみ無釉。	登窯８小期。
第124図	2	在地系土器 炉形土器	6号土坑 一部欠	口 35.6 底 22.8	高 19.0			暗灰	断面にぶい橙色。底部外面型作り痕。体部板作りで角の接合部強い撫で。口縁部上面と外面磨き。	江戸時代後期～近代か。
第124図	1	肥前磁器 青磁染付小碗	7号土坑 底部1/2欠	口 6.6 底 (2.8)	高 4.9			白	外面青磁釉。口縁部内面２重圏線。内面と高台内透明釉。高台端部付近無釉。外面粗い貫入。	19世紀初頭～中葉。
第124図	2	肥前陶器 二彩手大皿か	7号土坑 底部1/2	口 － 底 (11.4)	高 －			明赤褐	内面白土刷毛塗り。内面透明釉白濁する。体部外面鉄泥。	18世紀前葉～中葉。
第124図	1	肥前系磁器 染付広東碗 蓋	9号土坑	口 (9.5) 底 (5.4)	高 2.8			白	外面笹か竹文。口縁部内面１重圏線。天井部内面１重圏線内に笹か竹文。	19世紀前葉頃。
第124図	1	美濃陶器 蓋	10号土坑 口縁部一部、下部1/2	口 (6.3) 底 2.5	高 1.9			灰白	落とし蓋。上面施釉。つまみは粘土紐貼り付け。天井部内面右回転糸切無調整。	登窯５～７小期。
第125図	1	在地系土器 すり鉢	12号土坑 1/2	口 28.0 底 12.0	高 11.3			灰黄	口縁部横撫で。体部外面撫でで、一部施削り。底部板作り。体部内面４本一単位のすり目を６単位放射状に入れる。見込周縁使用による摩滅でドーナツ状に窪む。	16・17世紀。
第125図	2	製作地不詳 陶器 土瓶蓋	12号土坑 1/3	口 (10.0かえり 7.8	高 －			にぶい橙	つまみ欠損。天井部外面白土掛けのち施釉。内面無釉。	19世紀中葉～近代。
第125図	1	肥前磁器 筒形碗	15号土坑 口縁部1/3、底部1/2	口 (7.0) 底 (3.0)	高 5.3			白	口縁部内面簡略化した四方禅文。見込１重圏線内に五弁花か。高台脇唐草状文。	1780 ～ 1810年代。
第125図	1	瀬戸・美濃陶器 柳茶碗	17号土坑 口縁部1/2、底部完	口 (12.6) 底 4.0	高 5.8			灰白	外面一方に鉄絵具による柳文。内面空高台脇灰釉。粗い貫入。高台内不明墨書。	登窯９小期。
第125図	2	美濃陶器 灯火皿	17号土坑 1/2	口 (8.2) 底 4.0	高 1.7			灰白	鉄釉施釉後、外面下半拭う。見込重焼痕。	登窯９・10小期。
第125図	3	搬入系土器 焼塩壺	17号土坑 口縁部片	口 － 底 －	高 －			にぶい橙	内面布痕。口縁に受け部なし。	江戸時代。
第125図	1	肥前磁器 染付碗	20号土坑 口縁部一部、底部1/4	口 (8.8) 底 (3.2)	高 5.5			白	外面松文。内面無文。	18世紀後葉。
第125図	2	肥前陶器 陶胎染付碗	20号土坑 口縁部一部、底部1/2	口 (10.8) 底 5.2	高 7.3			褐灰	外面唐草文。内面無文。貫入。	18世紀前葉。
第125図	3	瀬戸・美濃陶器 天目碗	20号土坑 底部	口 － 底 4.0	高 －			灰白	高台脇水平に削る。内面鉄釉。	登窯３・４小期。
第125図	4	関西系陶器 碗	20号土坑 口縁部1/4、底部1/2	口 (9.4) 底 3.4	高 5.3			灰白	内面から高台脇透明釉。ひび焼。	19世紀前葉。
第126図	5	肥前磁器 芙蓉手染付皿	20号土坑 口縁部片	口 － 底 －	高 －			灰白	ヨーロッパ輸出向け。漆継ぎ。	有田。1660 ～70年代。
第126図	6	肥前磁器 染付皿	20号土坑 底部1/3	口 － 底 (8.2)	高 －			灰白	高台内１重圏線。	1660 ～ 90年代。
第126図	7	肥前磁器 染付皿	20号土坑 口縁部1/4、底部1/2	口 (10.4) 底 4.0	高 4.4			白	内外面草花文。	18世紀前葉～中葉。
第126図	8	肥前陶器 三島手大皿	20号土坑 底部1/4	口 － 底 (12.0)	高 －			橙	体部内面施文部分に白土掛け。目痕２カ所。体部外面から高台外面銅釉。	17世紀後葉頃。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第126図	9	肥前陶器京焼風皿	20号土坑 1/4	口底 –(4.0)	高 –			灰白	見込鉄絵。内面から体部外面下端透明釉。細かい貫入。	18世紀前葉。
第126図	10	肥前磁器小型白磁盃物	20号土坑 2/3	口底 4.8 2.8	高 2.2			白	残存部無文。口縁端部内面と高台端部無釉。	18世紀前葉頃。
第126図	11	瀬戸陶器盤類	20号土坑 1/4	口底 (17.8) –	高 –			灰白	外面雑釉目跡著。内面から高台脇鉄色の鉄釉。体部外面中位灰釉を筋状にかける。口縁端部上面の釉、使用による敲打で剥がれた可能性高い。	登窯３・４小期。
第126図	12	瀬戸陶器平椀類	20号土坑 口縁部～体部 1/2欠	口底 (16.4) 10.7	高 12.6			褐灰	口縁部外面２条の沈線。内面から体部外面下位鉄色の鉄釉。底部中央打ち欠きによる穿孔。植木鉢に転用。	登窯８・９小期。
第126図	13	備前陶器瓶	20号土坑 体部下位以下 1/4	口底 –(5.4)	高 –			灰赤	外面器表暗赤色、内面器表橙色。体部外面中位鉄泥。底部外面不明銘押印か。	17・18世紀。
第126図	14	美濃陶器蓋	20号土坑 1/4	口底 (10.8) –	高 2.3			淡黄	下面右回転糸切無調整。上面極薄く鉄釉。下面無釉。	登窯５～７小期。
第127図	15	瓶入系上器焼塩壺	20号土坑 1/5	口底 (6.3) (5.3)	高 8.4			橙	内面粗い布痕。底部接合部で欠損。残存部無銘。	江戸時代。
第127図	16	製作地不詳陶器上瓶	20号土坑 体部1/3欠	口底 8.1 8.5	高 11.4～11.8			褐灰	口縁部から体部外面下位灰釉。底部外面煤付着。	19世紀前葉～近代。
第127図	1	中国磁器染付碗	22号土坑 1/5	口底 –(4.0)	高 –			白	内外面染付。高台端部砂？付着。	漳州窯系。16世紀末～17世紀初頭。
第127図	2	常滑陶器壺	22号土坑 口縁部片	口底 – –	高 –			暗灰	口縁端外反し、上面窪む。	16世紀後葉（天正期頃）。
第127図	3	瀬戸・美濃陶器瓶類	22号土坑 体部～底部1/3	口底 –(9.0)	高 –			灰白	内外面雑釉目目立つ。内面から体部外面下位長石釉。底部外面器表剥離。	大窯４段階後半。
第127図	4	瀬戸・美濃志野碗	22号土坑 口縁部～体部 3/4	口底 9.8 –	高 –			灰	外面雑釉目跡著で口縁部外反。内面から高台脇長石釉。高台脇以下回転削り。	登窯１・２小期。
第127図	5	肥前陶器か陶胎碗	22号土坑 口縁部～体部 1/4	口底 (11.4) –	高 –			灰	残存部無文。無文か染付。	18世紀前葉か。
第127図	6	瀬戸・美濃陶器黄瀬戸大皿	22号土坑 1/8	口底 (30.8) (13.3)	高 6.3			淡黄	全面黄瀬戸釉。内面鋼縁釉部分的に流す。	登窯１小期。
第128図	1	瀬戸・美濃磁器染付小皿	23号土坑 口縁部1/3欠	口底 7.1 2.6	高 2.5			白	外面酸化コバルトによる簡略化した手描き染付。	近現代。
第128図	2	瀬戸・美濃磁器平碗	23号土坑 口縁部1/4、底部2/3	口底 (11.4) 3.8	高 4.8			白	酸化コバルトによる型紙摺り。口縁部内面曜珞文。	近現代。
第128図	1	中国磁器染付皿	27号土坑 1/8	口底 –(7.3)	高 –			白	器壁薄い。外面唐草文か。見込２重圏線内に不明文様。	景徳鎮。16世紀第４四半期～17世紀初頭。
第128図	2	瀬戸・美濃磁器平碗	27号土坑 口縁部一部欠	口底 11.8 4.1	高 4.9			白	内外面手描き唐草文で埋める。高台内「老松圓製」銘。	近現代。
第128図	3	益子・笠間陶器か刷毛目皿	27号土坑 完形	口底 12.7 8.0	高 2.1			にぶい黄	内面白土刷毛塗り。内面から外面中位透明釉。細かい貫入。	近現代。
第128図	1	関西系陶器灯火皿	28号土坑 1/7	口底 (10.0) (4.5)	高 1.6			灰白	体部緩く内湾。口縁端部外面以下回転削り。内面から口縁端部外面鉄釉状の釉。見込と口縁端部外面の釉溜まり部はオリーブ灰色に発色。	18世紀後葉～19世紀。
第128図	1	瀬戸・美濃磁器小皿	29号土坑 完形	口底 7.5 2.9	高 2.2			白	酸化コバルトによる型紙摺り。	近代。
第128図	1	肥前系磁器染付広東碗	30号土坑 1/4	口底 (9.7) –	高 –			白	口縁部内面１重圏線。見込周縁２重圏線。	焼継ぎ。1780～19世紀前葉。
第128図	2	肥前磁器染付蓋	30号土坑 1/3	口底 (13.9) –	高 –			白	ほぼ中央で割れた破片を焼継ぎ。欠損つまみ部に別な陶器片を焼継ぎで接着。合わせ部無釉。	焼継ぎ。19世紀初頭～中葉。
第129図	1	関西系磁器色絵杯	31号土坑 口縁部1/3、底部完	口底 (5.7) 2.4	高 2.9			白	内面藍色の上絵。器壁薄く砲殻手。高台外面括れ部染付。	19世紀中葉頃。
第129図	2	肥前系磁器染付碗	31号土坑 口縁部～体部 1/3	口底 (10.2) –	高 –			灰白	内面無文。外面回転削り時の稜線やや目立つ。	18世紀後葉。
第129図	3	瀬戸・美濃磁器染付端反碗	31号土坑 1/4	口底 (9.7) (4.1)	高 5.2			白	見込外面と同じ不明文様を一つ描く。	登窯11小期。
第129図	4	肥前系磁器染付端反碗	31号土坑 口縁部一部、天井部完	口底 (9.4) 3.9	高 3.0			白	底部の可能性あり。外面格子状文内に植物文。	1820～60年代。
第129図	5	肥前系磁器染付長方形皿	31号土坑 一部欠	長幅 19.4 11.7	高 3.1～3.4			白	東北地方の窯か。やや捻れるように歪む。四隅は輪花。輪花部分外面の釉溜れが著しい。	江戸後期。19世紀まで下る可能性あり。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第129図	6	瀬戸・美濃磁器 白磁灯型皿	31号土坑 1/2	口 (8.0) 底 (4.0)	高 2.3			白	型押し成形による方形皿。四隅は輪花。内面は型押しによる紗綾形文。	19世紀中葉～後葉。
口絵6	9	前橋藩窯 上総瓶か	31号土坑 2/3	口 7.9 底 5.5	高 –			浅黄	つまみ欠損。天井部外面錆色の鉄釉。鉄釉は鉋釉状。	19世紀前葉～中葉。
第130図	1	古瀬戸陶器 天目碗	32号土坑 底部	口 – 底 3.9	高 –			浅黄	体部下位から高台内鉄化被後、高台端部拭う。内面から体部外面下位鉄釉。	後IV期新。
第130図	2	肥前磁器 小碗	32号土坑 口縁部1/6、底部1/2	口 (6.7) 底 (3.6)	高 5.8			白	外面松文と不明文様。口縁部内面２重圏線。	1820 ～ 60年代。
第130図	3	瀬戸磁器 染付端反碗	32号土坑 口縁部1/2、底部1/3	口 9.3 底 (4.0)	高 4.9			白	外面３種の丸文。口縁部内面幅広と細線の２重圏線。見込周縁細線の２重圏線跡入。	登窯10小期。
第130図	4	瀬戸・美濃磁器 染付端反碗	32号土坑 口縁部1/4、底部完	口 (9.2) 底 3.5	高 4.8			白	外面区画内に簡略化した植物文。口縁部内面幅広の１重圏線。見込周縁線による２重圏線内に不明文様。	登窯11小期。
第130図	5	肥前系磁器 染付広東碗	32号土坑 底部完	口 – 底 5.1	高 –			白	見込幅広の１重圏線内に不明文様。	19世紀前葉。
第130図	6	関西系磁器か 染付碗	32号土坑 口縁部一部、底部1/2	口 (10.3) 底 3.9	高 5.6			白	口縁部内外面同じ文様帯。見込線描きによる花状文。	焼継ぎ。19世紀。
第130図	7	肥前磁器 染付盃物	32号土坑 口縁部1/5、底部1/4	口 (10.8) 底 (7.0)	高 5.6			白	外面牡丹状唐草文。内面無文。口縁端部上面から内面無釉。	18世紀後葉～19世紀初頭。
第130図	8	肥前磁器 染付端反碗蓋	32号土坑 つまみ欠損	口 9.2 摘 –	高 –			白	つまみ内１重圏線と２重方角枠内変形字路。外面花卉文。口縁部内面七宝文。天井部内面１重圏線内に花卉文。	1820 ～ 60年代。
第130図	9	肥前磁器 染付端反碗蓋	32号土坑 口縁部1/2、つまみ完	口 (9.2) 摘 3.8	高 2.9			白	天井部外面蛸唐草文。つまみ内１重圏線と２重方角枠内変形字路。口縁部内面四方襷文。天井部内面２重圏線内に三友文。	1820 ～ 60年代。
第130図	10	肥前磁器 染付蓋盃	32号土坑 口縁部1/2、つまみ完	口 8.5 摘 3.4	高 2.1			白	天井部蛸唐草文。口縁部内面四方襷文、天井部内面２重圏線内に線描きの三友文。	19世紀初頭～中葉。
第131図	11	美濃陶器 徳利	32号土坑 口縁部～肩部	口 2.7 底 –	高 –			浅黄	頸部内面から外面錆釉。	登窯８～11小期。
第131図	12	肥前磁器 染付丸飯器	32号土坑 口縁部欠	口 – 底 4.0	高 –			白	杯部外面蛸唐草文。	18世紀後葉頃。
第132図	1	肥前磁器 染付小杯	34号土坑 1/3	口 (5.9) 底 (2.8)	高 1.9			白	紅皿か。口縁部外面雅文。	18世紀後葉頃。
第132図	2	瀬戸・美濃系磁器 染付碗	34号土坑 1/9	口 (11.0) 底 (4.0)	高 4.9			白	口縁部内面簡略化した四方襷文か。見込簡略化した松竹梅文。	登窯10・11小期。
第132図	3	瀬戸・美濃磁器 染付打型皿	34号土坑 口縁部一部、底部1/2	口 (7.5) 底 (3.5)	高 2.3			白	型押し成形の方形小皿。角は輪花。内面型による水裂文地に梅花陽刻文。花の周囲に染付。焼継ぎ。高台内焼継ぎ時の赤色文字。符丁か。	登窯10・11小期。
第132図 PL.25	4	在地系土器 鍋	34号土坑 1/5	口 – 底 –	高 –			黒	断面中央黒色、断面灰白色、器表黒色。内外面轆轤目顕著。口縁部内凹。見込ケ福△押印。底部外面回転篦削り。	近現代。
第132図	1	関西系陶器 刷毛目碗	36号土坑 口縁部1/4、底部1/2	口 (8.3) 底 (4.0)	高 4.5			灰白	内外面部分的に白土刷毛塗り。内面から高台脇透明釉。	18世紀後葉～19世紀。
第132図	2	常滑陶器 甕	36号土坑 底部1/2	口 – 底 23.3	高 –			橙	器表暗赤褐色。	江戸時代以降。
第133図	1	肥前磁器 白磁か染付小杯	39号土坑 底部	口 – 底 2.9	高 –			灰白	残存部無文。見込中央盛り上がる。	18世紀前葉。
第133図	1	瀬戸・美濃磁器 小碗	40号土坑 口縁部1/8、底部1/2	口 (6.7) 底 3.3	高 4.6			白	外面酸化コバルトによる銅板転写。高台内、１重圏線内に不明跡。	近現代。
第133図	1	瀬戸・美濃陶器 丸皿	45号土坑 底部片	口 – 底 –	高 –			灰白	高台端部欠損。内外面灰釉。	大窯２・３段階。
第133図	1	肥前磁器 青磁染付小碗	46号土坑 口縁部欠	口 7.0 底 3.0	高 4.9			白	焼成不良。外面青磁釉、内面と高台内透明釉。透明釉白濁。口縁部内面２重圏線。高台端部付近無釉。青磁釉貫入。	19世紀初頭～中葉。
第133図	2	肥前系磁器 小瓶	46号土坑 口縁部欠	口 – 底 2.8	高 –			白	体部外面梅鉢状文と反対側に雅文。頸部内面から外面施釉。	江戸後期。
第133図	3	瓦 不詳	46号土坑 瓦溜	長 – 幅 –	厚 –			暗灰	燻し焼成。胎土は灰色。三葉葵。再築前橋城使用瓦。	江戸時代末。
第134図	1	在地系土器 火鉢	1号ピット 口縁部1/8、底部1/4	口 (33.8) 底 (27.4)	高 –			黒灰	断面黒色、器表付近灰白色、器表黒灰色。底部外面型作り痕。脚欠損。	江戸時代～近代。
第134図	1	在地系土器 皿	13号ピット 口縁部片	口 – 底 –	高 –			灰黄褐	体部内湾気味に開き、口縁部内面の器厚減じる。	中世以降。
第134図	1	在地系土器 皿	20号ピット 口縁部1/5、底部1/4	口 (9.0) 底 (6.0)	高 2.5			黒褐、橙	断面と内面器表から体部外面黒褐色、底部外面橙色。体部から口縁部縦ケ内湾。底部左回転糸切無調整。見込螺旋状轆轤目。	江戸時代。
第134図	1	美濃陶器 有田壺	3号集石 上-F1/2	口 (7.3) 底 –	高 –			灰白	双耳壺。肩部２条の横線。口縁部内面から残存部無釉。口縁端部の釉拭う。	登窯８・９小期。
第134図	2	搬入系土器 焼塩壺	3号集石 体部下位片	口 – 底 (5.3)	高 –			橙	内面布痕。底部を塞ぐ粘土、接合部から欠損。残存部に銘なし。	江戸時代。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第134図	3	在地系土器皿	3号集石 1/5	口底	(8.4) (6.3)	高	1.8	橙	体部内面轆轤目状に肥厚。底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第134図	1	肥前磁器染付広東碗蓋	4号集石 口縁部1/4欠	口縁	10.2 5.2	高	2.6	白	つまみ内、1重圏線内に変形字銘。口縁部内面2重圏線、天井部内面1重圏線内に変形字銘。	1780～1810年代。
第134図	2	在地系土器皿	4号集石 口縁部1/7、底部1/2	口底	(10.5) 6.4	高	2.2	にぶい黄	体部から口縁部緩く内湾。底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第134図	1	搬入系土器焼塩壺蓋	6号集石 一部欠	口底	6.0 –	高	0.9	橙	器表部分的に剥離。轆轤整形の焼塩壺蓋。	江戸時代。
第134図	2	肥前磁器染付皿	6号集石 1/3	口底	(13.5) (8.3)	高	3.1	白	口縁、高台内1重圏線内に「□□年製」銘。見込五弁花コンニャク印刑。	18世紀前葉。
第135図	1	関西系陶器色絵碗	7号集石 口縁部1/4、底部1/2	口底	(9.2) 3.2	高	5.4	灰白	内面から高台脇透明釉。細かい貫入。緑色と灰オリーブ色で葉を、赤色で茎を描く。	18世紀。
第135図	2	在地系土器火鉢	7号集石 1/2かつ	口底	29.2 24.0	高	12.3	にぶい黄橙、暗灰	断面中央黒色。器表付近にぶい橙からにぶい黄橙色、器表にぶい黄橙色から黒色。内面撫で。体部外面和ら磨き。底部外面型作り痕。平面形は方形か。底部内に脚二つ残存。	江戸時代か。
第135図	3	長鰻瓦鴟	7号集石 破片	長幅	– –	高	3.1	暗灰	断面灰白色。燻し焼成。胎土・焼成・色調から肉染剛の可能性高い。	江戸時代末か。
第135図	1	瀬戸陶器すり鉢	8号集石 1/10	口底	(30.2) (12.9)	高	15.4	灰白	内外面踏轆。体部中位以下回転篦削り。	登窯6小期。
第136図	1	在地系土器皿	1号池 底部1/2	口底	– (6.0)	高	–	灰黄褐	見込螺旋状轆轤目。底部左回転糸切無調整。	16世紀中葉～後葉か。
第136図	2	在地系土器皿	1号池 口縁部1/2欠	口底	7.5 5.7	高	2.1	灰黄褐	底部円柱状をなし、体部から口縁部内湾気味に開く。口縁部歪む。底部左回転糸切無調整。	江戸時代か。
第136図	3	肥前磁器染付小杯	1号池 口縁部1/3、底部一部欠	口底	(5.7) 2.1	高	2.2	白	外面二方に草文。内面無文。	18世紀後葉。
第136図	4	関西系磁器染付碗	1号池 口縁部3/4、底部1/2	口底	7.0 3.9	高	6.1	白	外面蝶と花卉文。内面無文。	1820～60年代。
第136図	5	肥前磁器染付皿	1号池 口縁部1/7、底部一部	口底	(18.2) (12.3)	高	6.7	灰白	内面に大根と大黒様の染付。蛇ノ目凹型高台。	18世紀後葉。
第136図	6	肥前磁器染付皿	1号池 底部1/2	口底	– 10.0	高	–	白	外面唐草文。内面大黒様と大根染付。蛇ノ目凹型高台。	江戸後期。
第137図	1	瀬戸・美濃磁器陶器杯	2号遺物集中 口縁部1/4欠	口底	7.5 3.3	高	4.5	灰白	内面から高台脇灰釉。	登窯2・3小期。
第137図	2	肥前磁器染付小鉢	2号遺物集中 1/4	口底	(11.0) (6.8)	高	5.0	白	外面中位小さい段差。蛇ノ目凹型高台。呉須の色は濃い。	1820～60年代。
第137図	3	肥前磁器染付皿	2号遺物集中 口縁部一部、底部4/5	口底	(14.4) 9.0	高	4.7	白	口縁部から体部輪花。蛇ノ目凹型高台。	1820～60年代。
第137図	4	瀬戸・美濃磁器染付皿	2号遺物集中 一部欠	口底	13.9 7.2	高	3.6	白	蛇ノ目凹型高台。焼継ぎ。高台内中央、焼継ぎ時に赤色で「十二」。周縁無釉部に「木」の文字。	登窯11小期。
第137図	5	瀬戸・美濃磁器染付八角鉢	2号遺物集中 一部欠	口底	11.5 4.7	高	4.2	白	平面八角形。	登窯11小期。
第137図	6	肥前系磁器染付鉢	2号遺物集中 口縁部～体部1/3	口底	(15.0) –	高	–	灰白	焼成不良で釉白濁。外面と口縁部内面染付。	1820～60年代。
第138図	7	瀬戸・美濃磁器染付蓋	2号遺物集中 1/3欠	口縁	9.2 –	高	–	白	天井部内面一重圏線内に「寿」字。つまみ内不明銘。	登窯10・11小期。
第138図	8	肥前磁器油壺	2号遺物集中 体部～底部4/4	口底		高		灰白	焼成不良により透明釉白濁。体部上半染付。	18世紀後葉～19世紀前葉。
第138図	9	肥前系磁器水滴	2号遺物集中 1/2か	長幅	– –	高	2.4	白	上面型による陽刻文で周囲に呉須を入れる。一側面を除き透明釉。上面に穿孔1カ所。	19世紀。
第138図	10	土製品面形か	2号遺物集中 ほぼ完形	長幅	2.8 2.3	厚	0.7	淡黄	裏面窪み指紋残る。裏面平坦部篦削り痕残り、周囲にバリも残る。片面のみの型抜き製品。	江戸時代以降。
第138図	11	製作地不詳軟質施釉陶器釜(ミニチュア)	2号遺物集中 口縁端部ほぼ欠	口底	(4.5) 2.6	高	2.9	灰白	底部右回転糸切無調整。内面透明釉。口縁部外面から鍔下面縁釉。	江戸時代～近代。
第138図	12	瀬戸陶器植木鉢	2号遺物集中 口縁部一部、底部完	口底	(18.5) 9.4	高	15.1	灰白	口縁部上面と体部外面上位、体部外面下位に鉄絵。内面中位から外面下端透明釉。鍔3カ所貼り付け。	登窯11小期。
第138図	13	常滑陶器甕	2号遺物集中 体部片	口底	– –	高	–	橙	内外面撫で。内面指頭圧痕。	15・16世紀
第138図	14	製作地不詳陶器壺	2号遺物集中 口縁部～肩部	口底	10.0 –	高	–	灰白	口縁部肥厚。残存部耳1カ所。口縁部から外面灰釉。轆轤成形。	17世紀前後。
第138図	15	製作地不詳陶器壺	2号遺物集中 下半1/2	口底	– (12.0)	高	–	灰白	轆轤成形。残存部外面上半灰釉。	17世紀前後。

挿図No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第138図	16	製作地不詳 陶器 四耳壺	2号遺物集中 口縁部～体部 1/2欠	口底	(9.2) 8.8	高	22.3	灰白	2カ所残存する耳配置から四耳壺であろう。耳は退化して薄がる。肩部2条の沈線。口縁部内面から体部外面下位に鉄釉。体部外面下位以下は鉄釉。	16世紀～17世紀。
第139図	17	信楽陶器か 壺	2号遺物集中 口縁部～体部 1/2欠	口底	(10.0) 12.2	高	27.5～28.5	灰白	断面から内面器表灰白色、外面器表灰白色から赤褐色。口縁部内面から体部外面中位薄く自然釉かかる。頸部3条から4条の横線。器形歪む。胎土に長石を含み、器表に吹き出す。	17世紀前後。
第139図	18	製作地不詳 陶器 四耳壺	2号遺物集中 約1/6欠	口底	9.5 11.5	高	30.0	灰白～黒褐	断面灰白、無釉部器表灰白から黒褐色。頸部と肩境2条の沈線。肩は稜をなして屈曲。耳は縦位で4カ所。口縁部内面から体部外面中位鉄釉。	17世紀前後。
第139図	19	信楽陶器か 壺	2号遺物集中 口縁部1/2、体部1/4欠	口底	10.5 15.4	高	33.7	暗赤褐	断面と内面器表灰白色、外面器表暗赤褐色。胎土に長石含み器表に吹き出す。底部高台状をなし、体部下位潰れたように屈曲。口縁部から火前の肩部に自然釉。自然釉体部に筋状に流れる。	17世紀前後。
第139図	20	信楽陶器か 壺	2号遺物集中 口縁部～体部 1/3欠	口底	11.0 15.0	高	30.0	暗赤褐	断面と内面器表灰白色、外面器表暗赤褐色。胎土に長石含み器表に吹き出す。火前側の口縁部から体部下位に自然釉。釉は白濁し、部分的に剥離。	17世紀前後。
PL.25	34	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			外面鉄絵。高台内不明銘。	近現代。
PL.25	35	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。	近現代。
PL.25	36	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。	近現代。
PL.25	37	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。	近現代。
PL.25	38	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。	近現代。
PL.25	39	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。	近現代。
PL.25	40	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。	近現代。
PL.25	41	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。	近現代。
PL.25	42	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			焼成不良。口縁部外面1重圏線。高台脇2重圏線。	近現代。
PL.25	43	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			クロム青磁。	近現代。
PL.25	44	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			クロム青磁。	近現代。
PL.25	45	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			クロム青磁。	近現代。
PL.25	46	磁器 小碗	2号遺物集中	口底		高			クロム青磁。	近現代。
PL.25	47	磁器 湯飲み	大堀相馬陶器 2号遺物集中	口底		高			内面青磁釉ひび焼。外面鉄絵具による左馬文。外面から高台内厚い灰釉。	近現代。
PL.25	48	磁器 火鉢	2号遺物集中	口底		高			型紙摺り。	近現代。
PL.25	49	磁器 湯飲み	2号遺物集中	口底		高			酸化コバルトによる手描き染付。	近現代。
PL.25	50	磁器 ミルクピッチャー	2号遺物集中	口底		高			クロム青磁。	近現代。
PL.25	51	瀬戸・美濃 磁器 小香炉	2号遺物集中 完形	口底	6.0 3.4	高	4.3		口縁端部内面から体部外面瑠璃釉。高台脇に退化した脚3カ所貼り付け。	19世紀後葉。
PL.25	52	磁器 仏飯器	2号遺物集中	口底		高			外面瑠璃釉。杯部内面透明釉。脚部内面無釉。	近現代。
PL.25	53	磁器 蓮華	2号遺物集中	口底		高			手描き染付。体部外面下位以下無釉。	近現代。
PL.25	54	磁器 碗	2号遺物集中	口底		高			吹き墨。	近現代。
PL.25	55	磁器 碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。2集中56と同形、同文様。	近現代。
PL.25	56	磁器 碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。2集中55と同形、同文様。	近現代。
PL.25	57	磁器 平碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。	近現代。
PL.25	58	磁器 碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。	近現代。
PL.25	59	磁器 平碗	2号遺物集中	口底		高			銅板転写。	近現代。
PL.25	60	磁器 碗	2号遺物集中	口底		高			型紙摺り。	近現代。
PL.25	61	磁器 碗	2号遺物集中	口底		高			型紙摺り。	近現代。
PL.25	62	磁器 碗	2号遺物集中	口底		高			型紙摺り。	近現代。
PL.25	63	磁器 碗	2号遺物集中	口底		高			型紙摺り。	近現代。

遺物観察表

挿図No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.25	64	磁器 碗	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	65	磁器 碗	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	66	磁器 碗	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	67	磁器 碗	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	68	磁器 碗	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	69	磁器 碗	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。焼成不良。	近現代。
PL.25	70	磁器 碗蓋	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	71	磁器 丼	2号遺物集中	口 底		高		銅板転写。	近現代。
PL.25	72	製作地不詳 陶器 急須蓋	2号遺物集中	口 底		高		万古風色絵。内キ落とし蓋。つまみ回る。	近現代。
PL.25	73	製作地不詳 陶器 急須蓋	2号遺物集中	口 底		高		万古風色絵。内キ落とし蓋。つまみ回る。	近現代。
PL.25	74	製作地不詳 陶器 急須蓋	2号遺物集中	口 底		高		万古風色絵。内キ落とし蓋。つまみ回る。	近現代。
PL.25	75	製作地不詳 陶器 急須	2号遺物集中	口 底		高		焼締め陶器。底部外面から肩部外面型押し成形による菊花文。	近現代。
PL.25	76	益子・笠間 陶器 土瓶蓋	2号遺物集中	口 底		高		内キ落とし蓋。上面白土と鉄絵具による施文。上面透明釉。	近現代。
PL.25	77	益子・笠間 陶器 土瓶蓋	2号遺物集中	口 底		高		内キ落とし蓋。上面白土と鉄絵具による施文。上面透明釉。	近現代。
PL.25	78	益子・笠間 陶器 土瓶蓋	2号遺物集中	口 底		高		山蓋。上面白化粧後に染付。上面透明釉。	近現代。
PL.25	79	益子・笠間 陶器 土瓶蓋	2号遺物集中	口 底		高		山蓋。上面白化粧後に染付。上面透明釉。	近現代。
PL.25	80	益子・笠間 陶器 土瓶蓋	2号遺物集中	口 底		高		山蓋。上面白化粧後に染付。上面透明釉。	近現代。
PL.25	81	在地系上器 鍋	2号遺物集中	口 底		高			近現代。
PL.25	82	在地系上器 鍋	2号遺物集中	口 底		高			近現代。
PL.25	83	在地系上器 鍋	2号遺物集中	口 底		高			近現代。
PL.25	84	美濃磁器 皿	2号遺物集中	口 底		高		酸化コバルトによる手描き染付。	近現代。
PL.25	85	美濃磁器 唐文皿	2号遺物集中	口 底		高		白磁。	壁窯11小期。
PL.25	86	磁器 皿	2号遺物集中	口 底		高		口錆。銅板転写。	近現代。
PL.25	87	磁器 皿	2号遺物集中	口 底		高		酸化コバルトによる手描き染付。	近現代。
PL.25	88	磁器 皿	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	89	磁器 皿	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	90	磁器 火入	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	91	磁器 徳利	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	92	磁器 蓋物	2号遺物集中	口 底		高		外面明黄褐色釉。内面透明釉。口縁端部上面から内面無釉。	近現代。
PL.25	93	益子・笠間 陶器 火入	2号遺物集中 完形	口 底		高		口縁部外面から底部外面白化粧後、口縁部内面から高台脇白釉。口縁部緑釉流す。口縁端部上面釉剥落、使用痕であろう。	近現代。
PL.25	94	磁器 鉢	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	95	磁器 蓋物	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	96	磁器 小皿	2号遺物集中	口 底		高		型紙摺り。	近現代。
PL.25	97	磁器 蓋物	2号遺物集中	口 底		高		銅板転写。	近現代。

挿図No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.25	98	磁器 陶器か 片口鉢	2 弓遺物集中	口 底		高			内面から高台脇灰釉。見込目痕４カ所。	近現代。
PL.25	99	磁器 陶器 すり鉢	2 弓遺物集中	口 底		高			口縁部内面から高台外面錆色の鉄釉。	近現代。
PL.25	100	磁器 鉢	2 弓遺物集中	口 底		高			手描き染付。焼継ぎ。焼継ぎ部黒色。	近現代。
PL.25	101	磁器 角皿	2 弓遺物集中	口 底		高			酸化コバルトによる手描き染付。高台内焼継ぎに文様か記号。	近現代。
PL.25	102	磁器 皿	2 弓遺物集中	口 底		高			型紙摺り。	近現代。
口絵６	103	瓶平焼陶器 小判型龍文皿	2 弓遺物集中 口縁部1/5, 底部ほぼ完	長径 短径	－	高		灰白	底部内面型押しによる龍文。内外面施釉。細かい貫入。器表2.5Y7/8（黄）色。底部外面目痕３カ所。	19世紀後半頃。
口絵６	104	瓶平焼陶器 小鉢	2 弓遺物集中 口縁部1/3, 底部1/2	口 底		高		灰白	瓶平焼窯跡報告分類による「鉢A類、IIA-3-a」。轆轤成形。全面施釉で高台端部の釉掻き取る。器表2.5Y7/8(黄)色。細かい貫入。	19世紀後半か。
口絵６	105	瓶平焼陶器 鉢	2 弓遺物集中 口縁部～底部片	口 底		高	4.8	灰白	轆轤成形。体部から口縁部直線的に立ち上がる。体部外面中位に１条、下端に２条のタガ状突帯。高台端部を除きラスター状光沢のある緑釉。１面反に比して小型。	19世紀後半～20世紀前葉。
第142図	1	瀬戸・美濃 陶器 小碗	3 弓遺物集中 口縁部1/5	口 底	(8.8) －	高	－	灰白	内面から外面中位灰釉。	登窯１・２小期。
第142図	2	前橋藩窯磁器 小丸碗	3 弓遺物集中 口縁部～体部1/3次	口 底	7.0 2.8	高	4.5	灰白	焼成不良。外面裏に蝶文か。見込１重圏線内に帆掛船。	19世紀前葉～中葉。
第142図	3	前橋藩窯磁器か 染付端反碗	3 弓遺物集中 口縁部～底部	口 底	9.2 4.0	高	5.2	灰白	焼成不良。貫入。外面一方に草花文。内面無文。	19世紀前葉～中葉。
第142図	4	肥前磁器 呉器手碗	3 弓遺物集中 底部	口 底	－ 4.7	高	－	灰白	高台端部を除き透明釉。細かい貫入。	17世紀後葉。
第142図	5	瀬戸・美濃 磁器 染付端反碗	3 弓遺物集中 1/2	口 底	(9.4) 3.7	高	5.0	白	見込２重圏線内に筒蟹文か。焼継ぎ。高台内焼継ぎ時の記号を赤色で記入。	登窯９小期。
第143図	6	肥前磁器 白磁か染付 うがい碗	3 弓遺物集中 口縁部～体部1/5, 底部完	口 底	(14.4) 4.8	高	6.7	白	残存部無文。底部周縁付近焼継ぎ。高台端部のみ無釉。焼継ぎ。	18世紀後葉頃。
第143図	7	肥前磁器 染付蓋物	3 弓遺物集中 1/4	口 底	(4.9) (2.5)	高	2.6	白	口縁部内面無釉。外面文様不明。内面無文。	18世紀後葉。
第143図	8	美濃陶器 片口鉢	3 弓遺物集中 口縁部～体部1/3次	口 底	(16.0) －	高	－	灰白	内面体部外面下位灰釉。片口部欠損。	登窯８小期。
第143図	9	製作地不詳 陶器 鍋	3 弓遺物集中 口縁部1/3次	口 底	20.0 7.5	高	10.7	灰白	陶器無蓋双耳鍋。内面から体部外面下位鉄釉。焼成不良で内面と外面屈曲部の釉クレーター状の泡立ち痕。粒状の脚３カ所貼り付け。底部外面煤付着。	19世紀。
第143図	10	肥前磁器 色絵油壺	3 弓遺物集中 体部一部、底部3/4	口 底	－ 4.2	高	－	灰白	体部中位外面に赤色２重圏線。	17世紀後葉。
第143図	11	製作地不詳 陶器 蓋	3 弓遺物集中 1/2	口 底	6.6 4.0	高	1.4	灰白	外面灰釉。下面器表暗赤褐色。つまみ欠損か。	19世紀。
第143図	12	関西系陶器 蓋	3 弓遺物集中 口縁部1/2欠	口 底	(4.9) 2.0	高	1.2	灰白	口縁端部から外面灰釉。つまみ欠損。天井部内面底部右回転糸切無調整。天井部内面「△」墨書。	18・19世紀。
第143図	13	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	3 弓遺物集中 1/2	口 底	7.7 3.5	高	1.5	灰白	鉄釉施釉後外面口縁部以下拭う。内面重焼痕。	登窯８・９小期。
第143図	14	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	3 弓遺物集中 1/2	口 底	7.1 2.2	高	1.3	灰白	鉄釉施釉後外面口縁部以下拭う。内面重焼痕。	登窯９・10小期。
第143図	15	軟質施釉陶器 灯火受台	3 弓遺物集中 杯部	口 底	－ －	高	－	橙	脚部、口縁部、受け端部欠損。受け部「U」字状抉り残る。透明釉。	18・19世紀。
第143図	16	製作地不詳 軟質施釉陶器 ミニチュア	3 弓遺物集中 1/2	口 底	3.3 1.9	高	1.5	灰白	鉢か。内面から口縁部外面縁釉。	江戸時代～近代。
口絵６	20	前橋藩窯磁器 染付端反碗か小鉢	3 弓遺物集中 口縁部片	口 底		高		灰白	外面山と樹木の染付。山水文の一部か。残存部内面無文。	19世紀前葉～中葉。
口絵６	21	前橋藩窯陶器 土瓶	3 弓遺物集中 肩部片	口 底		高		灰白	外面青釉。	19世紀前葉～中葉。
口絵６	22	前橋藩窯磁器 染付端反碗	3 弓遺物集中 1/3	口 底		高		灰白	焼成不良。被熱。外面鳥と山の染付。内面無文。	19世紀前葉～中葉。
口絵６	23	前橋藩窯磁器 染付端反碗	3 弓遺物集中 1/3	口 底		高		灰白	焼成不良。外面馬と山の染付。内面無文。	19世紀前葉～中葉。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
口絵6	24	前橋藻窯染付端反碗	3号遺物集中 1/2	口底		高		灰白	焼成不良。外面山と鳥、帆掛船の染付。内面無文。	19世紀前葉～中葉。
口絵6	25	前橋藻窯磁器 染付端反碗	3号遺物集中 口縁部～体部 1/4	口底		高		灰白	焼成不良。体部外面下位の一部に釉切れ。口縁部外面から内面にかけて幅広の1重圏線。見込み線1重圏線。体部外面下位1重圏線。	19世紀前葉～中葉。
口絵6	26	前橋藻窯磁器 染直貝	3号遺物集中 完形	口底		高		にぶい赤褐	ドーナツ状。両面に重焼痕。	19世紀前葉～中葉。
第144図	1	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	4号遺物集中 口縁部片	口底	－－	高	－	灰白	口縁部内面突帯。内外面錆釉。	大窯4段階後半。
第144図	2	肥前系磁器 染付皿	4号遺物集中 1/3	口底	(13.8)(8.0)	高	4.3	白	口縁部から体部幅花。	1820～60年代。
第144図	3	瀬戸・美濃系磁器 染付皿	4号遺物集中 1/3	口底	(13.4)(7.8)	高	2.9	白	口銹。外面手描きによる唐草文。内面手描きによる植物と魚文。酸化コバルトではない可能性あり。	19世紀中葉～後葉。
第144図	4	肥前磁器 染付大皿	4号遺物集中 1/8	口底	－(22.0)	高	－	白	内面牡丹文。外面梅文。高台内1重圏線。	1820～60年代。
第145図	5	瀬戸陶器 大皿	4号遺物集中 口縁部片	口底	－－	高	－	灰白	内面に明瞭な稜をなして口縁部外反。外面口縁部下明瞭な轆轤目。内外面灰釉。	登窯11小期。
第145図	6	瀬戸陶器 片口鉢	4号遺物集中 口縁部1/6	口底	(20.8)－	高	－	灰白	外面口縁部下浅い沈線1条。口縁部内面低い突帯。内外面灰釉。口縁端部付近釉剥落。何らかの使用痕か。	登窯11小期。
第145図	7	製作地不詳 陶器 土地ミニチュア	4号遺物集中 破片	口底	－－	高	－	にぶい橙	外面灰釉。体部外面下位以下無釉。	江戸時代後期～近代。
口絵6	11	眠平焼陶器 鉢	4号遺物集中 底部小片	口底	－－	高	－	灰白	1面92と同様な鉢。1面92は底部完存のため明らかに別個体。体部外面下端2条のタガ状突帯。高台端部を除きラスター状光沢のある緑釉。雛がい貫入。	19世紀後半～20世紀前葉。
第145図	1	在地系土師鍋	5号遺物集中 1/6欠	口底	37.4 19.4	高	11.4	暗灰～黒	断面灰白色。口縁端部小さく外反。器壁やや厚い。	江戸時代。
第146図	1	瓦 不詳	1号瓦だまり 瓦頭部1/4	長幅	－－	厚	3.3	灰	三葉葵。丸瓦部欠損。	江戸時代末、前橋城内築時。
第146図	1	瀬戸・美濃磁器 平碗	2号瓦だまり 口縁部1/4欠	口底	11.8 4.2	高	5.2	白	外面染付と暗オリーブ色の釉下彩。	近現代。
第146図	2	瀬戸・美濃陶器 鉄絵皿	2号瓦だまり 口縁部1/10	口底	(11.2)(6.0)	高	2.7	灰	内面鉄絵。内面から高台内長石釉。	登窯1小期。
第147図	1	肥前磁器 (鍋島藻窯) 染付皿	1面 1/4	口底	(20.4)(10.8)	高	6.2	灰白	後期鍋島。内面は芙蓉、外面は七宝結び文の染付。高台台面には一本線の櫛歯文染付。口縁欠損部を焼継ぎで補う。高台内焼継ぎ時と思われる赤色の文字か記号の一部残る。	19世紀前葉頃。
PL.25	65	在地系土師鍋	1面	口底		高				近現代
PL.25	66	在地系土師鍋	1面	口底		高				近現代
口絵3	67	肥前磁器 白磁小碗	1面	口底		高			内面型打成形による陽刻文。口縁端部外面面取削り。	有田。1650～70年代。
口絵3	68	瀬戸陶器 白天目碗	1面	口底		高				登窯3小期。
口絵3	69	肥前磁器 鉄釉胎分碗	1面	口底		高			内面透明釉。外面鉄釉。高台外面から高台内無釉。	1640年代頃。
口絵3	70	肥前陶器 三島手大皿	1面	口底		高				17世紀後葉。
口絵4	71	中国磁器 染付小皿	1面	口底		高				16世紀後葉～17世紀初頭。
口絵4	72	中国磁器 染付小皿	1面	口底		高				景徳鎮。16世紀第4四半期～17世紀前葉。
口絵4	73	中国磁器 染付皿	1面	口底		高				16世紀末～17世紀前葉。
口絵4	74	中国磁器 白磁皿	1面	口底		高				景徳鎮。16世紀。
口絵4	75	志戸呂陶器 筒形碗	1面	口底		高				大窯4段階。
口絵4	76	瀬戸・美濃陶器 丸皿	1面	口底		高				大窯3段階後半。
口絵4	77	瀬戸・美濃陶器 天目碗	1面	口底		高				大窯4段階後半。
口絵4	78	瀬戸・美濃陶器 天目碗	1面	口底		高				大窯3段階後半。
口絵4	79	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	1面	口底		高				大窯3段階後半。
口絵4	80	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	1面	口底		高				大窯4段階後半。

挿図No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値(cm)				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
口絵4	81	瀬戸・美濃陶器すり鉢	1面	口底		高				大窯２・３段階。
口絵5	82	中国磁器染付合子	1面	口底		高			平面形は菱形。蓋と身の合わせ部に朱肉付着。底部外面目痕５カ所。	18世紀末～19世紀。
口絵5	83	中国磁器染付人形か水滴	1面	口底		高			内面接合部の状態が肥前とは異なる。	景徳鎮。18世紀後葉～19世紀前葉。
口絵5	84	中国磁器染付盆物鉢	1面	口底		高				18世紀末～19世紀。
口絵5	85	中国磁器染付小碗	1面	口底		高				19世紀。
口絵6	86	瓶平焼陶器鉢	1面1/4	口底	～～	高	5.0	淡黄	器表2.5Y7/8（黄）色。体部直線的に立ち上がる。体部中位に１条、体部下端に２条のタガ状突帯。高台端部を除き黄色釉。	19世紀後半～20世紀前葉。
口絵6	87	瓶平焼陶器皿か	1面口縁部片	口底	～～	高	～	灰白	型押し成形。底部か体部内面に陽刻文様。内外面施釉。細かい貫入。器表2.5Y7/8の黄色。龍文か判型皿と同様な釉。	19世紀後半頃か。
口絵6	88	瓶平焼陶器鉢	1面口縁部～体部片	口底	～～	高	～	灰白	口縁部から体部多角形。口縁部波状を呈し、角部分は切り込み状に小さく窪む。内外面施釉。細かい貫入。器表5YR/8（黄）色。	19世紀後半～20世紀初頭。
口絵6	89	瓶平焼陶器鉢	1面口縁部～体部片	口底	～～	高	～	灰白	口縁部から体部多角形。口縁部波状を呈し、角部分は切り込み状に小さく窪む。内外面施釉。細かい貫入。器表5YR/8（黄）色。	19世紀後半～20世紀前葉。
口絵6	90	瓶平焼陶器蓮華	1面取っ手欠損	口底	～～	高	～	灰白	平底。受部見込に型押しによる龍文。内外面施釉。器表は2.5Y7/8の黄色。底部外面小さい目痕２カ所。瓶平焼窯跡報告による蓮華Ⅰ類。	19世紀後半頃。
口絵6	91	瓶平焼陶器蓮華	1面取っ手	長輪	～～	高	～	灰白	型押し成形。全面光沢のある緑色釉。細かい貫入。	19世紀後半頃か。
口絵6	92	瓶平焼陶器鉢	1面体部一部欠	口底	16.6 14.2	高	6.8	灰白	胎土白色に近い。体部直線的に立ち上がる。体部中位に１条、体部下端に２条のタガ状突帯。高台端部を除きラスター状光沢のある緑釉。細かい貫入。高台端部に径4.5mmの円内に「キ」押印。	19世紀後半～20世紀前葉。
口絵3	39	肥前磁器色絵碗	2面	口底		高			色絵ほとんど剥落し、赤色のみ一部残存。文様は帆掛船。内外面貫入。	有田。1660～90年代。
口絵3	40	瀬戸・美濃陶器白天目碗	2面	口底		高				登窯３小期。
口絵3	41	瀬戸・美濃陶器織部盤類	2面	口底		高				登窯１小期。
口絵3	42	肥前陶器皿か鉢	2面	口底		高			呉器手碗と同様な胎土と釉。呉器手碗と同じ窯の製品。	17世紀中葉～末。
口絵3	43	肥前磁器二彩手大皿	2面	口底		高				17世紀後葉。
口絵3	44	肥前磁器青磁皿	2面	口底		高			３足獣脚か。口縁部外面無釉部は錆による圏線か。内面片彫りによる施文。	1630～40年代。
口絵4	45	中国磁器赫奕紋染付小皿	2面	口底		高				16世紀後葉。
口絵4	46	中国磁器染付皿	2面	口底		高				景徳鎮。16世紀前葉～中葉。
口絵4	47	中国磁器染付皿	2面	口底		高				景徳鎮。17世紀前葉。
口絵4	48	中国磁器染付碗	2面	口底		高				景徳鎮。16世紀末～17世紀前葉。
口絵4	49	中国磁器白磁皿	2面	口底		高				景徳鎮。16世紀。
口絵4	50	志戸呂陶器丸碗	2面	口底		高				大窯４段階。
口絵4	51	瀬戸・美濃陶器志野皿	2面	口底		高				大窯４段階後半。
口絵4	52	瀬戸・美濃陶器丸皿	2面	口底		高				大窯４段階。
口絵4	53	瀬戸・美濃陶器丸皿	2面	口底		高				大窯３段階。
口絵4	54	瀬戸・美濃陶器丸碗？	2面	口底		高				大窯２・３段階。
口絵6	55	前橋藩窯小丸碗	2面	口底		高				19世紀前葉～中葉。
第160図	1	須恵器椀	16号トレンチ口縁部1/4欠	口底	14.5～14.8 7.4	高	3.6～4.2	灰白	器表摩滅。底部右回転糸切無調整。口縁部歪む。口縁端部油煙付着。	
第160図	2	土師器杯	12号トレンチ口縁部1/3欠	口底	12.0 8.3	高	3.4～3.7	にぶい橙	全体に器表摩滅。底部外面篦削り。体部外面篦状丸亀製残る。口縁部外面横撫で。内面調製痕不明瞭。	
第160図	3	土師器杯	1/2	口底	(12.4) (10.3)	高	2.9	にぶい橙	体部外面指頭圧痕。底部内面周縁から口縁部内面横撫で。底部外面篦削り。	

前橋城跡　遺物観察表（漆器・木製品・骨角器）

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm,g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第79図	103	木製品 漆椀　蓋	6号溝 1/4縁部欠損	径 高	9.2 (2.1)	厚 重	－ －	ホオノキ	内外面黒漆で仕上げる。高台内及び外面に、赤色漆で巴文を施す。	
第79図	104	木製品 漆椀　蓋	6号溝 1/3	径 高	－ (2.4)	厚 重	－ －	ブナ	内外面黒漆で仕上げる。	
第79図	105	木製品 漆器	6号溝 1/5	径 高	－ －	厚 重	－ －	ケヤキ属	内外面黒漆で仕上げる。外面肩の部分に僅かな段を持つ。	
第109図	98	木製品 櫛	13号溝西側 1/3	長 幅	－ －	厚 重	0.5 －	ツゲ	上端に、歯を作り出した際の印を残す。13溝101①と同一か。	
第109図	99	木製品 櫛	13号溝 1/2	長 幅	(7.4) (3.2)	厚 重	0.8 －	ツゲ	歯は細く作りは精緻である。表面劣化。	
第109図	100	木製品 櫛	13号溝 一部欠損	長 幅	13.5 3.6	厚 重	0.9 －	散孔材	歯は、細かく精緻に作り出される。	
第109図	101 ①	木製品 櫛	13号溝西側 1/3	長 幅	－ －	厚 重	0.5 －	ツゲ	上端に、歯を作り出した際の印を残す。13溝98と同一か。	
第109図	101 ②	木製品 不詳	13号溝西側 一部欠損	長 幅	6.8 6.8	厚 重	0.3 －	スギ	薄い円形の板材。中央に小さな孔あり。13溝102との間に、13溝101①の櫛がはさまれるようにあり。	
第109図	102	木製品 不詳	13号溝西側 ほぼ完形	長 幅	6.8 6.0	厚 重	0.4 (11.0)	スギ	薄い円形の板材。中央に小さい孔、3方所に本皮の一部が残る。	
第109図	103	木製品 漆椀　蓋	13号溝西側 1/3	径 高	－ －	厚 重	－ －	トチノキ	内外面黒漆で仕上げる。外面に筆で金色の文様を描く。	
第109図	104	木製品 漆椀　蓋	13号溝西側 1/4縁部欠損	径 高	(10.6) (1.7)	厚 重	－ －	ホオノキ	内外面黒漆で仕上げる。外面に赤色漆で鳥の文様を描く。	
第110図	105	木製品 曲物か	13号溝西側 不詳	径 高	6.8 －	厚 重	0.3 －	スギ	円形の板材。中央に小さな孔あり。曲物の底板か。	
第110図	106	木製品 将棋駒	13号溝 ほぼ完形	長 幅	2.6 2.0	厚 重	0.7 －	広葉樹	黒漆で文字を書く。裏面に文字は無く、「金将」と思われる。	
第110図	107	木製品 下駄	13号溝西側 ほぼ完形	長 幅	21.0 8.2	高 重	5.0 －	クリ	一本下駄。台の形状は長方形。木表側を台とする。表面劣化し加工痕跡等は不明瞭。	
第110図	108	木製品 下駄	13号溝西側 完形	長 幅	21.4 7.8	高 重	4.5 －	クリ	一本下駄。台の形状は長方形。木表側を台とする。表面劣化し加工痕跡等は不明瞭。	
第115図	10	木製品 漆椀	15号溝 1/2	径 高	－ (2.6)	厚 重	－ －	ケヤキ属	内外面黒漆で仕上げる。外面に溝状の痕跡を残す。	
第116図	10	木製品 漆椀	17号溝 1/3	径 高	－ (4.1)	厚 重	－ －	ケヤキ属	内面赤色漆、外面黒漆で仕上げる。直線的に立ち上がる器形と思われる。	
第128図	3	木製品 桶　底板	30号土坑 完形	径 高	41.0 －	厚 重	2.7 －	スギ	板目材二枚を合わせた桶底板。	
第129図	7	木製品 桶　底板	31号土坑 完形	径 高	43.6 －	厚 重	2.5 －	スギ	板目材三枚を合わせた桶底板。	
第131図	13	木製品 樽か	32号土坑 ほぼ完形	径 高	11.8 －	厚 重	0.8 －	針葉樹	円形の板材。径2.4cm程の円孔を穿つ。樽の蓋か。焼印あるも判読困難。	
第132図	5	木製品 桶　底板	34号土坑 完形	径 高	40.0 －	厚 重	2.6 －	スギ	板目材二枚を合わせた桶底板。	
第133図	2	木製品 桶　底板	40号土坑 完形	径 高	42.5 －	厚 重	1.8 －	スギ	柾目材二枚を合わせた桶底板。弧状の鋸の痕跡を両面に残す。端部両側に面取りされる。	
第140図	21	木製品 漆椀　蓋	2号遺物集中 一部欠損	径 高	(10.5) (2.0)	厚 重	－ －	ブナ	内面赤色漆、外面黒漆で仕上げる。	
第140図	22	木製品 漆椀　蓋	2号遺物集中 ほぼ完形	径 高	11.0 3.1	厚 重	－ －	トチノキ	内面赤色漆、外面黒漆で仕上げる。	
第140図	23	木製品 提灯か	2号遺物集中 1/3	径 高	－ －	厚 重	－ －	ヒノキ	提灯の底部分と思われる。底板は径11cm、厚さ0.8cm程。中央には、蝋燭を立てるための釘が下部より打ち込まれる。側板には黒漆？が僅かに残る。	
第140図	24	竹製品 不詳	2号遺物集中 不詳	長 幅	－ －	厚 重	－ －	マダケ	真竹の節付近。節の下1.5cm程に鉄釘が貫通する。詳細は不明。	
第140図	25	木製品 不詳	2号遺物集中 不詳	径 高	11.0 (3.0)	厚 重	－ －	スギ	厚さ0.9cm程の円形板材に、幅1.5cm、長さ11cm程のコの字状に屈曲した板状の鉄製品が付属。板材中央には、径4.7cm程の円形の痕跡を残す。	
第140図	26	木製品 糸車	2号遺物集中 一部残存	長 幅	－ －	厚 重	－ －	針葉樹とクリ	糸車の一部。「王」？の焼印あり。	
第144図	17	木製品 漆椀	3号遺物集中 1/4縁部欠損	径 高	(12.1) (4.1)	厚 重	－ －	トチノキ	内面赤色漆、外面黒漆で仕上げる。歪み顕著。	
第144図	18	木製品 曲物か	3号遺物集中 不詳	長 幅	9.7 9.7	厚 重	1.0 55	針葉樹	円形の板材。曲物の底板か。	
第147図	2	木製品 漆椀　蓋	1面 1/2	径 高	10.6 1.7	厚 重	－ －	ブナ	内外面黒漆で仕上げる。	
第147図	3	木製品 漆椀　蓋	1面 2/3	径 幅	12.4 －	厚 重	2.0 52	ブナ	内外面赤色漆で仕上げる。	
第147図	4	木製品 漆椀	1面 一部欠損	径 高	－ －	厚 重	－ －	ブナ	内外面赤色漆で仕上げる。	
第147図	5	木製品 不詳	1面 不詳	径 高	7.2 3.4	厚 重	0.7 －	ブナ	棒芯を含む材を筒状に削り出す。底は厚く内外面とも黒色。上端に段を有し、蓋を受ける構造と思われる。	
第147図	6	木製品 不詳	1面 不詳	長 幅	17.0 －	厚 重	0.5 －	ホオノキ	外面赤色漆で仕上げ、一部には文様を描く。黒漆で「松井実記」。内面は黒漆で仕上げる。内面端部に段を有することから、重箱等の蓋と思われる。	
第147図	7	木製品 栓	1面 完形	長 幅	18.0 2.8	厚 重	－ －	針葉樹	大型の栓。地部が尖る。外面及び天部を面取り。天部断面は八角形。いわゆる「樽栓」の「呑」か。焼印あるも判読困難。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm,g)					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第148図	8	木製品 下駄	1面 ほぼ完形	長 13.0 幅 7.3	高 2.5 重 –				スギ	小型の一木下駄。台の形状は隅丸方形。台裏側を方形にくり抜く。1面9と対か。	
第148図	9	木製品 下駄	1面 ほぼ完形	長 13.3 幅 7.5	高 2.7 重 –				スギ	小型の一木下駄。台の形状は隅丸方形。台裏側を方形にくり抜く。1面8と対か。	
第148図	10	木製品 下駄	1面 一部欠損	長 16.8 幅 8.2	高 2.4 重 –				スギ	差歯下駄、台の形状は隅丸方形。表面劣化し加工痕跡等は不明瞭。	
第148図	11	木製品 下駄	1面 一部欠損	長 20.8 幅 9.5	高 2.2 重 –				スギ	差歯下駄、台の形状は隅丸方形。表面劣化し加工痕跡等は不明瞭。	
第148図	12	木製品 下駄	1面 一部欠損	長 22.2 幅 10.0	高 5.8 重 –				台スギ・歯ホオノキ	大型の差歯下駄。台の形状はおよそ長方形。残る歯は短く、端部は潰れている。	
第149図	13	木製品 糸車	1面 一部残存	長 15.5 幅 15.5	厚 – 重 –				スギ	糸車の一部。相欠き接ぎ。中央に径1.8cm程の円孔あり。四方の端部に柄を作り出す。	
第149図	14	骨製品 箆	1面 完形	長 12.0 幅 2.5	厚 0.9 重 15					表面の一部は多孔質で微小な窪みあり。骨が角を削り出したものと思われる。3mm程の円孔あり。端部の使用痕跡顕著。	
第149図	15	櫛	1面 1/2	長 – 幅 –	厚 0.4 重 –				べっこう?	櫛の歯は細く、丁寧に作り出される。べっこう色半透明・繊維質で吸水性を有することから、べっこうと考えられる。	
第155図	1	木製品 漆器	2面 1/3	径 (15.0) 幅 –	厚 – 重 –				散孔材	蓋か。内外面黒漆で仕上げる。	
第160図	1	木製品 漆椀 蓋	表採 1/2	径 – 高 (1.9)	厚 – 重 –				ブナ	内外面黒漆で仕上げる。高台内に赤色漆で文字か、文様を描く。	
第160図	2	木製品 漆椀	表採 一部欠損	径 11.0 高 4.8	厚 – 重 –				ヒノキ	内面赤色漆、外面黒漆で仕上げる。底は非常に厚い。	
第160図	3	木製品 曲物か	表採 不詳	長 16.5 幅 (30.5)	厚 0.4 重 63				スギ	円形の板材。円形の板材。中央に小さな孔あり。曲物の底板か。焼印2カ所があり。1カ所は「前ばし 連雀町 清水拝」。	
第160図	4	木製品 下駄	表採 完形	長 18.0 幅 8.3	高 4.5 重 –				台スギ、歯クリ	差歯下駄、台の形状は隅丸方形。歯は偏減りが顕著。	
第160図	5	木製品 下駄	表採 ほぼ完形	長 14.3 幅 6.8	高 2.7 重 –				スギ	小型の一木下駄。台の形状は隅丸方形。台裏側を方形にくり抜く。台表面の一部に赤色漆が僅かに残る。	

前橋城跡　遺物観察表(金属製品)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm,g)					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第149図	1	銅製品 皿	1号穴群列P3 完形	径 8.9 高 0.7	厚 – 重 35.4					対角線上に、1mm程の円孔4カ所にあり。端部は折り返し、底部は平坦、粹の皿か。	
第165図	130	銅製品 煙管か	3号溝 両端部欠損	長 3.9 幅 0.85	高 0.9 重 2.3					吸口か。遺存状況悪く、詳細は不明。	
第165図	131	金属製品 小柄	3号溝 3層欠損	長 10.1 幅 1.45	高 0.5 重 24.9					柄部分に文様あり。	
第166図	132	銅製品 柄	3号溝 柄	長 8.2 幅 3.0	高 0.7 重 10.2					断面板状、コの字状に屈曲させる。図面左は二重に折り曲げられ、3mm程の円孔あり。円孔と柄につく輪の部分を貫通する付属品があると思われる。灯火具の柄か。	
第166図	133	金属製品 不詳	3号溝 不詳	長 5.2 幅 5.3	高 0.4 重 12.8					断面径は3mm程で円形。輪状の金属製品。	
第167図	2	鉄製品 不詳	5号溝 不詳	長 3.1 幅 2.8	高 0.6 重 4.5					断面は幅5mm、厚さ2mm程の板状。小型輪状の鉄製品。	
第180図	106	銅製品 煙管か	6号溝 端部欠損	長 4.3 幅 0.85	高 0.8 重 4.0					吸口か。遺存状況悪く、詳細は不明。	
第180図	107	銅製品 煙管	6号溝 吸口	長 3.6 幅 0.95	高 0.8 重 1.7					吸口。側面中央付近に接合痕跡。	
第180図	108	銅製品 煙管	6号溝 吸口	長 5.1 幅 1.1	高 0.5 重 4.1					吸口。側面中央付近に接合痕跡。	
第180図	109	銅製品 煙管	6号溝 吸口	長 5.25 幅 1.0	高 1.0 重 7.2					断面八角形の吸口。胴部中央付近に段差あり。側面中央付近に接合痕跡。	
第194図	124	銅製品 煙管	7号溝 火皿欠損	長 5.1 幅 0.8	高 0.8 重 4.5					火皿が欠損した雁首と思われる。接合痕跡あり。	
第194図	125	銅製品 煙管	7号溝 吸口	長 7.0 幅 1.2	高 1.2 重 5.2					吸口。側面中央付近に接合痕跡。	
第194図	126	銅製品 煙管	7号溝 吸口	長 5.2 幅 0.8	高 0.8 重 1.9					吸口。側面中央付近に接合痕跡。	
第194図	127	銅製品 刀 縁頭	7号溝 縁	長 3.2 幅 1.8	高 0.5 重 2.8					縁頭の縁。接合痕跡あり。	
第194図	128	鉄製品 釘	7号溝 ほぼ完形	長 7.4 幅 0.9	高 0.4 重 3.9					頭部薄く伸ばした後、折り曲げて形成。	
第198図	23	鉄製品 火箸か	10号溝 両端部欠損	長 18.0 幅 0.6	高 0.6 重 19.3					断面方形。上部は螺旋状に捻られる。火箸か。	
第111図	109	鉄製品 釘	13号溝西側 両端部欠損	長 4.9 幅 0.4	高 0.4 重 2.5					欠損のため頭部形状は不明。	
第111図	110	鉄製品 釘	13号溝西側 端部欠損	長 4.6 幅 0.7	高 0.4 重 3.6					頭部薄く伸ばした後、折り曲げて形成。	
第116図	11	銅製品 刀 縁頭	17号溝 完形	長 3.25 幅 2.2	高 0.6 重 6.0					縁頭の縁。接合痕跡あり。	
第127図	17	銅製品 煙管	20号土坑 火皿欠損	長 5.2 幅 1.0	高 1.0 重 4.8					雁首。側面中央付近に接合痕跡。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm,g)					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第127図	18	鉄製品 釘	30号土坑 両端部欠損	長	4.0	高	0.5			欠損のため頭部形状は不明。	
				幅	0.5	重	4.7				
第133図	4	銅製品 火箸か	46号土坑 両端部欠損	長	15.2	高	0.5			断面は円形。上端部には溝４条あり、端部に向け尖る。火箸か。	
				幅	0.5	重	12.4				
第136図	1	銅製品 煙管	１号遺物集中 吸口	長	8.9	高	0.9			吸口。側面中央付近に接合痕跡、羅宇の一部が残る。	
				幅	0.9	重	8.7				
第141図	27	銅製品 匙	２号遺物集中 ほぼ完形	長	43.7	高	0.4			断面は薄い板状。両端部に匙がつく。匙部分は、さらに薄い板状となる。	
				幅	3.2	重	156.7				
第141図	28	鉄製品 不詳	２号遺物集中 ほぼ完形	長	36.2	厚	0.8			柄の長い匙状。柄端部には５mm程の円孔あり。板状の金属は付着物であろう。	
				幅	1.6	重	140.8				
第141図	29	鉄製品 不詳	２号遺物集中 ほぼ完形	長	11.5	厚	0.1			柄の長い匙状。柄端部には６mm程の円孔あり。	
				幅	1.7	重	3.0				
第141図	30	金属製品 不詳	２号遺物集中 完形	長	9.1	厚	0.05			断面は非常に薄い板状。鉤の手状の金属製品。柄端部に1.5mm程の円孔あり。	
				幅	1.15	重	1.9				
第142図	31	鉄製品 不詳	２号遺物集中 完形	長	17.2	高	0.65			断面方形。両端部が尖る。S字状、直角に屈曲。	
				幅	0.65	重	40.2				
第146図	1	銅製品 煙管	8号トレンチ 火皿欠損	長	4.6	高	1.0			雁首。側面中央付近に接合痕跡。	
				幅	1.0	重	5.3				
第146図	2	銅製品 煙管	8号トレンチ 吸口	長	9.3	高	1.0			吸口。外面に点描などで文様を描く。器面劣化により詳細は不明。側面中央付近に接合痕跡。	
				幅	1.0	重	8.2				
第149図	16	銅製品 煙管か	１面 端部欠損	長	6.1	高	1.1			吸口と思われる。側面中央付近にＹ字状となる接合痕跡あり。	
				幅	1.1	重	10.6				
第149図	17	銅製品 火箸か	１面 端部欠損	長	16.0	高	0.9			断面六角形、下に向かって円形となる。上端部には、傘状の装飾を施す。火箸か。１面18と同一あるいは同種か。	
				幅	1.0	重	27.8				
第149図	18	銅製品 火箸か	１面 両端部欠損	長	7.1	高	0.35			断面円形。火箸か。１面17と同一あるいは同種か。	
				幅	0.35	重	4.9				
第149図	19	銅製品 火箸か	１面 完形	長	17.2	高	0.4			断面円形。幅広の溝４条あり。上端部には傘状の装飾を施す。火箸か。	
				幅	0.4	重	13.7				
第149図	20	銅製品 火箸か	１面 ほぼ完形	長	22.0	重	32.3			断面おまめ円形。上部に貫通しないと思われる１mm程の円孔あり。上端部には、方形の角を三角形状に面取りした装飾を施す。火箸か。	
				幅	1.0						
第149図	21	銅製品 鏡	１面 完形	長	7.6	高	0.3			鏡背に巨文。中央部分には鈕。鏡の縁断面は方形。鏡背の一部に布付着。	
				幅	7.5	重	39.8				
第149図	22	銅製品 不詳	１面 不詳	長	11.1	高	4.5			菊花状の文様。中央には６mm程の円孔あり。詳細は不明。	
				幅	11.1	重	442.6				
第150図	23	鉄製品 刀	１面 刃部欠損	長	35.8	高	1.4			柄には中子が残る。中子には、木質の一部と目釘と思われるものが遺存。鎬なく、平造りと思われる。	
				幅	2.2	重	276.7				
第155図	2	銅製品 煙管	２面 雁首	長	7.1	高	1.7			雁首。接合痕跡あり。	
				幅	2.3	重	11.0				
第155図	3	銅製品 煙管	２面 火皿欠損	長	5.4	高	1.0			雁首。側面中央付近に接合痕跡あり。	
				幅	1.0	重	6.9				
第155図	4	銅製品 煙管	２面 雁首	長	3.4	高	1.4			雁首。胴部と頸部の境に段差あり。	
				幅	1.9	重	4.3				
第156図	5	銅製品 煙管	２面 吸口	長	4.7	高	1.0			吸口。胴部中央付近に段差あり。溝12条で装飾を施す。	
				幅	1.0	重	8.3				
第156図	6	鉄製品 鉤	２面 一部欠損	長	5.6	高	0.3			棹秤の鉤か。端部は欠損し、詳細は不明。	
				幅	0.7	重	4.3				
第156図	7	金属製品 不詳	２面 不詳	長	11.2	高	0.2			上端部欠損。断面円形の帯状の金属製品。	
				幅	0.8	重	7.9				
第156図	8	鉄製品 釘か	２面 両端部欠損	長	11.5	高	0.8			大型の釘か。欠損のため頭部形状は不明。	
				幅	0.8	重	17.8				
第156図	9	鉄製品 釘	２面 両端部欠損	長	5.4	高	0.7			欠損のため頭部形状は不明。	
				幅	0.5	重	6.0				
第160図	6	金属製品 棹秤	表採 欠損	長	9.1	高	1.5			棹秤の一部か。木質部分(広葉樹・散孔材)は欠損。側面に「キ」の刻書。	
				幅	1.5	重	40.0				

前橋城跡　遺物観察表(銭貨)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(mm,g)					成形・整形の特徴	備考
第48図	2	銭貨 政和通寶	６号建物Ｐ14 完形	縦	24.75	厚	1.17～1.56		北宋、1111年。	
				横	24.68	重	3.13			
第51図	15	銭貨 元符通寶	２号溝 完形	縦	24.22	厚	1.12～1.21		北宋、1098年。	
				横	24.04	重	3.22			
第66図	134	銭貨 寛永通寶	３号溝 完形	縦	24.15	厚	1.09～1.25		古寛永。1636年。	
				横	24.18	重	2.94			
第66図	135	銭貨 寛永通寶	３号溝 完形	縦	24.38	厚	1.04～1.17		古寛永。1636年。	
				横	24.56	重	2.67			
第80図	110	銭貨 元祐通寶	６号溝東側 完形	縦	24.05	厚	1.23～1.29		北宋、1086年。	
				横	24.00	重	2.56			
第80図	111	銭貨 寛永通寶か	６号溝 完形	縦	20.31	厚	1.18～1.27		劣化顕著。	
				横	20.91	重	2.80			
第80図	112	金属製品 寛永通寶	６号溝 完形	縦	25.41	厚	1.20～1.29		新寛永。背面上部に「文」。1668年。	
				横	25.34	重	3.31			
第80図	113	金属製品 煙管	６号溝	縦	－	厚	0.63～1.03		煙管火皿部分を扁平にした、いわゆる「雁首銭」。摩滅顕著。	
				横	1.5	重	1.36			

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(mm,g)				成形・整形の特徴	備考
第80図	114	銭貨 煙管	6号溝	縦	－	厚	－	煙管火皿部分を扁平にした、いわゆる「雁首銭」。	
				横	－	重	2.99		
第94図	129	銭貨 寛永通寶	7号溝 ほぼ完形	縦	22.57	厚	0.95～1.17	新寛永。3期。	
				横	22.54	重	(2.06)		
第98図	24	銭貨 永楽通寶	10号溝 完形	縦	24.83	厚	1.10～1.30	明、1408年。	
				横	24.75	重	2.52		
第98図	25	銭貨 熙寧元寶	10号溝 完形	縦	24.07	厚	0.82～0.92	北宋、1068年。	
				横	24.11	重	1.83		
第111図	111	銭貨 元豊通寶か	13号溝東側 完形	縦	23.24	厚	1.04～1.21	北宋、1078年か。	
				横	23.53	重	2.77		
第111図	112	銭貨 嘉祐元寶か	13号溝東側 完形	縦	24.70	厚	1.22～1.47	北宋、1056年か。	
				横	24.84	重	3.93		
第120図	4	銭貨 永(楽)通寶	2号井戸 2/3	縦	25.33	厚	1.45～1.58	明、1408年。	
				横	－	重	(2.89)		
第131図	14	銭貨 寛永通寶	32号土坑 完形	縦	22.31	厚	0.79～0.88	新寛永。3期。	
				横	22.25	重	1.36		
第145図	8	銭貨 半銭か	4号遺物集中 完形	縦	22.11	厚	1.21～1.43	被熱。1873年か。	
				横	21.99	重	2.90		
第146図	1	銭貨 祥符元寶	9号トレンチ 完形	縦	24.34	厚	1.10～1.30	北宋、1008年。	
				横	24.24	重	2.72		
第146図	2	銭貨 祥符元寶か	9号トレンチ 完形	縦	24.69	厚	1.30～1.44	北宋、1008年か。劣化顕著。	
				横	24.70	重	3.04		
第146図	1	銭貨 大(観)通(寶)か	16号トレンチ 1/2	縦	－	厚	1.03～1.26	北宋、1107年。	
				横	－	重	(1.18)		
第150図	24	銭貨 洪武通寶	1面 ほぼ完形	縦	22.11	厚	1.30～1.58	明、1368年。	
				横	22.08	重	(2.29)		
第150図	25	銭貨 寛永通寶	1面 完形	縦	24.25	厚	1.22～1.35	古寛永。1636年。	
				横	23.99	重	3.01		
第150図	26	銭貨 寛永通寶	1面 完形	縦	22.90	厚	0.90～1.03	新寛永。3期。	
				横	22.99	重	2.18		
第150図	27	銭貨 寛永通寶	1面 完形	縦	23.06	厚	1.01～1.13	新寛永。3期。	
				横	23.06	重	2.52		
第150図	28	銭貨 寛永通寶	1面 完形	縦	23.54	厚	1.06～1.14	新寛永。3期。	
				横	23.51	重	1.89		
第150図	29	銭貨 寛永通寶	1面 完形	縦	24.61	厚	1.31～1.45	新寛永。3期。	
				横	24.71	重	2.97		
第150図	30	銭貨 寛永通寶	1面 完形	縦	22.91	厚	0.94～1.00	新寛永。3期。	
				横	23.20	重	2.24		
第150図	31	銭貨 寛永通寶	1面 ほぼ完形	縦	23.43	厚	1.08～1.15	新寛永。3期。	
				横	22.96	重	(2.06)		
第150図	32	銭貨 寛永通寶	1面 ほぼ完形	縦	22.06	厚	1.04～1.25	新寛永。背面上部に「元」。3期。	
				横	21.93	重	(1.77)		
第150図	33	銭貨 寛永通寶	1面 完形	縦	22.99	厚	1.15～1.24	新寛永。背面上部に「元」か。3期。	
				横	22.91	重	2.34		
第150図	34	銭貨 寛永通寶	1面 完形	縦	28.39	厚	1.10～1.35	四文銭。11波。	
				横	28.28	重	4.24		
第150図	35	銭貨 (文)久永(寶)か	1面 1/2	縦	－	厚	1.07～1.14	四文銭。11波か。	
				横	－	重	(1.40)		
第150図	36	銭貨 不詳	1面 1/3	縦	－	厚	1.05～1.17	劣化顕著。	
				横	－	重	(0.80)		
第150図	37	銭貨 不詳	1面 ほぼ完形	縦	28.13	厚	1.48～1.75	被熱か。劣化顕著。明治初鋳の銅銭と思われる。	
				横	27.83	重	5.94		
第156図	10	銭貨 開元通寶	2面 完形	縦	25.01	厚	1.12～1.35	唐、845年。	
				横	25.08	重	2.81		
第156図	11	銭貨 開元通寶	2面 完形	縦	24.06	厚	0.87～1.20	唐、845年。	
				横	23.70	重	2.70		
第156図	12	銭貨 景德元寶	2面 ほぼ完形	縦	23.95	厚	1.09～1.24	北宋、1004年。	
				横	24.08	重	(2.48)		
第156図	13	銭貨 皇宋通寶	2面 完形	縦	24.64	厚	0.98～1.09	北宋、1038年。	
				横	24.60	重	2.86		
第156図	14	銭貨 熙寧元寶	2面 完形	縦	24.27	厚	1.25～1.40	北宋、1068年。	
				横	24.25	重	2.90		
第156図	15	銭貨 元豊通寶	2面 完形	縦	23.83	厚	1.17～1.24	北宋、1078年。	
				横	23.63	重	2.80		
第156図	16	銭貨 元祐通寶	2面 完形	縦	25.27	厚	1.24～1.34	北宋、1086年	
				横	24.88	重	3.05		
第156図	17	銭貨 洪武通寶	2面 完形	縦	24.50	厚	1.23～1.47	明、1368年。	
				横	24.48	重	3.53		
第156図	18	銭貨 永楽通寶	2面 完形	縦	25.44	厚	1.53～1.86	明、1408年。	
				横	25.19	重	3.70		
第156図	19	銭貨 永楽通寶	2面 ほぼ完形	縦	24.99	厚	1.18～1.39	明、1408年。	
				横	－	重	(2.26)		
第156図	20	銭貨 永楽通寶	2面 ほぼ完形	縦	25.11	厚	1.45～1.69	明、1408年。	
				横	－	重	(2.66)		
第156図	21	銭貨 寛永通寶	2面 完形	縦	22.82	厚	1.06～1.16	新寛永。3期。	
				横	22.70	重	2.59		
第156図	22	銭貨 寛永通寶	2面 完形	縦	28.34	厚	1.14～1.25	四文銭。11波。	
				横	28.34	重	4.54		

前橋城跡　遺物観察表（石製品）

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm,g)					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第48図	3	石製品 不明石製品	4号建物P14 破片	径	1.9	厚	0.6	2.7	流紋岩/緑岩	低い円柱状を呈し、全面を研磨して仕上げる。製作意図不明。	
				幅	–		–				
第48図	4	石製品 砥石	6号建物P14 破片	長	(5.9)	厚	(1.1)	53.0	珪質粘板岩	背面側に粗い線条痕を伴う研磨面があるほか、下端側中央右の折れ面に研磨面が残る。両側縁は敲断後、磨き整形。	切り砥石
				幅	6.0						
第49図	3	石製品 不明石製品	9号建物P3 完形	長	17.0	厚	5.9	1821.8	粗粒輝石安山岩	背面に径7cmの孔を穿つ。孔内面は弱く摩耗する。このほか裏面側の中央付近に径3cmの敲打痕がある。	
				幅	15.0						
第49図	1	石製品 砥石	1号調 ほぼ完形	長	10.5	厚	1.6	86.8	珪質粘板岩	背面側・右側面と下端側小口部に初期の研磨面が残る。裏面側・左側面は破損後に磨き整形。背面側中央が窪く研ぎ減る。	切り砥石 仕上げ砥
				幅	4.2		1.6				
第66図	136	石製品 硯	3号調 1/2	長	(9.0)	厚	2.2	136.4	硯沢石	硯縁に接する陸部に鑿の整形痕が残る。陸部は良く研ぎ減り、浅く窪んでいるが、斑晶が溶脱したような痕跡が多い。	長方硯
				幅	6.1		6.0				
第66図	137	石製品 砥石	3号調 破片	長	(4.7)	厚	1.8	74.5	流紋岩	一面使用。背面側は研ぎ減り、良く使い込まれている。段状の整形痕が各面に残り、再生品であることが明らか。	切り砥石
				幅	5.8						
第66図	138	石製品 砥石	3号調 完形	長	9.0	厚	1.7	66.0	硯沢石	四面使用。各面ともよく使い込まれ、研ぎ減る。右側面は斜向する刈ならし痕が残る。	切り砥石
				幅	3.4						
第66図	139	石製品 砥石	3号調 上半部欠損	長	(8.1)	厚	2.3	82.8	硯沢石	一面使用。背面側は研ぎ減り、良く使い込まれている。背面側を除く各面にタガネ状の整形痕・磨き整形痕を残す。	切り砥石
				幅	3.1						
第66図	140	石製品 砥石	3号調 破片	長	(8.8)	厚	4.5	183.8	点紋粘板岩	二面使用。表裏面とも研ぎ減る。両側縁には破損面を覆う研磨面があり、破損後も使用されたことが確実。	切り砥石
				幅	(4.0)						
第80図	115	石製品 砥石	6号調 破片	長	8.2	高	4.5	83.0	砂岩	表裏面に砥面が残る。砥面は研ぎ減り、本来的な形状は糸巻状を呈したものだろう。背面側砥面に斜向する線条痕が走る。	切り砥石
				幅	(1.7)						
第80図	116	石製品 硯	6号調 ほぼ完形	長	21.5	高	2.9	783.3	淡緑色凝灰岩	良く使い込まれ、陸部は大きく窪む。海部に接せる硯縁に鑿の切先が食い込む。硯側は磨き整形され、細線条痕が残る。	長方硯。2集中32・33と同質
				幅	9.5			783.3			
第95図	130	石製品 硯	7号調 海部破片	長	(5.1)	厚	(1.2)	122.9	頁岩	硯縁に鑿の切先が食い込み、雑な作り。素材は黒色の福状構造を有する。	長方硯
				幅	(3.2)						
第95図	131	石製品 硯	7号調 陸部破片	長	(10.2)	厚	(1.6)	96.8	珪質粘板岩	裏面側に研磨痕が見られ、砥石として再利用したもの。硯面側は剥れ、情報は残されていない。	長方硯？
				幅	5.6						
第95図	132	石製品 硯	7号調 海部破片	長	(6.8)	厚	3.2	174.6	珪質粘板岩	大型品。左側硯縁に近い海部に墨の付いた丁字状の溝がある。硯陸に「時鳥」を刻む。	長方硯
				幅	10.6		2.7				
第95図	133	石製品 砥石	7号調 破片	長	(7.3)	厚	2.7	177.2	頁岩	裏面側を除く各面を使用。背面側砥面は剥落が激しい。両側面とも研磨面を覆い、縦位線条痕が走る。	切り砥石
				幅	5.3						
第95図	134	石製品 砥石	7号調 上半部欠損	長	(6.3)	厚	1.2	65.3	変質デイサイト	三面使用？両側面は光沢に欠けているが、砥面としての可能性あり。小口部には段があり、折断後に粗く磨き整形。	切り砥石
				幅	4.8						
第98図	26	石製品 砥石	10号調 破片	長	(7.9)	厚	2.7	99.7	硯沢石	四面使用。各面とも比較的平坦で、研ぎ減り等は見られない。両側縁の狭い部分が主たる砥面であろう。	切り砥石
				幅	3.3						
第111図	113	石製品 不明石製品	13号調西側 1/2	径	6.0	高	3.1	33.8	軽石	円礫の上下両端を切り取り、上端側を上状に形り徒かたもの。内側面は平滑だが、内底面は凝石打痕が残る。	
				幅	–		–				
第111図	114	石製品 砥石	13号調西側 上半部欠損	長	(8.7)	厚	3.5	118.1	硯沢石	二面使用。幅の狭い表裏面に砥面があり、背面側が著しく研ぎ減る。両側面・小口部にはタガネ状の整形痕が残る。	切り砥石
				幅	2.4						
第111図	115	石製品 砥石	13号調 完形	長	8.7	厚	3.0	91.9	硯沢石	三面使用。表裏面とも激しく使い込まれ、山形に研ぎ減る。右側面は折り取り後、磨き整形。	切り砥石
				幅	3.5						
第111図	116	石製品 砥石	13号調西側 破片	長	(11.1)	厚	(1.7)	84.0	変質デイサイト	一面使用。背面側に砥面が残る他、右側面・裏面側にタガネ状での整形痕が残る。	切り砥石
				幅	4.4						
第111図	117	石製品 砥石	13号調西側 ほぼ完形	長	12.3	厚	2.1	136.6	硯沢石	四面使用。両側面が著しく研ぎ減る。右側面に「上」「丁」「ノ」を刻む。上端部側の小口部にノコギリ痕を残す。	切り砥石 粗砥
				幅	4.0						
第111図	118	石製品 砥石	13号調西側 上端部欠損	長	(13.4)	厚	5.8	433.2	砂岩	四面使用。背面側・右側面側の研摩痕が残り、全体として良く使い込まれている。粗粒石材を用いる。	切り砥石 粗砥
				幅	4.0						
第112図	119	石製品 砥石	13号調西側 破片	長	(9.5)	厚	3.7	130.6	点紋頁岩	二面使用？表裏面に砥面が残る他は、全面が敲状の工具痕により覆われる。右辺側を大きく欠損する。細粒・緻密質石材。	切り砥石
				幅	(3.7)						
第112図	120	石製品 砥石	13号調西側 ほぼ完形	長	8.2	厚	2.6	160.4	硯沢石	下端側小口部を含む五面を使用。本来的には糸巻状を呈する砥石と見られ、破損後も継続使用されたということになろう。	切り砥石
				幅	5.8		6.0				
第112図	121	石製品 石鉢	13号調西側 1/3	口	15.0	底	–	1607.0	二ツ岳石	転石利用の石鉢で、内側全面状に削り出す。内面底部周辺は摩耗が著しい。内面上半が煤ける。	Eタイプ
				高	14.0						
第112図	122	石製品 石鉢	13号調東側 1/2	口	(21.2)	底	(21.3)	5800.0	粗粒輝石安山岩	内面底部は平底で、体部は直立気味に立ち上がる。粗粒石材を用いており、整形は雑に見える。被熱して煤ける。	Aタイプ
				高	17.0						
第112図	123	石製品 石鉢	13号調東側 1/3	口	(26.4)	底	(21.3)	4000.0	二ツ岳石	外面整形は雑で、斬り痕を残す。内面に敲打痕が残されているが、弱く摩耗する。	Bタイプ
				高	14.6		–				
第112図	124	石製品 石鉢	13号調西側 1/5	口	–	底	–	2124.0	粗粒輝石安山岩	底部から体部下半の破片。底径24cm（推定値）を測る大型品で、内面底部は良く摩耗している。	Bタイプ
				高	(12.3)						
第112図	125	石製品 茶臼(下)	13号調西側 1/3	径	18.2	厚	9.2	1138.4	粗粒輝石安山岩	目なし。すり合わせ部は摩耗、よく使い込まれている。挽き手孔1がある。上面部が強く磨き整形されている。被熱。	
				高							
第113図	126	石製品 茶臼(上)	13号調東側 1/2	径	(21.0)	厚	4000.0	粗粒輝石安山岩	放射状に溝を刻み、分画は不規則。挽き手孔2を相対して配置する。胴が弱く張り出した端正な作り。		
				高	13.9						
第113図	127	石製品 茶臼(下)	13号調西側 1/2	径	(17.2)	厚	3999.9	粗粒輝石安山岩	八分画。すり合わせ部のみが摩耗している割に、目の幅部は不明瞭である。受け溝は下臼体部で欠ける。軸穴孔は径1.1cm。		
				高	10.5						
第113図	128	石製品 茶臼(下)	13号調東側 1/3	径	(18.8)	厚	5250.0	粗粒輝石安山岩	八分画。軸穴孔周辺まで摩耗、激しく使い込まれている。上溝1・副溝2に目立っているが、やや不規則である。		
				高	13.5						
第113図	129	石製品 石臼(上)	13号調東側 1/2	径	(30.6)	厚	7950.0	粗粒輝石安山岩	六分画？すり合せ部は摩耗が著しい。分画諸が痕跡程度であることを踏まえれば、相当に使い込まれたことがわかる。軸受孔1・供給孔1・挽き手孔2がある。被熱して煤ける。		
				高	14.7						

挿図 PL.No.	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値(cm,g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第114図	130	石製品不明石製品	13号溝東側 完形	高 13.8 幅 21.0	厚 3.8 重 7350.0			二ツ岳石	地輪を転用した用途不明の石製品で、上下面に孔1を穿つ。孔内面は軽く磨き整形されている。裏面側の孔は浅く、地輪本来の整形痕という可能性も否定できない。	
第114図	131	石製品不明石製品	13号溝東側 完形	高 18.0 幅 25.7	厚 7.0 重 16050.0			二ツ岳石	地輪を転用した用途不明の石製品で、上下面に孔1を穿つ。孔内面は軽く磨き整形されている程度である。	
第114図	132	石製品地輪	13号溝西側 ほぼ完形	高 16.5 幅 24.3	厚 7.5 重 14200.0			粗粒輝石安山岩	成形はやや歪。底面を除き細いタガネ状工具による面整形痕等の刺突痕を残す。部分的に剥落はあるものの風化による摩滅はなかった。	
第115図	9	石製品硯	15号溝 陸部破片	長 (7.6) 幅 5.2	厚 1.5 重 96.7			頁岩	小型で、陸部に残る硯縁は高さ2mmと低い。左硯側に「口」、右硯側に「口」を刻む。	長方硯
第116図	12	石製品紙石	17号溝 破片	長 (5.1) 幅 2.6	厚 2.5 重 55.3			紙沢石	一面使用。背面側を除く各面に整状工具による整形痕を残す。	切り紙石
第116図	13	石製品紙石	17号溝 完形	長 9.7 幅 4.8	厚 4.8 重 231.9			紙沢石	三面使用。各面とも著しく研ぎ減る。本来的形状は逸していなが、裏面側は部分的に摩耗、磨耗使用されたことが確認。	切り紙石
第117図	14	石製品不明石製品	17号溝 完形	長 14.0 幅 18.6	高 8.8 重 1566.8			二ツ岳石	背面側に長軸10.4・短軸9.1・深さ3.8cmの孔を穿つ。孔内面は平滑。裏面側は平坦に敲打、円形(径4cm程)に浅く窪む。	
第117図	15	石製品茶臼(下)	17号溝 1/2	径 (19.2) 高 14.4	重 6850.0			粗粒輝石安山岩	すり合わせ部は摩耗、よく使い込まれている。外面受け部より下半分被熱して煤付る。	
第117図	16	石製品石臼(上)	17号溝 破片	径 (37.2) 高 17.1	重 6200.0			粗粒輝石安山岩	分画数不明。すり合わせ部は摩耗が激しく、同心円状の線条痕が付く。挽き手孔は外に張り出す「つくりつけ式」。被熱。	
第117図	17	石製品板碑片	17号溝 破片	長 (14.6) 幅 (8.9)	厚 1.4 重 (3.4)			緑色片岩	やや粗い薬研彫りによる紀年銘の一部「未　二月」が残る。碑面の水磨きはなく、裏面は剥落する。	
第117図	18	石製品板碑片	17号溝 破片	長 (18.6) 幅 (8.2)	厚 1.7 重 367.8			緑色片岩	薬研彫りによる阿弥陀二尊種子の縦方「サ」のみ残る。脇侍下の蓮座はなし。碑面はやや摩滅し、裏面は剥落する。	
第118図	19	石製品火輪	17号溝 完形	高 17.7 幅 27.6	重 17100.0			粗粒輝石安山岩	丁寧な成・整形。隅棟はあまり反らず、上面の孔は方形を呈する。全体に面成形時の細いタガネ状工具による刺突痕を残す。風化による摩滅は少なく、正面に五輪種子の「ラ」の墨書が残る。	
第118図	20	石製品水輪	17号溝 完形	高 15.0 径 21.9	重 7550.0			二ツ岳石	成形はやや歪。全面にタガネ状工具による面整形時の刺突痕を残す。部分的に剥落はあるものの風化による摩滅は少ない。	
第118図	5	石製品硯	19号溝 陸部破片	長 (4.6) 幅 6.8	厚 1.5 重 46.3			淡緑石凝灰岩	下端側硯縁に接する陸部に溝状の凹部が残る。左辺硯縁には片子状の整形痕があるほか、硯側外面下端側や右辺側には線条痕を伴う研磨面が残る。	長方硯
第119図	1	石製品紙石	22号溝 両端部破損	長 (13.9) 幅 (7.5)	厚 (5.8) 重 423.8			粗粒輝石安山岩	六面からなる。左辺側に縦位の深い線条痕がある。やや軟質の多孔質石材を用いる。	多面体紙石
第119図	2	石製品石鈴	22号溝 1/2	口 (7.4) 高 14.3	底 (12.0)×(12.5) 重 2750.0			二ツ岳石	外形を方形に整え、径7.4cmの孔を穿つ。孔内面は弱く摩耗している。孔内面上半部の敲打痕は新鮮で、時間差がある。外面は丁寧に磨き整形されている。	Cタイプ
第119図	3	石製品空風輪	25号溝 ほぼ完形	高 (20.7) 径 16.2	重 3439.4			軽石	部分的に面成形時の細いタガネ状工具による縦方向の連続刺突痕を残す。やや風化による摩滅大。	
第120図	4	石製品紙石	3号井戸 完形	長 5.0 幅 3.5	厚 2.4 重 51.1			紙沢石	四面使用？背面側紙面には横位線条痕が残る。裏面側・下端側小口部に破損後の整形痕がある。裏面側を主体に煤付る。	切り紙石
第121図	12	石製品紙石	4号井戸 上半部欠損	長 (10.2) 幅 4.3	厚 3.2 重 175.3			紙沢石	四面使用。各面とも研ぎ減り、形状は糸巻状を呈する。下端側小口部にタガネ状の工具痕が残る。	切り紙石
第121図	3	石製品石鈴	5号井戸 1/4	口 — 高 (12.2)	重 8500.0			粗粒輝石安山岩	底径23cmを測る大型品。体部外面には縦位整形痕が残る。内面底部周辺は摩耗が著しい。外面底部を除き被熱して煤付る。	Bタイプ
第121図	4	石製品茶臼(下)	5号井戸 4/5	径 18.2 高 12.4	重 11000.0			粗粒輝石安山岩	すり合わせ部は激しく摩耗、よく使い込まれている。被熱して煤付る。軸穴孔を通り器体を二分するように匕型割ており、被熱破損の在り方を示唆している。	
第121図	5	石製品茶臼(下)	5号井戸 破片	長 12.5 幅 11.7	厚 6.1 重 1222.7			粗粒輝石安山岩	茶臼を転用した用途不明の石製品で、裏面側に径8cm程の孔を穿つ。孔内面は概して平滑である。	
第122図	6	石製品石臼(上)	5号井戸 4/5	径 (30.0) 高 9.0	重 4600.0			粗粒輝石安山岩	分画は不規則で、不明瞭。著しく片減り、初期の挽き手孔は摩耗して孔の下半を塞いでいる。彫り直した挽き手孔は破損部に想定されよう。被熱して煤付る。	
第122図	7	石製品石臼(上)	5号井戸 4/5	径 31.2 高 11.5	重 8800.0			粗粒輝石安山岩	分画は不規則で、不明瞭。著しく片減り、挽き手孔を刻み直し、使用している。被熱破損、煤付る。	
第122図	8	石製品不明石製品	5号井戸 完形	長 17.5 幅 21.4	厚 13.8 重 4350.0			二ツ岳石	背面側に径11.0cm・深さ4.8cmの、裏面側に径9.2cm・深さ4.0cmの孔を穿つ。孔内側面は平滑だが、底部には敲打痕が残る。	
第123図	3	石製品空風輪	7号井戸 完形	高 29.1 径 18.0	短径 (16.0) 重 7950.0			粗粒輝石安山岩	成形はやや歪。全面に細いタガネ状工具による面整形時の刺突痕を残す。部分的に剥落はあるものの風化による摩滅は少ない。	
第123図	2	石製品石鈴	9号井戸 1/4	長 (12.8) 幅 (20.8)	高 14.4 重 1911.8			二ツ岳石	内面底部に接して被があるほか、内側面にも同様の被がある。外形は不明だが、全体として方形を呈するだろう。外面底部には整状の整形痕が残る。	Dタイプ
第123図	3	石製品地輪	9号井戸 1/4	高 16.2 幅 24.2	重 13000.0			二ツ岳石	丁寧な成・整形。底面を除き、一部に極めて細い線条の工具痕を残す以外全面研摩。正面に五輪種子「アア」、その左右に造立趣旨と紀年銘が墨書されているが、「□月九日」以外は判読不能。	
第128図	4	石製品紙石	27号土坑 破片	長 (3.5) 幅 3.6	厚 (1.9) 重 32.8			珪質粘板岩	二面使用？表裏面に粗い線条痕が残る。小口部・右側面にノコギリ状の裁断痕が残る。被熱破損した紙石を再利用した。	切り紙石

挿図 PL.No.	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値(cm,g)					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第129図	8	石製品 砥石	31号土坑 完形	長	2.5	厚	3.4	193.3	デイサイト	四面使用？幅の狭い方の表裏面を主に使用。両側面の使用は稀で、部分的である。石側面にタガネ状の整形痕が残る。	切り砥石
第131図	15	石製品 砥石	32号土坑 完形	長	4.1	厚	2.1	55.5	流紋岩	四面使用。各面ともよく研ぎ減る。上端側は破損したため、面取り整形されている。	切り砥石
第131図	16	石製品 石臼(上)	32号土坑 1/2	径	(30.0)	重	7200.0	かこう岩	八分画。溝は痕跡程度に残り、ある程度まで使い込まれたものだろう。被熱して赤化、煤けたように見える。	火輪を転用して円孔を両側穿孔した用途不明の石製品。孔内面の上半側が平滑だが、下半側は粗跡を残す。裏面側は平坦に整形され、火輪の原型が失われている。	
第131図	17	石製品 不明石製品	32号土坑 完形	長	19.6	高	14.2	6550.0	粗粒輝石安山岩	現代暮石かレンズ状を呈するのに対してやや平坦。裏面側にアバタ状の剥落痕。	切り砥石
第133図	2	石製品 暮石	39号土坑 完形	径	2.3	厚	0.5	3.9	頁岩	一面使用。背面側は弱く研ぎ減る。裏面側は平ノミにより整形され、その断面形状は全体として薄紙状を呈する。	切り砥石
第134図	1	石製品 砥石	5号集石 両端部欠損	長	(8.9)	厚	2.8	134.7	砥沢石	四面使用。表裏面が著しく研ぎ減る。下端側小口部には整状の工具痕が残る。サイズ的には置き砥石とされよう。	切り砥石
第135図	4	石製品 砥石	7号集石 上半部欠損	長	(10.4)	厚	6.8	701.3	流紋岩	四面使用。表裏面が著しく研ぎ減る。下端側小口部には整状の工具痕が残る。	切り砥石
第135図	2	石製品 石臼(上)	8号集石 1/4	径	(32.0)	重	13000.0	粗粒輝石安山岩	分画数は不明。同心円状の条痕が著しいが、部分的に溝が残る。挽き手孔は外に張り出す「つくりつけ式」。		
第136図	7	石製品 砥石	1号池 破片	長	(5.1)	厚	(2.8)	48.7	流紋岩	四面使用。裏面側を除いた各面が研ぎ減る。	切り砥石
第136図	2	石製品 石鉢	1号遺物集中 1/2	口	(22.8) ×	底	–	3077.7	軽石	転石利用の石鉢で、平底状の底部から直立気味に体部が立ち上がる。内面底部は粗く磨かれているが、外面整形は雑である。	Dタイプ
第142図	32	石製品 硯	2号遺物集中 ほぼ完形	長	13.8	厚	2.2	335.0	淡緑色凝灰岩	縁に接した陸や海部、硯側には砥石を用いた線条痕が残る。	長方硯。6溝116・2集中32と同質。
第142図	33	石製品 硯	2号遺物集中 ほぼ完形	長	15.2	高	2.2	354.0	淡緑色凝灰岩	陸中央は著しく磨り減る。陸部には細溝が刻まれているが、これは墨を下ろすためのものか。縁に接した陸・海部や硯側には線条痕に似た整形痕が残る。	長方硯。6溝116・2集中33と同質。
第144図	19	石製品 砥石	3号遺物集中 両端部欠損	長	(8.1)	厚	2.7	119.2	砥沢石	四面使用。各面ともよく研ぎ減り、その形態は山形に近付いている。	切り砥石
第145図	9	石製品 砥石	4号遺物集中 両端部欠損	長	(14.8)	厚	3.2	223.2	ホルンフェルス	一面使用。背面側のみ砥面とされている。左側面・裏面側に整形・整形痕が残る。右側面は別理由で破損。	切り砥石
第145図	10	石製品 暮石	4号遺物集中 完形	径	2.3	厚	0.6	4.6	頁岩	現代暮石がレンズ状を呈するのに対してやや平坦。	
第146図	2	石製品 硯	1号瓦だまり 陸部破片	長	(6.2)	厚	(1.9)	76.4	頁岩	下端側硯縁に接した陸部に整の工具痕が残る。硯側は砥石を用いた磨き整形。	長方硯
第146図	2	石製品 砥石	16号トレンチ 下半部欠損	長	(6.3)	厚	2.6	64.1	砥沢石	一面使用？表裏面に上方る砥面がある。両側面には整の整形痕が残り、部分的に使用された程度か。	切り砥石
第147図	3	石製品 砥石	16号トレンチ 完形	長	12.6	厚	2.8	135.1	砥沢石	三面使用。左側面を除く研ぎ減り、器体は大きく抉れている。左側面は折断後、平整を用いて整形されている。	切り砥石
第150図	38	石製品 暮石	1面 完形	径	2.3	厚	0.5	3.5	頁岩	現代暮石がレンズ状を呈するのに対してやや平坦。背面側はアバタ状に剥落。	
第150図	39	石製品 暮石	1面 完形	径	2.3	厚	0.5	3.8	頁岩	現代暮石がレンズ状を呈するのに対してやや平坦。エッジは潰れ研ぎ出されている。	
第151図	40	石製品 硯	1面 陸部破片	長	(4.8)	厚	0.6	22.4	頁岩	小型品で、陸部に残る硯縁は高さ1mmと低い。左硯側に「口」、右硯側に「冂」を刻む。	長方硯
第151図	41	石製品 硯	1面 海部破片	長	(3.3)	厚	1.2	22.0	頁岩	海部に接する硯縁には整の整形痕が残り、整形は雑。硯側は磨き整形されているが、細い線条痕が残る。	長方硯
第151図	42	石製品 硯	1面 陸部破片	長	(4.2)	厚	2.4	87.0	変質デイサイト	陸部は使い込まれ、浅く窪む。硯側は平滑に磨き整形。斑晶が溶解したような痕跡がアバタ状にある。	長方硯
第151図	43	石製品 硯	1面 陸部破片	長	(6.4)	厚	(1.7)	154.8	頁岩	破損後硯縁を意図的に打ち欠き、砥石として再利用されたものか。下端側硯側は光沢があるのに対し、左右硯側は線条痕が付き光沢は乏しい。裏面側には「松陰軒」「凵」の線刻がある。	長方硯
第151図	44	石製品 硯	1面 陸部破片	長	(10.0)	厚	(1.4)	129.9	珪質粘板岩	陸部は大きく窪み、良く使い込まれている。裏面側は両側縁を残し粗り出されているが、その加工意図については不明。	長方硯
第151図	45	石製品 砥石	1面 完形	長	4.6	厚	1.5	17.1	砥沢石	小口部両端を含む六面が使用されている。小型だが、各面とも使い込まれている。背面側に深い刃なども傷がある。	切り砥石
第151図	46	石製品 砥石	1面 完形	長	7.3	厚	2.6	112.9	変質デイサイト	四面使用。背面側の肉厚部・左側面・下端側小口部に刃なども傷。裏面側は浅く研ぎ減る。上端小口部は破損後、磨き整形。	切り砥石
第151図	47	石製品 砥石	1面 ほぼ完形	長	(10.5)	厚	2.3	69.2	流紋岩	四面使用。表裏面とも激しく研ぎ減り、その断面形状は山形を呈している。	切り砥石
第151図	48	石製品 砥石	1面 下半部欠損	長	(5.4)	厚	1.0	52.2	珪質粘板岩	一面使用。背面側砥面に斜位の粗い線条痕がある。側面・小口部は磨き整形。裏面側は平坦による整形後、磨き整形。	切り砥石 仕上げ砥
第151図	49	石製品 砥石？	1面 上半部欠損	長	(14.3)	厚	5.4	547.7	流紋岩	全面が平坦の整形痕で覆われる。形態的には置き砥石だが、砥面が準備されていないものが消費地にあるとは思えず、砥石とするのが妥当か。判断できない。	切り砥石？
第151図	50	石製品 砥石	1面 上半部欠損	長	(7.8)	厚	2.5	121.6	変質デイサイト	三面使用。表裏面ともよく使い込まれ、研ぎ減る。左辺は研ぎ減りに磨き整形。下端側小口部には整状の工具痕がある。	切り砥石
第152図	51	石製品 砥石	1面 完形	長	27.0	厚	6.0	8200.0	粗粒輝石安山岩	石造物(石幢または石殿の屋蓋部か。側面中央付近の切り込みから、宝筐印塔の笠欠損を持つ中古部の可能性もある)を砥石として転用したもの。砥面は浅く研ぎ減る。	転用砥石
第152図	52	石製品 石鉢	1面 1/3	口	9.8	底	–	2600.0	二ツ岳石	内面底部は平底に近く、体部は外反気味。口唇部は丸る。最大径が体部中ほどにある。内外面とも粗く磨き整形。被熱。	Bタイプ

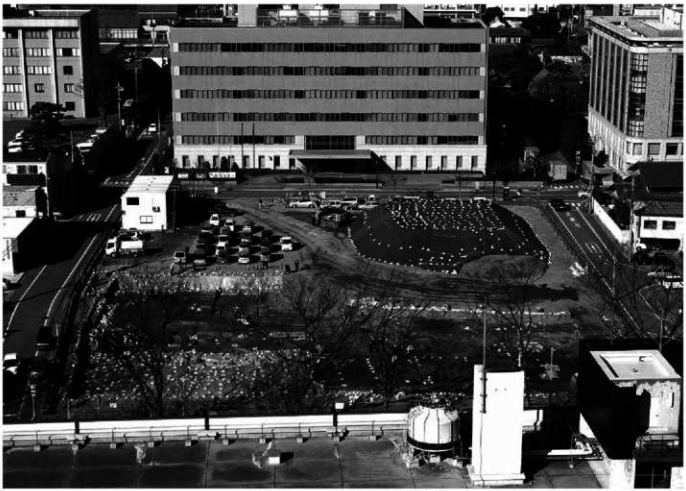
挿図 PL.No.	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値(cm,g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第152図	53	石製品 石鉢	1面 1/3	口 高	23.0 (17.5)	底 重	－ 3800.0	二ツ岳石	内面は磨状を呈し、体部中程に最大径がある。内外面とも粗く磨き整形されているが、外面には部分的には斫り痕が残る。	A タイプ
第152図	54	石製品 茶臼(下)	1面 1/3	径 高	(20.0) 11.7	重	4230.0	粗粒輝石安山岩	八分画、軸孔穴周辺まで摩耗、よく使い込まれている。副溝10を刻む。軸穴孔は袋状を呈し、上面側で径2.2cm程度。	
第152図	55	石製品 石臼(下)	1面 完形	径 高	39.3 16.2	重	21700.0	粗粒輝石安山岩	六分画、すり合わせ部は弱く摩耗しているが、上部は、主・副溝は新鮮。裏面側に固定用の溝(幅7cm)を十字に刻む。裏面側に粗い工具痕が残されているが、軸穴孔周辺の整形は丁寧。	
第153図	56	石製品 石臼(上)	1面 ほぼ完形	径 高	38.4 16.2	重	21600.0	粗粒輝石安山岩	六分画。副溝は新鮮・不規則で7～9本を刻む。すり合わせ部の摩耗は乏しい。挽き手孔は外に張り出す「つくりつけ式」。	
第153図	57	石製品 石臼(下)	1面 完形	径 高	61.5 16.4	重	79300.0	粗粒輝石安山岩	六分画。すり合わせ部は幅8cmが弱く摩耗する程度で、使用頻度は低い。裏面側には箱状の溝(幅6cm)が十字に切られている。角材等で固定、使用されたものだろう。	
第154図	58	石製品 空風輪	1面 ほぼ完形	高 径 径	(24.0) 17.4	短径 重	15.6 7300.0	粗粒輝石安山岩	大型。成形は歪なから、比較的丁寧な面整形を施す。下端部突起は欠失する。	
第154図	59	石製品 空風輪	1面 ほぼ完形	高 径	(18.0) 16.0	重	3750.0	二ツ岳石	粗雑な成・整形。下端は火輪接続部の突起を持たず、浅く窪状に穿む。全体に磨滅甚大。	
第154図	60	石製品 不明石製品	1面 ほぼ完形	高 幅	13.5 22.2	厚 重	－ 5350.0	粗粒輝石安山岩	火輪を転用してその上面に径10cm・深さ4.4cmの孔を穿つ。孔内面は磨き整形されている。正面屋根部傾斜が火輪本来のものと見られ、傾斜の強い他の屋根部は内整形されたものだろう。	
第154図	61	石製品 水輪	1面 ほぼ完形	高 径	16.2 30.3	重	17900.0	粗粒輝石安山岩	成形はやや歪。全面にタガネ状工具による刺突痕が残る。上下面を除き、やや摩滅する。	
第154図	62	石製品 地輪	1面 完形	高 幅	17.4 25.2	重	17250.0	粗粒輝石安山岩	成形はやや歪なから、丁寧な面整形を施す。底面を除き細いタガネ状工具による縦方向の連続刺突痕を残す。種子・梵字銘なし。	
第155図	63	石製品 不明石製品	1面 完形	長 幅	33.2 20.8	厚 重	20.4 20800.0	粗粒輝石安山岩	上面に丁字型の溝を切る。楕円礫を大別して体部を柱状に整えたあと、上端から3cmほど角柱状に整形する。上面・上端側には平ノミ状の工具痕が明瞭に残る。	
第155図	64	石製品 不明石製品	1面 完形	長 幅	53.4 17.2	厚 重	18.8 18900.0	粗粒輝石安山岩	上面に丁字型の溝を切る。扁平楕円礫を大別して体部を柱状に整えたあと、上端から15cmほど角柱状に整形する。上面・上端側には平ノミ状の工具痕が残る。	
第157図	23	石製品 硯	2面 4/5	長 幅	(12.0) 6.1	厚 重	(2.1) 213.9	シルト岩	表裏面に硯面がある。裏面側が切断の、背面側が廃棄時の硯面で、廃棄時の海部は浅く小さい。裏面側には幅の深い研磨溝が残り、硯石として転用。幅2寸の長方硯だが、上端は変形する。	長方硯
第157図	24	石製品 硯石	2面 破片	長 幅	(5.2) (4.9)	厚 重	2.7 29.1	ホルンフェルス	背面側に粗い平ノミ状の工具痕がある。左側面の整形は平ノミ状の工具によるものか。小口部には工具不詳の切断痕が残る。	
第157図	25	石製品 硯石	2面 下半部欠損	長 幅	(6.6) 5.3	厚 重	2.5 145.6	流紋岩	一面使用。背面側に浅い凝位線条痕が差しい。右側面は硯石による磨き整形。小口部・裏面側は平整の整形痕が残る	切り硯石
第157図	26	石製品 硯石	2面 下端側欠損	長 幅	(9.4) 4.5	厚 重	1.4 109.1	珪質粘板岩	二面使用。背面側に凝位・斜位の刃なら傷(幅1mm前後)。裏面側硯面は剥落が激しい。小口部・側面は平ノミ整形了	切り硯石 仕上げ硯
第157図	27	石製品 硯石	2面 1/2？	長 幅	(6.1) 5.9	厚 重	0.6 32.5	流紋岩	一面使用。裏面側に平整の整形痕・粗い線条痕。小口部・右側面は工具による面取り。左側面は硯石による粗い磨き整形。	切り硯石 仕上げ硯
第157図	28	石製品 硯石	2面 破片	長 幅	(8.6) (6.2)	厚 重	1.5 89.3	シルト岩	一面使用。下端側に凝位の刃ならし傷が残る。裏面側・小口部は平ノミによる整形後、磨き整形。	切り硯石 仕上げ硯
第157図	29	石製品 硯石	2面 ほぼ完形	長 幅	(11.3) 4.7	厚 重	2.2 121.3	硅沢石	二面使用。背面側は山形に研ぎ減る。破損後に裏面側中央棟の左を硯面とする。断面三角形状。右側面に内至硯面が残る。	切り硯石
第157図	30	石製品 硯石	2面 上半部欠損	長 幅	(10.3) 4.1	厚 重	1.8 126.0	硅沢石	四面使用？表裏面とも よく研ぎ減る。右側面は破損後に、磨き整形されている。	切り硯石
第158図	31	石製品 硯石	2面 上半部欠損	長 幅	(18.4) 8.2	厚 重	6.4 1562.5	砂岩	四面使用。裏面側を除いて激しく使い込まれ、研ぎ減る。裏面側は分別面を残しているが、刃なしし傷を伴う研磨面がある。	切り硯石
第158図	32	石製品 茶臼(上)	2面 破片	径 高	(20.1) 11.7	重	1130.2	粗粒輝石安山岩	分画数不明。すり合わせ部は良く摩耗、激しく磨り減る。挽き手孔は丸型の飾り付き。多孔質石材を用いる。	
第158図	33	石製品 茶臼(上)	2面	径 高	(20.1) (11.4)	重	834.7	粗粒輝石安山岩	八分画。磨り合わせ部は良く摩耗、激しく磨り減る。挽き手孔は部分的で詳細な意匠は不明だが、花菱種の加飾を施す。軸穴孔は袋状を呈し、孔の上面側は径2cm程度。多孔質石材。	
第158図	34	石製品 茶臼(上)	2面 1/4	径 高	(19.0) (10.7)	重	1956.1	粗粒輝石安山岩	分画数不明。すり合わせ部は良く摩耗、激しく磨り減る。挽き手孔は丸型の飾り付き。軸穴孔は袋状、孔上面側は径2.4cmを測る。多孔質	
第158図	35	石製品 石臼(下)	2面 ほぼ完形	径 高	34.1 14.1	重	16600.0	粗粒輝石安山岩	八分画？目が切り直され、新旧の溝が連結されたように見える。すり合わせ部の摩耗は顕著で、大きく偏減る。	
第159図	36	石製品 石臼(上)	2面 2/3	径 高	35.8 15.9	重	21500.0	粗粒輝石安山岩	分画は変則・不均等だが、本来的には六分画とすべきだろう。良く使い込まれ、すり合わせ部は良く摩耗する。軸受孔・供給孔・挽き手孔・外縁に貫通する小孔2がある。上臼上縁は平坦に打ち欠かれ、意図的である。	
第159図	37	石製品 板碑	2面 破片	長 幅	(45.2) (8.3)	厚 重	3.8 3414.1	緑色片岩	梁頭尾りの主尊トリークと脇侍の一部が残る。二条線なし。碑面は丁寧な水磨き、裏面は幅6mm程の平ノミ状工具痕が残る。	
第159図	38	石製品 火輪	2面 ほぼ完形	高 幅	12.9 26.1	重	13000.0	粗粒輝石安山岩	成形は、やや歪んでいる。軒はやや反り上がる。整形は細いタガネ状工具による縦方向の連続刺突痕を残す。	

報告書抄録

書名ふりがな	まえばしじょうあと
書　　名	前橋城跡
副 書 名	前橋地方合同庁舎(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	580
編著者名	黒澤照弘
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20140217
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	まえばしじょうあと
遺 跡 名	前橋城跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししおおてまち
遺跡所在地	群馬県前橋市大手町
市町村コード	10201
遺跡番号	00308(古代・中世)・00546(近世)
北緯(世界測地系)	362327
東経(世界測地系)	1390349
調査期間	20121201-20130329
調査面積	2245
調査原因	前橋地方合同庁舎(仮称)整備
種　　別	城郭／その他
主な時代	中世／近世
遺跡概要	古代－土師器・須恵器－中世－溝３＋井戸５＋土坑１－陶磁器・在地系土器－中世～近世初頭－溝４＋土坑１－中世末～近世－建物13＋柵２＋溝11＋井戸６＋土坑３＋ピット22＋列石１－近世以降－建物２＋溝５＋土坑43＋集石９＋池１＋遺物集中５＋瓦だまり２－陶磁器・在地系土器＋漆器・木製品・骨角器＋金属器＋銭貨＋石製品
特記事項	近世前橋城外曲輪、「十人小路」及び屋敷跡の調査。
要　　約	前橋城跡は群馬県庁の東側、近世前橋城の外曲輪に位置する。調査では石組みの溝が検出され、絵図や出土遺物等から、車橋門より三の門へと続く道「十人小路」の側溝と判断された。他にも城内の屋敷跡や中世の道状遺構と思われる溝を検出している。遺物では陶磁器の出土量が多く、中近世の貿易陶磁器、瀬戸・美濃系陶磁器、肥前系陶磁器の他に、信楽壺、鍋島焼、珉平焼、前橋藩窯製品等が確認された。

写 真 図 版

1　前橋城跡周辺　南→　左手には群馬会館が見える

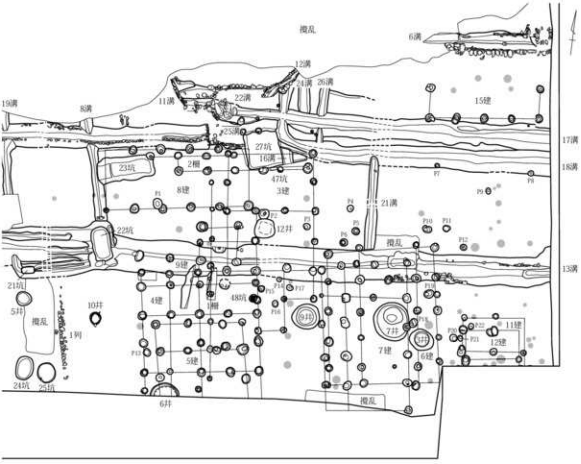


2　前橋城跡　南→　写真奥は前橋地方検察庁

1　前橋城跡 確認面１面　上が北

2　前橋城跡 確認面２面　上が北

1　前橋城跡２面東側 建物跡出土状況　上が北



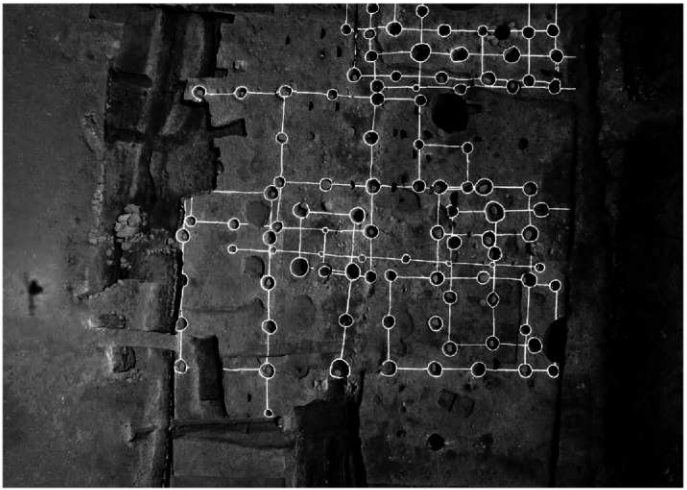
1　1・2号建物　上が北

2　1・2号建物　西→

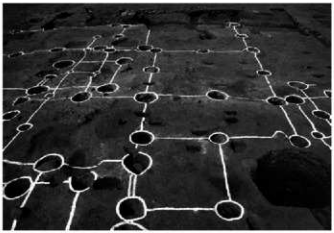
3　前橋城跡２面西側 建物跡出土状況　左手が北

4　13・14号建物　北→

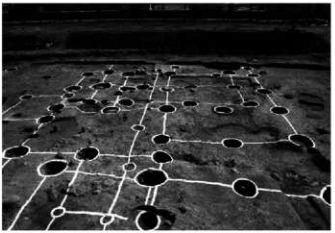
5　10号建物　東→



1　3～5・9号建物、1号柵　左手が北



2　3号建物　南→



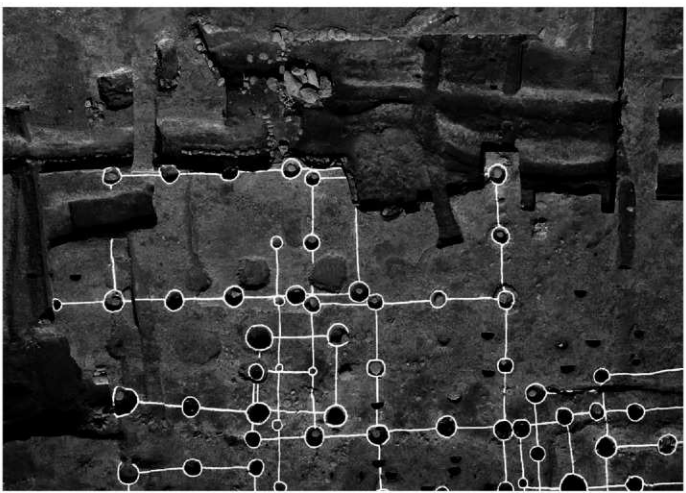
3　4号建物　北→

4　3号建物P17 遺物出土状況　東→

5　3号建物P16　北→

1　4号建物P23　東→

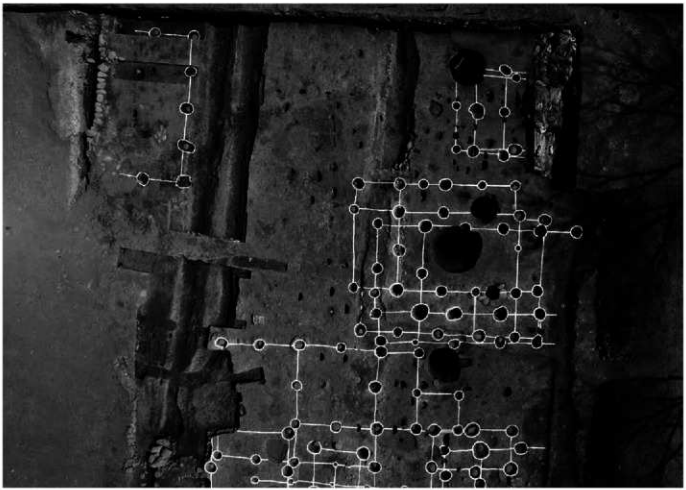
2　4号建物P14　北→



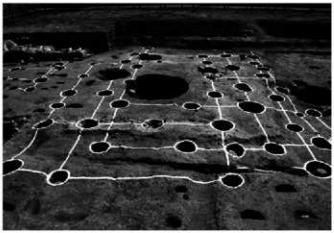
3　3・8号建物、11・12・16・22・24～26号溝、27号土坑　上が北

4　8号建物　西→

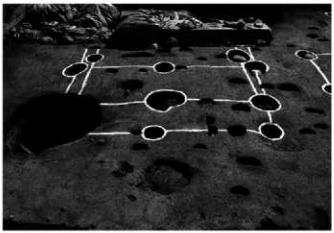
5　8号建物P4　西→



1　6・7・11・12・15号建物　左手が北



2　6・7号建物　北→



3　11・12号建物　北→

4　15号建物　東→

1　2号溝　東→　写真奥は群馬会館、群馬県庁

2　2号溝　西→

3　2号溝セクション　東→

4　十人小路南側セクション　東→

5　十人小路北側セクション　東→

1　3・6号溝（十人小路）　東→

2　3・6号溝（十人小路）　東→　写真奥は群馬会館

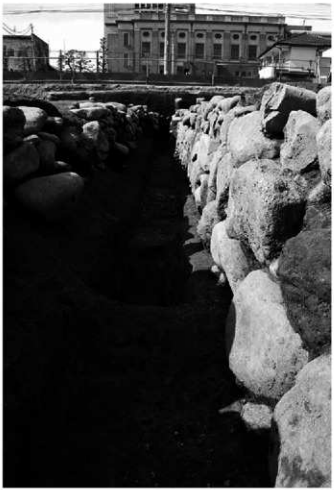
3　3・6号溝（十人小路）　東→　写真奥は群馬県庁

4　3号溝（十人小路北側の側溝）　東→

1　6号溝（十人小路南側の側溝）　東→　写真奥は群馬県庁

2　6号溝　西→

3　6号溝石組み　西→　南側（写真右手）と比べ、北側の石組みは丁寧に積まれている



1　6号溝石組み　東→

2　6号溝北側の石組み　南→　西側より①

3　6号溝北側の石組み　南→　西側より②

4　6号溝北側の石組み　南→　西側より③

5　6号溝北側の石組み　南→　西側より④

6　6号溝北側の石組み　南→　西側より⑤

7　6号溝北側の石組み　南→　西側より⑥

1　6号溝南側の石組み　北→　西側より①

2　6号溝南側の石組み　北→　西側より②

3　6号溝南側の石組み　北→　西側より③

4　6号溝南側の石組み　北→　西側より④

5　6号溝南側の石組み　北→　西側より⑤

6　6号溝南側の石組み　北→　西側より⑥

7　6号溝南側の石組み　北→　西側より⑦

8　6号溝南側の石組み　北→　西側より⑧

1　6号溝底部　西→

2　6号溝底部　上が南　土坑状の掘り込み

3　6号溝底部　上が南

4　6号溝　北→　溝内、石の集石状況

5　6号溝東部分　東→

6　6号溝東部分　南側の石組み　北→

7　6号溝東部分　南側の石組み　北→

1　3・6号溝、10・13・15・17・18号溝　西→

2　6・13・17・18号溝　西→　写真奥は前橋城東橋門跡

3　10号溝セクション　西→

4　13号溝セクション　東→

5　13号溝石組み　北西→

1　1号溝　北→

2　4号溝　南→

3　5号溝　南→

4　15号溝　東→

5　15号溝石組み　南西→

1　19号溝　南→

2　21号溝　南→

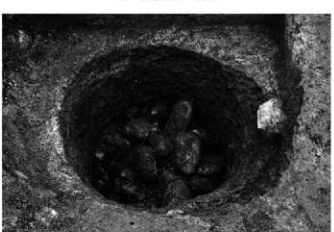
3　22号溝　東→

4　23号溝　南東→

5　2号井戸　東→

6　3号井戸　北→

7　4号井戸　東→



8　5号井戸　南→

1　6号井戸　北→

2　7号井戸　南→

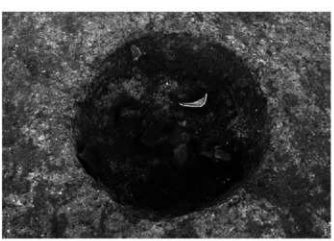
3　8号井戸　北→

4　9号井戸　東→

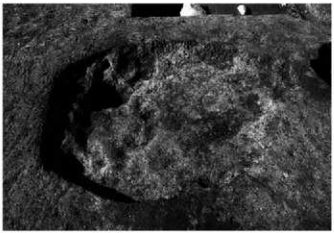
5　10号井戸　北→

6　11号井戸　西→

7　12号井戸　南→



8　1号土坑　南→



1　5号土坑　東→

2　6号土坑　東→

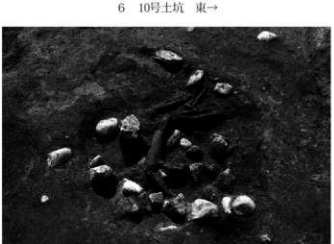
3　7号土坑　西→

4　8号土坑　西→

5　9号土坑　南→

6　10号土坑　東→

7　12号土坑　北→

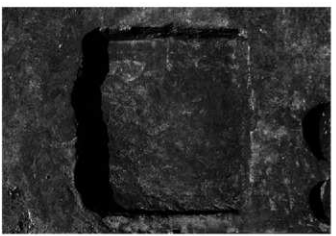


8　13号土坑　北→

1　14号土坑　東→

2　15号土坑　西→

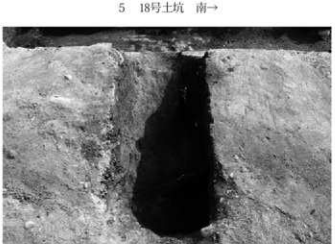
3　16号土坑　東→



4　17号土坑　東→

5　18号土坑　南→

6　19号土坑　南→



7　20号土坑　南→

8　22号土坑　東→

1　24号土坑　東→

2　26号土坑　北→

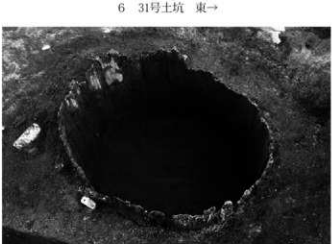
3　28号土坑　北→

4　29号土坑　東→

5　30号土坑　北西→

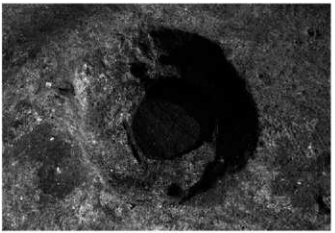
6　31号土坑　東→

7　32号土坑 遺物出土状況　北→



8　32号土坑　西→

1　33号土坑　北→

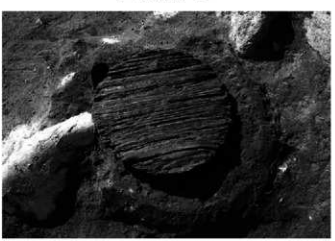


2　34号土坑　西→

3　35号土坑　東→

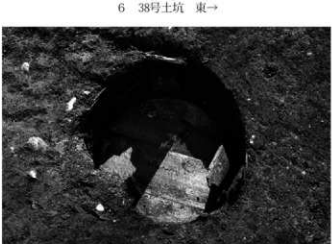
4　36号土坑　西→

5　37号土坑　北→



6　38号土坑　東→

7　39号土坑 遺物出土状況　東→



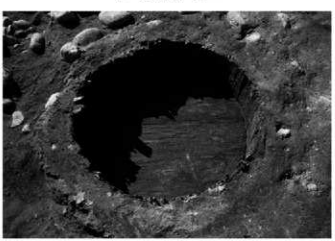
8　40号土坑　北→

1　41号土坑　南→

2　42号土坑　東→

3　43号土坑　北→

4　45号土坑　南→



5　46号土坑　東→

6　47号土坑　西→

7　1号集石　北→

8　2号集石　北→

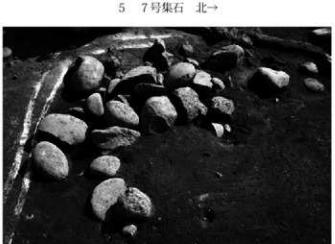
1　3号集石　北→

2　4号集石　北→

3　5号集石　北→

4　6号集石　北→

5　7号集石　北→



6　8号集石　北→

7　1号列石　北→

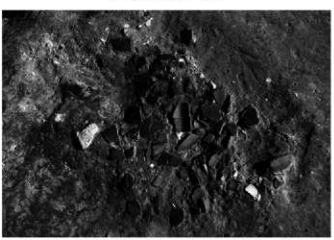
1　1号池　西→　左手は6号溝

2　1号池　北→

3　1号遺物集中　北→

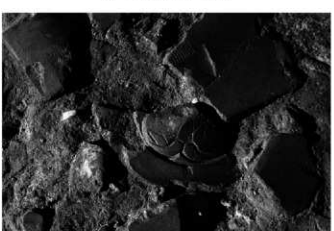
4　3号遺物集中　北→

5　5号遺物集中　西→



6　1号瓦だまり　西→

7　2号瓦だまり　東→



8　1号瓦だまり　近接

1　2号遺物集中　近代陶磁器

2　近代在地系土器

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第580集

前　橋　城　跡

前橋地方合同庁舎(仮称)整備に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

平成26年(2014)２月５日　印刷
平成26年(2014)２月17日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地２
電話(0279) 52-2511（代表）
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／上毎印刷工業株式会社